

**平成 30 年度
市政世論調査結果報告書**

越谷市

はじめに

本市の市政世論調査は昭和45年に実施して以来、今回で49回目を迎えます。市政世論調査は市民各層の行政ニーズを的確にとらえ、行政施策に反映させていくために継続して実施しているものです。

今回は、

「暮らしや居住意向について」「人権全般に関する意識について」「市内の公共交通について」「景観（風景）について」「越谷市への愛着度と魅力発信について」「男女共同参画について」「地域医療体制について」「空き家について」「自治基本条例について」「平和事業について」「スポーツ・レクリエーションの実施状況について」「保健事業について」「自殺防止について」「越谷市の伝統的手工芸品について」「地場農産物や地産地消について」「自転車を活用したまちのにぎわい作りについて」「越谷市公式ホームページについて」「広報について」「越谷市の施策について」の各テーマにおいて、市民意識の把握に努めました。

今回の調査で、すべてのニーズや問題点が解明されたわけではありませんが、調査の結果を今後の市政運営の参考資料として活用しながら、市民の皆様の期待に応えられるまちづくりや、行政サービスを推進してまいりたいと考えております。

ご多忙にもかかわらず、市政世論調査にご協力をいただきました市民の皆様に心より御礼申し上げます。

平成30年11月

越谷市長 高橋 努

目 次

第 1 章 調査設計	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査手法	3
3. 回収状況	3
4. 調査項目	3
5. 居住地区区分	4
6. 集計結果の誤差比率について	5
7. 集計結果の有意性について	6
8. 報告書の見かた	7
第 2 章 調査回答者の属性	9
1. 回答者の属性	11
第 3 章 調査結果の概要	15
1. 暮らしや居住意向について	17
2. 人権全般に関する意識について	17
3. 市内の公共交通について	17
4. 景観（風景）について	17
5. 越谷市への愛着度と魅力発信について	18
6. 男女共同参画について	18
7. 地域医療体制について	19
8. 空き家について	19
9. 自治基本条例について	19
10. 平和事業について	19
11. スポーツ・レクリエーションの実施状況について	20
12. 保健事業について	20
13. 自殺防止について	20
14. 越谷市の伝統的手工芸品について	20
15. 地場農産物や地産地消について	21
16. 自転車を活用したまちのにぎわい作りについて	21
17. 越谷市公式ホームページについて	21
18. 広報について	21
19. 越谷市の施策について	21

第4章 調査結果の詳細	23
1. 暮らしや居留意向について	25
(1) 現在の暮らし向き	25
(2) 居留意向	31
(3) 転居意向の理由	37
2. 人権全般に関する意識について	43
(1) 基本的人権の意識	43
(2) 人権意識の変化	45
(3) 関心のある人権問題	47
(4) 人権侵害を感じたこと	49
(5) 人権侵害を感じた内容	51
3. 市内の公共交通について	53
(1) 公共交通の利用有無	53
(2) 公共交通の満足度	55
4. 景観（風景）について	57
(1) 景観（風景）の満足度	57
(2) 行政に望むこと	59
5. 越谷市への愛着度と魅力発信について	61
(1) 越谷市への愛着	61
(2) 愛着がある理由	63
(3) 越谷市の誇れるもの	65
(4) 観光やレジャーで知りたい情報	67
(5) 観光情報を得る方法	69
6. 男女共同参画について	71
(1) 「教育・しつけ」で大切だと思うこと（男の子）	71
(2) 「教育・しつけ」で大切だと思うこと（女の子）	73
(3) 男性が育児休業・介護休暇・子の看護休暇を活用すること	75
(4) 育児・介護のための長期休暇で男性の取得が少ない理由	77
(5) 男女がともに仕事と家庭を両立するために必要な条件	79
(6) 日常生活のなかでの優先度（希望）	81
(7) 日常生活のなかでの優先度（現実）	83
7. 地域医療体制について	85
(1) 地域医療体制の認知度	85
(2) 医療機関の情報の入手方法	87
(3) 夜間や休日の急病の対応	89

8. 空き家について	91
(1) 空き家問題の認知度	91
(2) 空き家になる不安	93
(3) 空き家になる不安の理由	95
(4) 必要だと思う空き家対策	97
9. 自治基本条例について	99
(1) 「越谷市自治基本条例」の認知度	99
(2) 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ	101
(3) 組織と市が協働すること	103
(4) 組織と市の協働が必要な分野	105
(5) 協働推進に必要な施策	107
10. 平和事業について	109
(1) 越谷市の平和都市宣言の認知度	109
(2) 越谷市主催「平和フォーラム」の認知度	111
(3) 平和への意識を高めるために効果的な事業	113
11. スポーツ・レクリエーションの実施状況について	115
(1) スポーツ・レクリエーション活動の実施状況	115
(2) スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由	117
(3) スポーツ・レクリエーション活動の効果	119
(4) スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由	121
(5) 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動（比較的軽いスポーツ）	123
(6) 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動（野外活動）	125
(7) 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動（競技的スポーツ）	127
12. 保健事業について	129
(1) 越谷市契約保養所の宿泊助成を受けたことの有無	129
(2) 加入健康保険等で助成を受けたことの有無	131
(3) 契約保養所の宿泊助成を利用しない理由	133
(4) 今後の契約保養所の宿泊助成	135
13. 自殺防止について	137
(1) 死にたいと思ったこと	137
(2) 死にたいと思った理由	139
(3) 相談する人	141
(4) 自殺防止対策の相談窓口の認知度	143
(5) 効果的な自殺防止対策	145
14. 越谷市の伝統的手工芸品について	147
(1) 越谷市の伝統的手工芸品の認知度	147
(2) 越谷市の伝統的手工芸品に期待する取組み	149

1 5. 地場農産物や地産地消について	151
(1) 越谷の農業特産物の認知度	151
(2) 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所	153
1 6. 自転車を活用したまちのにぎわい作りについて	157
(1) 自転車の利用状況	157
(2) まちのにぎわいに繋がると思うサイクリング事業	159
1 7. 越谷市公式ホームページについて	161
(1) 越谷市公式ホームページで探した情報	161
(2) 今後充実してほしい情報	165
(3) 「越谷ってこんなところ！」の閲覧の有無	167
(4) 閲覧の印象	169
1 8. 広報について	171
(1) 市政情報を得ているもの	171
(2) 市政情報を得るために活用したことがあるもの	173
(3) 広報こしがや「お知らせ版」の感想	175
(4) 広報こしがや「お知らせ版」のわかりにくい点	177
(5) 広報こしがや「季刊版」の感想	178
(6) 広報こしがや「季刊版」のわかりにくい点	180
1 9. 越谷市の施策について	181
(1) よくなってきたと感じるもの	181
(2) 特に力を入れるべきだと思われるもの	184
(3) 自由回答	187

第5章 調査票	191
----------------	------------

第 1 章 調査設計

1. 調査実施の目的

本調査は、市民生活の現状、行政への要望及び市政に対する評価の意識を的確に把握するとともに、市民に対する施策の浸透状況を測定し、今後の行政運営等に反映させるための基礎的資料とすることを目的として実施した。

2. 調査手法

- (1) 調査地域：越谷市全域
- (2) 調査対象：市内在住の18歳以上の男女
- (3) 対象者数：5,000人
- (4) 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送法（郵送配布・郵送回収）
- (6) 調査期間：平成30年6月22日～平成30年7月6日

3. 回収状況

	票数	回収率
配布数	5,000	
回収数	2,368	47.36%
有効回収数	2,368	47.36%

4. 調査項目

調査項目
(1) 基本属性（問1～問7）
(2) 暮らしや居留意向について（問8～問9-2）
(3) 人権全般に関する意識について（問10～問13-2）
(4) 市内の公共交通について（問14～問15）
(5) 景観（風景）について（問16～問17）
(6) 越谷市への愛着度と魅力発信について（問18～問21）
(7) 男女共同参画について（問22～問26）
(8) 地域医療体制について（問27～問29）
(9) 空き家について（問30～問32）
(10) 自治基本条例について（問33～問34-3）
(11) 平和事業について（問35～問37）
(12) スポーツ・レクリエーションの実施状況について（問38～問39）
(13) 保健事業について（問40～問43）
(14) 自殺防止について（問44～問47）
(15) 越谷市の伝統的手工芸品について（問48～問49）
(16) 地場農産物や地産地消について（問50～問51）
(17) 自転車を活用したまちのにぎわい作りについて（問52～問53）
(18) 越谷市公式ホームページについて（問54～問55-2）
(19) 広報について（問56～問59-2）
(20) 越谷市の施策について（問60～問61）

5. 居住地区区分



◆ 居住地区該当町表

地区区分	該当町名
桜井	大字大里、大字下間久里、大字上間久里、大字大泊、大字平方、平方南町、千間台東1～4丁目
新方	大字弥十郎、大字大吉、大字向畑、大字北川崎、大字大杉、大字大松、大字船渡、弥栄町1～4丁目
増林	大字花田、大字増林、大字増森、大字中島、東越谷1～10丁目、中島1～3丁目、増林1～3丁目、増森1～2丁目、花田1～7丁目
大袋	大字恩間、大字大竹、大字大道、大字三野宮、大字恩間新田、大字袋山、大字大林、大字大房、千間台西1～6丁目
荻島	大字野島、大字小曾川、大字砂原、大字南荻島、大字西新井、大字北後谷、大字長島
出羽	宮本町1～5丁目、神明町1～3丁目、谷中町1～4丁目、七左町1丁目・4～8丁目、大間野町1～5丁目、新川町1～2丁目、新越谷2丁目
蒲生	大字蒲生、瓦曾根1～2丁目、南越谷1丁目、登戸町、蒲生東町、蒲生寿町、蒲生旭町、蒲生本町、蒲生愛宕町、蒲生南町、蒲生1～4丁目、蒲生西町1～2丁目、南町1～3丁目
川柳	伊原1～2丁目、川柳町1～5丁目、レイクタウン7丁目
大相模	大字西方、西方1～2丁目、相模町1～7丁目、大成町1～2・6～8丁目、東町1～3・5丁目、流通団地1～4丁目、レイクタウン1～6・8～9丁目
大沢	大沢、大沢1～4丁目、東大沢1～5丁目
北越谷	北越谷1～5丁目
越ヶ谷	越ヶ谷、越ヶ谷1～5丁目、御殿町、柳町、越ヶ谷本町、中町、弥生町、赤山町1～2丁目、宮前1丁目、赤山本町
南越谷	瓦曾根3丁目、南越谷2～5丁目、蒲生茜町、東柳田町、元柳田町、赤山町3～5丁目、新越谷1丁目

6. 集計結果の誤差比率について

今回のアンケート調査は、その調査対象となる母集団（越谷市全域に住む18歳以上の男女）から一部を抽出した標本（サンプル）の比率、平均、標準偏差などを調べ、これらの値から母集団の比率や平均を推測する、いわゆる「標本調査」を行っている。したがって、調査結果には母集団に対する標本誤差が生じる。

本調査では、母集団の推定において、信頼度を95%として信頼区間を算出しており、その際の標本誤差は以下の数式で統計的に算出できる。

$$b = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b : 信頼度95%の標本誤差

N : 母集団のサイズ

n : 有効回収数 (=2,368)

P : サンプルの回答比率

ただし、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$

上記の式に今回の数値をあてはめると、標本誤差は下表のようになる。

回答比率(P) 基数(n)	5%または 95%前後	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
10,000	±0.4%	±0.6%	±0.8%	±0.9%	±1.0%	±1.0%
5,000	±0.6%	±0.8%	±1.1%	±1.3%	±1.4%	±1.4%
2,368	±0.9%	±1.2%	±1.6%	±1.8%	±2.0%	±2.0%
2,000	±1.0%	±1.3%	±1.8%	±2.0%	±2.1%	±2.2%
1,000	±1.4%	±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%
500	±1.9%	±2.6%	±3.5%	±4.0%	±4.3%	±4.4%
100	±4.3%	±5.9%	±7.8%	±9.0%	±9.6%	±9.8%

(小数点以下第2位を四捨五入)

7. 集計結果の有意性について

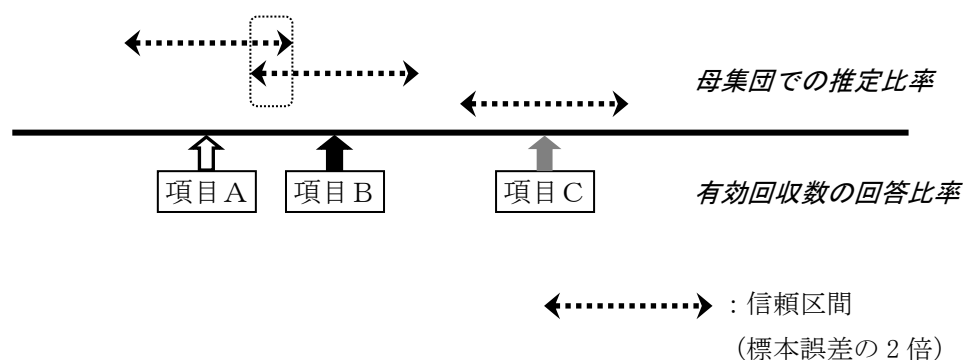
今回のアンケート調査は「標本調査」であり、調査対象となる母集団への標本誤差が必ず生じてくる。その際、どの程度までアンケート調査結果に基づく評価ができるのかという有意性が問題となる。

今回の調査では、有効回収数が2,368票であるため、回答比率がちょうど50%の場合には標本誤差は±2.0%となっている。つまり、アンケート調査結果で得た50%という集計結果を、実際の母集団にあてはめるには標本誤差±2.0%分の誤差が生じることになる。したがって、母集団の傾向として評価する際には、50%ではなく、 $50 \pm 2.0\%$ (=48.0%~52.0%)という一定の幅を持った値(信頼区間)として取り扱う必要がある。そして、その信頼区間に基づいて母集団の評価のために、項目間の評価をする場合、少なくとも評価対象となる項目の回答比率の差が4.0%(標本誤差の2倍)以上でなければ意味をなさない(有意性を持たない)ものとなる(下図参照)。

そのため、アンケート調査に有意性を持たせ、母集団へ効果的に反映させるためには、ある程度の回収数が必要とされている。例えば、100票そこそこの回収数の場合、その調査結果の標本誤差は、回答比率50%において±9.8%となり、信頼区間は19.6%にも上がってしまう。このような状況では項目間の評価が事実上不可能に近くなり、アンケート調査自体が意味のないものになってしまう。このような事態を招かないためにも、通常の標本調査においては、回収数が1,000票程度は必要であるといえる。

今回のアンケート調査の場合、有効回収数が2,368票であるため、評価にあたっての前提条件はクリアされている。ただし、前述の標本誤差が生じてくるため、評価・分析にあたっては、信頼区間(今回の調査の場合は4.0%程度)未満の差異は切り捨てて考える必要がある。

<項目Bは項目Aよりも優位に高いとはいえない場合>



8. 報告書の見かた

- (1) nは比率算出の基数であり、100%が何人の回答に相当するかを示す。
- (2) 「無回答」はその設問に回答をしなかったものであり、有効票となる。
- (3) 属性別の集計において、全体の調査数には無回答も含まれるため、各属性の調査数の合計は全体の調査数と一致しない。
- (4) 回答はすべて百分率（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、**数値の合計は100%を前後する場合がある。**
- (5) 複数回答を求める質問の回答については、すべての数値を合計すると100%を超えることがある。
- (6) 図表中の「-」は該当者なしを表す。
- (7) 割合の表記については、下記のとおり。
例 40%台

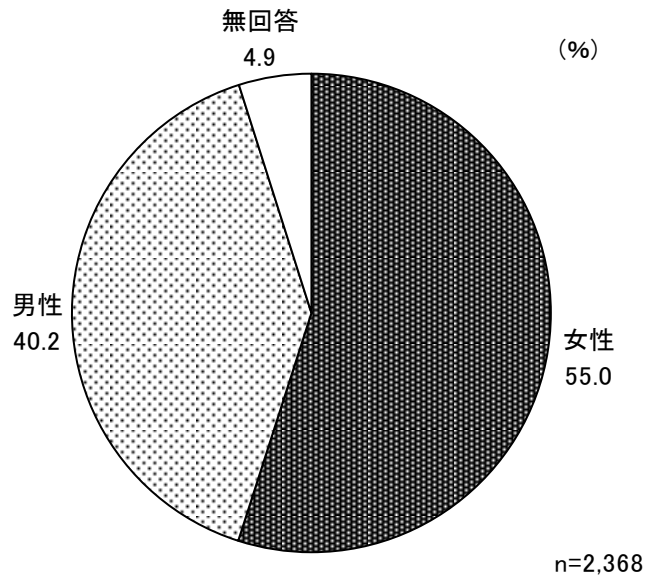
表記	約4割（4割）	4割強	4割半ば	5割弱	約5割（5割）
範囲	39.0～41.9% (40.0%)	42.0～43.9%	44.0～46.9%	47.0～48.9%	49.0～51.9% (50.0%)

第2章 調査回答者の属性

1. 回答者の属性

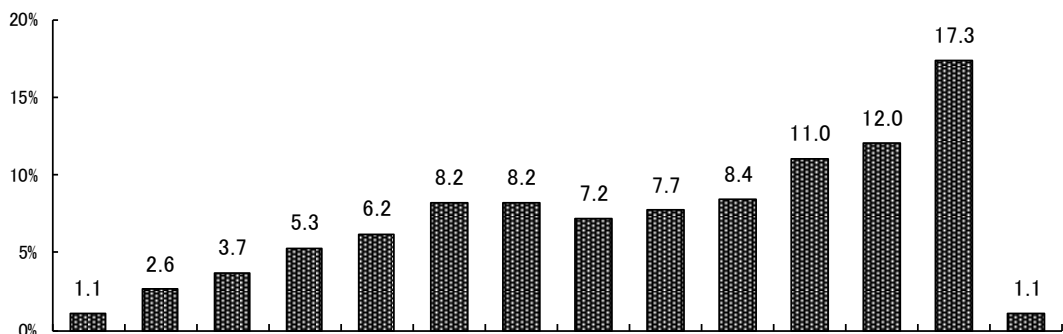
1. 性別

問1. あなたの性別はどちらですか。(〇は1つ)



2. 年代

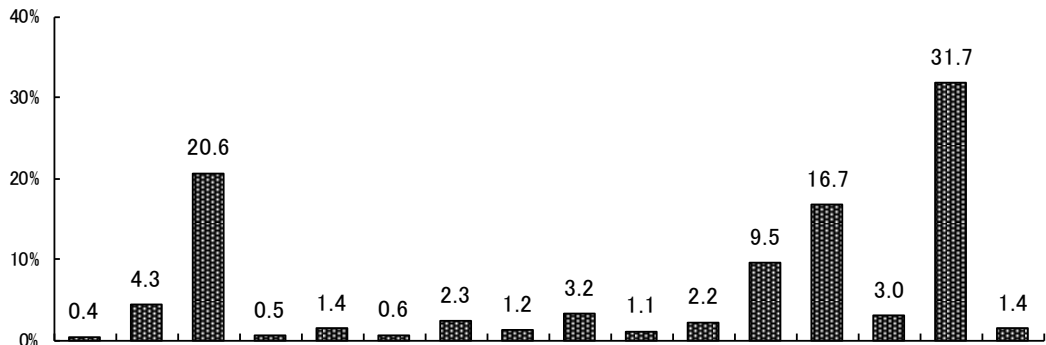
問2. あなたの年齢はどの区分にあてはまりますか。(〇は1つ)



	調査数	18-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75歳以上	無回答
		割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
合計	2,368(人)	25	62	88	126	147	194	193	171	182	199	261	285	409	26
	100(%)	1.1	2.6	3.7	5.3	6.2	8.2	8.2	7.2	7.7	8.4	11.0	12.0	17.3	1.1
女性	1,302(人)	11	33	53	69	90	122	121	99	107	102	145	149	199	2
	100(%)	0.8	2.5	4.1	5.3	6.9	9.4	9.3	7.6	8.2	7.8	11.1	11.4	15.3	0.2
男性	951(人)	14	28	35	57	55	70	66	72	70	90	104	116	170	4
	100(%)	1.5	2.9	3.7	6.0	5.8	7.4	6.9	7.6	7.4	9.5	10.9	12.2	17.9	0.4
無回答	115(人)	-	1	-	-	2	2	6	-	5	7	12	20	40	20
	100(%)	-	0.9	-	-	1.7	1.7	5.2	-	4.3	6.1	10.4	17.4	34.8	17.4

3. 職業

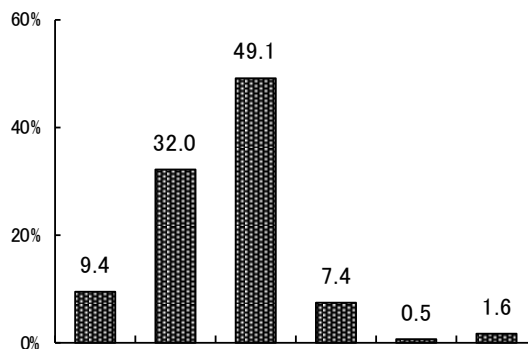
問3. あなたのご職業は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)



	調査数	農業	市内会社員	市外会社員	小売店自営業	建築関係自営業	製造関係自営業	サービス関係自営業	自由業	公務員	団体職員	学生	家事従業	パートタイマー	その他	無職	無回答
合計	2,368(人)	9	101	487	11	32	14	55	29	76	27	53	225	395	72	750	32
	100(%)	0.4	4.3	20.6	0.5	1.4	0.6	2.3	1.2	3.2	1.1	2.2	9.5	16.7	3.0	31.7	1.4

4. 世帯の状況

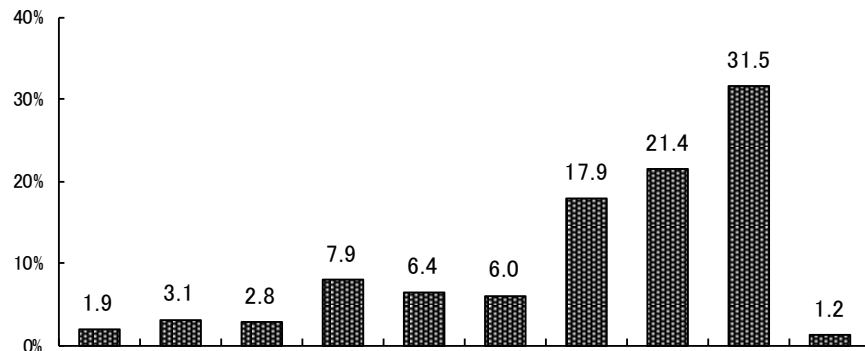
問4. あなたの世帯は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)



	調査数	単身世帯(ひとり暮らし)	一世帯世帯(み、兄弟姉妹の夫婦のみ)	二世帯世帯(親子など)	三世帯世帯(親と子と孫など)	その他	無回答
合計	2,368(人)	222	757	1,162	175	13	39
	100(%)	9.4	32.0	49.1	7.4	0.5	1.6

5. 居住年数

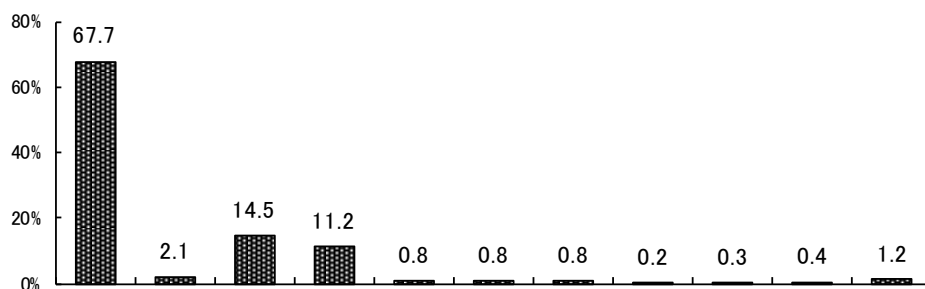
問5. あなたは、越谷市に住んでどれくらいになりますか。(〇は1つ)



	調査数	1年未満	1〜3年未満	3〜5年未満	5〜10年未満	10〜15年未満	15〜20年未満	20〜30年未満	30〜40年未満	40年以上	無回答
合計	2,368(人)	44	74	66	186	152	142	423	506	747	28
	100(%)	1.9	3.1	2.8	7.9	6.4	6.0	17.9	21.4	31.5	1.2

6. 居住形態

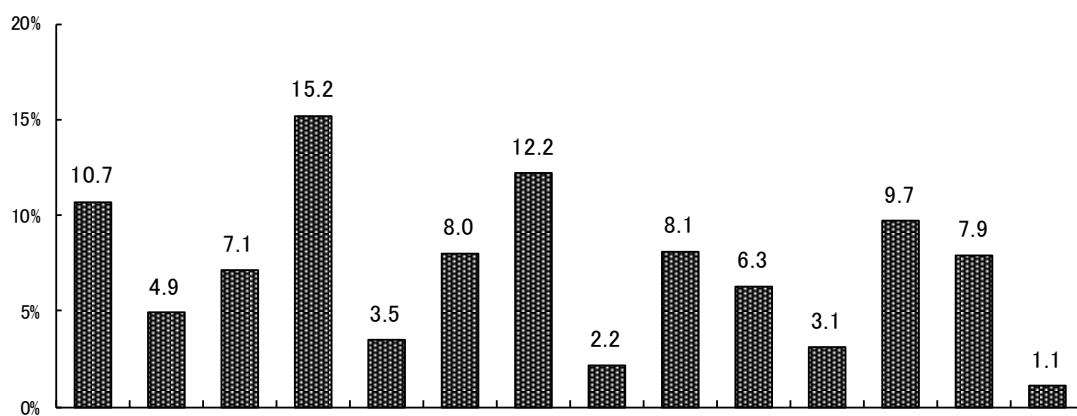
問6. あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。(〇は1つ)



	調査数	持ち家一戸建て	民間借家一戸建て	民間分譲マンション	アパート・民間賃貸マンション・マンション	公団・公社等分譲マンション	公団・公社等賃貸マンション	社宅・官舎	宿舎	間借り・下宿・寮・寄宿舎	店舗・事務所併用住宅	その他	無回答
合計	2,368(人)	1,603	49	343	265	20	18	19	5	8	10	28	
	100(%)	67.7	2.1	14.5	11.2	0.8	0.8	0.8	0.2	0.3	0.4	1.2	

7. 居住地区

問7. あなたは、どの地区に住んでいますか。(〇は1つ)



	調査数	桜井地区	新方地区	増林地区	大袋地区	荻島地区	出羽地区	蒲生地区	川柳地区	大相模地区	大沢地区	北越谷地区	越ヶ谷地区	南越谷地区	無回答
合計	2,368(人)	254	116	167	361	83	189	288	51	191	150	74	230	188	26
	100(%)	10.7	4.9	7.1	15.2	3.5	8.0	12.2	2.2	8.1	6.3	3.1	9.7	7.9	1.1

第3章 調査結果の概要

1. 暮らしや居住意向について

現在の暮らし向きについては、「十分満足している」と「十分とはいえないが、一応満足している」を合わせた『満足』は5割半ばとなっている。

今後の居住意向については、「ずっと住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた『定住意向』は7割半ばとなっている。

『転居意向』の主な理由は、「交通の便が悪いので」が1割半ば、「付近の生活環境が悪いので」が1割強となっている。

2. 人権全般に関する意識について

今の日本社会における基本的人権については、「十分尊重されている」と「やや尊重されている」を合わせた『尊重されている』は6割半ばとなっている。

10年前と比べた一人ひとりの人権意識については、「非常に高くなっている」と「やや高くなっている」を合わせた『高くなっている』は4割強となっている。

関心のある人権問題については、「高齢者の人権問題」が約4割と最も多く、「インターネット上における人権問題」が4割弱と続く。

日常生活の中で人権が侵害されたと感じたことがあるかについては、「ある」が約2割となっており、その内容は「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」が5割弱、「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」が4割半ばとなっている。

3. 市内の公共交通について

鉄道は「常に利用している」が3割弱と最も多く、「とても満足している」と「やや満足している」を合わせた『満足』は8割強となっている。

バスは「たまに利用している」が3割半ばと最も多く、『満足』は5割半ばとなっている。

タクシーは「たまに利用している」が4割強と最も多く、『満足』は6割弱となっている。

4. 景観（風景）について

住まいの地区の景観（風景）の満足度は、「満足している」と「十分とはいえないが、概ね満足している」を合わせた『満足』が7割弱となっている。

良い景観（風景）のまちをつくるために行政に望むことは、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」が5割弱と最も多く、「目標や基本方針を住民に示す」が約4割と続く。

5. 越谷市への愛着度と魅力発信について

越谷市への愛着については、「とても愛着がある」と「愛着がある」と「やや愛着がある」を合わせた『愛着がある』は8割弱となっている。

愛着がある理由としては、「交通の利便性がよく、都内等に近い」が約7割と最も多く、「ショッピング施設や商店街が豊富」が約5割と続く。

越谷市の誇れるものについては、「イオンレイクタウン」が約6割と最も多く、「南越谷阿波踊り」が約4割と続く。

観光やレジャーで知りたい情報については、「イベントや催しなどの催事情報」が4割半ばと最も多く、「観光施設や花の名所などの『観て』楽しむ観光情報」が3割半ばと続く。

観光情報を得る方法については、「ホームページ」が約4割と最も多く、「友人・知人等からの口コミ」が4割弱と続く。

6. 男女共同参画について

子どもに対する「教育・しつけ」で大切だと思うことについては、男の子は「やさしさや思いやりをもたせる」が約6割と最も多く、女の子も「やさしさや思いやりをもたせる」が7割半ばと最も多い。

男性が育児休業・介護休暇・子の看護休暇を活用することについては、「男性も育児休業・介護休暇・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」が6割強と最も多く、次いで、「男性も育児休業・介護休暇・子の看護休暇を積極的に取るべきである」が3割弱と続く。

育児・介護のための長期休暇で男性の取得が少ない理由については、「職場や周囲に休みにくい雰囲気があるから」が5割強と最も多く、「仕事の責任上、周囲の人に迷惑がかかるから」が4割半ばと続く。

男女がともに仕事と家庭を両立していくために必要な条件は、「育児・介護休業制度を利用できる職場環境を整備すること」が約6割と最も多く、「保育施設や保育時間の延長など、保育内容を充実させること」が4割と続く。

日常生活のなかでの優先度についての『希望』は、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が3割強と最も多く、「『家庭生活』を優先」が2割半ばと続く。

日常生活のなかでの優先度についての『現実』は、「『仕事』を優先」が約4割と最も多く、「『家庭生活』を優先」が約2割と続く。

7. 地域医療体制について

地域医療体制の認知度については、「越谷市夜間急患診療所」が7割半ば、「休日当番医制度」が7割強、「埼玉県救急電話相談（#7119）」が4割強となっている。

医療機関の情報の入手方法については、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」と「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が4割強と多くなっている。

夜間や休日の急病の対応については、「可能な限り翌日まで我慢する」が5割半ばと最も多く、「受診できる医療機関を調べ、その医療機関を利用する」が2割半ばと続く。

8. 空き家について

空き家問題の認知度については、「身近な問題であり、知っている」と「身近な問題ではないが、知っている」を合わせた『知っている』は9割半ばとなっている。

住んでいる建物（もしくは所有している建物）が空き家になる不安については、「全く不安はない」が4割強と最も多く、「不安がある」と「少し不安がある」を合わせた『不安がある』は2割半ばで、その理由としては「将来、住む予定の者がいないため」が5割半ばと最も多く、「建物の築年数が経過しており、老朽化が著しいため」が3割半ばと続く。

必要だと思う空き家対策については、「管理不全な空き家の所有者等への指導等の実施」が約4割と最も多く、「安心して住宅の売買や賃貸ができる制度」が4割弱と続く。

9. 自治基本条例について

「越谷市自治基本条例」については、「よく知っている」と「まあまあ知っている」を合わせた『知っている』は1割弱で、「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけは、「広報こしがや」が約8割と最も多くなっている。

組織と市が協働することについては、「必要だと思う」と「ある程度必要だと思う」を合わせた『必要だと思う』は7割弱で、必要な分野は、「暮らしの安全・安心に関すること（防災、防犯、消防、消費生活など）」が約8割と最も多く、「福祉に関すること（社会保障、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など）」が6割強と続く。

協働推進に必要な施策については、「市政に関する情報を分かりやすく公開すること」が6割弱と最も多く、「情報・活動の拠点となる場所を提供すること」が約3割と続く。

10. 平和事業について

越谷市の平和都市宣言の認知度については、「知っている」が4割弱となっている。

越谷市主催「平和フォーラム」の認知度については、「参加したことがある」と「知っている」が、参加したことはない」を合わせた『知っている』は3割弱となっている。

平和への意識を高めるために効果的な事業については、「戦争体験のおはなし会や座談会の開催」が4割強と最も多く、「平和を題材にした映画・アニメーション上映会の開催」が約4割と続く。

1 1. スポーツ・レクリエーションの実施状況について

この1年間のスポーツ・レクリエーション活動の実施状況については、『週1回以上』が約4割となっている。

スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由については「運動不足解消」が6割半ばと最も多く、「健康、体力維持・増進」が6割弱と続く。

スポーツ・レクリエーション活動の効果については「運動不足が解消した」が4割半ばと最も多く、「よく眠れるようになった」が2割半ばと続く。

スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由については、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」が約4割と最も多く、「年をとったから」が2割弱と続く。

今後、行ってみたい活動内容は、比較的軽いスポーツでは「ウォーキング」、野外活動では「ハイキング」、競技的スポーツでは「卓球」が最も多くなっている。

1 2. 保健事業について

越谷市契約保養所の宿泊助成を受けたことの有無については、「ある」が1割弱となっている。

加入健康保険等で助成を受けたことの有無については、「ある」が2割半ばで、契約保養所の宿泊助成を利用しない理由は「助成があることを知らなかった」が5割弱と最も多く、「契約保養所に行く機会（時間）がない」が約2割と続く。

今後の契約保養所の宿泊助成については、「現行どおり実施すべき」が4割弱と最も多く、「健康の保持増進をさらに推進するため、健診を受診した方を対象に助成するなど、助成要件を設けて実施すべき」が約2割と続く。

1 3. 自殺防止について

今までに「死にたい」と思ったことがある人は2割半ばで、その理由は「家庭問題」が約4割と最も多く「経済・生活問題」が約3割と続く。

「死にたい」と思うくらい悩んだときは「誰にも相談しないと思う」が3割半ばとなっている。

市には自殺防止対策の相談窓口があることを知っている人は2割弱となっている。

自殺防止に最も効果的な対策については、「健康や病気に関する相談」が2割強と最も多く、「資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談」が約2割と続く。

1 4. 越谷市の伝統的手工芸品について

越谷市の伝統的手工芸品の認知度について、『知っている』は「越谷だるま」が7割半ばと最も多く、「越谷手焼きせんべい」が約7割、「越谷ひな人形」が約6割と続く。また、「買ったことがある」では、「越谷手焼きせんべい」が約4割と最も多く、「越谷だるま」が1割半ばと続く。

越谷市の伝統的手工芸品に期待する取組みについては、「技術の継承（後継者の育成）」「見学・体験などの受入れ」「各種イベントへの参加」がともに3割半ばとなっている。

15. 地場農産物や地産地消について

越谷の農業特産物の認知度については、「くわい」「ねぎ」「いちご」が7割弱と多くなっている。購入経験は、「ねぎ」が6割半ばと最も多く、「いちご」が約5割と続く。

購入場所は、「太郎兵衛もち」「チューリップ」は「市民まつりなどイベント」が、「くわい」「山東菜」「いちご」は「農産物直売所」が、「ねぎ」「小松菜」は「市内スーパーマーケット」がそれぞれ最も多くなっている。

16. 自転車を活用したまちのにぎわい作りについて

自転車の利用状況については、「ほぼ毎日」が3割強となっており、「利用しない」は約3割となっている。

まちのにぎわいに繋がると思うサイクリング事業については、「サイクリストを受け入れるための道路や休憩所の整備」が5割強と最も多く、「まち巡りコンテンツ・体験ツアー等による地域の食や文化・景観のPR」が3割半ばと続く。

17. 越谷市公式ホームページについて

越谷市公式ホームページで探した情報については、「市役所の窓口、業務」が4割強と最も多く、「ごみ、リサイクル」が4割弱と続く。

越谷市公式ホームページで今後充実してほしい情報については、「救急、医療」が2割弱と最も多く、「防災」が1割強と続く。

「越谷ってこんなところ！」の閲覧の有無については、「閲覧したことがある」が2.5%で、閲覧の印象はデザインが「良い」は6割、掲載内容に「十分な内容がある」が約4割、市外へ向けてのPR効果は「効果がある」が4割弱となっている。

18. 広報について

市政情報を主に得ているものについては、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が6割半ばと最も多くなっている。

市政情報を得るために活用したことがあるものでは、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が約8割と最も多く、「越谷市公式ホームページ」が3割弱と続く。

広報こしがや「お知らせ版」は、「わかりやすい」と「おおむねわかりやすい」を合わせた『わかりやすい』が7割半ば、広報こしがや「季刊版」は『わかりやすい』が7割強となっている。

19. 越谷市の施策について

越谷市で進めている施策について、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」は、「駅周辺の整備」が3割半ばと最も多く、「バス路線等公共交通網の充実」が1割半ばと続く。

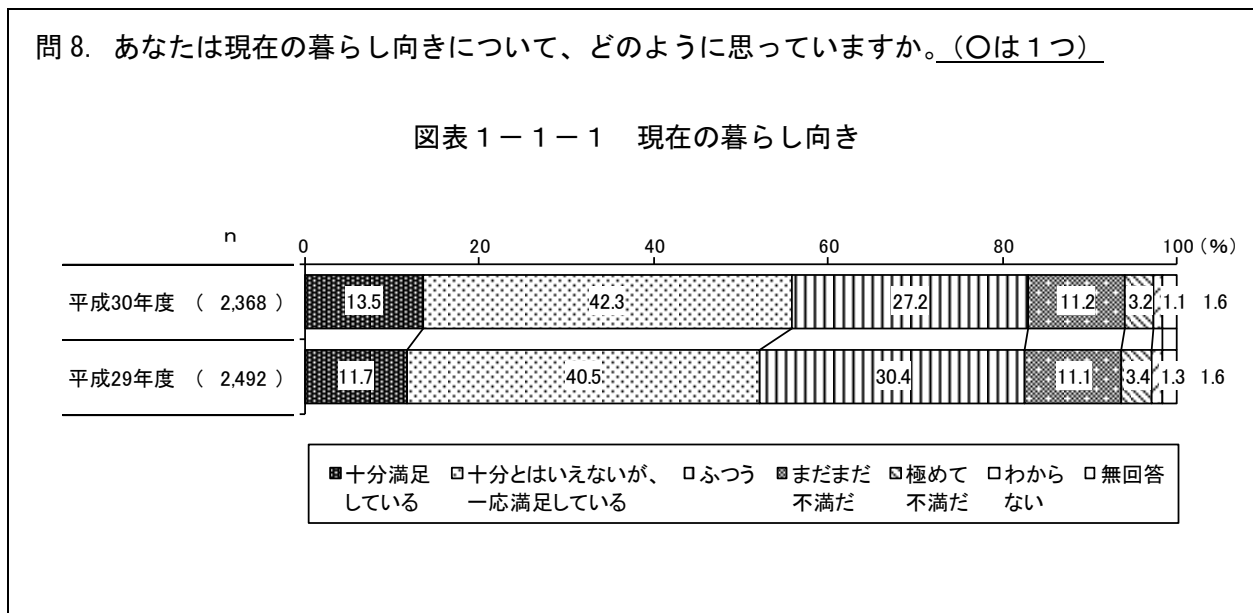
今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」は、「水害や地震などの災害対策」が約3割、「防犯対策」が3割弱と続く。

第4章 調査結果の詳細

1. 暮らしや居住意向について

(1) 現在の暮らし向き

◇『満足』が5割半ば

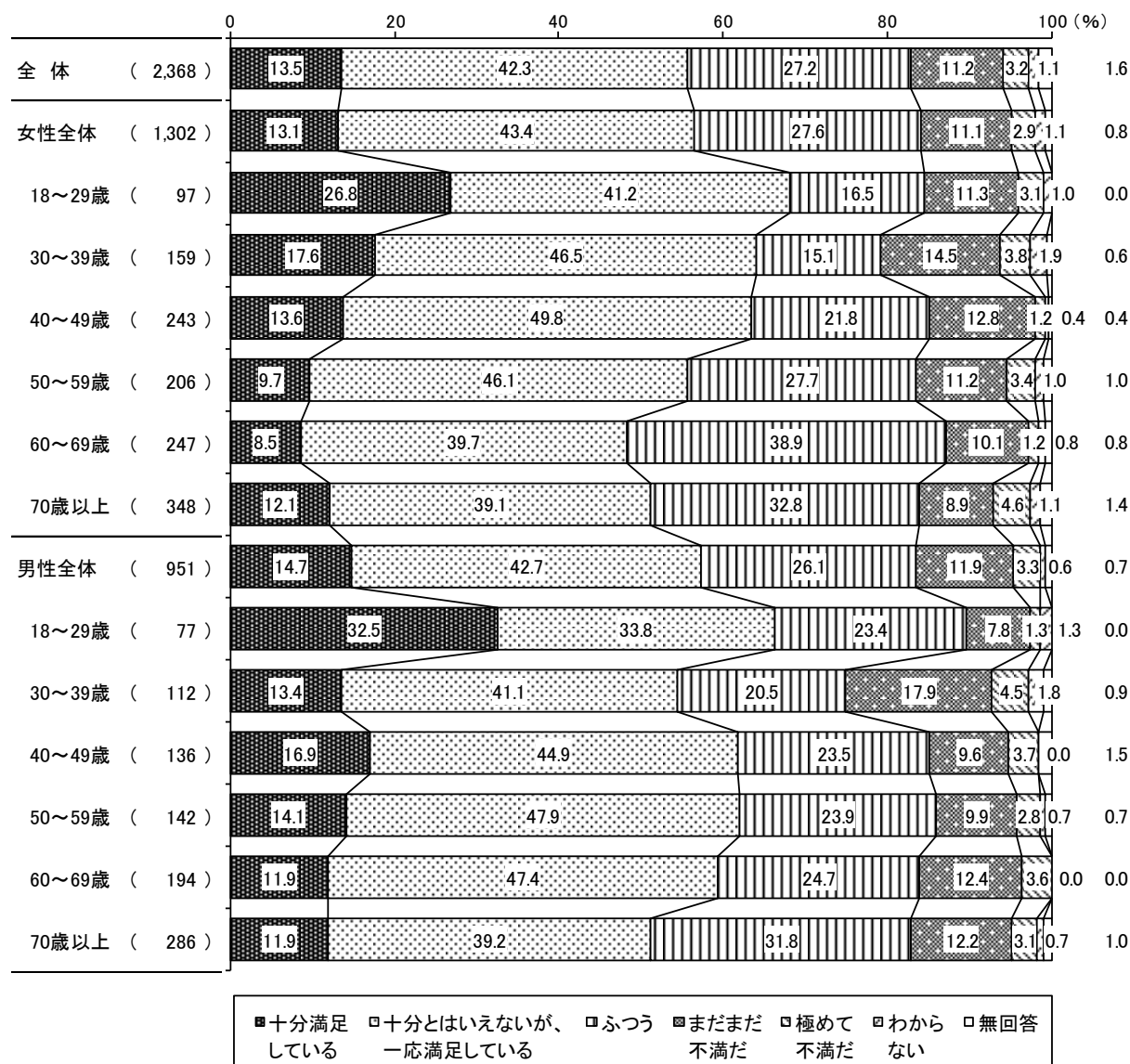


現在の暮らし向きについては、「十分とはいえないが、一応満足している」(42.3%)が最も多く、次いで、「ふつう」(27.2%)、「十分満足している」(13.5%)、「まだまだ不満だ」(11.2%)、「極めて不満だ」(3.2%)となっている。「十分満足している」と「十分とはいえないが、一応満足している」を合わせた『満足』(55.8%)は5割半ばとなっている。

前回の調査と比較すると、『満足』(55.8%)は平成29年度調査(52.2%)と比べ3.6ポイント増加している。また、「まだまだ不満だ」と「極めて不満だ」を合わせた『不満』(14.4%)は平成29年度調査(14.5%)と比べ変化はみられない。

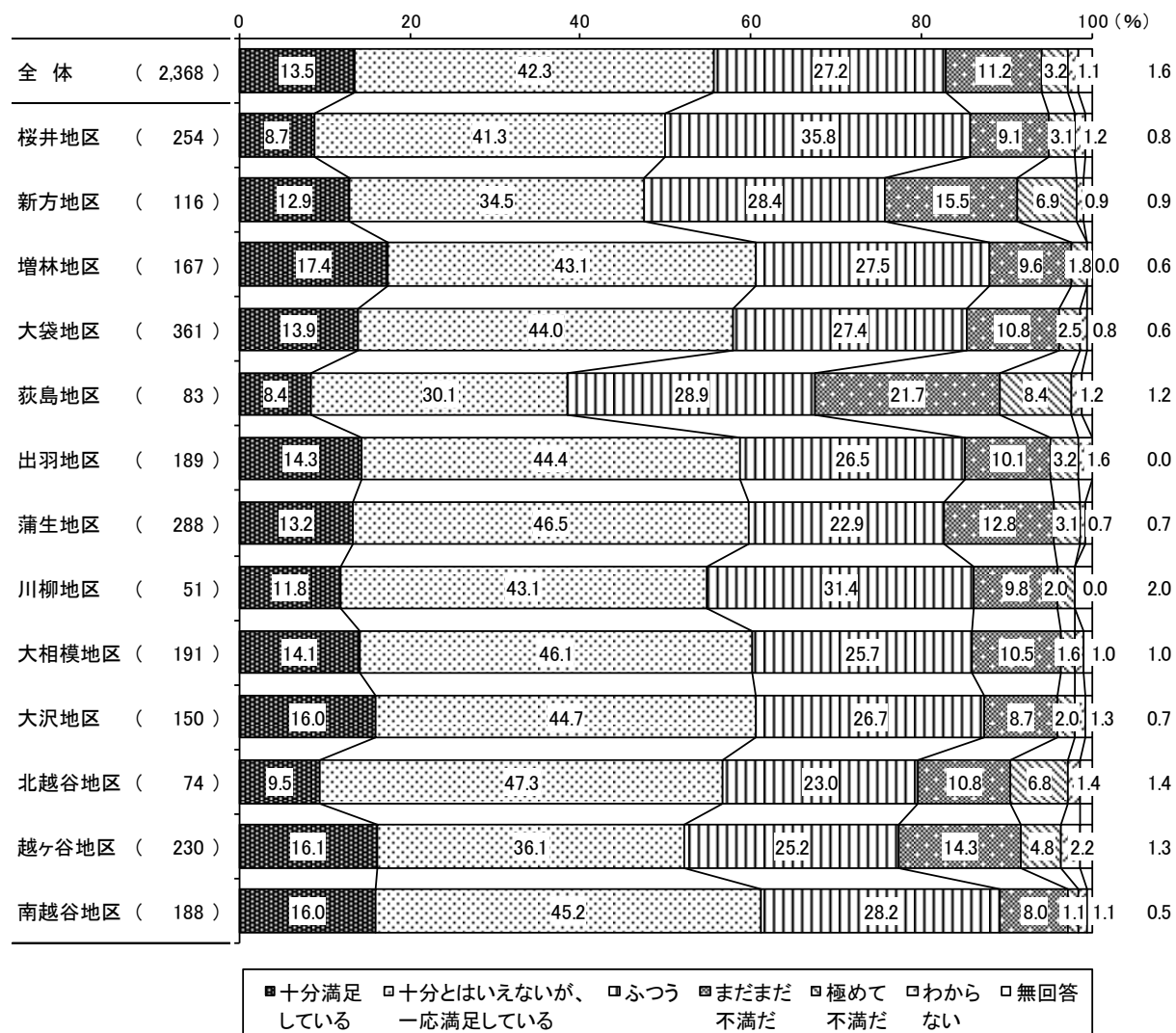
性別で見ると、女性・男性で大きな差異はみられない。
 性・年齢別で見ると、『満足』は女性18～29歳（68.0%）で7割弱、男性18～29歳（66.2%）、女性30～39歳（64.2%）で6割半ばと多くなっている。

図表1-1-2 性・年齢別 現在の暮らし向き



居住地区別でみると、『満足』は南越谷地区（61.2%）、大沢地区（60.7%）、増林地区（60.5%）、大相模地区（60.2%）で6割以上となっている。一方、『不満』は荻島地区（30.1%）で約3割、新方地区（22.4%）で2割強と多くなっている。

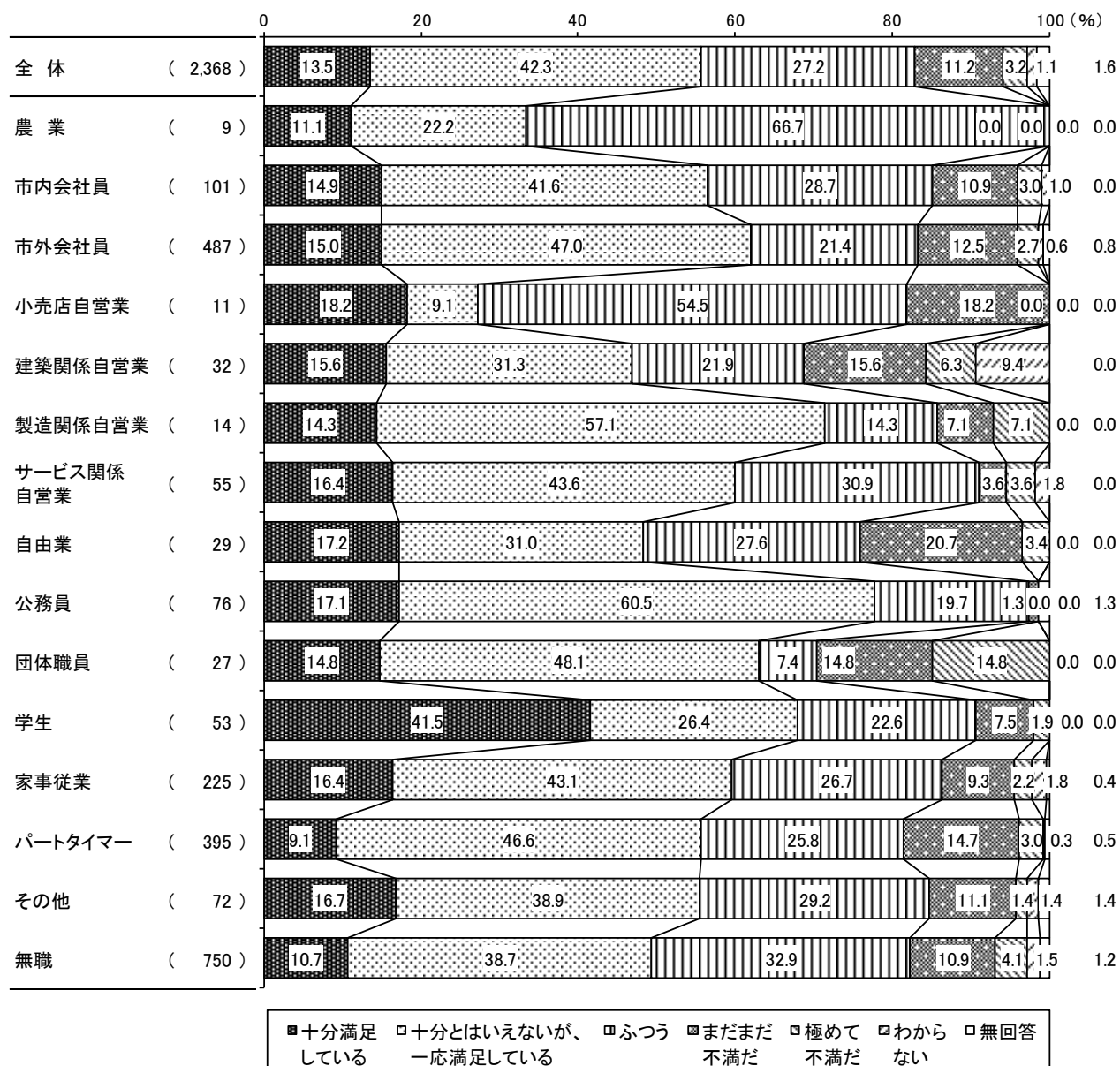
図表1-1-3 居住地区別 現在の暮らし向き



職業別でみると、『満足』は公務員（77.6%）で8割弱、製造関係自営業（71.4%）で約7割、学生（67.9%）で7割弱と多くなっている。

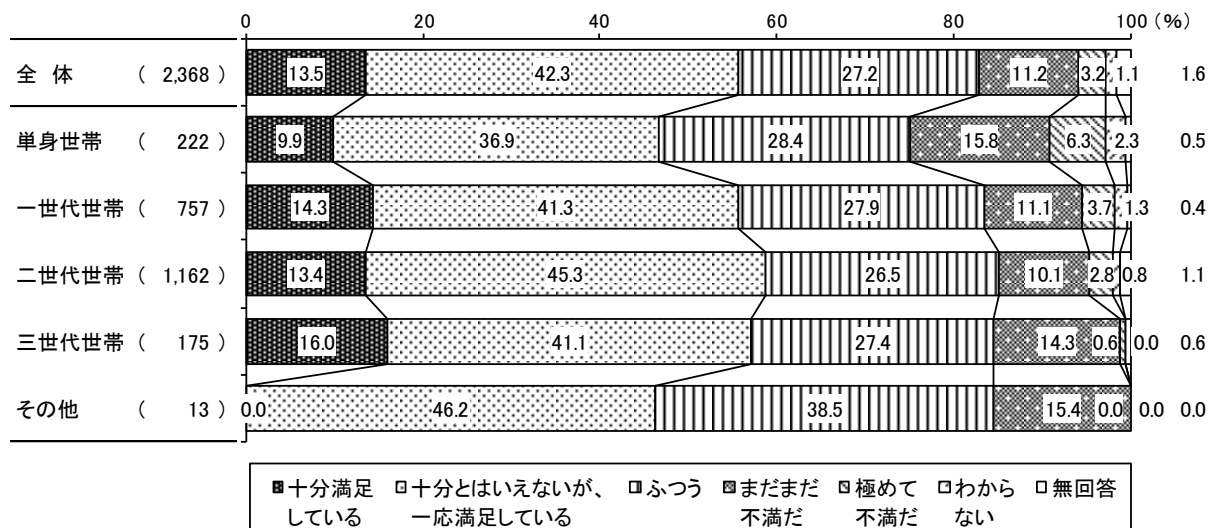
※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

図表1-1-4 職業別 現在の暮らし向き



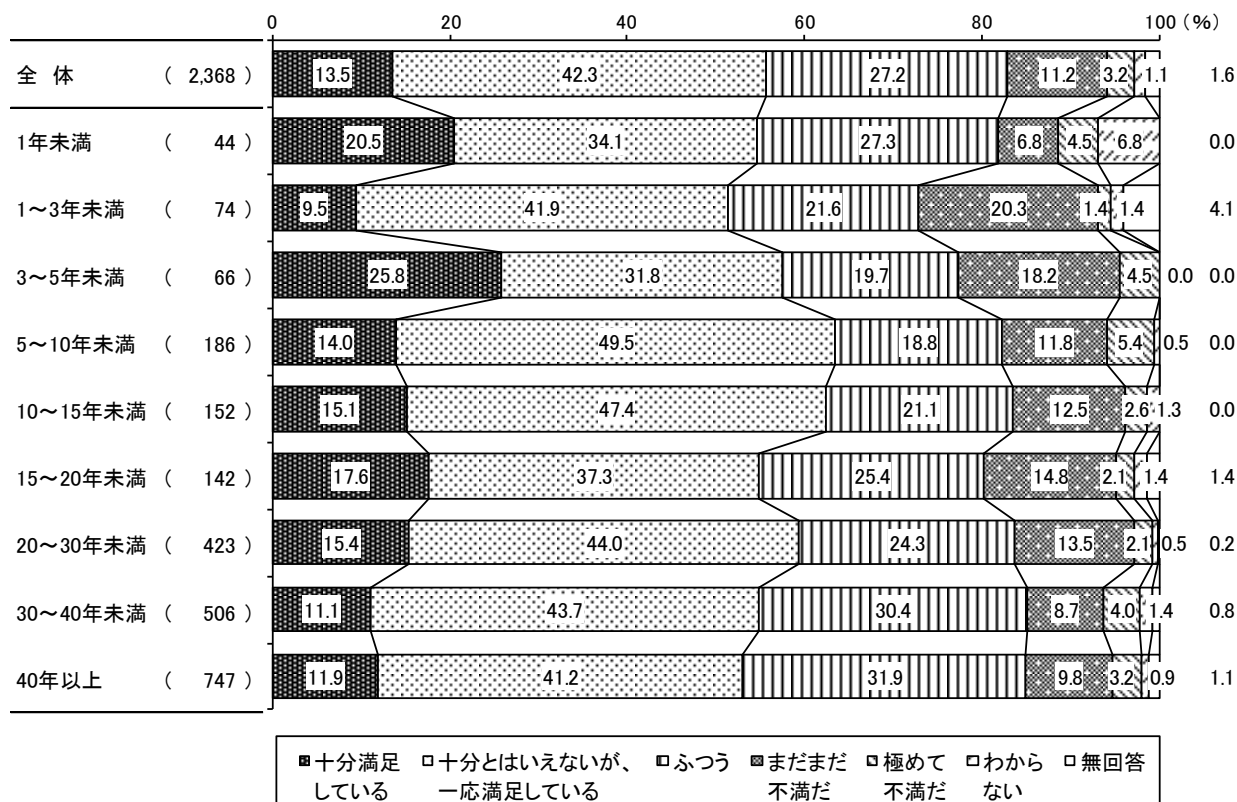
世帯状況別でみると、『満足』は二世帯世帯（親子など）（58.7%）で6割強と多くなっている。一方、『不満』は単身世帯（22.1%）で2割強と多くなっている。

図表1-1-5 世帯状況別 現在の暮らし向き



居住年数別でみると、『満足』は5～10年未満（63.4%）、10～15年未満（62.5%）で6割強と多くなっている。

図表1-1-6 居住年数別 現在の暮らし向き

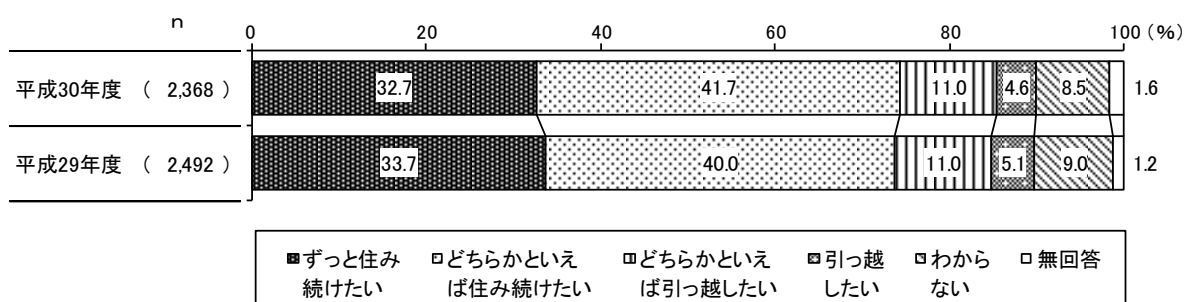


(2) 居住意向

◇『定住意向』は7割半ば

問9. あなたは今後も、現在のところに住み続けたいと思いますか。(〇は1つ)

図表1-2-1 居住意向



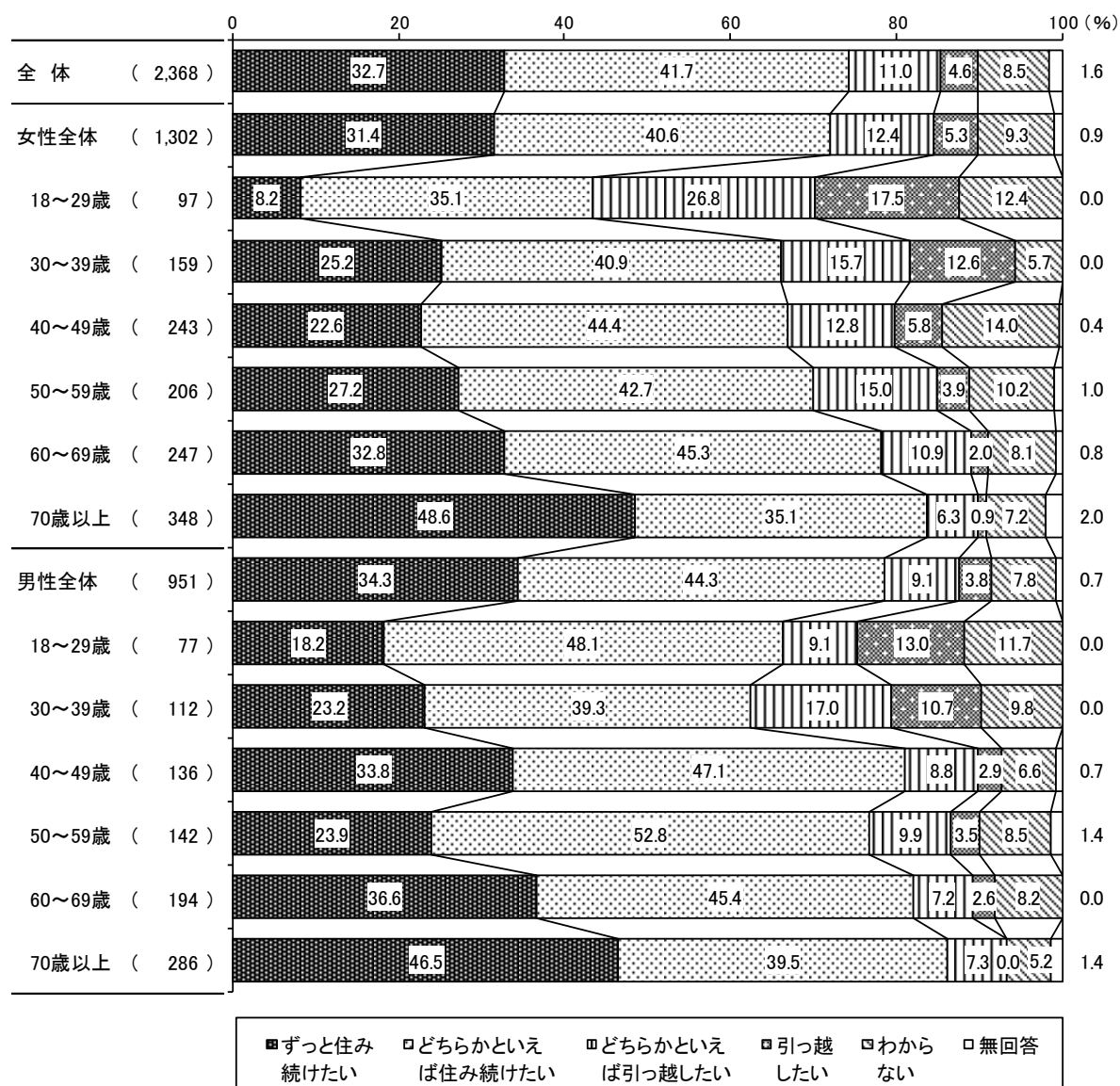
今後の居住意向については、「どちらかといえば住み続けたい」(41.7%)が最も多く、次いで、「ずっと住み続けたい」(32.7%)、「どちらかといえば引っ越したい」(11.0%)、「引っ越したい」(4.6%)の順となっている。

「ずっと住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」の合計を『定住意向』とすると、『定住意向』(74.4%)は7割半ばとなっている。

前回の調査と比較すると、『定住意向』(74.4%)は平成29年度調査(73.7%)と比べ0.7ポイント増加している。同様に、「どちらかといえば引っ越したい」と「引っ越したい」を合わせた『転居意向』(15.6%)は平成29年度調査(16.1%)と比べ0.5ポイント減少している。

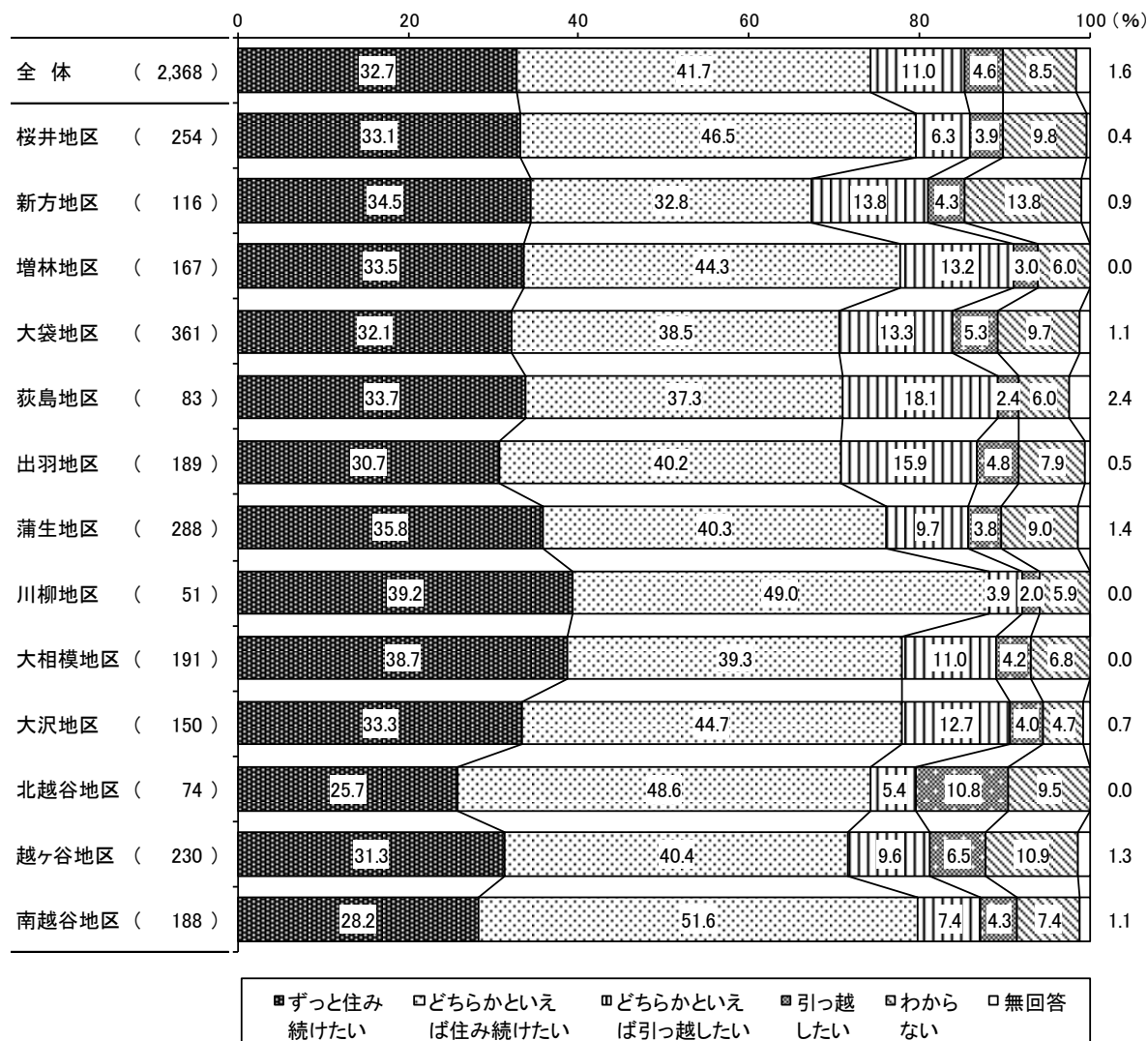
性別でみると、『定住意向』は男性（78.5%）が女性（72.0%）より6.5ポイント高くなっている。
 性・年齢別でみると、『定住意向』は男性70歳以上（86.0%）、女性70歳以上（83.6%）、男性60～69歳（82.0%）、男性40～49歳（80.9%）で8割以上と多くなっている。

図表1-2-2 性・年齢別 居住意向



居住地区別でみると、『定住意向』は川柳地区（88.2%）で9割弱と多くなっている。

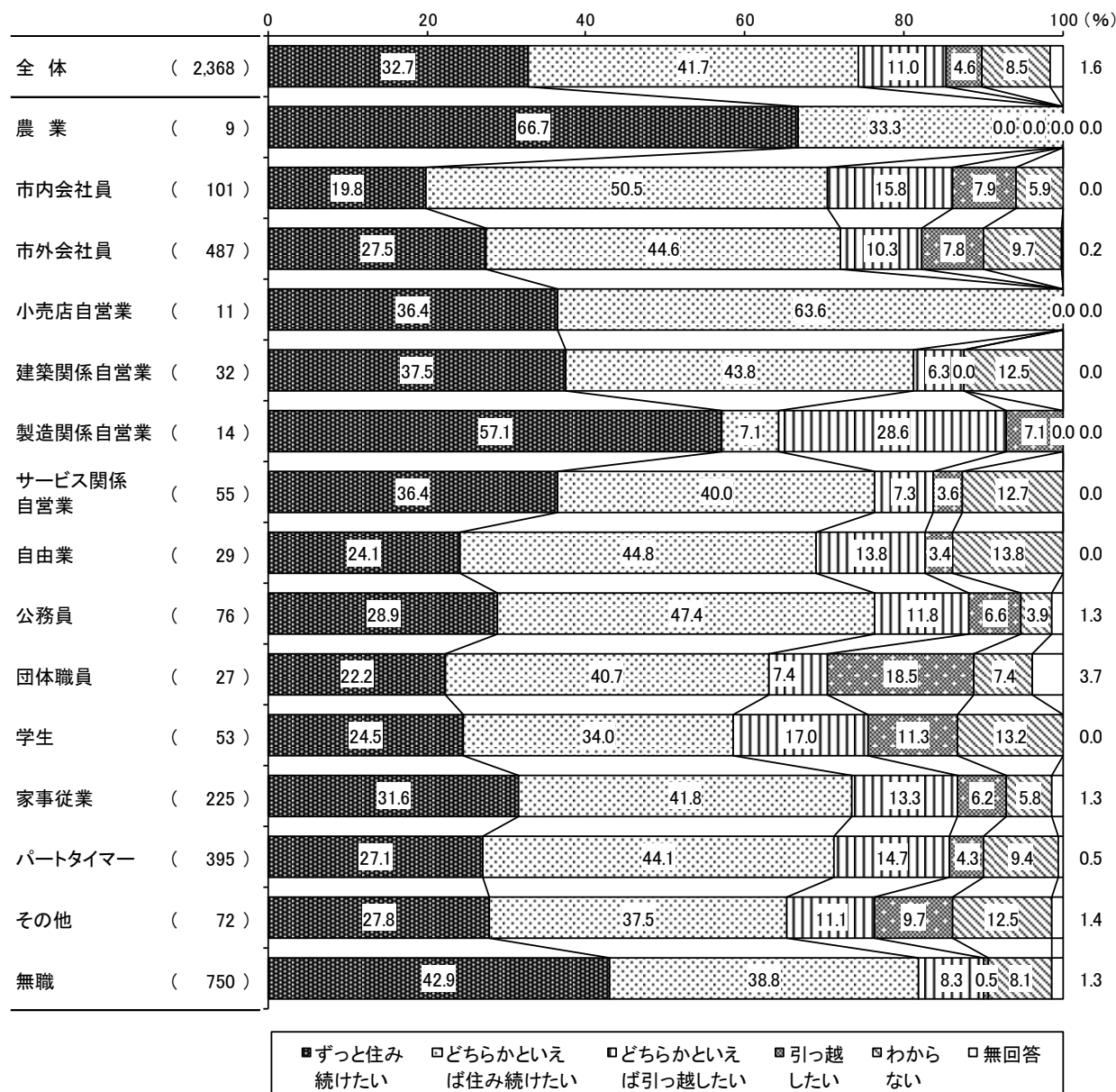
図表 1-2-3 居住地区別 居住意向



職業別でみると、『定住意向』は無職（年金生活を含む）（81.7%）、建築関係自営業（81.3%）で約8割と多くなっている。一方、『転居意向』は学生（28.3%）で3割弱、市内会社員（23.8%）で2割強と多くなっている。

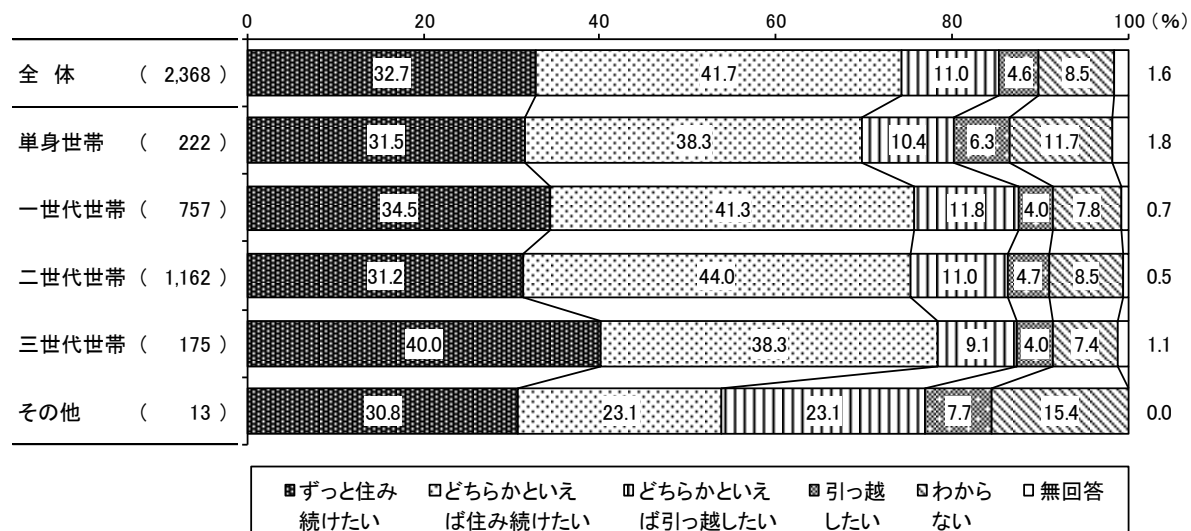
※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

図表1-2-4 職業別 居住意向



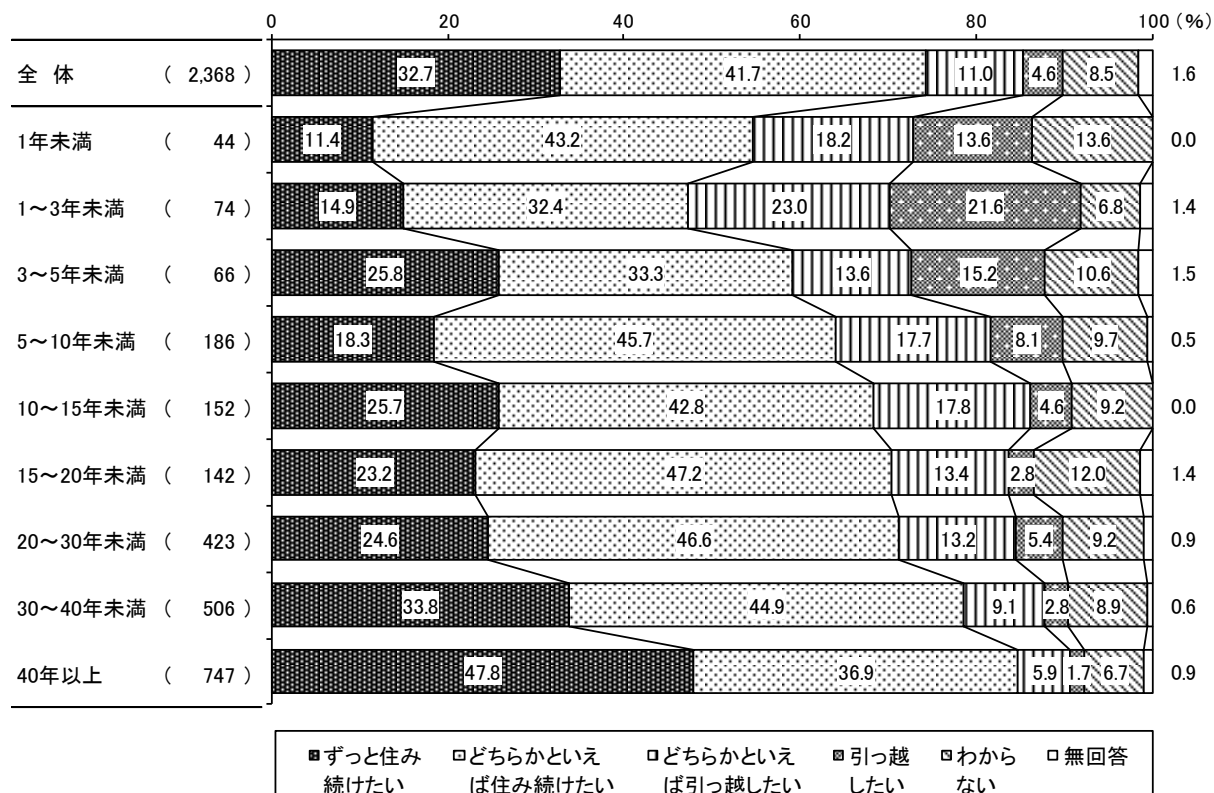
世帯状況別でみると、『定住意向』は三世帯世帯（78.3%）で8割弱と多くなっている。

図表1-2-5 世帯状況別 居留意向



居住年数別でみると、『定住意向』は40年以上（84.7%）で8割半ば、30～40年未満（78.7%）で8割弱と多くなっている。一方、『転居意向』は1～3年未満（44.6%）で4割半ば、1年未満（31.8%）で約3割と多くなっている。

図表1-2-6 居住年数別 居住意向

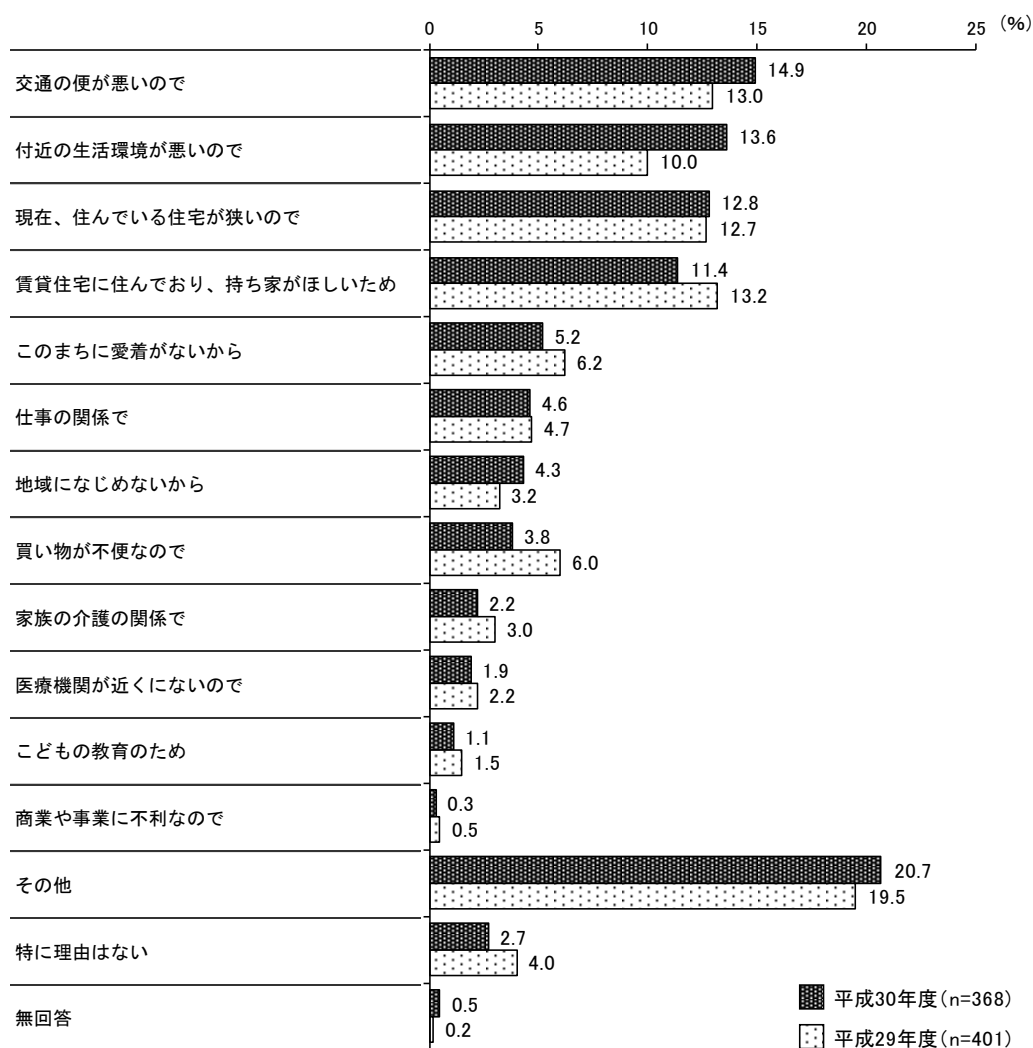


(3) 転居意向の理由

◇「交通の便が悪いので」が最も多く、1割半ば

問9-2. 問9で「3」または「4」と答えた方（引っ越したいと答えた方）に伺います。
引っ越したいと思われる主な理由は何ですか。(〇は1つ)

図表 1-3-1 転居意向の理由



『転居意向』のある 368 人に引っ越したいと思う主な理由を聞いたところ、「交通の便が悪いので」(14.9%) が最も多く、次いで、「付近の生活環境が悪いので」(13.6%)、「現在、住んでいる住宅が狭いので」(12.8%)、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」(11.4%)、「このまちに愛着がないから」(5.2%) の順となっている。また、「その他」として「税金が高い」「水害」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「付近の生活環境が悪いので」で3.6ポイント増加している。

性別でみると、「付近の生活環境が悪いので」は男性（17.9%）が女性（10.4%）より7.5ポイント高くなっている。一方、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は女性（14.3%）が男性（10.6%）より3.7ポイント、「地域になじめないから」は女性（5.2%）が男性（1.6%）より3.6ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「交通の便が悪いので」は女性18～29歳（25.6%）で2割半ばと多くなっている。「付近の生活環境が悪いので」は男性30～39歳（22.6%）で2割強、女性70歳以上（20.0%）で2割と多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

図表1-3-2 性・年齢別 転居意向の理由

(%)

	調査数（人）	商業や事業に不利なので	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	こどもの教育のため	買い物が不便なので	医療機関が近くにない	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全体	368	0.3	14.9	12.8	13.6	4.6	11.4	1.1	3.8	1.9	5.2	4.3	2.2	20.7	2.7	0.5
女性全体	231	0.4	15.6	14.3	10.4	4.8	11.7	0.9	4.3	1.3	5.2	5.2	1.7	22.1	1.3	0.9
18～29歳	43	-	25.6	16.3	4.7	16.3	14.0	2.3	-	2.3	2.3	-	-	11.6	4.7	-
30～39歳	45	-	8.9	13.3	8.9	6.7	20.0	2.2	6.7	-	8.9	4.4	-	17.8	2.2	-
40～49歳	45	-	11.1	20.0	11.1	-	13.3	-	4.4	-	4.4	6.7	4.4	24.4	-	-
50～59歳	39	2.6	23.1	10.3	10.3	2.6	10.3	-	2.6	-	7.7	2.6	5.1	20.5	-	2.6
60～69歳	32	-	12.5	6.3	9.4	-	6.3	-	9.4	3.1	3.1	9.4	-	40.6	-	-
70歳以上	25	-	12.0	16.0	20.0	-	-	-	4.0	4.0	4.0	12.0	-	24.0	-	4.0
男性全体	123	-	14.6	10.6	17.9	4.9	12.2	1.6	1.6	2.4	5.7	1.6	3.3	18.7	4.9	-
18～29歳	17	-	11.8	11.8	11.8	17.6	17.6	-	-	5.9	5.9	-	-	17.6	-	-
30～39歳	31	-	6.5	9.7	22.6	6.5	22.6	3.2	-	-	6.5	-	-	19.4	3.2	-
40～49歳	16	-	25.0	12.5	12.5	6.3	6.3	6.3	-	-	6.3	-	-	18.8	6.3	-
50～59歳	19	-	15.8	10.5	26.3	-	15.8	-	-	-	5.3	-	10.5	5.3	10.5	-
60～69歳	19	-	21.1	10.5	21.1	-	5.3	-	-	5.3	10.5	-	-	21.1	5.3	-
70歳以上	21	-	14.3	9.5	9.5	-	-	-	9.5	4.8	-	9.5	9.5	28.6	4.8	-

居住地区別でみると、「交通の便が悪いので」は越ヶ谷地区（21.6%）で約2割と多くなっている。「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」は越ヶ谷地区（18.9%）で2割弱、大袋地区（16.4%）で1割半ばと多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

図表1-3-3 居住地区別 転居意向の理由

	調査数（人）	商業や事業に不利なので	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	こどもの教育のため	買い物が不便なので	医療機関が近くにないので	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全 体	368	0.3	14.9	12.8	13.6	4.6	11.4	1.1	3.8	1.9	5.2	4.3	2.2	20.7	2.7	0.5
桜井地区	26	-	23.1	7.7	23.1	3.8	7.7	-	3.8	7.7	-	-	3.8	15.4	3.8	-
新方地区	21	-	23.8	4.8	23.8	-	4.8	-	-	-	4.8	4.8	-	33.3	-	-
増林地区	27	-	18.5	14.8	7.4	3.7	3.7	-	3.7	7.4	3.7	3.7	-	22.2	11.1	-
大袋地区	67	-	7.5	16.4	10.4	3.0	16.4	1.5	3.0	-	11.9	1.5	4.5	22.4	1.5	-
荻島地区	17	-	23.5	11.8	17.6	-	-	-	29.4	-	-	-	-	11.8	5.9	-
出羽地区	39	-	17.9	12.8	17.9	5.1	10.3	-	2.6	-	-	10.3	5.1	17.9	-	-
蒲生地区	39	-	2.6	15.4	15.4	5.1	12.8	5.1	2.6	2.6	7.7	-	2.6	20.5	5.1	2.6
川柳地区	3	-	33.3	-	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大相模地区	29	-	17.2	10.3	10.3	6.9	17.2	3.4	3.4	3.4	6.9	3.4	-	13.8	-	3.4
大沢地区	25	-	20.0	16.0	12.0	-	8.0	-	-	-	4.0	12.0	-	28.0	-	-
北越谷地区	12	8.3	16.7	8.3	-	8.3	16.7	-	-	8.3	-	8.3	-	16.7	8.3	-
越ヶ谷地区	37	-	21.6	8.1	10.8	8.1	18.9	-	2.7	-	8.1	2.7	2.7	16.2	-	-
南越谷地区	22	-	-	22.7	9.1	9.1	9.1	-	4.5	-	-	9.1	-	31.8	4.5	-

職業別でみると、「付近の生活環境が悪いので」は家事従業（20.5%）で約2割と多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

図表1-3-4 職業別 転居意向の理由

(%)

	調査数（人）	商業や事業に不利なので	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	こどもの教育のため	買い物が不便なので	医療機関が近くにない	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全 体	368	0.3	14.9	12.8	13.6	4.6	11.4	1.1	3.8	1.9	5.2	4.3	2.2	20.7	2.7	0.5
農業	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
市内会社員	24	-	16.7	20.8	4.2	4.2	20.8	4.2	-	4.2	4.2	-	4.2	12.5	4.2	-
市外会社員	88	1.1	15.9	10.2	14.8	10.2	15.9	2.3	2.3	1.1	11.4	-	1.1	11.4	2.3	-
小売店自営業	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
建築関係自営業	2	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
製造関係自営業	5	-	-	-	60.0	-	-	-	-	-	-	20.0	-	20.0	-	-
サービス関係自営業	6	-	-	16.7	33.3	-	-	-	-	-	-	16.7	-	33.3	-	-
自由業	5	-	-	-	40.0	-	40.0	-	-	-	-	-	-	-	20.0	-
公務員	14	-	7.1	7.1	-	14.3	28.6	-	-	-	7.1	-	14.3	7.1	14.3	-
団体職員	7	-	14.3	-	14.3	14.3	14.3	-	-	-	-	14.3	-	28.6	-	-
学生	15	-	33.3	13.3	6.7	20.0	-	-	-	6.7	-	-	-	13.3	6.7	-
家事従業	44	-	11.4	15.9	20.5	2.3	18.2	2.3	-	-	2.3	9.1	-	18.2	-	-
パートタイマー	75	-	13.3	14.7	10.7	-	8.0	-	9.3	1.3	8.0	4.0	2.7	28.0	-	-
その他	15	-	13.3	13.3	13.3	-	13.3	-	-	6.7	-	6.7	-	33.3	-	-
無職	66	-	16.7	12.1	12.1	-	-	-	7.6	3.0	-	6.1	3.0	31.8	4.5	3.0

世帯状況別でみると、「このまちに愛着がないから」は単身世帯（16.2%）で1割半ばと多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

図表1-3-5 世帯状況別 転居意向の理由

	調査数（人）	商業や事業に不利なので	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	こどもの教育のため	買い物が不便なので	医療機関が近くにない	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全体	368	0.3	14.9	12.8	13.6	4.6	11.4	1.1	3.8	1.9	5.2	4.3	2.2	20.7	2.7	0.5
単身世帯	37	-	5.4	10.8	5.4	5.4	8.1	-	-	-	16.2	10.8	-	27.0	10.8	-
一世代世帯	119	0.8	14.3	9.2	16.8	0.8	11.8	0.8	5.0	2.5	5.0	2.5	2.5	26.9	0.8	-
二世帯世帯	183	-	17.5	15.3	13.1	7.7	12.0	1.6	3.3	1.6	3.8	4.4	2.7	14.2	1.6	1.1
三世帯世帯	23	-	17.4	13.0	8.7	-	8.7	-	4.3	4.3	-	-	-	34.8	8.7	-
その他	4	-	-	25.0	50.0	-	-	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-

居住年数別でみると、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」は3～5年未満（36.8%）、1～3年未満（36.4%）で3割半ば、10～15年未満（26.5%）で2割半ばと多くなっている。「現在、住んでいる住宅が狭いので」は10～15年未満（23.5%）で2割強、5～10年未満（20.8%）で約2割と多くなっている。「交通の便が悪いので」は40年以上（22.8%）で2割強と多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

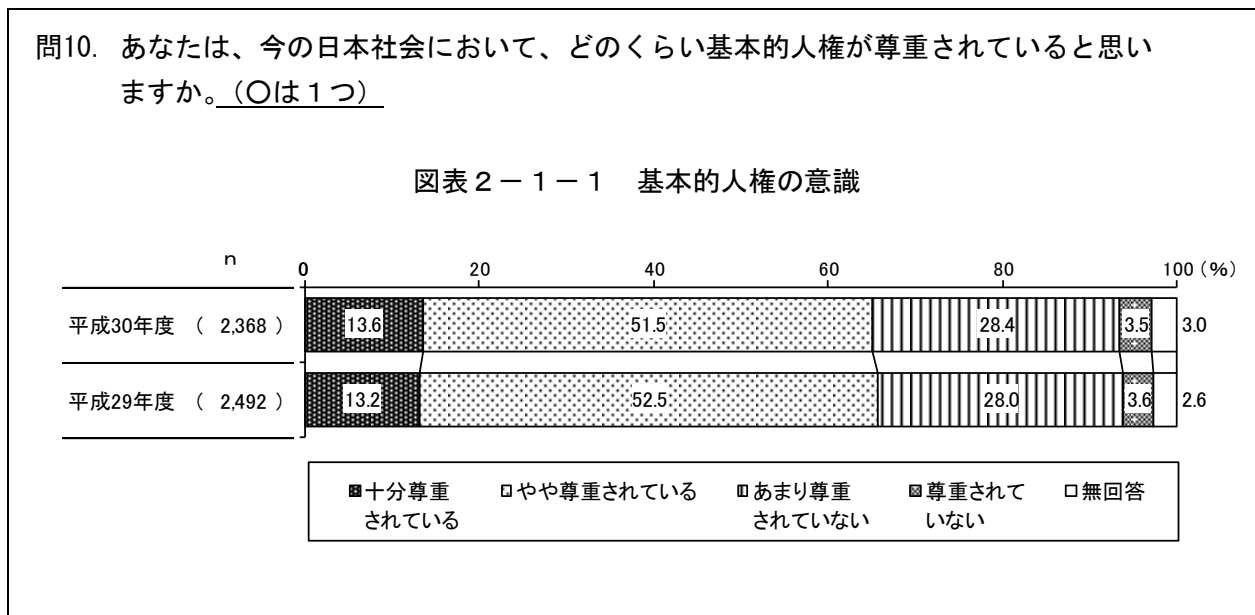
図表1-3-6 居住年数別 転居意向の理由

	調査数（人）	商業や事業に不利なので	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	仕事の関係で	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	こどもの教育のため	買い物が不便なので	医療機関が近くにない	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全 体	368	0.3	14.9	12.8	13.6	4.6	11.4	1.1	3.8	1.9	5.2	4.3	2.2	20.7	2.7	0.5
1年未満	14	-	14.3	14.3	7.1	21.4	7.1	7.1	-	7.1	-	-	-	21.4	-	-
1～3年未満	33	-	9.1	15.2	15.2	-	36.4	-	6.1	-	6.1	3.0	-	6.1	-	3.0
3～5年未満	19	-	10.5	10.5	15.8	5.3	36.8	-	5.3	-	-	5.3	-	10.5	-	-
5～10年未満	48	-	16.7	20.8	8.3	4.2	8.3	2.1	2.1	-	10.4	6.3	-	16.7	2.1	2.1
10～15年未満	34	-	14.7	23.5	8.8	2.9	26.5	2.9	-	-	-	8.8	2.9	8.8	-	-
15～20年未満	23	-	13.0	8.7	17.4	8.7	-	-	4.3	-	4.3	4.3	4.3	21.7	13.0	-
20～30年未満	79	-	19.0	11.4	11.4	7.6	3.8	-	-	3.8	8.9	1.3	5.1	26.6	1.3	-
30～40年未満	60	-	6.7	10.0	15.0	3.3	8.3	1.7	8.3	1.7	3.3	5.0	-	28.3	8.3	-
40年以上	57	1.8	22.8	5.3	19.3	-	1.8	-	7.0	3.5	3.5	5.3	3.5	26.3	-	-

2. 人権全般に関する意識について

(1) 基本的人権の意識

◇『尊重されている』が6割半ば



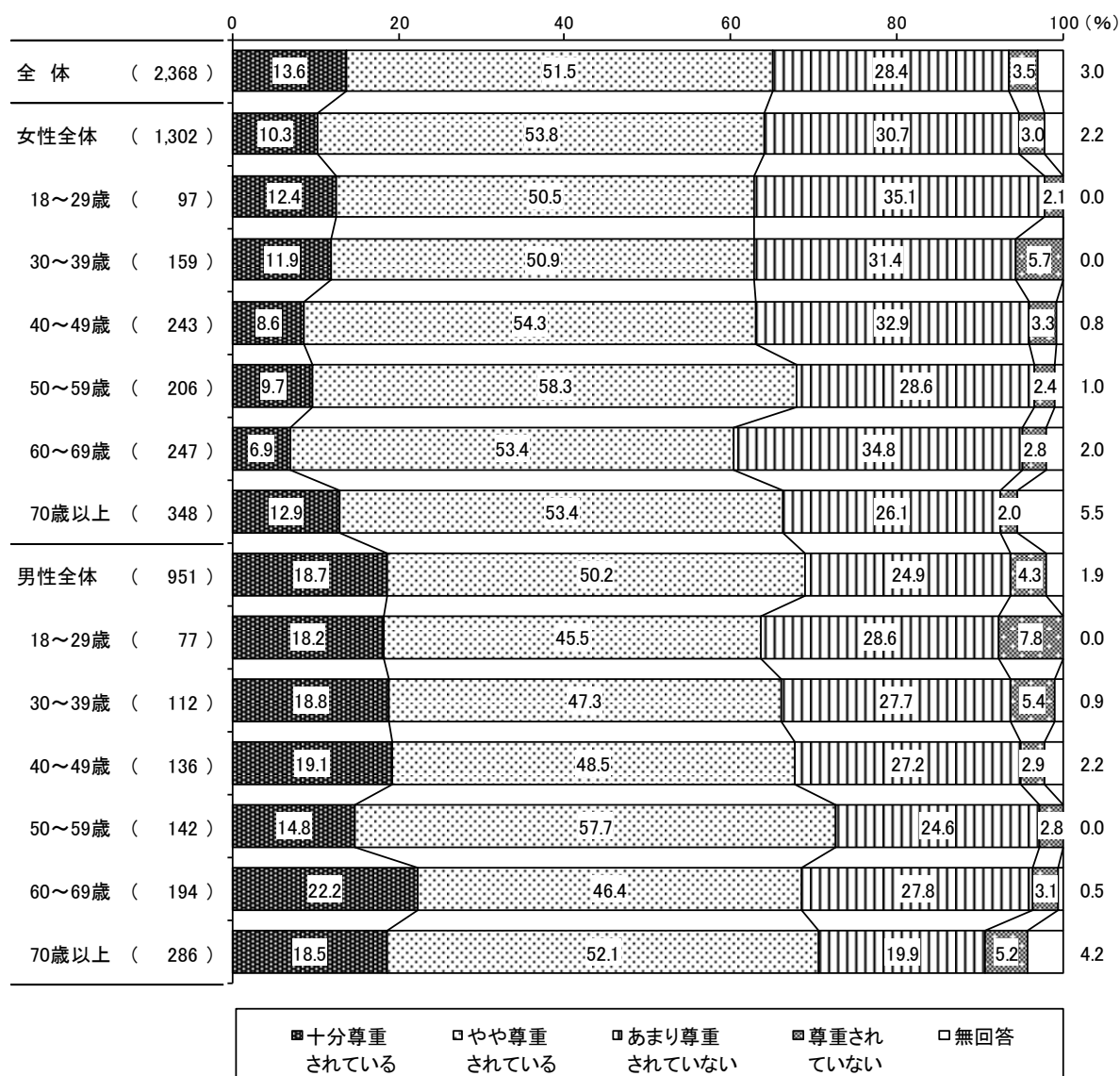
今の日本社会における基本的人権の意識については、「やや尊重されている」(51.5%)が最も多く、「十分尊重されている」(13.6%)を合わせた『尊重されている』(65.1%)は6割半ばとなっている。一方、「あまり尊重されていない」(28.4%)と「尊重されていない」(3.5%)を合わせた『尊重されていない』(31.9%)は約3割となっている。

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられない。

性別で見ると、『尊重されている』は男性（68.9%）が女性（64.1%）より4.8ポイント高くなっている。一方、『尊重されていない』は女性（33.7%）が男性（29.2%）より4.5ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、『尊重されている』は男性50～59歳（72.5%）、男性70歳以上（70.6%）で7割以上と多くなっている。一方、『尊重されていない』は女性60～69歳（37.7%）、女性18～29歳、女性30～39歳（37.1%）で4割弱と多くなっている。

図表2-1-2 性・年齢別 基本的人権の意識

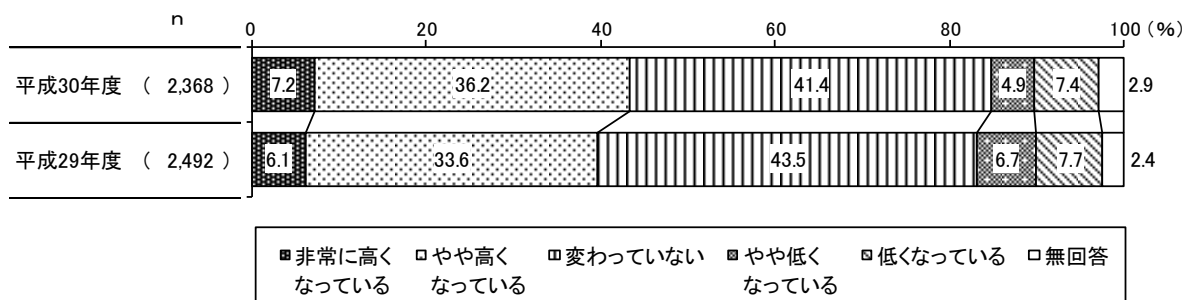


(2) 人権意識の変化

◇『高くなっている』が4割強

問11. 一人ひとりの人権意識は、10年前に比べて高くなっていると思いますか。(○は1つ)

図表2-2-1 人権意識の変化



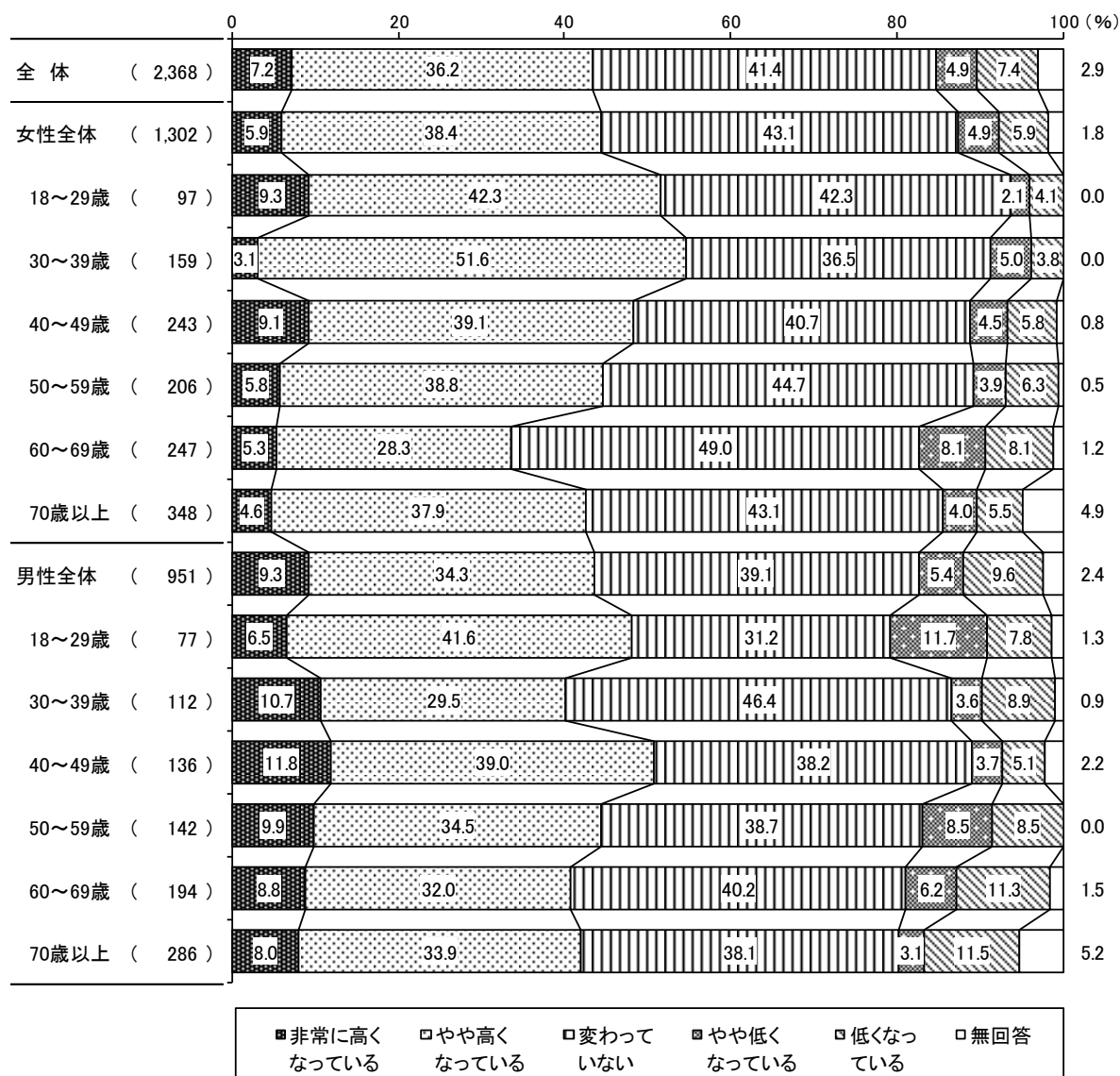
10年前と比べた人権意識の変化については、「変わっていない」(41.4%)が最も多く、次いで、「やや高くなっている」(36.2%)、「低くなっている」(7.4%)、「非常に高くなっている」(7.2%)、「やや低くなっている」(4.9%)の順となっている。「非常に高くなっている」(7.2%)と「やや高くなっている」(36.2%)を合わせた『高くなっている』(43.4%)は4割強となっている。一方、「やや低くなっている」(4.9%)と「低くなっている」(7.4%)を合わせた『低くなっている』(12.3%)は1割強となっている。

前回の調査と比較すると、『高くなっている』(43.4%)は平成29年度調査(39.7%)と比べ3.7ポイント増加している。一方、『低くなっている』(12.3%)は平成29年度調査(14.4%)と比べ2.1ポイント減少している。

性別でみると、『低くなっている』は男性（14.9%）が女性（10.8%）より4.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『高くなっている』は女性30～39歳（54.7%）で5割半ば、女性18～29歳（51.5%）、男性40～49歳（50.7%）で約5割と多くなっている。

図表2-2-2 性・年齢別 人権意識の変化

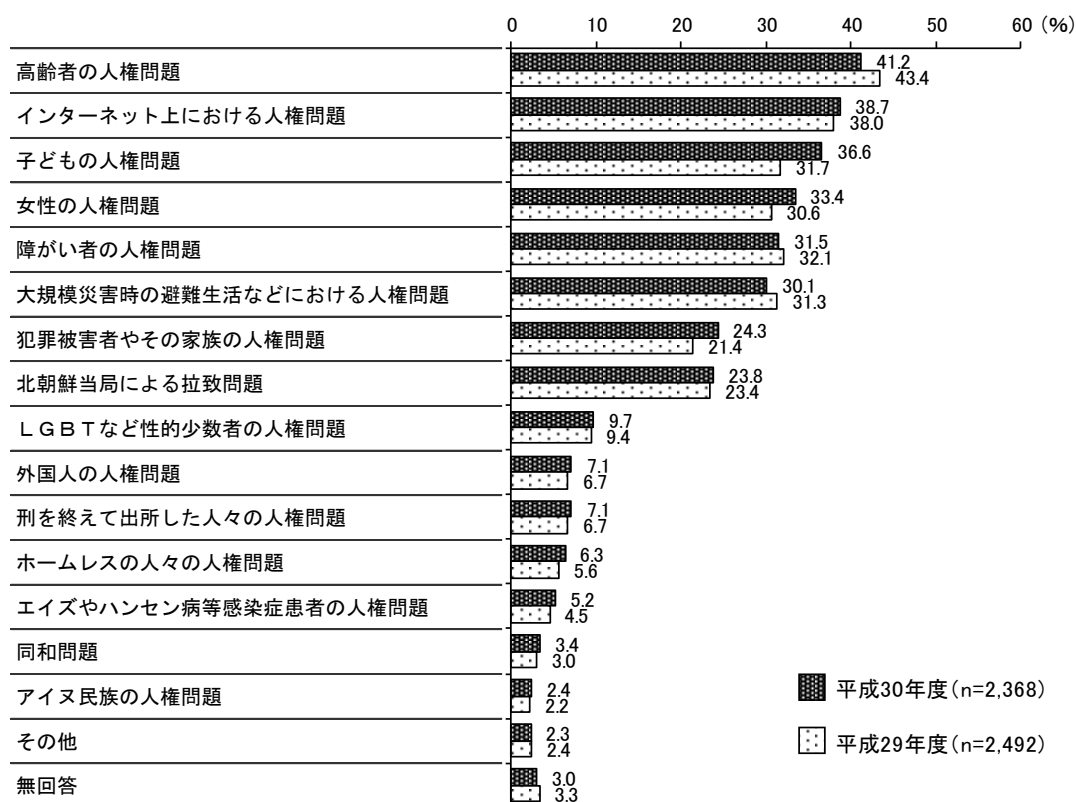


(3) 関心のある人権問題

◇「高齢者の人権問題」が最も多く、約4割

問12. 今の日本の社会に様々な人権問題がありますが、あなたが関心のあるものはどれですか。
(複数回答可)

図表2-3-1 関心のある人権問題



関心のある人権問題については、「高齢者の人権問題」(41.2%)が最も多く、次いで、「インターネット上における人権問題」(38.7%)、「子どもの人権問題」(36.6%)、「女性の人権問題」(33.4%)、「障がい者の人権問題」(31.5%)の順となっている。また、「その他」として「貧富の差」「男性の人権問題」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「子どもの人権問題」で4.9ポイント増加している。

性別でみると、「女性の人権問題」は女性（42.5%）が男性（23.0%）より19.5ポイント高くなっている。「大規模災害時の避難生活などにおける人権問題」は女性（32.2%）が男性（27.4%）より4.8ポイント高くなっている。一方、「北朝鮮当局による拉致問題」は男性（25.9%）が女性（21.7%）より4.2ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「高齢者の人権問題」は女性70歳以上（62.4%）で6割強、男性70歳以上（55.2%）で5割半ば、女性60～69歳（51.4%）で約5割と多くなっている。「インターネット上における人権問題」は男性40～49歳（56.6%）、女性40～49歳（55.6%）で5割半ば、女性18～29歳（51.5%）、男性50～59歳（50.0%）で約5割と多くなっている。「子どもの人権問題」は女性30～39歳（56.6%）で5割半ばと多くなっている。「女性の人権問題」は女性18～29歳（68.0%）で7割弱、女性30～39歳（58.5%）で6割弱、女性40～49歳（52.3%）で5割強と多くなっている。

図表2-3-2 性・年齢別 関心のある人権問題

(%)

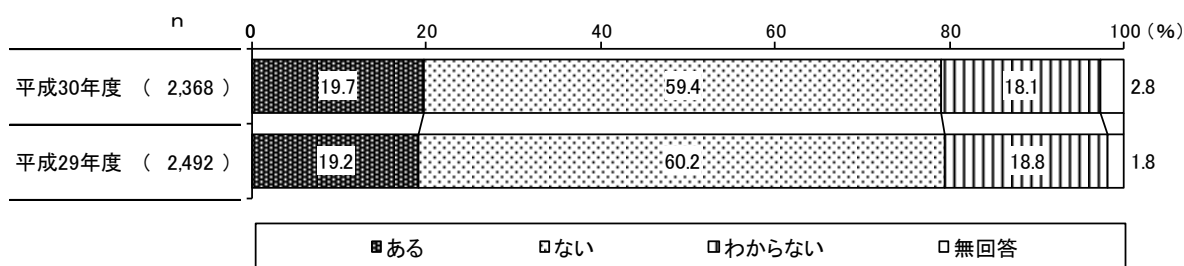
	調査数（人）	女性の人権問題	子どもの人権問題	高齢者の人権問題	障がい者の人権問題	同和問題	アイヌ民族の人権問題	外国人の人権問題	エイズやハンセン病等感染症患者の人権問題	刑を終えて出所した人々の人権問題	犯罪被害者やその家族の人権問題	インターネット上における人権問題	北朝鮮当局による拉致問題	ホームレスの人々の人権問題	LGBTなど性的少数者の人権問題	大規模災害時の避難生活などにおける人権問題	その他	無回答
全 体	2,368	33.4	36.6	41.2	31.5	3.4	2.4	7.1	5.2	7.1	24.3	38.7	23.8	6.3	9.7	30.1	2.3	3.0
女性全体	1,302	42.5	38.6	42.2	32.6	3.1	2.3	5.7	6.2	7.1	23.3	39.9	21.7	6.1	10.8	32.2	1.5	2.0
18～29歳	97	68.0	45.4	21.6	35.1	3.1	3.1	16.5	10.3	10.3	24.7	51.5	10.3	10.3	27.8	16.5	-	-
30～39歳	159	58.5	56.6	24.5	32.1	5.7	2.5	5.7	8.8	10.7	30.2	46.5	11.3	6.3	21.4	32.1	3.8	-
40～49歳	243	52.3	43.2	28.8	35.8	3.7	4.5	6.6	8.6	8.2	32.1	55.6	16.9	5.3	17.3	32.5	0.8	0.8
50～59歳	206	49.0	42.2	35.9	42.2	2.9	2.9	6.8	5.3	5.8	23.8	45.6	17.0	4.4	11.7	34.5	1.5	0.5
60～69歳	247	37.2	35.6	51.4	31.6	2.8	1.6	5.3	3.2	5.3	23.9	38.5	28.3	8.1	3.2	37.7	1.2	1.6
70歳以上	348	21.3	25.6	62.4	25.3	1.7	0.6	1.7	4.9	5.7	12.6	20.4	30.7	4.6	1.7	31.0	1.7	5.5
男性全体	951	23.0	34.9	39.1	30.3	3.7	2.5	9.1	3.8	7.5	26.4	39.3	25.9	6.5	8.4	27.4	3.4	2.5
18～29歳	77	31.2	29.9	24.7	31.2	-	-	15.6	6.5	11.7	19.5	49.4	11.7	9.1	20.8	19.5	6.5	1.3
30～39歳	112	29.5	41.1	17.9	25.0	7.1	3.6	8.9	3.6	3.6	32.1	48.2	14.3	7.1	13.4	21.4	6.3	2.7
40～49歳	136	25.0	36.8	25.7	31.6	-	0.7	9.6	3.7	7.4	33.8	56.6	16.9	5.9	11.8	19.9	6.6	1.5
50～59歳	142	23.9	39.4	35.9	38.0	8.5	4.2	15.5	7.7	9.9	29.6	50.0	26.1	6.3	11.3	29.6	1.4	1.4
60～69歳	194	22.7	38.1	45.4	36.1	3.6	2.1	7.7	3.1	7.2	25.3	34.0	30.9	7.2	5.2	31.4	1.5	2.1
70歳以上	286	17.5	29.0	55.2	24.1	2.1	2.8	5.2	1.7	6.6	21.7	22.7	35.3	5.6	2.4	31.8	2.1	4.2

(4) 人権侵害を感じたこと

◇「ある」が約2割

問13. あなたは、日常生活の中であなた自身またはあなたの周りの人の人権が侵害されたと感じたことはありますか。(〇は1つ)

図表2-4-1 人権侵害を感じたこと



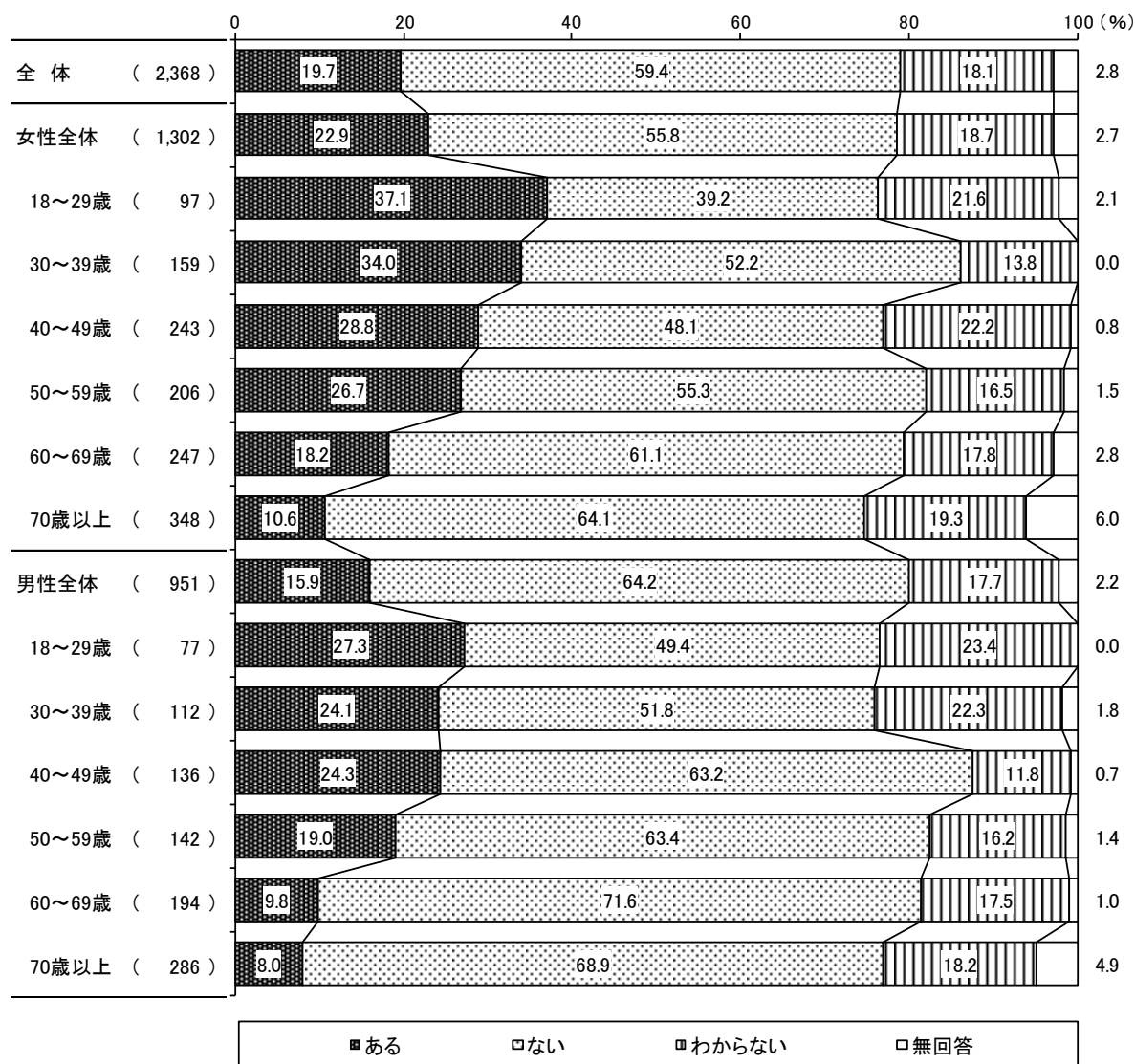
日常生活の中で人権が侵害されたと感じたことがあるかを聞いたところ、「ある」(19.7%)が約2割、「ない」(59.4%)が約6割となっている。

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられない。

性別で見ると、「ある」は女性（22.9%）が男性（15.9%）より7.0ポイント高くなっている。一方、「ない」は男性（64.2%）が女性（55.8%）より8.4ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「ある」は女性18～29歳（37.1%）で4割弱、女性30～39歳（34.0%）で3割半ばと多くなっている。一方、「ない」は男性60～69歳（71.6%）で約7割、男性70歳以上（68.9%）で7割弱と多くなっている。

図表2-4-2 性・年齢別 人権侵害を感じたこと

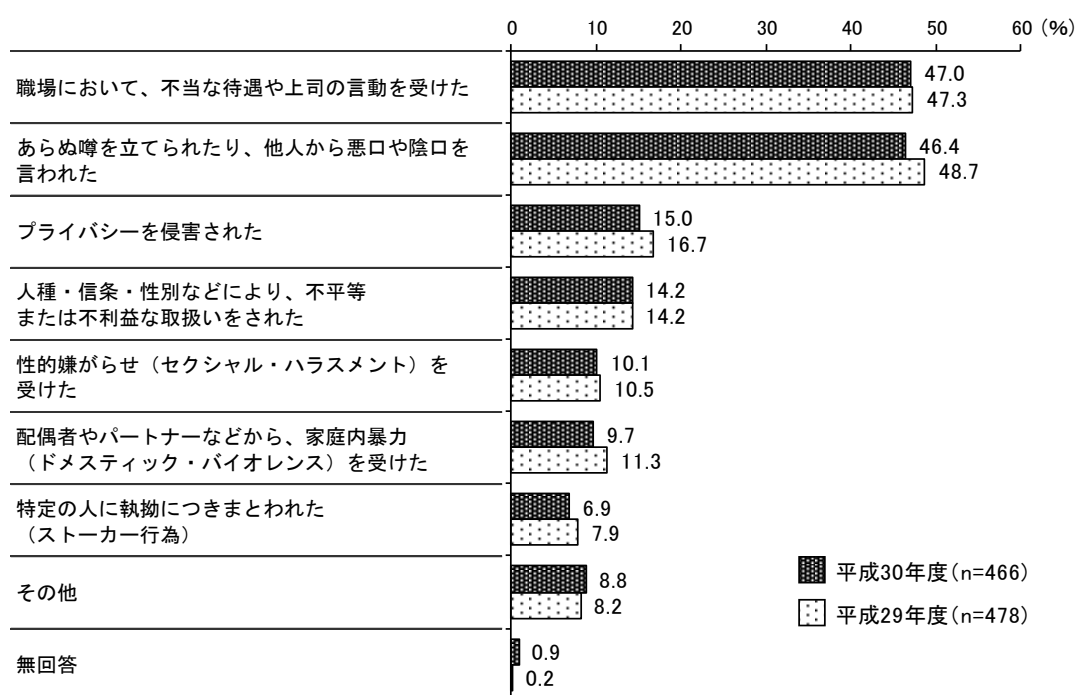


(5) 人権侵害を感じた内容

◇「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」が最も多く、5割弱

問13-2. 問13で「1. ある」と答えた方に伺います。人権が侵害されたと感じたことは、どのような内容ですか。(複数回答可)

図表2-5-1 人権侵害を感じた内容



人権が侵害されたと感じたことが「ある」と回答した人466人に、人権侵害を感じた内容について聞いたところ、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」（47.0%）が最も多く、次いで、「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」（46.4%）、「プライバシーを侵害された」（15.0%）、「人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた」（14.2%）、「性的嫌がらせ（セクシャル・ハラスメント）を受けた」（10.1%）の順となっている。また、「その他」として「障害者への認識不足」「近隣住民からの嫌がらせ」等が挙げられた。

前回調査と比較すると、「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」で2.3ポイント減少している。

性別で見ると、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」は男性（54.3%）が女性（44.3%）より10.0ポイント高くなっている。一方、「配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた」は女性（13.1%）が男性（3.3%）より9.8ポイント、「性的嫌がらせ（セクシャル・ハラスメント）を受けた」は女性（12.4%）が男性（5.3%）より7.1ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別で見ると、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」は男性40～49歳（75.8%）で7割半ば、女性50～59歳（61.8%）で約6割と多くなっている。「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」は女性30～39歳（57.4%）で6割弱、女性70歳以上（54.1%）で5割半ばと多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

図表2-5-2 性・年齢別 人権侵害を感じた内容

	調査数（人）	悪口や陰口を立てられたり、他人から	人種・信条・性別などにより、不平	職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた	プライバシーを侵害された	性的嫌がらせ（セクシャル・ハラスメント）を受けた	特定の人（ストーカー行為）に執拗につきまわられた	配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた	その他	無回答
全体	466	46.4	14.2	47.0	15.0	10.1	6.9	9.7	8.8	0.9
女性全体	298	47.7	14.1	44.3	15.4	12.4	7.7	13.1	8.1	1.3
18～29歳	36	41.7	19.4	38.9	22.2	22.2	11.1	8.3	-	2.8
30～39歳	54	57.4	20.4	48.1	20.4	13.0	11.1	14.8	5.6	-
40～49歳	70	42.9	15.7	50.0	12.9	17.1	4.3	11.4	12.9	-
50～59歳	55	41.8	12.7	61.8	10.9	9.1	5.5	12.7	10.9	-
60～69歳	45	51.1	11.1	40.0	11.1	8.9	4.4	11.1	6.7	2.2
70歳以上	37	54.1	2.7	10.8	18.9	2.7	13.5	21.6	5.4	5.4
男性全体	151	41.7	15.9	54.3	12.6	5.3	5.3	3.3	9.9	-
18～29歳	21	52.4	19.0	33.3	14.3	14.3	9.5	-	9.5	-
30～39歳	27	37.0	18.5	63.0	7.4	7.4	3.7	7.4	7.4	-
40～49歳	33	39.4	18.2	75.8	15.2	-	3.0	3.0	15.2	-
50～59歳	27	18.5	14.8	70.4	7.4	7.4	11.1	3.7	-	-
60～69歳	19	47.4	10.5	47.4	21.1	5.3	5.3	-	5.3	-
70歳以上	23	60.9	13.0	17.4	13.0	-	-	-	21.7	-

3. 市内の公共交通について

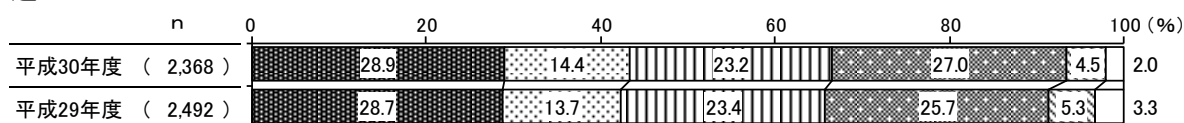
(1) 公共交通の利用有無

◇鉄道は「常に利用」が3割弱、バスは「たまに利用」が3割半ば、タクシーは「たまに利用」が4割強

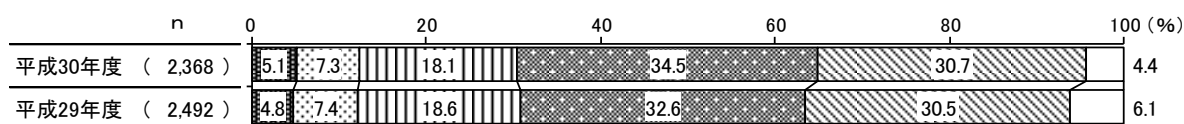
問14. あなたは、公共交通（鉄道・バス・タクシー）を利用していますか。
 （それぞれ○は1つずつ）

図表3-1-1 公共交通の利用有無

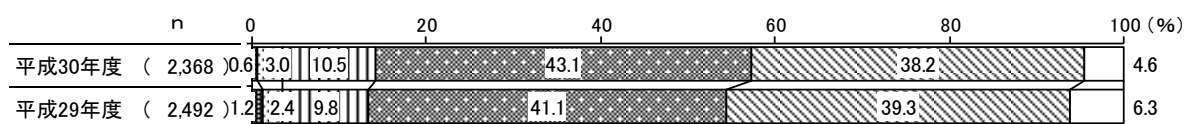
鉄道



バス



タクシー



■常に利用している □よく利用している □ときどき利用している □たまに利用している □全く利用しない □無回答

鉄道の利用については、「常に利用している」(28.9%)が最も多く、次いで、「たまに利用している」(27.0%)、「ときどき利用している」(23.2%)、「よく利用している」(14.4%)、「全く利用しない」(4.5%)の順となっている。

バスの利用については、「たまに利用している」(34.5%)が最も多く、次いで、「全く利用しない」(30.7%)、「ときどき利用している」(18.1%)、「よく利用している」(7.3%)、「常に利用している」(5.1%)の順となっている。

タクシーの利用については、「たまに利用している」(43.1%)が最も多く、次いで、「全く利用しない」(38.2%)、「ときどき利用している」(10.5%)、「よく利用している」(3.0%)、「常に利用している」(0.6%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられない。

鉄道の利用について性別でみると、「常に利用している」は男性（38.5%）が女性（22.4%）より16.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「常に利用している」は男性18～29歳（68.8%）で7割弱、女性18～29歳（61.9%）で約6割と多くなっている。

バスの利用について性別でみると、「全く利用しない」は男性（33.8%）が女性（28.7%）より5.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「たまに利用している」は女性30～39歳（45.9%）で4割半ばと多くなっている。

タクシーの利用について性別でみると、「全く利用しない」は男性（40.9%）が女性（36.9%）より4.0ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「たまに利用している」は女性30～39歳（50.9%）で約5割と多くなっている。

図表3-1-2 性・年齢別 公共交通の利用有無

	調査数（人）	鉄道						バス						タクシー					
		常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答	常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答	常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答
全体	2,368	28.9	14.4	23.2	27.0	4.5	2.0	5.1	7.3	18.1	34.5	30.7	4.4	0.6	3.0	10.5	43.1	38.2	4.6
女性全体	1,302	22.4	15.4	25.5	29.7	4.3	2.6	5.0	8.4	18.0	35.6	28.7	4.1	0.8	2.8	10.3	44.5	36.9	4.7
18～29歳	97	61.9	11.3	13.4	12.4	1.0	-	5.2	11.3	18.6	35.1	27.8	2.1	1.0	4.1	11.3	44.3	36.1	3.1
30～39歳	159	26.4	10.7	25.2	35.2	2.5	-	-	6.9	21.4	45.9	25.2	0.6	-	2.5	5.7	50.9	40.3	0.6
40～49歳	243	26.3	11.5	25.1	32.9	3.3	0.8	3.3	5.8	16.0	37.4	34.2	3.3	0.4	2.1	7.4	40.3	46.5	3.3
50～59歳	206	26.7	14.6	29.6	25.2	3.9	-	3.9	8.7	14.1	40.3	31.6	1.5	-	0.5	7.8	45.1	44.2	2.4
60～69歳	247	13.0	17.4	30.8	34.0	3.6	1.2	6.9	6.5	18.2	33.2	32.0	3.2	0.4	2.8	8.9	44.9	37.7	5.3
70歳以上	348	10.6	20.7	23.3	29.6	7.5	8.3	7.8	11.5	20.1	29.0	22.4	9.2	2.0	4.6	16.7	44.0	23.9	8.9
男性全体	951	38.5	13.6	19.6	23.1	4.5	0.7	5.3	6.0	18.0	33.0	33.8	4.0	0.2	2.5	10.0	42.5	40.9	3.9
18～29歳	77	68.8	9.1	10.4	9.1	2.6	-	6.5	5.2	14.3	35.1	33.8	5.2	-	3.9	5.2	29.9	55.8	5.2
30～39歳	112	50.9	10.7	11.6	22.3	4.5	-	2.7	7.1	14.3	31.3	42.9	1.8	-	0.9	4.5	50.9	41.1	2.7
40～49歳	136	51.5	11.8	16.2	16.2	3.7	0.7	4.4	4.4	14.7	34.6	36.8	5.1	-	1.5	8.8	37.5	47.8	4.4
50～59歳	142	54.2	5.6	17.6	15.5	7.0	-	5.6	7.0	15.5	32.4	37.3	2.1	-	2.8	13.4	34.5	47.2	2.1
60～69歳	194	34.0	17.0	17.5	27.8	3.6	-	4.6	6.2	20.1	30.4	34.0	4.6	0.5	2.1	7.7	45.9	40.7	3.1
70歳以上	286	14.3	18.2	29.4	31.1	4.9	2.1	6.3	5.6	22.0	35.0	26.6	4.5	0.3	3.5	13.6	46.9	30.4	5.2

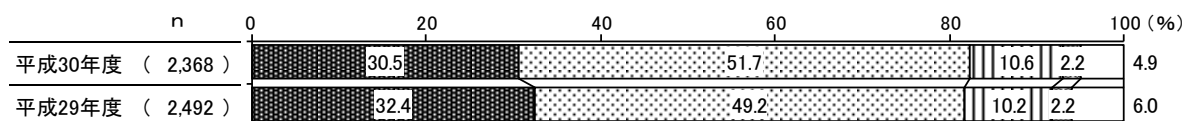
(2) 公共交通の満足度

◇『満足』は鉄道が8割強、バスが5割半ば、タクシーが6割弱

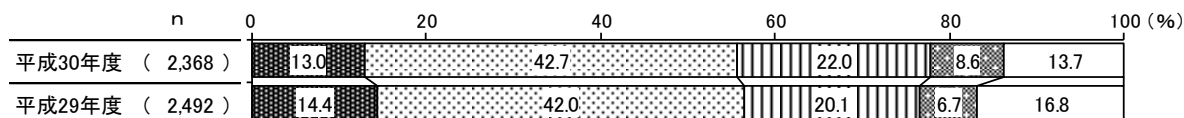
問15. あなたは、公共交通（鉄道・バス・タクシー）にどの程度満足していますか。
 （それぞれ〇は1つつ）

図表3-2-1 公共交通の満足度

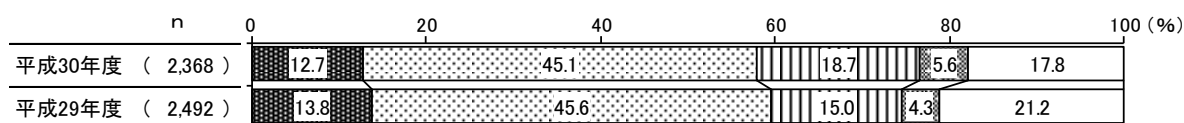
鉄道



バス



タクシー



■とても満足している □やや満足している ▨やや不満である ▩とても不満である □無回答

鉄道の満足度については、「とても満足している」(30.5%)と「やや満足している」(51.7%)を合わせた『満足』(82.2%)は8割強となっている。

バスの満足度については、「とても満足している」(13.0%)と「やや満足している」(42.7%)を合わせた『満足』(55.7%)は5割半ばとなっている。

タクシーの満足度については、「とても満足している」(12.7%)と「やや満足している」(45.1%)を合わせた『満足』(57.8%)は6割弱となっている。

前回の調査と比較すると、バスについては「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた『不満』(30.6%)が平成29年度調査(26.8%)と比べ3.8ポイント、タクシーについては「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた『不満』(24.3%)が平成29年度調査(19.3%)と比べ5.0ポイント、それぞれ増加している。

鉄道の満足度について「とても満足している」は男性（33.2%）が女性（28.4%）より4.8ポイント高く、「やや満足している」は女性（54.4%）が男性（48.9%）より5.5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『満足』は男性30～39歳（69.6%）で約7割と少なくなっている。

バスの満足度について『不満』は女性（32.6%）が男性（29.4%）より3.2ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『不満』は女性18～29歳（39.2%）で約4割、女性50～59歳（38.8%）、女性40～49歳（37.9%）で4割弱と多くなっている。

タクシーの満足度について『満足』は女性（58.2%）が男性（57.0%）より1.2ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『満足』は男性18～29歳（71.4%）で約7割と多くなっている。

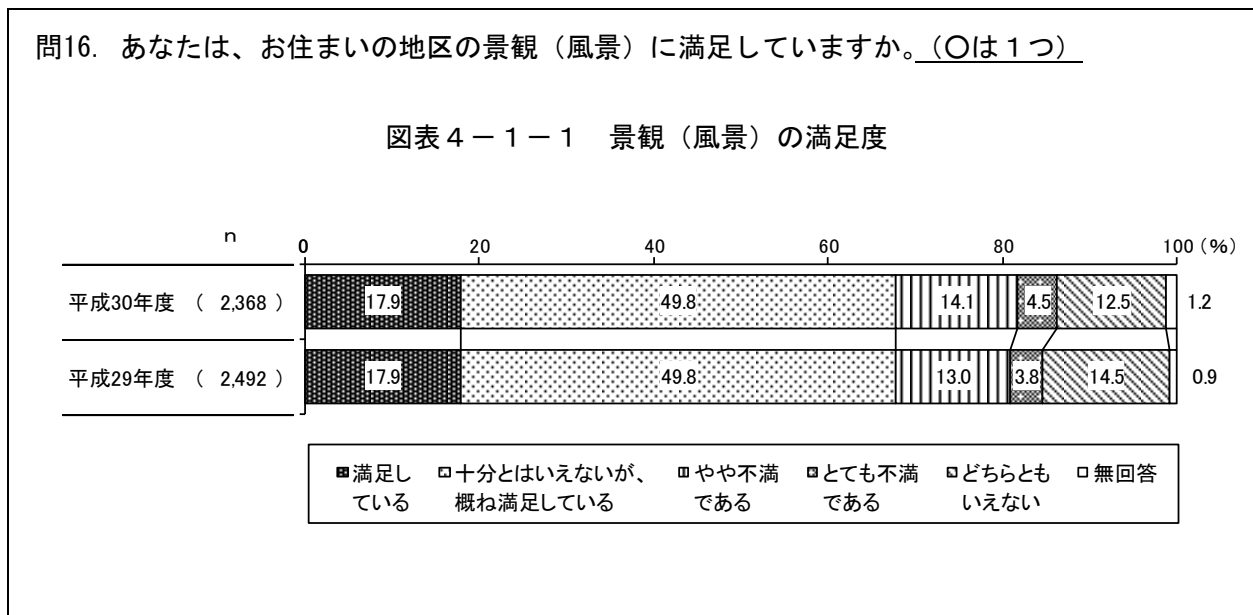
図表3-2-2 性・年齢別 公共交通の満足度

		鉄道					バス					タクシー				
	調査数（人）	とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答	とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答	とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答
全体	2,368	30.5	51.7	10.6	2.2	4.9	13.0	42.7	22.0	8.6	13.7	12.7	45.1	18.7	5.6	17.8
女性全体	1,302	28.4	54.4	10.3	1.9	5.0	12.3	42.7	23.3	9.4	12.4	13.1	45.1	19.5	5.3	17.0
18～29歳	97	26.8	54.6	16.5	2.1	-	10.3	48.5	34.0	5.2	2.1	15.5	50.5	21.6	6.2	6.2
30～39歳	159	27.7	55.3	13.8	2.5	0.6	13.2	47.8	27.7	8.8	2.5	19.5	45.3	25.2	6.3	3.8
40～49歳	243	28.8	52.7	14.0	2.5	2.1	7.8	46.1	26.3	11.5	8.2	10.7	48.6	23.0	7.8	9.9
50～59歳	206	30.6	52.9	12.6	1.9	1.9	9.2	43.7	26.2	12.6	8.3	10.7	45.1	19.9	8.3	16.0
60～69歳	247	23.9	60.7	8.5	1.6	5.3	11.3	40.9	20.2	8.9	18.6	8.1	38.5	22.3	4.9	26.3
70歳以上	348	31.0	51.4	4.3	1.1	12.1	18.1	37.4	16.7	7.8	20.1	16.4	45.7	11.8	1.4	24.7
男性全体	951	33.2	48.9	11.4	2.7	3.8	13.0	42.8	21.9	7.6	14.7	11.6	45.4	18.2	6.5	18.3
18～29歳	77	26.0	51.9	14.3	7.8	-	9.1	55.8	23.4	7.8	3.9	18.2	53.2	15.6	7.8	5.2
30～39歳	112	25.0	44.6	24.1	2.7	3.6	11.6	39.3	28.6	8.0	12.5	8.9	43.8	24.1	12.5	10.7
40～49歳	136	27.2	53.7	14.0	2.2	2.9	14.0	42.6	20.6	6.6	16.2	8.1	45.6	19.9	12.5	14.0
50～59歳	142	33.1	49.3	10.6	2.8	4.2	11.3	45.1	25.4	5.6	12.7	9.9	43.7	23.2	4.9	18.3
60～69歳	194	36.6	47.9	10.8	2.1	2.6	12.9	40.7	21.1	9.8	15.5	11.9	43.8	18.0	6.2	20.1
70歳以上	286	38.8	47.9	5.2	2.1	5.9	15.0	41.3	18.5	7.0	18.2	13.3	46.5	13.3	1.7	25.2

4. 景観（風景）について

（1）景観（風景）の満足度

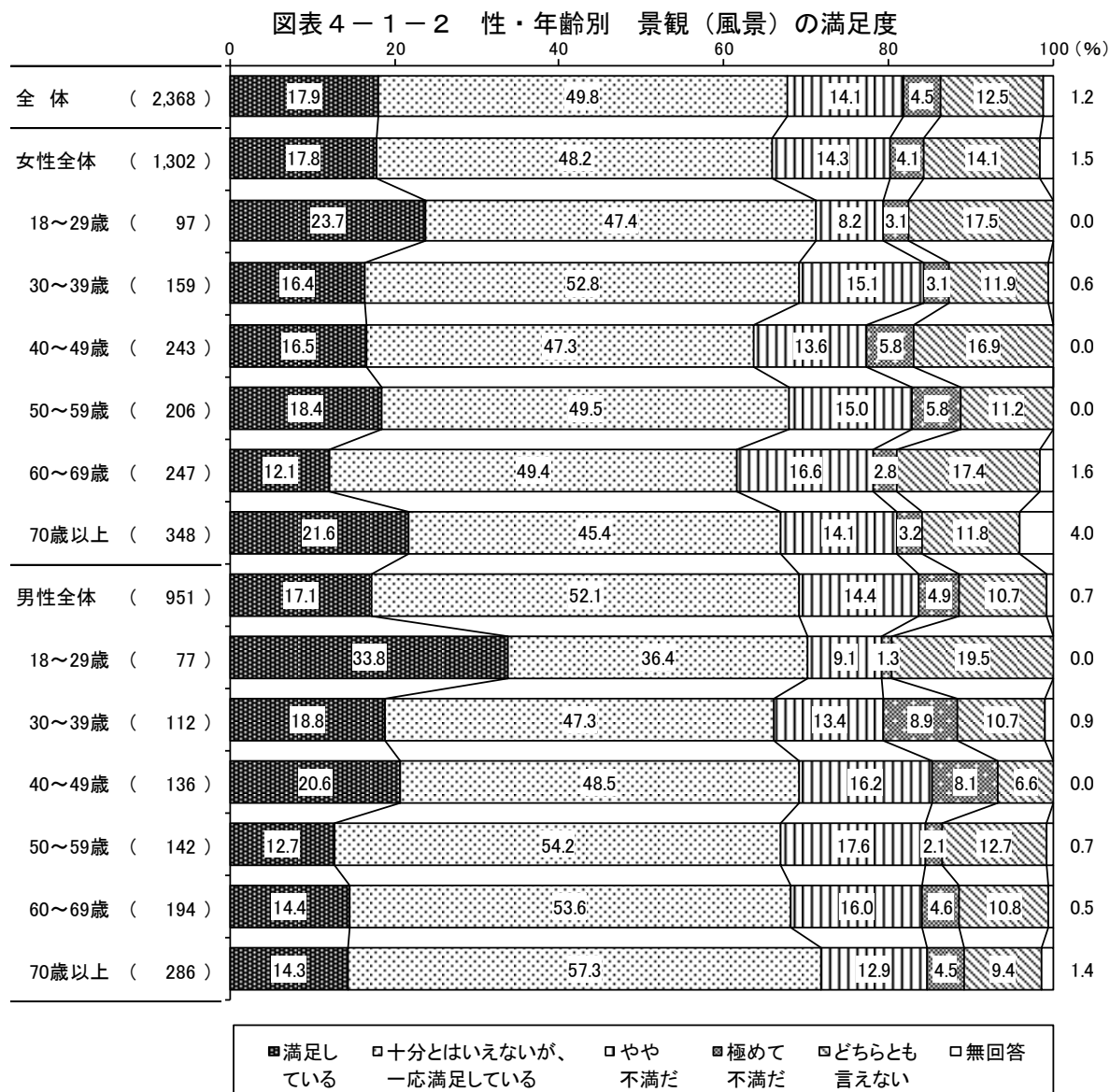
◇『満足』が7割弱



住まいの地区の景観（風景）の満足度については、「満足している」（17.9%）と「十分とはいえないが、概ね満足している」（49.8%）を合わせた『満足』（67.7%）は7割弱となっている。

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられない。

性別で見ると、『満足』は男性（69.2%）が女性（66.1%）より3.1ポイント高くなっている。
 性・年齢別で見ると、『満足』は男性70歳以上（71.7%）、女性18～29歳（71.1%）、男性18～29歳（70.1%）で7割以上と多くなっている。

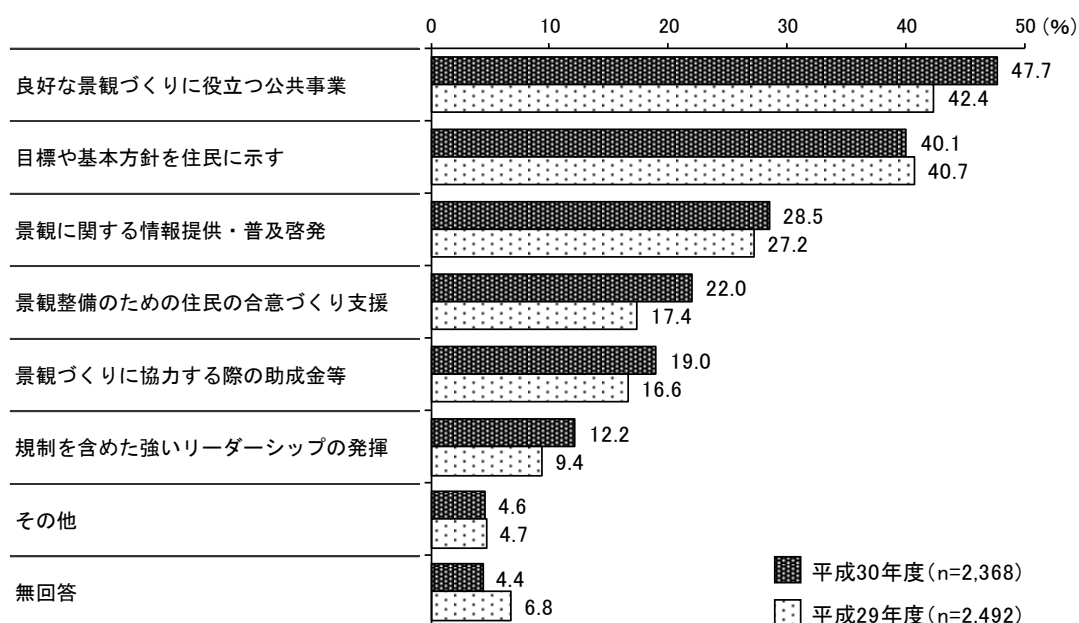


(2) 行政に望むこと

◇「良好な景観づくりに役立つ公共事業」が最も多く、5割弱

問17. あなたは、良い景観（風景）のまちをつくるために行政に何を望みますか。
（○は3つまで）

図表4-2-1 行政に望むこと



良い景観（風景）のまちをつくるため、行政に望むものについては、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」（47.7%）が最も多く、次いで、「目標や基本方針を住民に示す」（40.1%）、「景観に関する情報提供・普及啓発」（28.5%）、「景観整備のための住民の合意づくり支援」（22.0%）、「景観づくりに協力する際の助成金等」（19.0%）の順となっている。また、「その他」として「空き家対策」「街路樹の維持管理」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」で5.3ポイント増加している。

性別でみると、「規制を含めた強いリーダーシップの発揮」は男性（17.6%）が女性（7.7%）より9.9ポイント、「目標や基本方針を住民に示す」は男性（42.1%）が女性（39.0%）より3.1ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」は女性18～29歳（60.8%）で約6割と多くなっている。「目標や基本方針を住民に示す」は男性60～69歳（47.9%）で5割弱、男性70歳以上（46.9%）で4割半ばと多くなっている。「景観整備のための住民の合意づくり支援」は男性70歳以上（27.6%）で3割弱と多くなっている。

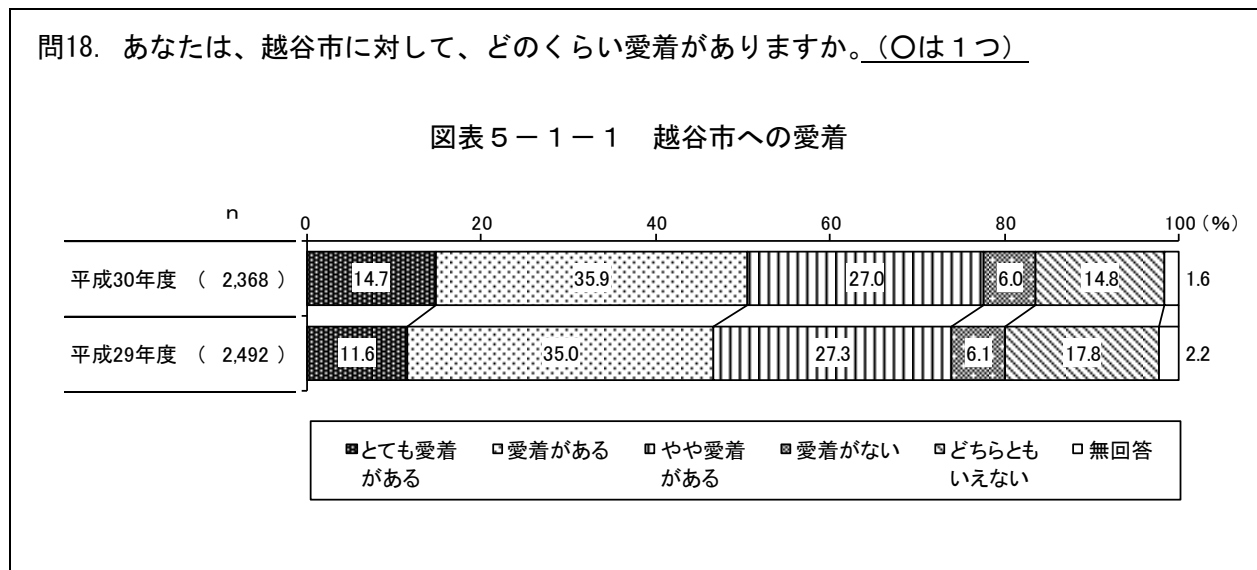
図表4-2-2 性・年齢別 行政に望むこと

	調査数（人）	目標や基本方針を住民に示す	良好な景観づくりに役立つ公共事業	規制を含めた強いリーダーシップの発揮	啓発 景観に関する情報提供・普及	助成金等 景観づくりに協力する際の	景観整備のための住民の合意づくり支援	その他	無回答
全体	2,368	40.1	47.7	12.2	28.5	19.0	22.0	4.6	4.4
女性全体	1,302	39.0	47.9	7.7	29.6	19.5	21.5	4.2	4.8
18～29歳	97	22.7	60.8	3.1	25.8	23.7	21.6	4.1	1.0
30～39歳	159	37.1	52.2	8.2	29.6	25.2	13.8	4.4	0.6
40～49歳	243	39.9	54.3	8.6	30.5	21.4	19.8	3.3	2.1
50～59歳	206	41.7	48.1	6.8	30.6	24.3	21.4	5.3	1.0
60～69歳	247	42.5	44.9	9.3	36.0	15.8	23.9	2.8	7.7
70歳以上	348	39.7	40.2	7.5	25.3	14.4	24.4	4.9	10.1
男性全体	951	42.1	48.1	17.6	27.2	18.8	23.1	4.6	3.3
18～29歳	77	42.9	50.6	16.9	32.5	15.6	15.6	5.2	3.9
30～39歳	112	38.4	52.7	14.3	24.1	24.1	19.6	6.3	3.6
40～49歳	136	38.2	52.9	17.6	29.4	19.9	18.4	5.9	2.2
50～59歳	142	31.7	45.8	16.9	26.8	21.1	22.5	3.5	2.1
60～69歳	194	47.9	50.0	20.1	27.8	19.6	25.3	2.1	2.1
70歳以上	286	46.9	43.4	17.1	25.9	15.4	27.6	5.6	4.5

5. 越谷市への愛着度と魅力発信について

(1) 越谷市への愛着

◇『愛着がある』が8割弱



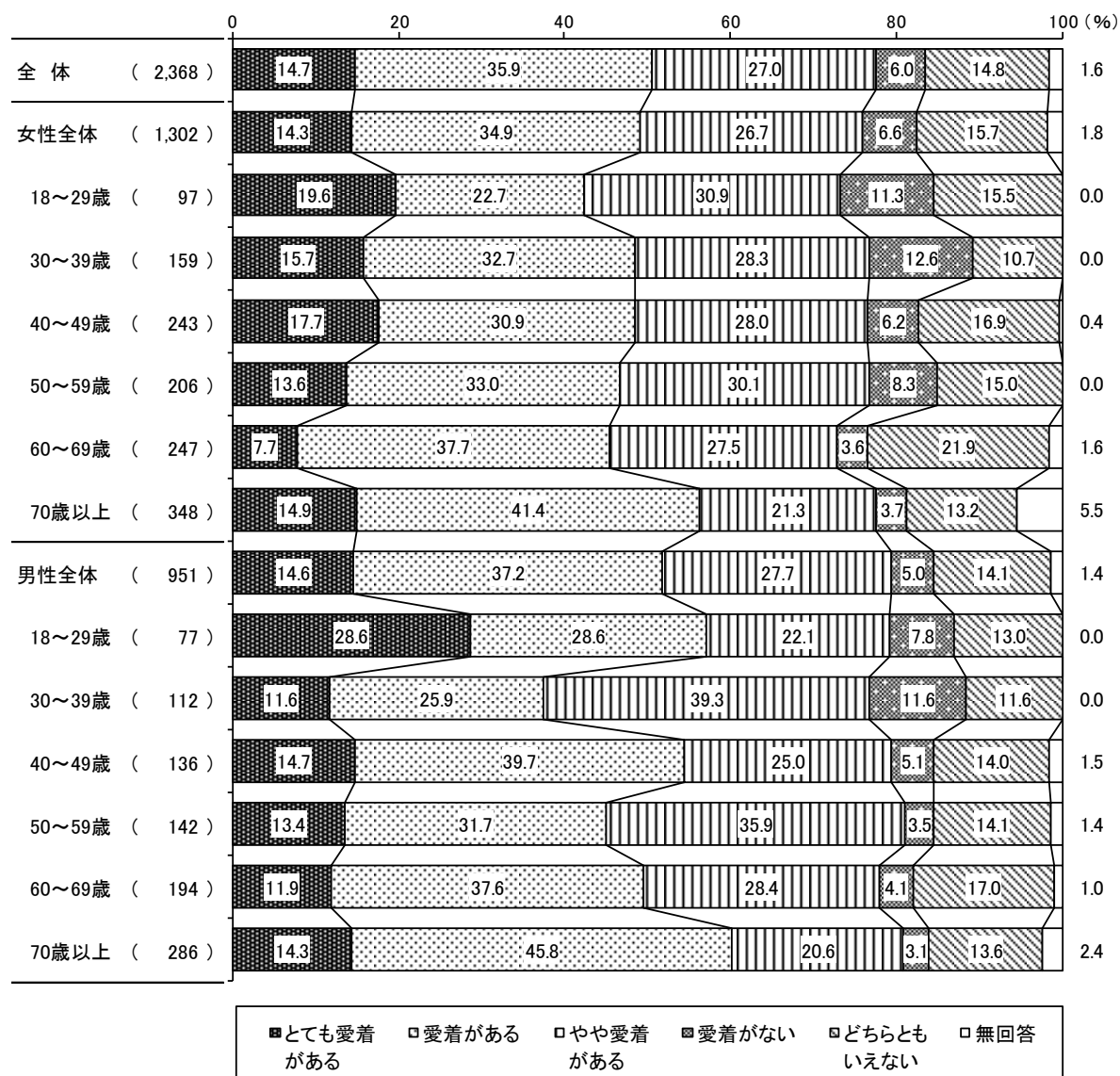
越谷市への愛着については、「愛着がある」(35.9%)が最も多く、次いで、「やや愛着がある」(27.0%)、「どちらともいえない」(14.8%)、「とても愛着がある」(14.7%)、「愛着がない」(6.0%)の順となっている。

「とても愛着がある」、「愛着がある」、「やや愛着がある」を合わせた『愛着がある』(77.6%)は8割弱となっている。

前回の調査と比較すると、『愛着がある』(77.6%)は平成29年度調査(73.9%)と比べ3.7ポイント増加している。

性別でみると、『愛着がある』は男性（79.5%）が女性（75.8%）より3.7ポイント高くなっている。性・年齢別でみると、『愛着がある』は男性50～59歳（81.0%）、男性70歳以上（80.8%）で8割以上と多くなっている。また、「とても愛着がある」は男性18～29歳（28.6%）で3割弱と多くなっている。一方、「愛着がない」は女性30～39歳（12.6%）、男性30～39歳（11.6%）、女性18～29歳（11.3%）で1割を超えている。

図表5-1-2 性・年齢別 越谷市への愛着

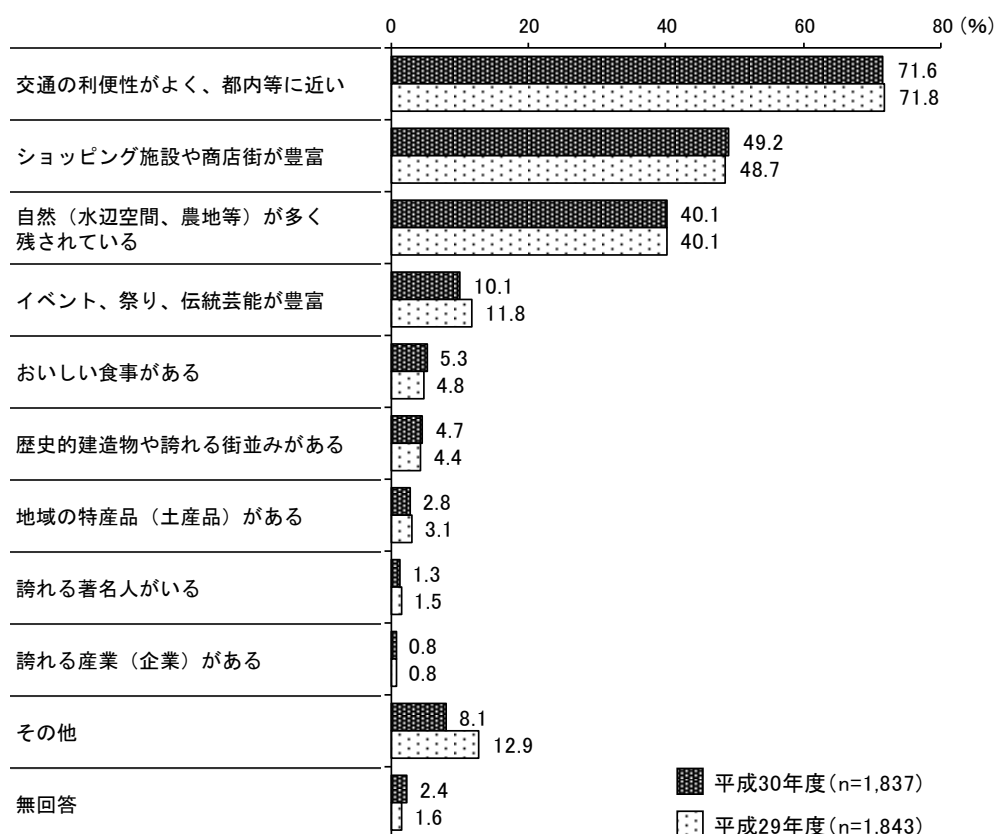


(2) 愛着がある理由

◇「交通の利便性がよく、都内等に近い」が最も多く、約7割

問18-2. 問18で「1」から「3」(愛着がある)と答えた方に伺います。その理由は何ですか。
(複数回答可)

図表5-2-1 愛着がある理由



越谷市に対して『愛着がある』と回答した1,837人に、愛着がある理由を聞いたところ、「交通の利便性がよく、都内等に近い」(71.6%)が最も多く、次いで、「ショッピング施設や商店街が豊富」(49.2%)、「自然(水辺空間、農地等)が多く残されている」(40.1%)、「イベント、祭り、伝統芸能が豊富」(10.1%)、「おいしい食事がある」(5.3%)の順となっている。また、「その他」として「生まれ育ったところだから」「長く住んでいるから」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられない。

性別でみると、「交通の利便性がよく、都内等に近い」は男性（75.1%）が女性（69.3%）より5.8ポイント高くなっている。一方、「イベント、祭り、伝統芸能が豊富」は女性（11.4%）が男性（8.3%）より3.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「交通の利便性がよく、都内等に近い」は男性40～49歳（77.8%）、男性60～69歳（77.5%）で8割弱と多くなっている。「ショッピング施設や商店街が豊富」は男性18～29歳（65.6%）、女性30～39歳（63.9%）、女性18～29歳（60.6%）で6割以上と多くなっている。

図表5-2-2 性・年齢別 愛着がある理由

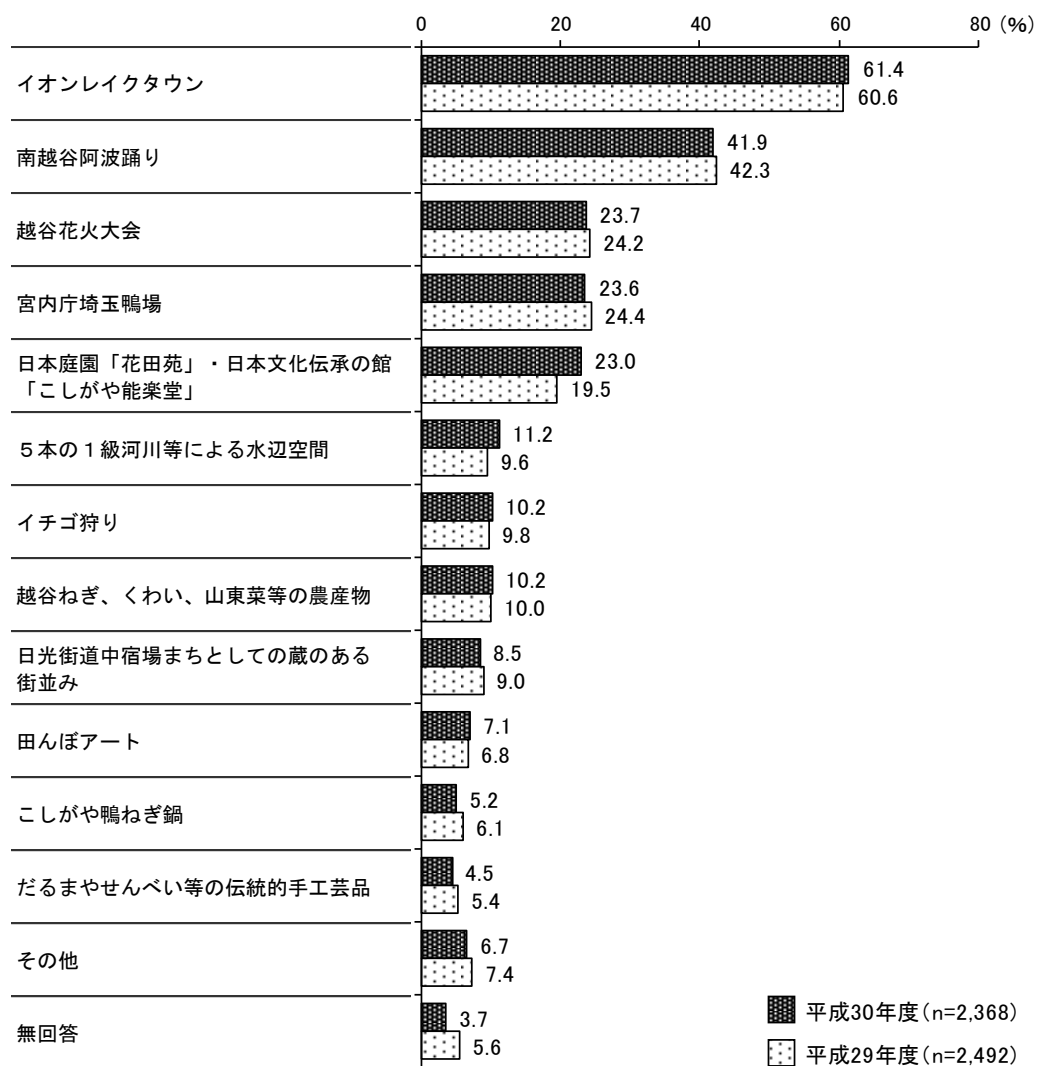
	調査数（人）	交通の利便性がよく、都内等に近い	自然（水辺空間、農地等）が多く残されている	ショッピング施設や商店街が豊富	イベント、祭り、伝統芸能が豊富	歴史的建造物や誇れる街並みがある	おいしい食事がある	地域の特産品（土産品）がある	誇れる産業（企業）がある	誇れる著名人がいる	その他	無回答
全体	1,837	71.6	40.1	49.2	10.1	4.7	5.3	2.8	0.8	1.3	8.1	2.4
女性全体	987	69.3	40.4	48.9	11.4	5.5	5.4	3.3	0.7	1.1	9.0	2.3
18～29歳	71	67.6	29.6	60.6	14.1	2.8	8.5	2.8	-	2.8	12.7	-
30～39歳	122	63.1	38.5	63.9	18.0	6.6	4.1	3.3	0.8	0.8	12.3	2.5
40～49歳	186	71.0	37.1	58.1	9.7	3.8	7.5	3.2	1.1	0.5	13.4	-
50～59歳	158	67.7	44.9	48.1	10.1	8.9	7.6	3.8	-	0.6	10.8	2.5
60～69歳	180	72.2	46.1	42.2	11.1	4.4	4.4	2.2	-	1.1	7.2	2.2
70歳以上	270	70.4	40.0	37.8	10.0	5.6	3.0	4.1	1.5	1.5	3.7	4.4
男性全体	756	75.1	39.9	50.8	8.3	3.4	4.6	2.2	0.7	1.6	6.9	2.1
18～29歳	61	59.0	34.4	65.6	16.4	3.3	4.9	8.2	-	8.2	9.8	1.6
30～39歳	86	73.3	29.1	55.8	5.8	1.2	7.0	2.3	1.2	2.3	16.3	-
40～49歳	108	77.8	41.7	58.3	13.9	5.6	4.6	1.9	3.7	0.9	4.6	0.9
50～59歳	115	76.5	36.5	47.8	6.1	1.7	6.1	0.9	-	-	8.7	0.9
60～69歳	151	77.5	43.0	51.7	6.0	2.0	2.0	1.3	-	0.7	6.0	2.0
70歳以上	231	76.6	44.6	42.9	7.4	5.2	4.8	2.2	-	1.3	3.5	4.3

(3) 越谷市の誇れるもの

◇「イオンレイクタウン」が最も多く、約6割

問19. 越谷市の誇れるもの、知人に自慢したいものは何ですか。(複数回答可)

図表5-3-1 越谷市の誇れるもの



越谷市の誇れるものについては、「イオンレイクタウン」(61.4%)が最も多く、次いで、「南越谷阿波踊り」(41.9%)、「越谷花火大会」(23.7%)、「宮内庁埼玉鴨場」(23.6%)、「日本庭園『花田苑』・日本文化伝承の館『こしがや能楽堂』」(23.0%)の順となっている。また、「その他」として「元荒川の桜」「災害が少ない」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられない。

性別でみると、「日本庭園『花田苑』・日本文化伝承の館『こしがや能楽堂』」は女性（26.8%）が男性（17.4%）より9.4ポイント高くなっている。一方、「5本の1級河川等による水辺空間」は男性（13.2%）が女性（9.3%）より3.9ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「イオンレイクタウン」は女性18～29歳（83.5%）、男性18～29歳（80.5%）で8割以上、女性30～39歳（76.1%）、女性40～49歳（72.0%）で7割以上と多くなっている。「南越谷阿波踊り」は男性40～49歳（51.5%）で約5割と多くなっている。「日本庭園『花田苑』・日本文化伝承の館『こしがや能楽堂』」は女性70歳以上（39.7%）で約4割と多くなっている。

図表5-3-2 性・年齢別 越谷市の誇れるもの

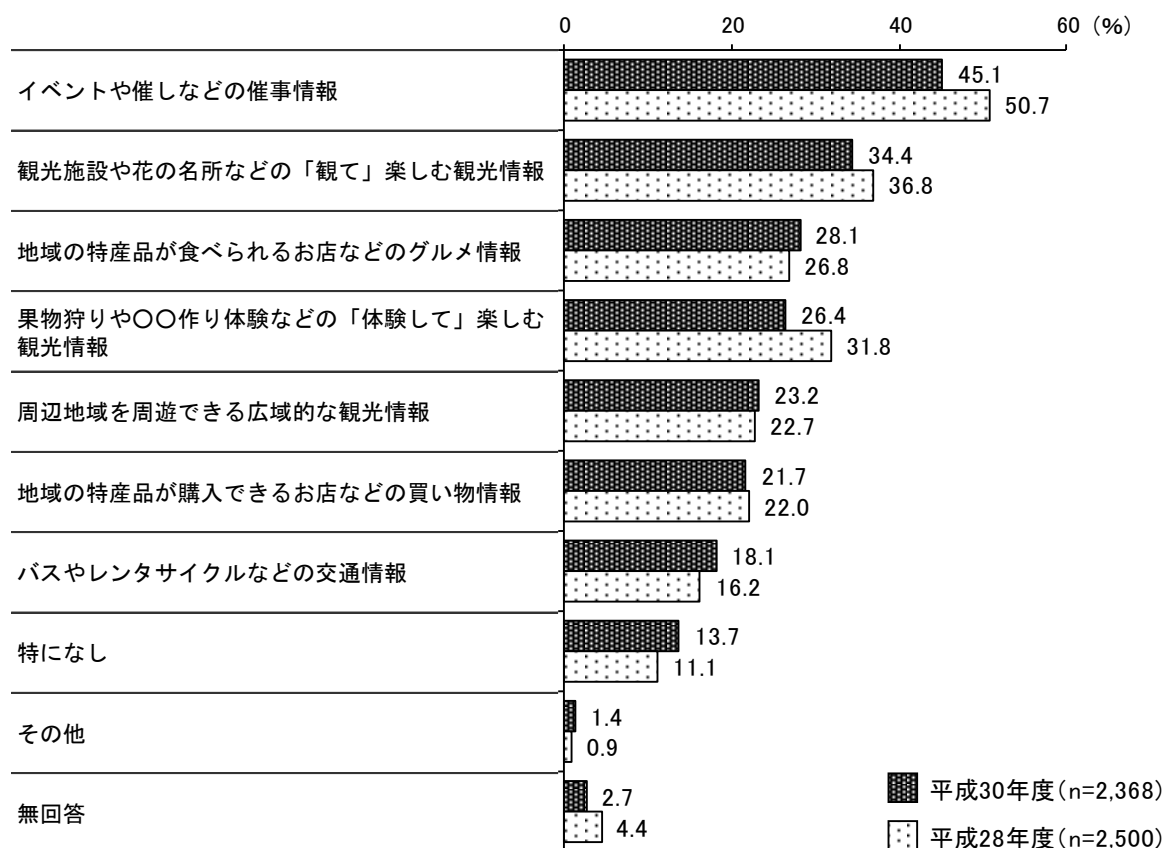
	調査数（人）	イオンレイクタウン	田んぼアート	越谷花火大会	南越谷阿波踊り	5本の1級河川等による水辺空間	イチゴ狩り	越谷ねぎ、くわい、山東菜等の農産物	伝承の館「こしがや能楽堂」	日本庭園「花田苑」・日本文化	蔵のある街並み	日光街道中宿場まちとしての	手工芸品	だるまやせんべい等の伝統的	こしがや鴨ねぎ鍋	宮内庁埼玉鴨場	その他	無回答
全体	2,368	61.4	7.1	23.7	41.9	11.2	10.2	10.2	23.0	8.5	4.5	5.2	23.6	6.7	3.7			
女性全体	1,302	63.1	8.1	24.3	41.9	9.3	11.1	9.8	26.8	8.4	5.0	5.2	23.1	6.5	3.1			
18～29歳	97	83.5	5.2	25.8	45.4	3.1	18.6	8.2	12.4	1.0	8.2	8.2	6.2	11.3	-			
30～39歳	159	76.1	8.2	23.3	47.2	4.4	22.6	14.5	15.1	7.5	3.8	8.2	12.6	7.5	-			
40～49歳	243	72.0	7.8	22.6	43.6	5.3	11.9	9.9	20.2	4.9	4.5	7.8	20.2	8.2	2.9			
50～59歳	206	68.4	6.3	25.2	41.7	7.8	14.1	6.8	30.6	13.1	6.3	4.4	23.8	5.3	1.5			
60～69歳	247	59.1	7.3	25.5	42.5	9.7	4.5	8.9	25.5	5.7	1.2	1.6	23.5	6.1	6.5			
70歳以上	348	45.1	10.9	24.1	37.1	16.7	5.7	10.3	39.7	12.4	6.6	4.3	33.9	4.3	4.3			
男性全体	951	61.7	5.6	22.8	42.0	13.2	8.6	10.3	17.4	8.5	3.6	5.0	23.9	7.6	3.9			
18～29歳	77	80.5	2.6	26.0	35.1	3.9	15.6	9.1	7.8	5.2	3.9	13.0	16.9	9.1	-			
30～39歳	112	69.6	3.6	15.2	37.5	3.6	10.7	13.4	7.1	1.8	4.5	4.5	14.3	12.5	6.3			
40～49歳	136	68.4	5.1	30.1	51.5	9.6	18.4	16.2	19.1	10.3	5.9	3.7	19.9	5.9	3.7			
50～59歳	142	66.9	3.5	23.2	35.9	14.1	4.9	4.2	10.6	6.3	2.1	8.5	23.2	3.5	5.6			
60～69歳	194	59.8	5.7	22.2	39.2	14.9	5.7	10.3	19.1	9.3	1.5	2.1	24.7	6.2	4.1			
70歳以上	286	49.0	8.4	21.7	45.8	19.9	5.2	9.4	25.2	11.9	4.2	4.2	30.8	9.1	3.1			

(4) 観光やレジャーで知りたい情報

◇「イベントや催しなどの催事情報」が最も多く、4割半ば

問20. あなたは、観光やレジャーにおいて、どのような情報を知りたいですか。(複数回答可)

図表5-4-1 観光やレジャーで知りたい情報



観光やレジャーで知りたい情報については、「イベントや催しなどの催事情報」(45.1%)が最も多く、次いで、「観光施設や花の名所などの『観て』楽しむ観光情報」(34.4%)、「地域の特産品が食べられるお店などのグルメ情報」(28.1%)、「果物狩りや〇〇作り体験などの『体験して』楽しむ観光情報」(26.4%)、「周辺地域を周遊できる広域的な観光情報」(23.2%)の順となっている。また、「その他」として「子どもが体験できるイベント」「オシャレな店」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「イベントや催しなどの催事情報」で5.6ポイント、「果物狩りや〇〇作り体験などの『体験して』楽しむ観光情報」で5.4ポイント、それぞれ減少している。

性別でみると、「果物狩りや〇〇作り体験などの『体験して』楽しむ観光情報」は女性(32.0%)が男性(19.9%)より12.1ポイント、「観光施設や花の名所などの『観て』楽しむ観光情報」は女性(37.3%)が男性(29.9%)より7.4ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「イベントや催しなどの催事情報」は女性30～39歳(69.2%)で約7割、女性18～29歳(59.8%)で約6割、男性30～39歳(57.1%)で6割弱と多くなっている。「観光施設や花の名所などの『観て』楽しむ観光情報」は女性60～69歳(41.3%)、女性70歳以上(39.9%)で約4割と多くなっている。「果物狩りや〇〇作り体験などの『体験して』楽しむ観光情報」は女性30～39歳(55.3%)で5割半ば、女性40～49歳(48.1%)で5割弱、女性18～29歳(46.4%)で4割半ばと多くなっている。

図表5-4-2 性・年齢別 観光やレジャーで知りたい情報

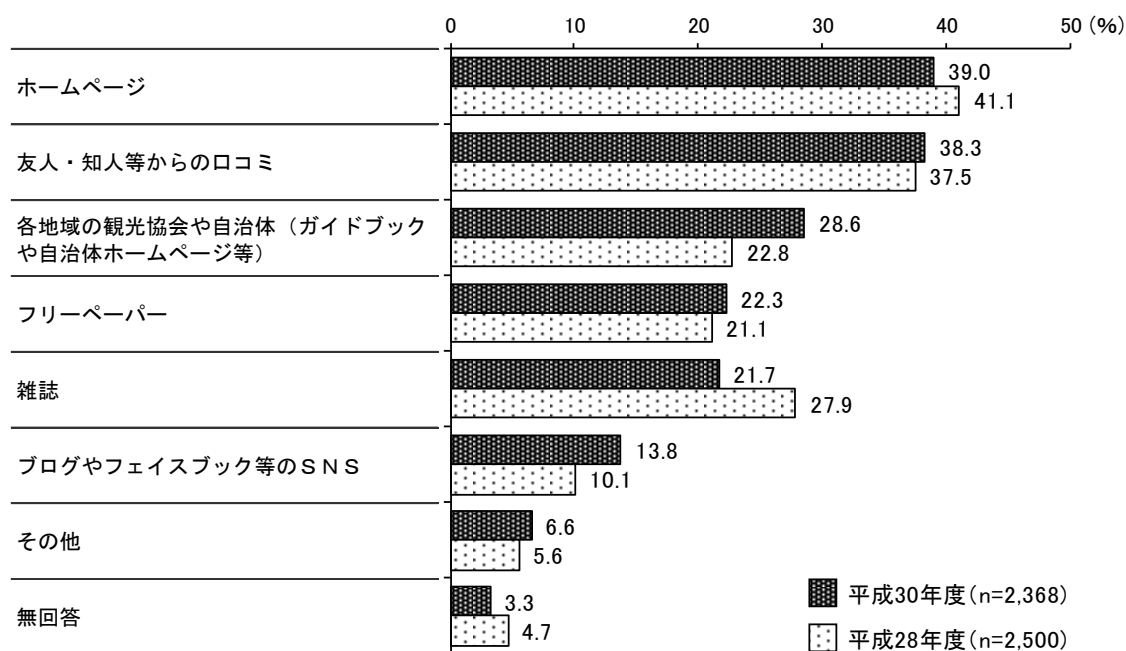
	調査数(人)	イベントや催しなどの催事情報	「観て」楽しむ観光情報	「体験して」楽しむ観光情報	地域のグルメ情報	地域の特産品が食べられるお店	地域の特産品が購入できるお店	バスやレンタサイクルなどの交通情報	観光地を周遊できる広域的な周辺地域	特になし	その他	無回答
全体	2,368	45.1	34.4	26.4	28.1	21.7	18.1	23.2	13.7	1.4	2.7	
女性全体	1,302	46.2	37.3	32.0	29.0	23.1	20.7	23.3	11.1	1.2	2.7	
18～29歳	97	59.8	33.0	46.4	30.9	15.5	13.4	15.5	12.4	2.1	-	
30～39歳	159	69.2	35.2	55.3	35.2	19.5	27.7	19.5	4.4	1.9	-	
40～49歳	243	52.3	30.9	48.1	36.6	24.3	30.0	18.5	7.0	2.1	1.6	
50～59歳	206	55.8	39.3	29.1	36.9	29.6	25.7	29.6	7.8	0.5	0.5	
60～69歳	247	37.7	41.3	20.2	18.6	24.3	15.4	27.1	14.2	1.2	2.0	
70歳以上	348	28.4	39.9	16.4	23.0	21.3	14.1	24.1	16.1	0.3	7.2	
男性全体	951	45.5	29.9	19.9	28.2	20.1	15.0	23.4	16.8	1.5	2.0	
18～29歳	77	53.2	18.2	27.3	31.2	22.1	23.4	18.2	15.6	2.6	-	
30～39歳	112	57.1	29.5	39.3	34.8	17.0	17.0	20.5	9.8	2.7	-	
40～49歳	136	49.3	23.5	34.6	37.5	21.3	16.9	16.2	16.9	0.7	2.2	
50～59歳	142	42.3	28.2	14.1	38.0	22.5	14.1	26.1	17.6	0.7	-	
60～69歳	194	46.9	36.1	18.0	23.2	19.1	13.9	25.3	16.0	1.0	2.1	
70歳以上	286	37.8	33.2	7.7	18.9	19.6	12.6	27.3	20.3	1.7	3.8	

(5) 観光情報を得る方法

◇「ホームページ」が最も多く、約4割

問21. あなたは、普段からどのような方法で観光情報を得ていますか。(複数回答可)

図表5-5-1 観光情報を得る方法



普段から観光情報を得る方法については、「ホームページ」(39.0%)が最も多く、次いで、「友人・知人等からの口コミ」(38.3%)、「各地域の観光協会や自治体(ガイドブックや自治体ホームページ等)」(28.6%)、「フリーペーパー」(22.3%)、「雑誌」(21.7%)の順となっている。また、「その他」として「TV」「新聞」「ポスター」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「各地域の観光協会や自治体(ガイドブックや自治体ホームページ等)」で5.8ポイント増加している。一方、「雑誌」で6.2ポイント減少している。

性別で見ると、「友人・知人等からの口コミ」は女性（43.9%）が男性（30.7%）より13.2ポイント、「フリーペーパー」は女性（25.0%）が男性（19.6%）より5.4ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「ホームページ」は男性（44.8%）が女性（36.3%）より8.5ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「ホームページ」は男性30～39歳（63.4%）、男性40～49歳（63.2%）、女性40～49歳（62.6%）、男性50～59歳（62.0%）で6割強と多くなっている。「友人・知人等からの口コミ」は女性60～69歳（51.0%）、女性70歳以上（49.7%）で約5割と多くなっている。「各地域の観光協会や自治体（ガイドブックや自治体ホームページ等）」は男性70歳以上（50.0%）で5割と多くなっている。「フリーペーパー」は女性30～39歳（35.2%）、女性40～49歳（34.6%）で3割半ばと多くなっている。

図表5-5-2 性・年齢別 観光情報を得る方法

	調査数（人）	ホームページ	雑誌	フリーペーパー	友人・知人等からの口コミ	S N S ブログ や フェイスブック 等の	ホ（各 ムガ ペイ ージド 等）ブ ック や 自治 体	その他	無回答
全 体	2,368	39.0	21.7	22.3	38.3	13.8	28.6	6.6	3.3
女性全体	1,302	36.3	21.9	25.0	43.9	15.2	27.0	6.1	3.4
18～29歳	97	55.7	20.6	19.6	35.1	52.6	10.3	5.2	2.1
30～39歳	159	61.6	22.0	35.2	40.3	32.7	23.3	6.3	-
40～49歳	243	62.6	15.2	34.6	38.7	19.8	22.2	3.7	0.4
50～59歳	206	44.2	24.8	32.5	39.3	13.6	20.9	6.3	1.5
60～69歳	247	18.2	24.7	22.7	51.0	4.9	31.2	7.3	4.5
70歳以上	348	8.9	23.3	12.6	49.7	1.7	37.4	6.6	7.8
男性全体	951	44.8	22.0	19.6	30.7	13.1	30.3	6.7	2.9
18～29歳	77	53.2	18.2	20.8	31.2	35.1	9.1	10.4	-
30～39歳	112	63.4	16.1	27.7	26.8	28.6	11.6	2.7	1.8
40～49歳	136	63.2	19.1	28.7	26.5	19.1	17.6	8.8	3.7
50～59歳	142	62.0	25.4	21.8	21.8	14.1	22.5	7.7	0.7
60～69歳	194	42.3	23.2	18.0	34.0	7.7	35.1	4.6	2.1
70歳以上	286	19.9	24.1	11.5	36.7	1.7	50.0	7.3	5.2

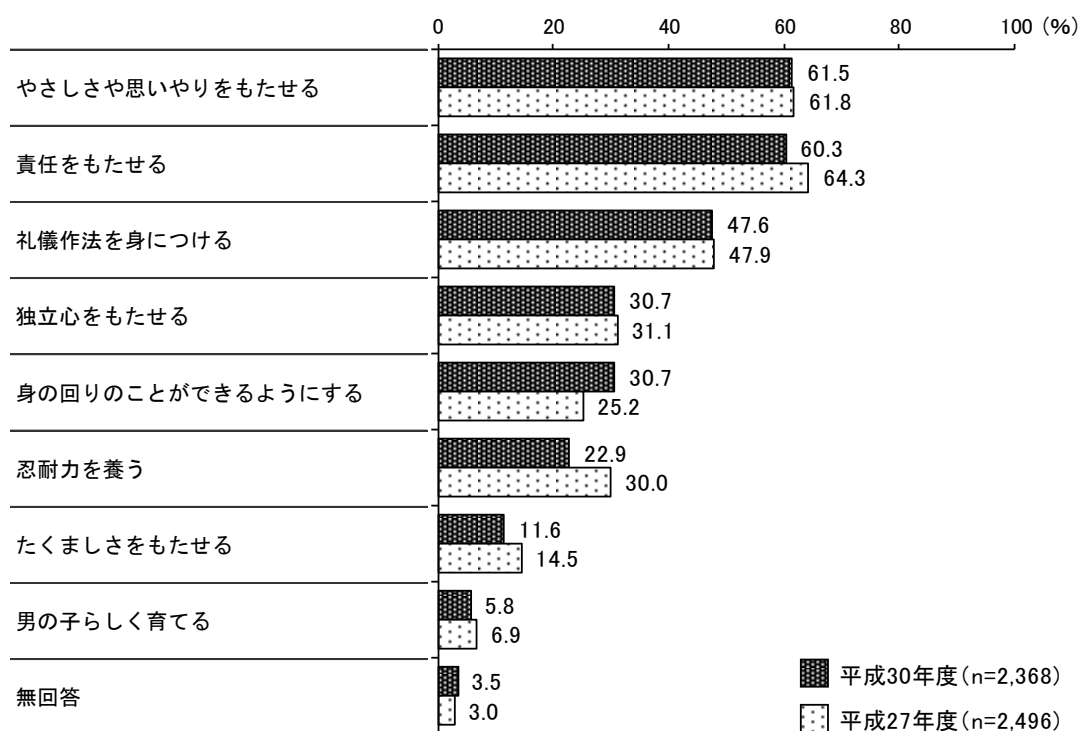
6. 男女共同参画について

(1) 「教育・しつけ」で大切だと思うこと（男の子）

◇「やさしさや思いやりをもたせる」が最も多く、約6割

問22. あなたは、子どもに対する「教育・しつけ」で大切だと思うことは何ですか。
 （男の子と女の子それぞれ〇は3つまで）

図表6-1-1 「教育・しつけ」で大切だと思うこと（男の子）



子ども（男の子）に対する「教育・しつけ」で大切だと思うことについては、「やさしさや思いやりをもたせる」(61.5%)が最も多く、次いで、「責任をもたせる」(60.3%)、「礼儀作法を身につける」(47.6%)、「独立心をもたせる」(30.7%)、「身の回りのことができるようにする」(30.7%)の順となっている。

前回調査と比較すると、「身の回りのことができるようにする」で5.5ポイント増加している。一方、「忍耐力を養う」で7.1ポイント減少している。

性別でみると、「身の回りのことができるようにする」は女性（36.5%）が男性（23.8%）より12.7ポイント高くなっている。一方、「礼儀作法を身につける」は男性（51.5%）が女性（44.8%）より6.7ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「やさしさや思いやりをもたせる」は女性18～29歳（76.3%）、男性18～29歳（72.7%）、女性30～39歳（72.3%）で7割以上と多くなっている。「責任をもたせる」は男性70歳以上（65.4%）、女性70歳以上（65.2%）、男性60～69歳（64.4%）で6割半ばと多くなっている。「礼儀作法を身につける」は男性18～29歳（62.3%）で6割強、男性30～39歳（57.1%）で6割弱、男性60～69歳（56.7%）で5割半ばと多くなっている。「独立心をもたせる」は女性60～69歳（41.3%）で約4割と多くなっている。

図表6-1-2 性・年齢別 「教育・しつけ」で大切だと思うこと（男の子）

（%）

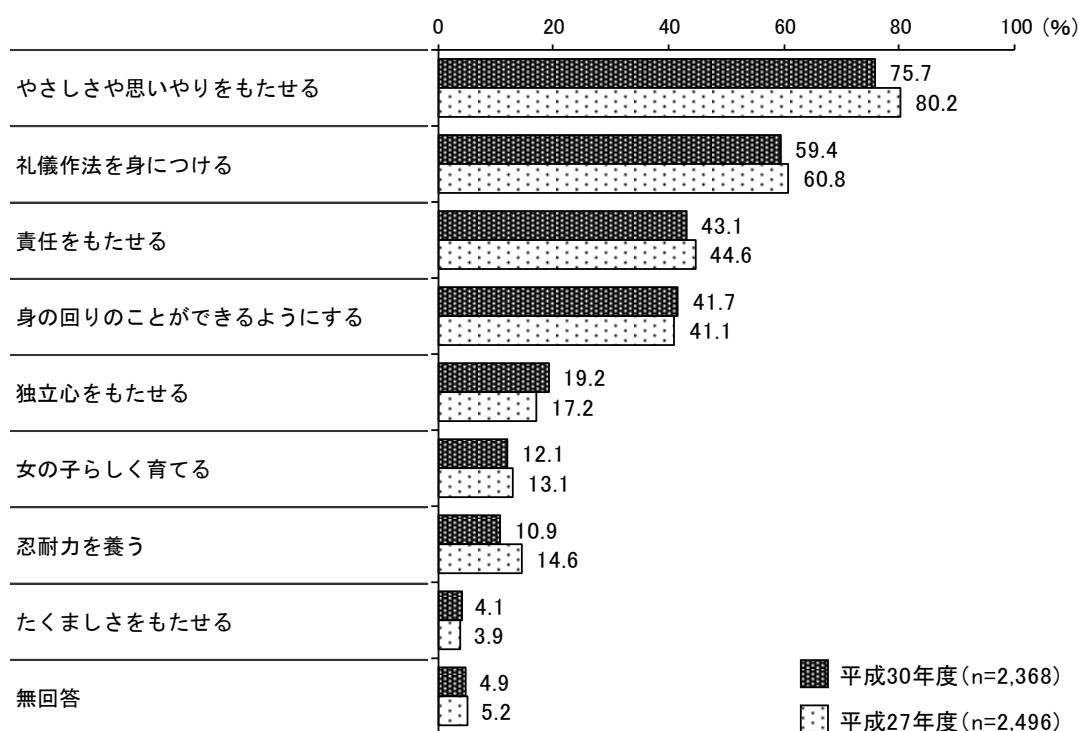
	調査数（人）	独立心をもたせる	責任をもたせる	たくましさをもたせる	やさしさや思いやりをもたせる	礼儀作法を身につける	忍耐力を養う	男の子らしく育てる	身の回りのことができるようにする	無回答
全体	2,368	30.7	60.3	11.6	61.5	47.6	22.9	5.8	30.7	3.5
女性全体	1,302	31.9	60.7	12.4	63.2	44.8	23.3	5.1	36.5	3.3
18～29歳	97	27.8	51.5	24.7	76.3	45.4	11.3	2.1	43.3	2.1
30～39歳	159	21.4	52.2	20.1	72.3	45.9	22.6	6.9	41.5	3.1
40～49歳	243	23.5	58.8	14.4	69.1	51.0	27.6	3.7	42.0	1.2
50～59歳	206	30.6	63.6	12.6	68.4	45.6	20.9	2.9	39.3	1.0
60～69歳	247	41.3	62.8	8.1	62.3	45.7	19.8	4.5	37.7	1.6
70歳以上	348	37.9	65.2	7.2	49.1	38.5	28.2	7.8	25.9	7.5
男性全体	951	29.2	61.1	10.8	59.6	51.5	21.5	6.7	23.8	3.4
18～29歳	77	24.7	46.8	11.7	72.7	62.3	15.6	10.4	32.5	-
30～39歳	112	17.9	56.3	17.9	65.2	57.1	28.6	6.3	25.9	1.8
40～49歳	136	22.8	59.6	11.8	64.7	45.6	23.5	5.9	29.4	5.9
50～59歳	142	26.8	60.6	12.0	60.6	41.5	23.2	5.6	26.1	4.2
60～69歳	194	32.5	64.4	12.4	61.3	56.7	19.1	5.7	14.9	2.1
70歳以上	286	36.7	65.4	5.9	49.7	50.7	19.9	7.7	22.7	4.2

(2) 「教育・しつけ」で大切だと思うこと（女の子）

◇「やさしさや思いやりをもたせる」が最も多く、7割半ば

問22. あなたは、子どもに対する「教育・しつけ」で大切だと思うことは何ですか。
 （男の子と女の子それぞれ〇は3つまで）

図表6-2-1 「教育・しつけ」で大切だと思うこと（女の子）



子ども（女の子）に対する「教育・しつけ」で大切だと思うことについては、「やさしさや思いやりをもたせる」(75.7%)が最も多く、次いで、「礼儀作法を身につける」(59.4%)、「責任をもたせる」(43.1%)、「身の回りのことができるようにする」(41.7%)、「独立心をもたせる」(19.2%)の順となっている。

前回調査と比較すると、「やさしさや思いやりをもたせる」で4.5ポイント減少している。

性別で見ると、「身の回りのことができるようにする」は女性（48.2%）が男性（34.3%）より13.9ポイント高くなっている。一方、「女の子らしく育てる」は男性（15.6%）が女性（9.4%）より6.2ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「やさしさや思いやりをもたせる」は女性50～59歳（81.6%）、女性18～29歳（81.4%）、女性30～39歳（81.1%）、男性18～29歳（80.5%）で8割以上と多くなっている。「礼儀作法を身につける」は男性18～29歳（70.1%）で約7割、男性30～39歳（67.9%）、女性18～29歳（67.0%）で7割弱と多くなっている。「身の回りのことができるようにする」は男性18～29歳（55.8%）、女性18～29歳（54.6%）で5割半ばと多くなっている。

図表6-2-2 性・年齢別 「教育・しつけ」で大切だと思うこと（女の子）

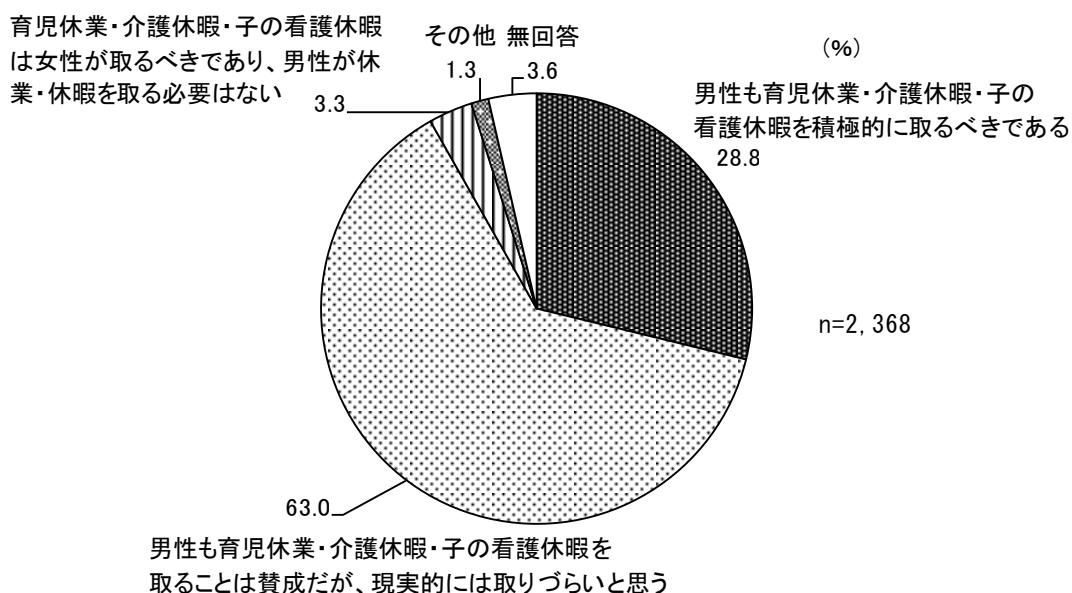
	調査数（人）	独立心をもたせる	責任をもたせる	たくましさをもたせる	やさしさや思いやりをもたせる	礼儀作法を身につける	忍耐力を養う	女の子らしく育てる	身の回りのことができるようにする	無回答
全体	2,368	19.2	43.1	4.1	75.7	59.4	10.9	12.1	41.7	4.9
女性全体	1,302	20.0	45.8	4.8	76.8	58.8	11.2	9.4	48.2	4.1
18～29歳	97	26.8	29.9	7.2	81.4	67.0	9.3	9.3	54.6	2.1
30～39歳	159	13.2	38.4	11.9	81.1	61.0	13.8	7.5	52.8	4.4
40～49歳	243	14.8	44.4	5.8	78.2	63.8	16.5	7.0	53.5	2.9
50～59歳	206	19.9	51.0	3.9	81.6	57.3	9.7	5.8	49.0	2.4
60～69歳	247	26.3	48.2	3.2	75.7	58.7	7.7	11.7	51.8	0.8
70歳以上	348	20.7	49.7	2.0	71.0	52.9	10.3	12.4	37.4	8.3
男性全体	951	18.1	40.2	3.4	73.6	60.9	10.5	15.6	34.3	5.8
18～29歳	77	14.3	29.9	3.9	80.5	70.1	9.1	14.3	55.8	-
30～39歳	112	17.9	38.4	4.5	75.9	67.9	15.2	17.0	36.6	2.7
40～49歳	136	14.7	41.9	3.7	72.8	55.1	13.2	10.3	39.7	8.1
50～59歳	142	17.6	42.3	5.6	73.2	57.0	11.3	9.2	35.2	4.9
60～69歳	194	21.6	49.0	3.6	73.7	62.4	8.2	14.4	25.8	4.1
70歳以上	286	18.5	35.7	1.4	71.0	59.8	8.7	21.7	30.1	9.1

(3) 男性が育児休業・介護休暇・子の看護休暇を活用すること

◇「男性も育児休業・介護休暇・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」が6割強

問23. 育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児休業・介護休暇・子の看護休暇を取得できる制度があります。あなたは、男性がこの制度を活用することについてどう思いますか。(〇は1つ)

図表6-3-1 男性が育児休業・介護休暇・子の看護休暇を活用すること

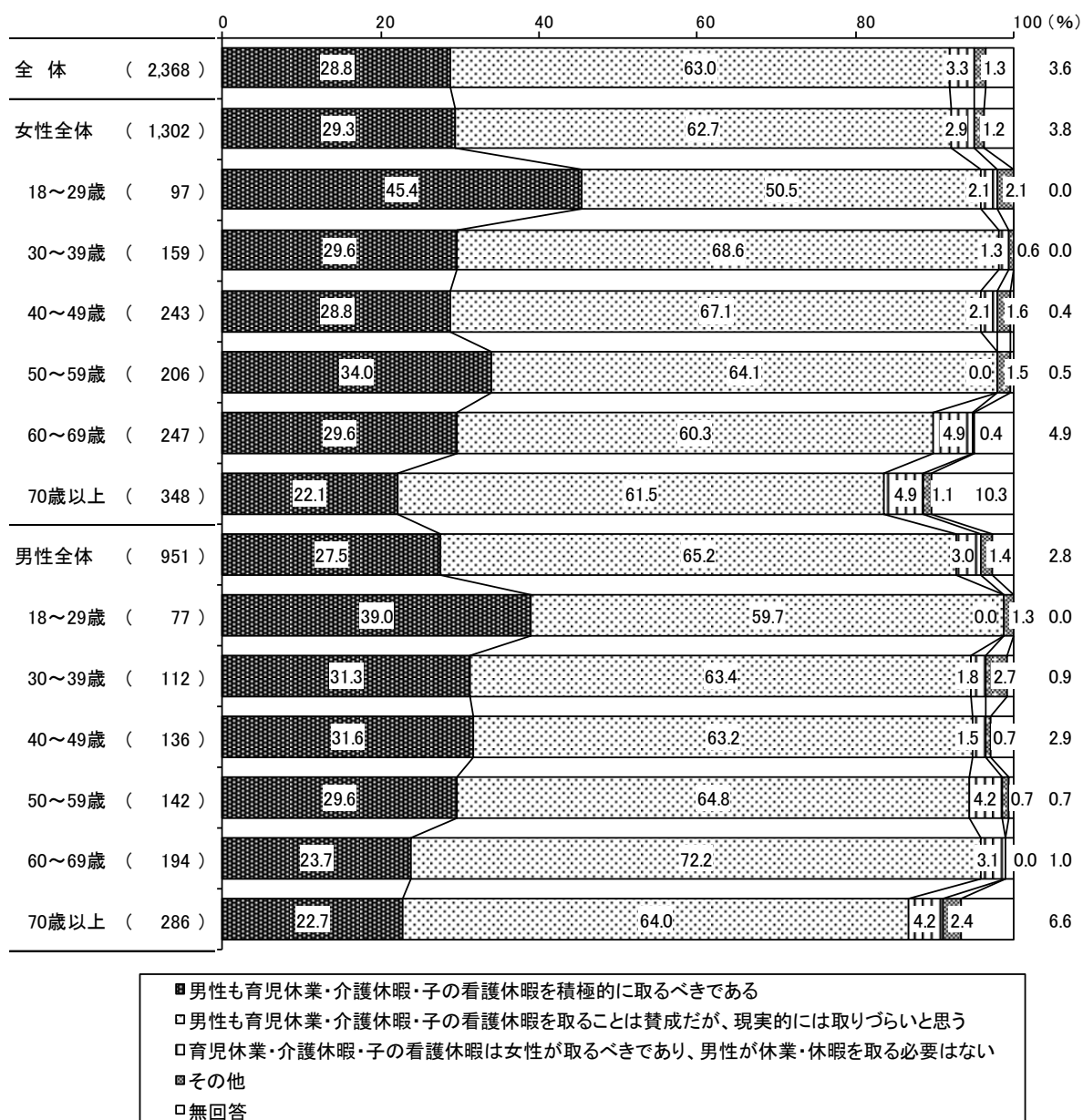


男性が育児休業・介護休暇・子の看護休暇を活用することについては、「男性も育児休業・介護休暇・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」(63.0%)が最も多く、次いで、「男性も育児休業・介護休暇・子の看護休暇を積極的に取るべきである」(28.8%)、「育児休業・介護休暇・子の看護休暇は女性が取るべきであり、男性が休業・休暇を取る必要はない」(3.3%)の順となっている。また、「その他」として「そもそも男性の育児への理解が不十分」「育児に男女の別はない」等が挙げられた。

性別でみると、「男性も育児休業・介護休暇・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらと思う」は男性（65.2%）が女性（62.7%）より2.5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「男性も育児休業・介護休暇・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらと思う」は男性60～69歳（72.2%）で7割強と多くなっている。「男性も育児休業・介護休暇・子の看護休暇を積極的に取るべきである」は女性18～29歳（45.4%）で4割半ば、男性18～29歳（39.0%）で約4割と多くなっている。

図表6-3-2 性・年齢別 男性が育児休業・介護休暇・子の看護休暇を活用すること

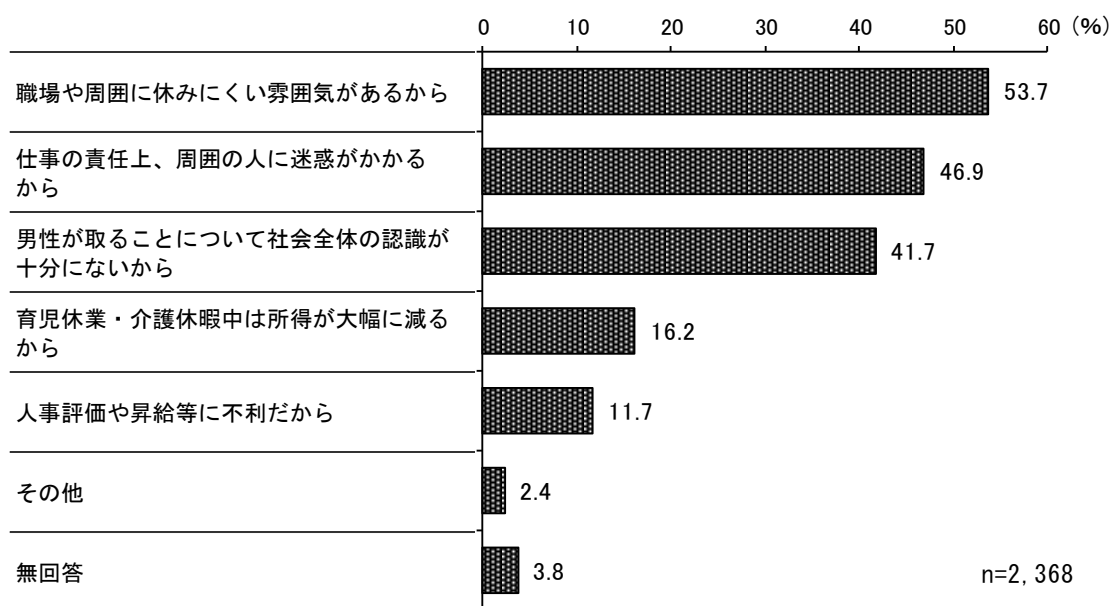


(4) 育児・介護のための長期休暇で男性の取得が少ない理由

◇「職場や周囲に休みにくい雰囲気があるから」が最も多く、5割強

問24. 育児・介護のための長期休暇は、実際には男性の取得はきわめて少ない状況です。その理由は、何だと思えますか。(〇は2つまで)

図表6-4-1 育児・介護のための長期休暇で男性の取得が少ない理由



育児・介護のための長期休暇で男性の取得が少ない理由については、「職場や周囲に休みにくい雰囲気があるから」(53.7%)が最も多く、次いで、「仕事の責任上、周囲の人に迷惑がかかるから」(46.9%)、「男性が取ることについて社会全体の認識が十分でないから」(41.7%)、「育児休業・介護休業中は所得が大幅に減るから」(16.2%)、「人事評価や昇給等に不利だから」(11.7%)の順となっている。また、「その他」として「人手不足」「社会の理解が足りない」等が挙げられた。

性別でみると、「職場や周囲に休みにくい雰囲気があるから」は女性（55.5%）が男性（52.7%）より2.8ポイント、「男性が取ることに社会全体の認識が十分でないから」は女性（42.9%）が男性（40.1%）より2.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「仕事の責任上、周囲の人に迷惑がかかるから」は男性（48.4%）が女性（45.7%）より2.7ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「職場や周囲に休みにくい雰囲気があるから」は女性18～29歳（74.2%）で7割半ば、男性18～29歳（67.5%）で7割弱と多くなっている。「仕事の責任上、周囲の人に迷惑がかかるから」は女性40～49歳（54.7%）で5割半ばと多くなっている。「男性が取ることに社会全体の認識が十分でないから」は女性60～69歳（51.4%）、男性18～29歳（49.4%）で約5割、女性50～59歳（48.1%）、女性18～29歳（47.4%）で5割弱と多くなっている。「育児休業・介護休暇中は所得が大幅に減るから」は女性30～39歳（28.3%）で3割弱と多くなっている。

図表6-4-2 性・年齢別 育児・介護のための長期休暇で男性の取得が少ない理由

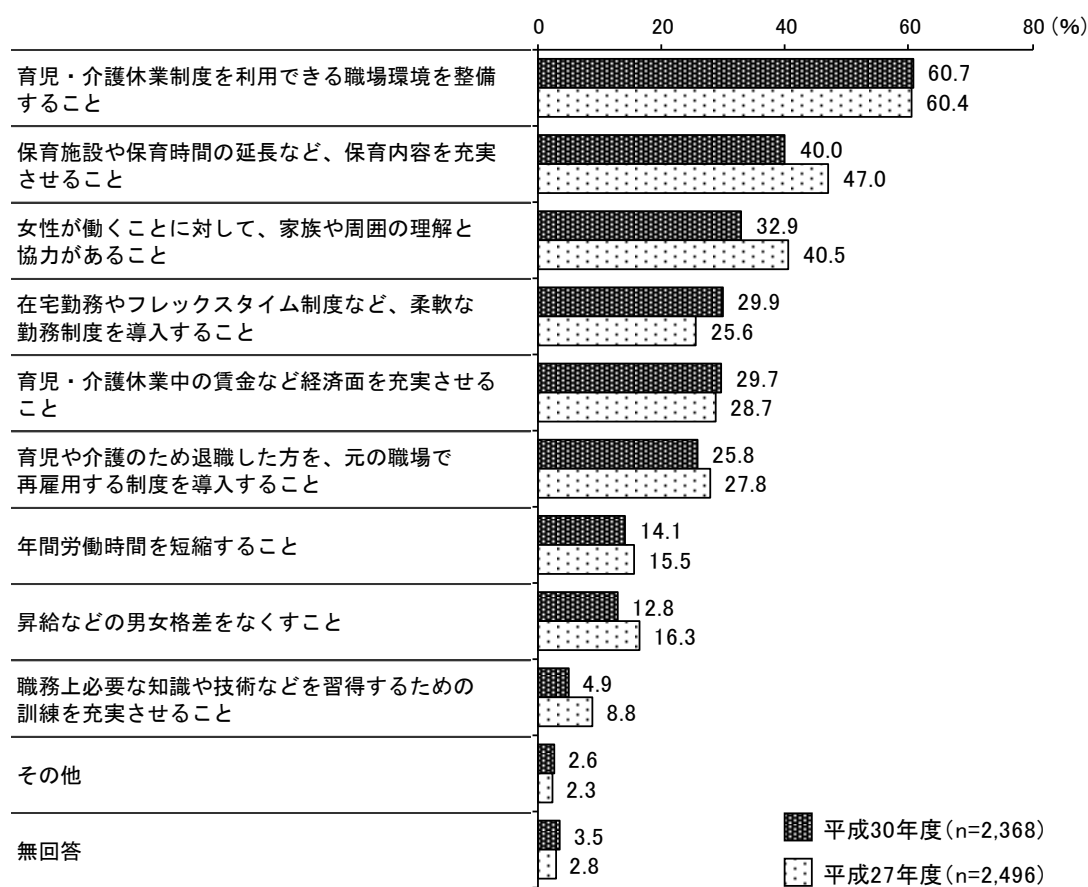
	調査数 (人)	職場や周囲に休みにくい 雰囲気があるから	仕事の責任上、周囲の人に 迷惑がかかるから	男性が取ることに十分でないから 社会全体の認識が十分でないから	人事評価や昇給等に不利 だから	育児休業・介護休業中は 所得が大幅に減るから	その他	無回答
全体	2,368	53.7	46.9	41.7	11.7	16.2	2.4	3.8
女性全体	1,302	55.5	45.7	42.9	12.1	16.2	2.4	3.8
18～29歳	97	74.2	40.2	47.4	13.4	9.3	3.1	-
30～39歳	159	64.8	35.2	42.1	15.1	28.3	3.1	-
40～49歳	243	61.3	54.7	37.4	15.6	12.8	3.3	0.4
50～59歳	206	61.7	42.2	48.1	10.2	19.4	1.9	0.5
60～69歳	247	50.2	45.3	51.4	9.7	15.8	2.4	3.2
70歳以上	348	42.0	48.3	36.8	10.6	13.5	1.4	11.2
男性全体	951	52.7	48.4	40.1	12.0	16.3	2.2	2.9
18～29歳	77	67.5	37.7	49.4	11.7	18.2	3.9	-
30～39歳	112	50.9	51.8	35.7	17.9	23.2	3.6	1.8
40～49歳	136	56.6	53.7	31.6	15.4	22.8	0.7	2.9
50～59歳	142	56.3	52.1	35.2	8.5	16.9	2.8	1.4
60～69歳	194	53.1	49.5	39.2	12.9	13.9	0.5	1.0
70歳以上	286	45.5	44.8	46.5	9.4	11.5	2.4	6.3

(5) 男女がともに仕事と家庭を両立するために必要な条件

◇「育児・介護休業制度を利用できる職場環境を整備すること」が最も多く、約6割

問25. 一般的に、男女がともに仕事と家庭を両立していくためには、どのような条件が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

図表6-5-1 男女がともに仕事と家庭を両立するために必要な条件



男女がともに仕事と家庭を両立するために必要な条件については、「育児・介護休業制度を利用できる職場環境を整備すること」(60.7%)が最も多く、次いで、「保育施設や保育時間の延長など、保育内容を充実させること」(40.0%)、「女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること」(32.9%)、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」(29.9%)、「育児・介護休業中の賃金など経済面を充実させること」(29.7%)の順となっている。また、「その他」として「休業、休暇中の人員の補充」「所得を増やす」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」(29.9%)は平成27年度調査(25.6%)と比べ4.3ポイント増加している。

性別でみると、「女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること」は女性（35.7%）が男性（29.4%）より6.3ポイント高くなっている。一方、「年間労働時間を短縮すること」は男性（17.0%）が女性（12.2%）より4.8ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「育児・介護休業制度を利用できる職場環境を整備すること」は女性18～29歳（69.1%）で約7割と多くなっている。「保育施設や保育時間の延長など、保育内容を充実させること」は男性30～39歳（53.6%）で5割強と多くなっている。「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」は女性40～49歳（44.0%）で4割半ば、女性18～29歳（40.2%）、男性30～39歳（40.2%）、女性30～39歳（39.6%）で約4割と多くなっている。「育児や介護のため退職した方を、元の職場で再雇用する制度を導入すること」は男性70歳以上（36.0%）で3割半ばと多くなっている。

図表6-5-2 性・年齢別 男女がともに仕事と家庭を両立するために必要な条件

(%)

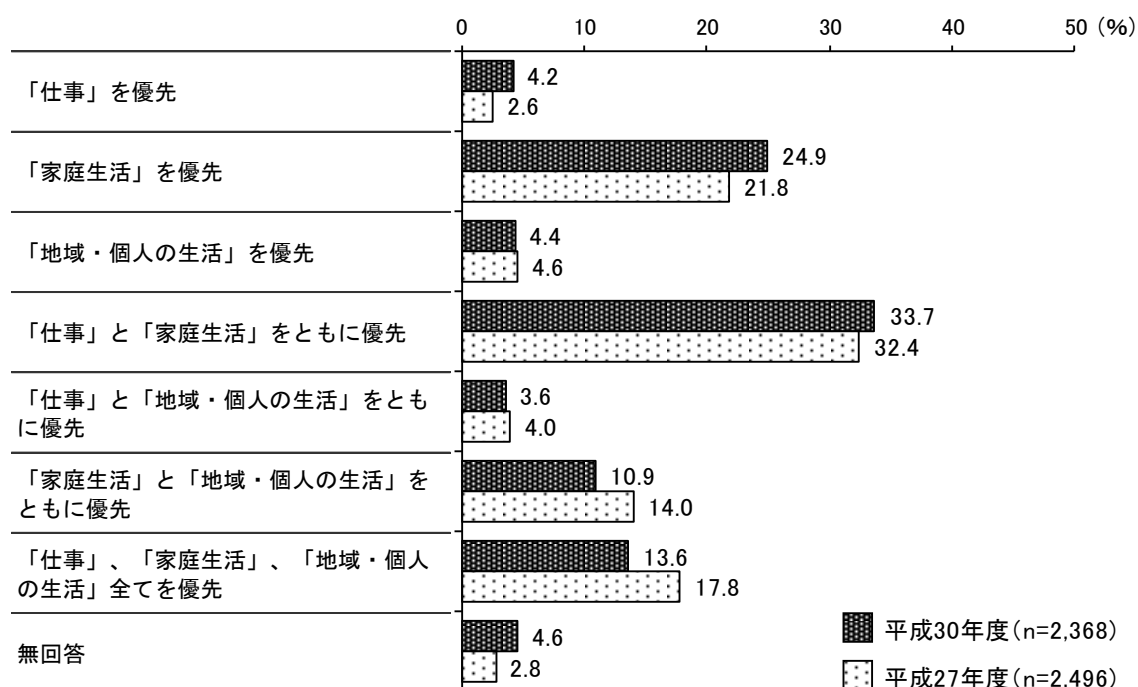
	調査数（人）	育児・介護休業制度を利用できる職場環境を整備すること	女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること	保育施設や保育時間の延長など、保育内容を充実させること	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	育児や介護のため退職した方を、元の職場で再雇用する制度を導入すること	昇給などの男女格差をなくすこと	年間労働時間を短縮すること	育児・介護休業中の賃金など経済面を充実させること	職務上必要な知識や技術などを習得するための訓練を充実させること	その他	無回答
全体	2,368	60.7	32.9	40.0	29.9	25.8	12.8	14.1	29.7	4.9	2.6	3.5
女性全体	1,302	61.3	35.7	39.2	31.4	25.7	13.5	12.2	29.5	4.7	2.5	3.4
18～29歳	97	69.1	25.8	39.2	40.2	9.3	21.6	20.6	33.0	1.0	3.1	-
30～39歳	159	61.0	36.5	40.3	39.6	19.5	15.1	18.2	36.5	3.8	3.1	-
40～49歳	243	56.4	35.8	32.5	44.0	19.3	15.2	17.7	27.6	2.5	2.9	-
50～59歳	206	62.6	37.4	45.6	35.9	21.4	12.6	14.6	33.0	5.3	1.9	-
60～69歳	247	65.2	34.0	45.3	25.1	33.6	11.7	6.5	26.7	3.6	2.8	3.6
70歳以上	348	58.9	38.5	35.6	18.1	33.9	11.2	5.7	26.7	8.0	1.7	10.1
男性全体	951	60.3	29.4	41.6	29.3	24.7	11.8	17.0	30.4	4.7	2.5	3.4
18～29歳	77	62.3	27.3	37.7	37.7	20.8	15.6	32.5	32.5	5.2	1.3	-
30～39歳	112	53.6	24.1	53.6	40.2	15.2	8.0	25.9	32.1	0.9	5.4	1.8
40～49歳	136	58.8	26.5	45.6	32.4	11.8	15.4	23.5	30.1	4.4	2.9	3.7
50～59歳	142	59.2	30.3	38.0	27.5	24.6	7.7	18.3	33.1	3.5	2.1	1.4
60～69歳	194	65.5	28.4	38.7	35.1	24.2	13.4	11.9	33.5	4.1	1.0	1.5
70歳以上	286	59.8	33.9	39.9	18.5	36.0	11.5	9.1	25.5	7.0	2.8	7.0

(6) 日常生活のなかでの優先度（希望）

◇希望は「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も多く、3割強

問26. 日常生活のなかでの、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について伺います。あなたの希望と現実（現状）に最も近いものを選んでください。
 (○はそれぞれ1つずつ)

図表6-6-1 日常生活のなかでの優先度（希望）



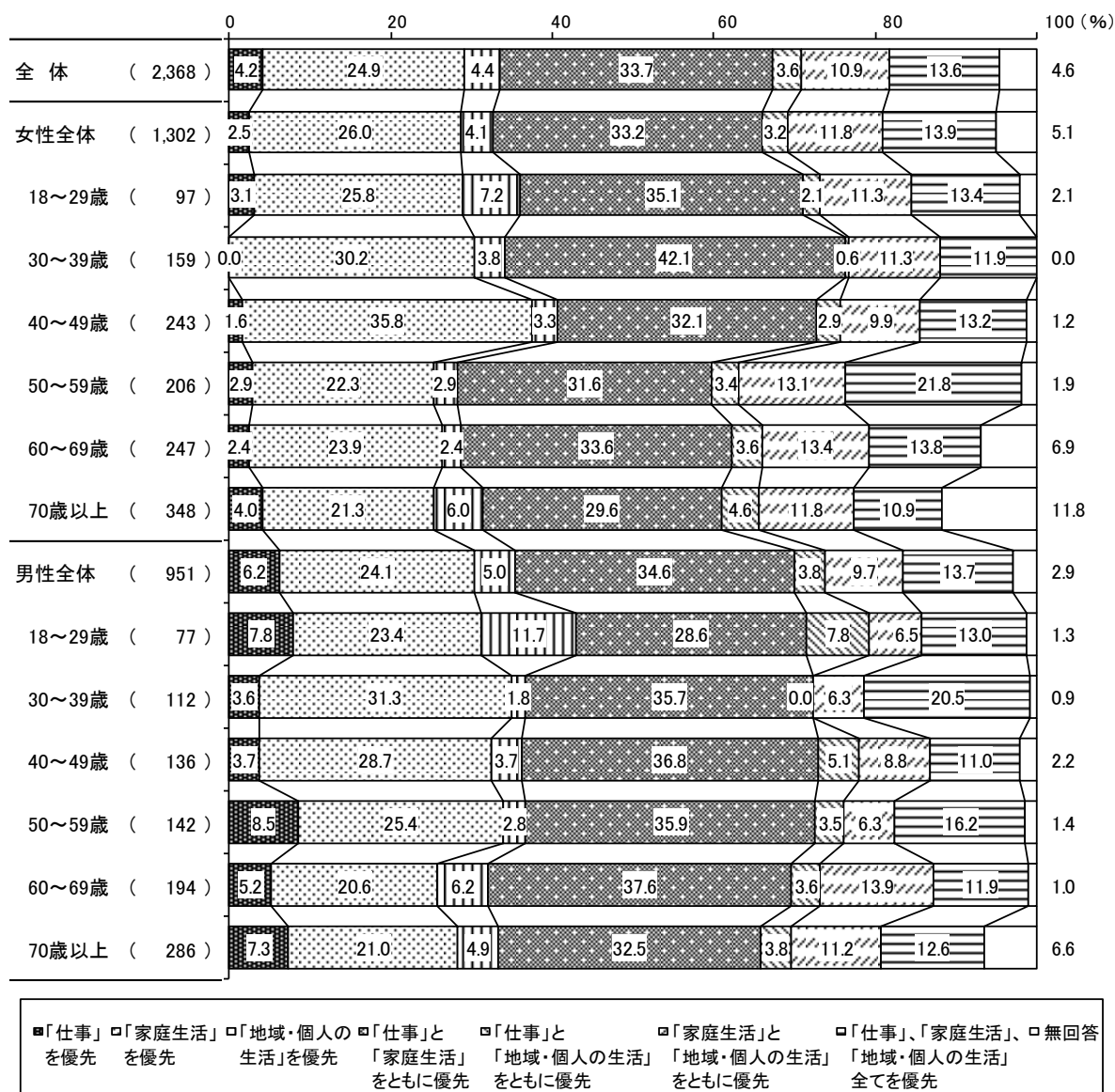
日常生活のなかでの優先度について、希望では「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（33.7%）が最も多く、次いで、「『家庭生活』を優先」（24.9%）、「『仕事』、『家庭生活』、『地域・個人の生活』全てを優先」（13.6%）、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」（10.9%）、「『地域・個人の生活』を優先」（4.4%）の順となっている。

前回の調査と比較すると、「『家庭生活』を優先」（24.9%）は平成27年度調査（21.8%）と比べ3.1ポイント増加している。一方、「『仕事』、『家庭生活』、『地域・個人の生活』全てを優先」（13.6%）は平成27年度調査（17.8%）と比べ4.2ポイント減少している。

性別でみると、「『仕事』を優先」は男性（6.2%）が女性（2.5%）より3.7ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は女性30～39歳（42.1%）で4割強と多くなっている。「『家庭生活』を優先」は女性40～49歳（35.8%）で3割半ばと多くなっている。「『仕事』、『家庭生活』、『地域・個人の生活』全てを優先」は女性50～59歳（21.8%）、男性30～39歳（20.5%）で約2割と多くなっている。「『地域・個人の生活』を優先」は男性18～29歳（11.7%）で1割を超えている。

図表6-6-2 性・年齢別 日常生活のなかでの優先度（希望）

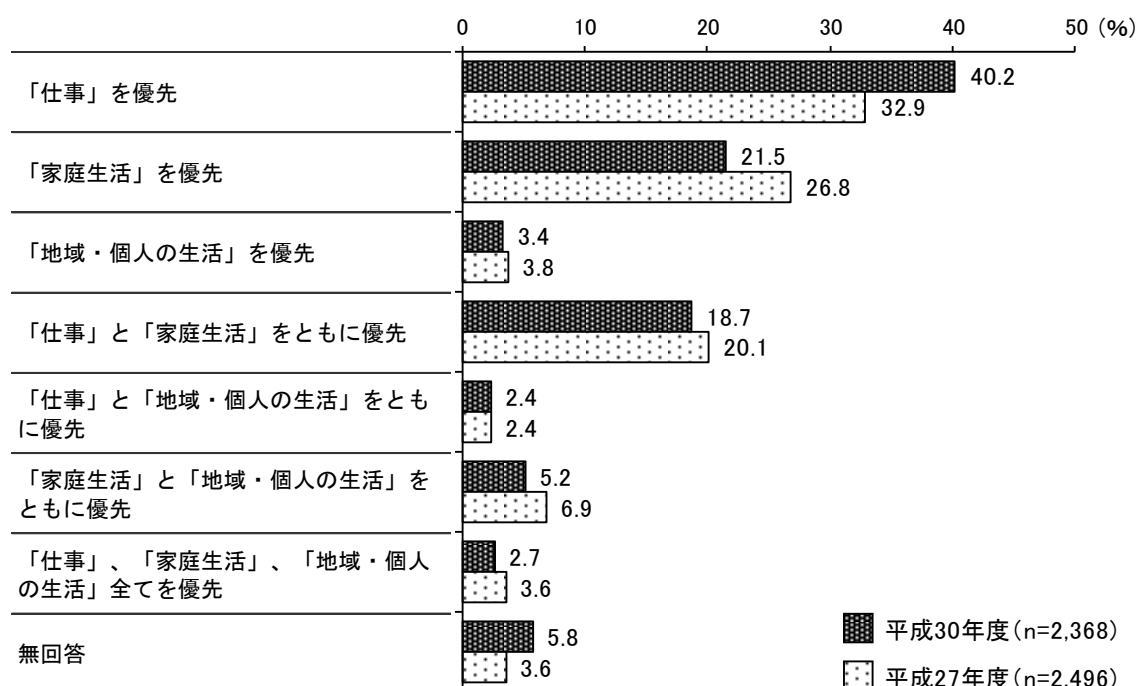


(7) 日常生活のなかでの優先度（現実）

◇現実には「『仕事』を優先」が最も多く、約4割

問26. 日常生活のなかでの、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について伺います。あなたの希望と現実（現状）に最も近いものを選んでください。
 (○はそれぞれ1つずつ)

図表6-7-1 日常生活のなかでの優先度（現実）



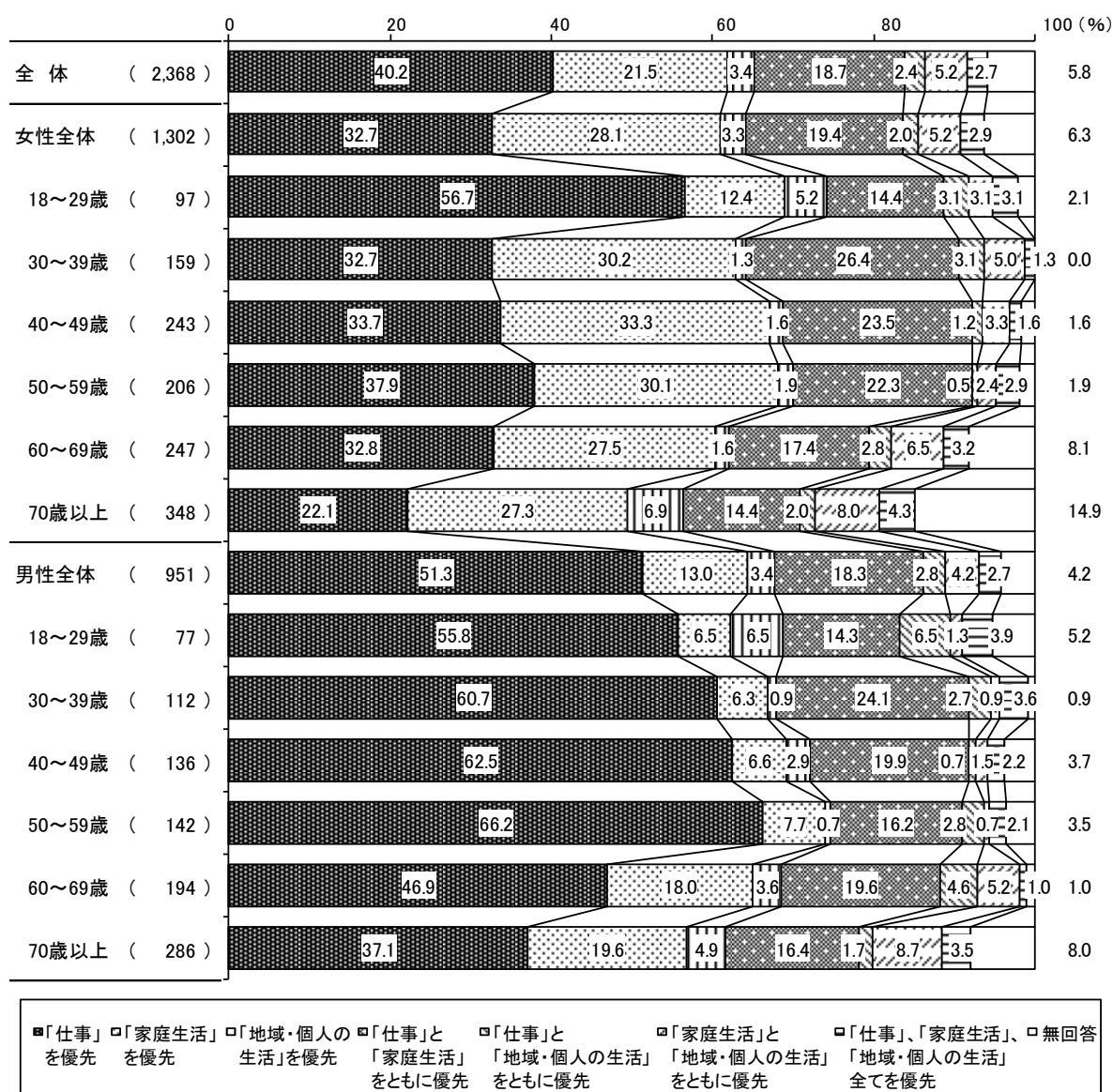
日常生活のなかでの優先度について、現実では「『仕事』を優先」(40.2%)が最も多く、次いで、「『家庭生活』を優先」(21.5%)、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(18.7%)、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」(5.2%)、「『地域・個人の生活』を優先」(3.4%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、「『仕事』を優先」(40.2%)は平成27年度調査(32.9%)と比べ7.3ポイント増加している。一方、「『家庭生活』を優先」(21.5%)は平成27年度調査(26.8%)と比べ5.3ポイント減少している。

性別でみると、「『仕事』を優先」は男性（51.3%）が女性（32.7%）より18.6ポイント高くなっている。一方、「『家庭生活』を優先」は女性（28.1%）が男性（13.0%）より15.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「『仕事』を優先」は男性50～59歳（66.2%）、男性40～49歳（62.5%）、男性30～39歳（60.7%）で6割以上と多くなっている。「『家庭生活』を優先」は女性40～49歳（33.3%）、女性30～39歳（30.2%）、女性50～59歳（30.1%）で3割以上と多くなっている。「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は女性30～39歳（26.4%）、男性30～39歳（24.1%）で2割半ばと多くなっている。

図表6-7-2 性・年齢別 日常生活のなかでの優先度（現実）



7. 地域医療体制について

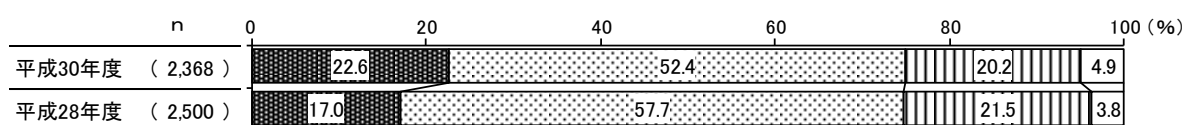
(1) 地域医療体制の認知度

◇認知度は「越谷市夜間急患診療所」「休日当番医制度」が7割を超える

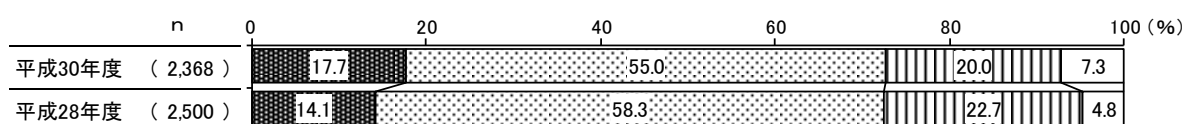
問27. あなたは、「越谷市夜間急患診療所・休日当番医制度・埼玉県救急電話相談（#7119）」を知っていますか。

図表7-1-1 地域医療体制の認知度

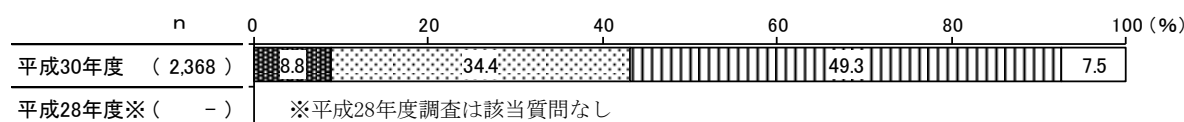
ア 越谷市夜間急患診療所



イ 休日当番医制度



ウ 埼玉県救急電話相談（#7119）



■ 利用したことがある □ 利用したことはないが知っている □ 知らない □ 無回答

地域医療体制の認知度については、「利用したことがある」と「利用したことはないが知っている」を合わせた『知っている』では、「ア 越谷市夜間急患診療所」(75.0%)が最も多く、次いで、「イ 休日当番医制度」(72.7%)、「ウ 埼玉県救急電話相談（#7119）」(43.2%)となっている。

また、「利用したことがある」では、「ア 越谷市夜間急患診療所」(22.6%)が2割強、「イ 休日当番医制度」(17.7%)が2割弱となっている。

前回の調査と比較すると、「利用したことがある」は平成28年度調査と比べ、「ア 越谷市夜間急患診療所」で5.6ポイント、「イ 休日当番医制度」で3.6ポイント、それぞれ増加している。

「ア 越谷市夜間急患診療所」について性別でみると、『知っている』は女性(79.0%)が男性(70.1%)より8.9ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『知っている』は女性50～59歳(87.4%)で9割弱、女性60～69歳(83.8%)、女性40～49歳(83.1%)で8割強と多くなっている。

「イ 休日当番医制度」について性別でみると、『知っている』は女性(76.7%)が男性(68.5%)より8.2ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『知っている』は女性40～49歳(85.6%)、女性50～59歳(85.4%)、女性60～69歳(85.0%)、男性60～69歳(84.0%)で8割半ばと多くなっている。

「ウ 埼玉県救急電話相談(#7119)」について性別でみると、『知っている』は女性(48.9%)が男性(36.5%)より12.4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『知っている』は女性30～39歳(62.9%)で6割強、女性40～49歳(59.3%)で約6割と多くなっている。

図表7-1-2 性・年齢別 地域医療体制の認知度

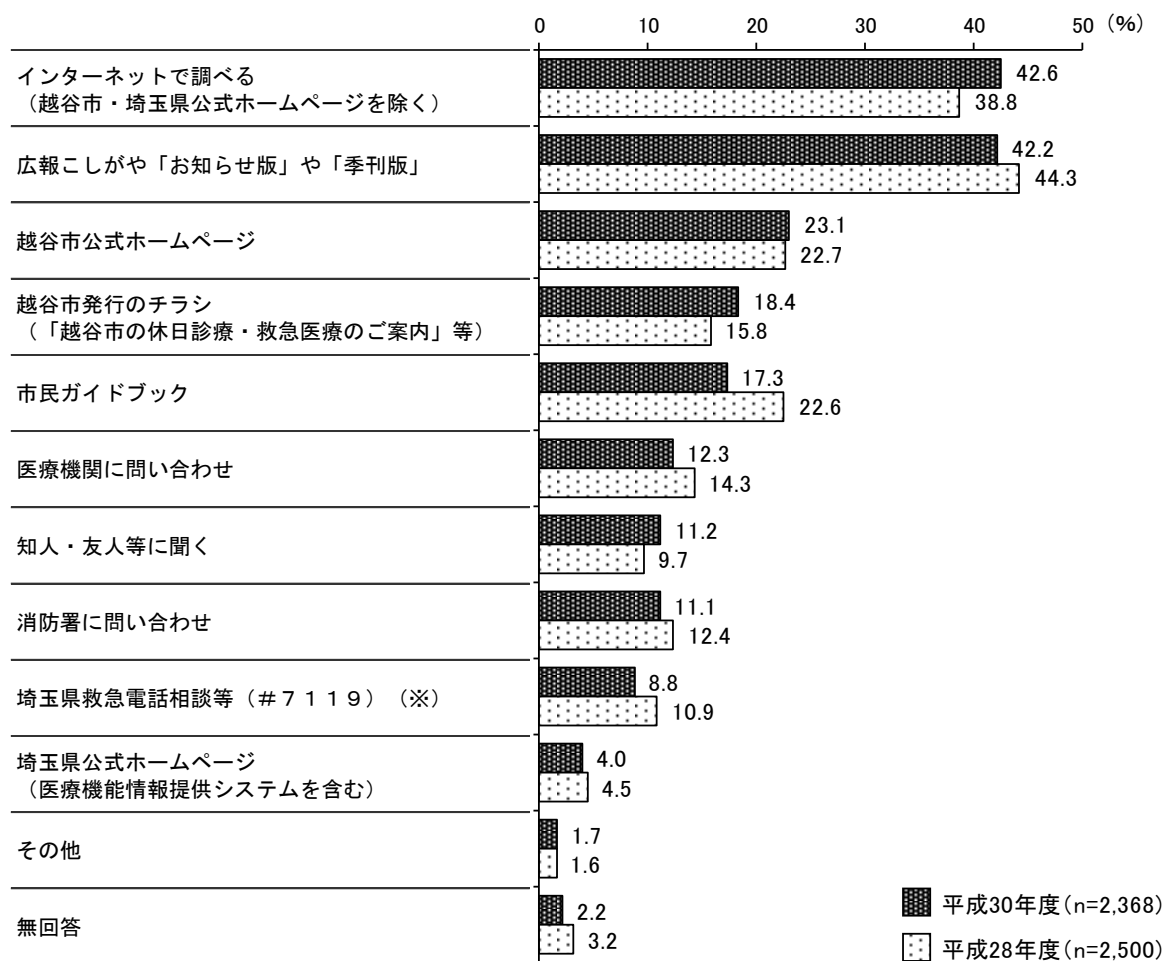
	調査数(人)	ア 越谷市夜間急患診療所				イ 休日当番医制度				ウ 埼玉県救急電話相談(#7119)			
		利用したことがある	知っていることはないが	知らない	無回答	利用したことがある	知っていることはないが	知らない	無回答	利用したことがある	知っていることはないが	知らない	無回答
全体	2,368	22.6	52.4	20.2	4.9	17.7	55.0	20.0	7.3	8.8	34.4	49.3	7.5
女性全体	1,302	23.7	55.3	16.7	4.2	20.4	56.4	17.1	6.1	10.6	38.3	44.8	6.3
18～29歳	97	12.4	39.2	48.5	-	11.3	27.8	60.8	-	6.2	25.8	68.0	-
30～39歳	159	37.7	42.8	18.9	0.6	25.8	46.5	27.0	0.6	25.8	37.1	36.5	0.6
40～49歳	243	41.2	42.0	16.9	-	32.5	53.1	14.0	0.4	17.7	41.6	40.3	0.4
50～59歳	206	26.7	60.7	12.6	-	28.6	56.8	14.1	0.5	6.8	40.3	52.4	0.5
60～69歳	247	15.4	68.4	13.0	3.2	14.6	70.4	10.1	4.9	6.1	41.3	47.8	4.9
70歳以上	348	12.4	62.6	11.8	13.2	11.2	61.2	8.9	18.7	5.5	37.1	38.2	19.3
男性全体	951	20.8	49.3	25.6	4.3	14.1	54.4	24.7	6.8	6.4	30.1	56.3	7.3
18～29歳	77	14.3	32.5	53.2	-	6.5	29.9	62.3	1.3	5.2	19.5	75.3	-
30～39歳	112	26.8	30.4	42.0	0.9	9.8	33.9	53.6	2.7	15.2	25.0	58.0	1.8
40～49歳	136	33.1	40.4	24.3	2.2	25.7	41.2	30.1	2.9	14.7	27.2	55.1	2.9
50～59歳	142	28.2	51.4	19.0	1.4	26.8	56.3	14.8	2.1	5.6	28.9	63.4	2.1
60～69歳	194	19.1	57.7	21.1	2.1	12.9	71.1	12.4	3.6	2.1	38.7	53.6	5.7
70歳以上	286	11.9	59.1	18.5	10.5	7.0	62.9	14.0	16.1	2.4	31.1	49.7	16.8

(2) 医療機関の情報の入手方法

◇「インターネットで調べる」「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が4割強

問28. あなたは、夜間や休日に利用できる医療機関の情報が必要な場合、どこから情報を入手しますか。次の中から選んでください。(複数回答可)

図表7-2-1 医療機関の情報の入手方法



※平成28年度調査の選択肢は「救急電話相談等 (#7000、#8000、救急医療情報センター)」

医療機関の情報の入手方法については、「インターネットで調べる(越谷市・埼玉県公式ホームページを除く)」(42.6%)が最も多く、次いで、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」(42.2%)、「越谷市公式ホームページ」(23.1%)、「越谷市発行のチラシ(『越谷市の休日診療・救急医療のご案内』等)」(18.4%)、「市民ガイドブック」(17.3%)の順となっている。また、「その他」として「新聞」「かかりつけ医」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「インターネットで調べる(越谷市・埼玉県公式ホームページを除く)」(42.6%)は平成28年度調査(38.8%)と比べ3.8ポイント増加している。一方、「市民ガイドブック」(17.3%)は平成28年度調査(22.6%)と比べ5.3ポイント減少している。

性別でみると、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」は男性（46.8%）が女性（41.6%）より5.2ポイント、「市民ガイドブック」は男性（19.9%）が女性（15.4%）より4.5ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は女性（44.1%）が男性（39.0%）より5.1ポイント、「埼玉県救急電話相談等（#7119）」は女性（10.8%）が男性（6.1%）より4.7ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」は男性18～29歳（85.7%）で8割半ば、男性30～39歳（76.8%）、女性18～29歳（75.3%）で7割半ばと多くなっている。「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は女性70歳以上（59.5%）で約6割、男性70歳以上（53.5%）、女性60～69歳（53.4%）で5割強と多くなっている。「越谷市公式ホームページ」は女性40～49歳（43.2%）、女性30～39歳（40.3%）で4割以上と多くなっている。「市民ガイドブック」は男性70歳以上（29.4%）で約3割と多くなっている。

図表7-2-2 性・年齢別 医療機関の情報の入手方法

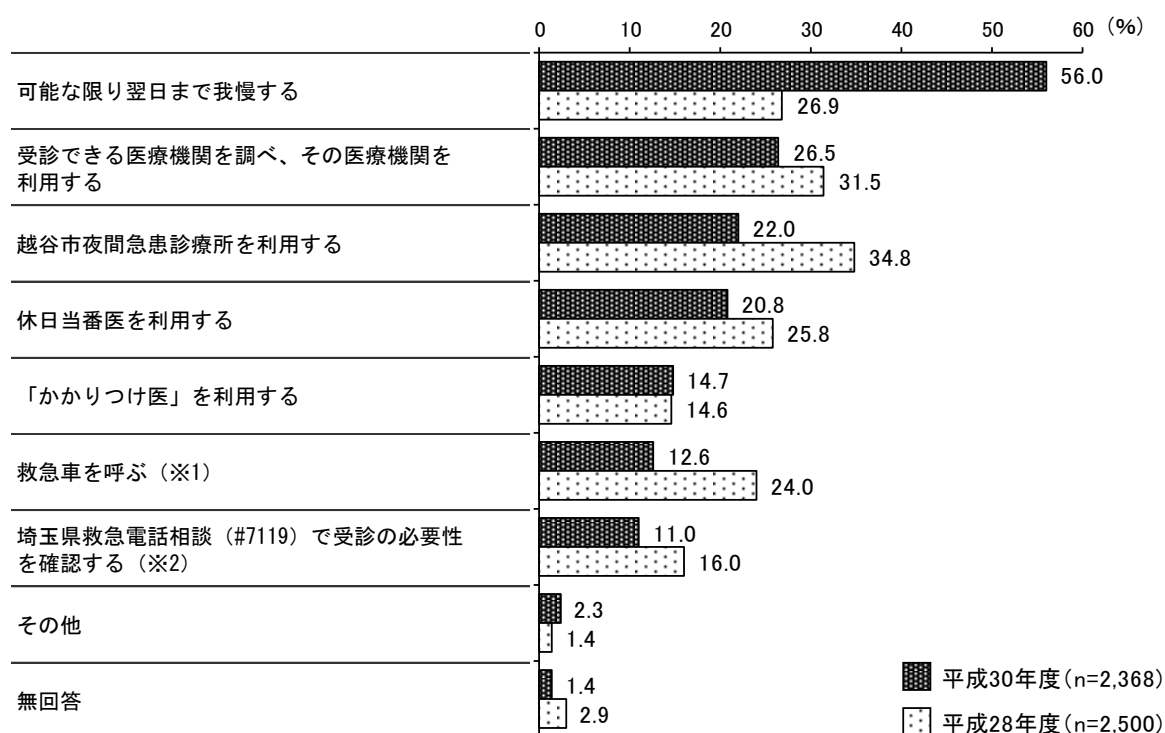
	調査数（人）	「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」	市民ガイドブック	越谷市公式ホームページ	越谷市発行のチラシ（「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等）	埼玉県公式ホームページ（医療機能情報提供システムを含む）	埼玉県公式ホームページを除く（越谷市・インターネットで調べる）	埼玉県救急電話相談等（#7119）	消防署に問い合わせ	医療機関に問い合わせ	知人・友人等に聞く	その他	無回答
全体	2,368	42.2	17.3	23.1	18.4	4.0	42.6	8.8	11.1	12.3	11.2	1.7	2.2
女性全体	1,302	44.1	15.4	23.8	18.6	3.3	41.6	10.8	9.9	13.2	12.7	1.6	1.9
18～29歳	97	12.4	9.3	19.6	5.2	6.2	75.3	7.2	3.1	14.4	18.6	2.1	-
30～39歳	159	25.2	5.0	40.3	15.1	6.3	67.3	15.1	3.1	10.1	10.1	1.3	-
40～49歳	243	37.0	7.4	43.2	12.3	4.9	61.3	9.9	4.9	9.9	8.6	2.1	-
50～59歳	206	45.1	16.0	33.5	17.5	3.9	57.3	6.3	12.6	12.1	7.8	1.9	0.5
60～69歳	247	53.4	21.5	14.2	27.1	1.2	24.7	8.1	12.6	18.6	17.4	1.6	2.0
70歳以上	348	59.5	23.0	5.2	23.0	1.1	9.5	14.9	14.7	13.5	14.7	1.1	5.5
男性全体	951	39.0	19.9	23.1	17.2	5.3	46.8	6.1	12.1	10.9	9.5	2.0	2.0
18～29歳	77	6.5	6.5	19.5	1.3	6.5	85.7	3.9	5.2	13.0	11.7	-	-
30～39歳	112	17.0	7.1	25.9	8.0	7.1	76.8	8.0	3.6	4.5	8.9	1.8	0.9
40～49歳	136	32.4	16.9	27.9	15.4	9.6	61.0	3.7	5.1	7.4	5.9	2.2	1.5
50～59歳	142	38.7	18.3	34.5	14.8	3.5	64.8	4.9	12.0	7.7	9.2	1.4	1.4
60～69歳	194	49.0	22.2	26.8	20.1	5.7	40.2	5.2	14.9	11.3	6.7	1.5	-
70歳以上	286	53.5	29.4	12.6	25.5	2.8	12.9	8.4	18.9	16.1	12.9	3.1	4.5

(3) 夜間や休日の急病の対応

◇「可能な限り翌日まで我慢する」が最も多く、5割半ば

問29. あなたは、夜間や休日に発熱や腹痛等、比較的軽度と思われる症状になったとき、どのように対応しますか。(複数回答可)

図表7-3-1 夜間や休日の急病の対応



※1 平成28年度調査の選択肢は「受診できる医療機関がわからないので救急車を呼ぶ」

※2 平成28年度調査の選択肢は「救急電話相談等 (#7000、#8000) で受診の必要性を確認する」

夜間や休日の急病の対応については、「可能な限り翌日まで我慢する」(56.0%)が最も多く、次いで、「受診できる医療機関を調べ、その医療機関を利用する」(26.5%)、「越谷市夜間急患診療所を利用する」(22.0%)、「休日当番医を利用する」(20.8%)、「『かかりつけ医』を利用する」(14.7%)の順となっている。また、「その他」として「夜間営業の薬局店へ行く」「#8000に電話をする」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「可能な限り翌日まで我慢する」(56.0%)は平成28年度調査(26.9%)と比べ29.1ポイント増加している。

性別で見ると、「可能な限り翌日まで我慢する」は女性（58.1%）が男性（54.8%）より3.3ポイント高くなっている。「休日当番医を利用する」は女性（22.3%）が男性（18.7%）より3.6ポイント高くなっている。一方、「救急車を呼ぶ」は男性（15.4%）が女性（9.8%）より5.6ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「可能な限り翌日まで我慢する」は女性30～39歳（70.4%）で約7割、女性40～49歳（67.5%）で7割弱と多くなっている。「受診できる医療機関を調べ、その医療機関を利用する」は女性18～29歳（34.0%）で3割半ばと多くなっている。「越谷市夜間急患診療所を利用する」は男性60～69歳（27.8%）で3割弱と多くなっている。「休日当番医を利用する」は女性50～59歳（29.6%）で約3割と多くなっている。『かかりつけ医』を利用するは男性70歳以上（26.2%）で2割半ば、「救急車を呼ぶ」も男性70歳以上（26.9%）で2割半ばと多くなっている。

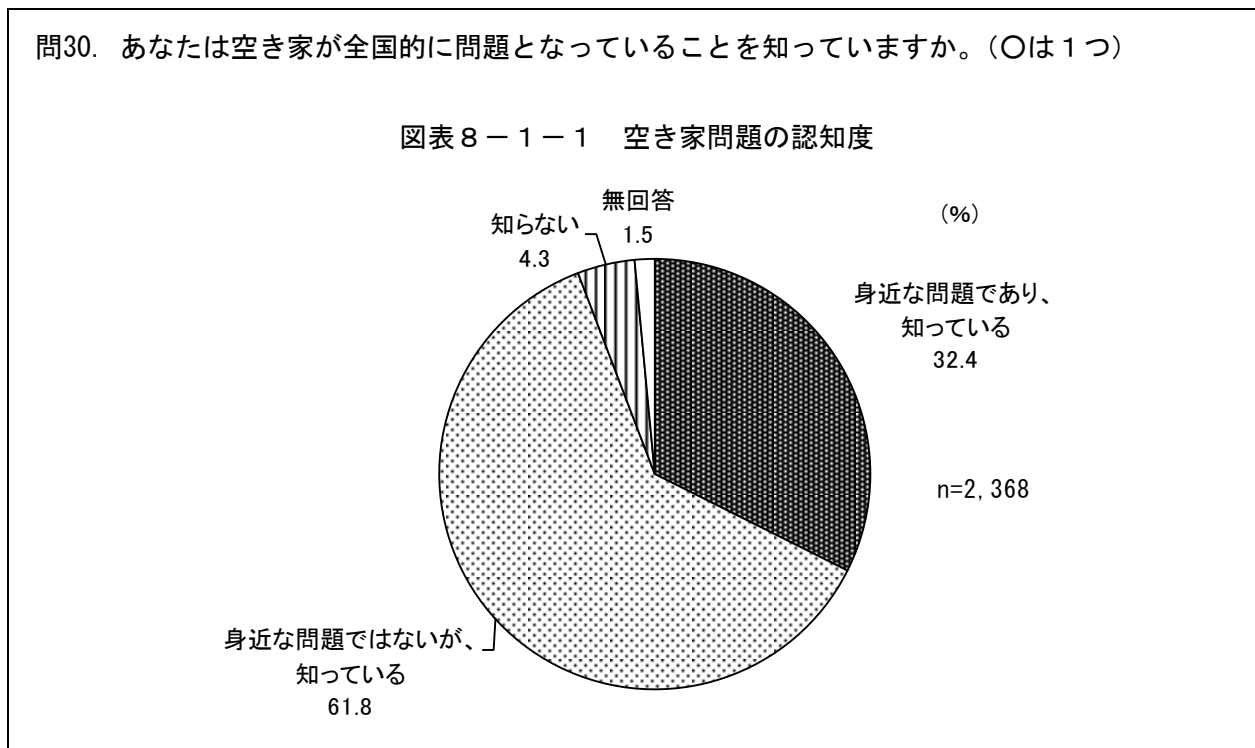
図表7-3-2 性・年齢別 夜間や休日の急病の対応

	調査数（人）	「かかりつけ医」を利用する	休日当番医を利用する	越谷市夜間急患診療所を利用する	埼玉県救急電話相談（#7119）で受診の必要性を確認する	受診できる医療機関を調べ、その医療機関を利用する	可能な限り翌日まで我慢する	救急車を呼ぶ	その他	無回答
全体	2,368	14.7	20.8	22.0	11.0	26.5	56.0	12.6	2.3	1.4
女性全体	1,302	14.1	22.3	23.0	13.6	27.5	58.1	9.8	1.9	1.1
18～29歳	97	19.6	11.3	17.5	6.2	34.0	60.8	3.1	5.2	-
30～39歳	159	10.7	18.2	20.1	15.7	30.2	70.4	1.3	4.4	-
40～49歳	243	10.7	23.9	21.0	12.8	32.1	67.5	3.3	2.5	-
50～59歳	206	9.2	29.6	26.2	11.7	27.7	66.0	5.3	0.5	-
60～69歳	247	12.6	24.7	24.7	11.7	31.6	55.1	13.0	1.6	1.2
70歳以上	348	20.4	20.1	23.9	17.5	18.4	42.5	20.4	0.6	3.2
男性全体	951	16.0	18.7	20.6	8.0	25.7	54.8	15.4	2.8	1.5
18～29歳	77	23.4	5.2	5.2	1.3	29.9	66.2	6.5	2.6	-
30～39歳	112	10.7	8.0	13.4	10.7	28.6	62.5	9.8	7.1	0.9
40～49歳	136	13.2	17.6	20.6	8.8	21.3	58.8	10.3	5.1	1.5
50～59歳	142	4.2	26.1	24.6	5.6	30.3	57.0	9.2	1.4	0.7
60～69歳	194	11.9	25.3	27.8	7.2	27.3	53.1	12.9	2.1	-
70歳以上	286	26.2	18.9	21.0	10.1	22.4	46.5	26.9	1.4	3.1

8. 空き家について

(1) 空き家問題の認知度

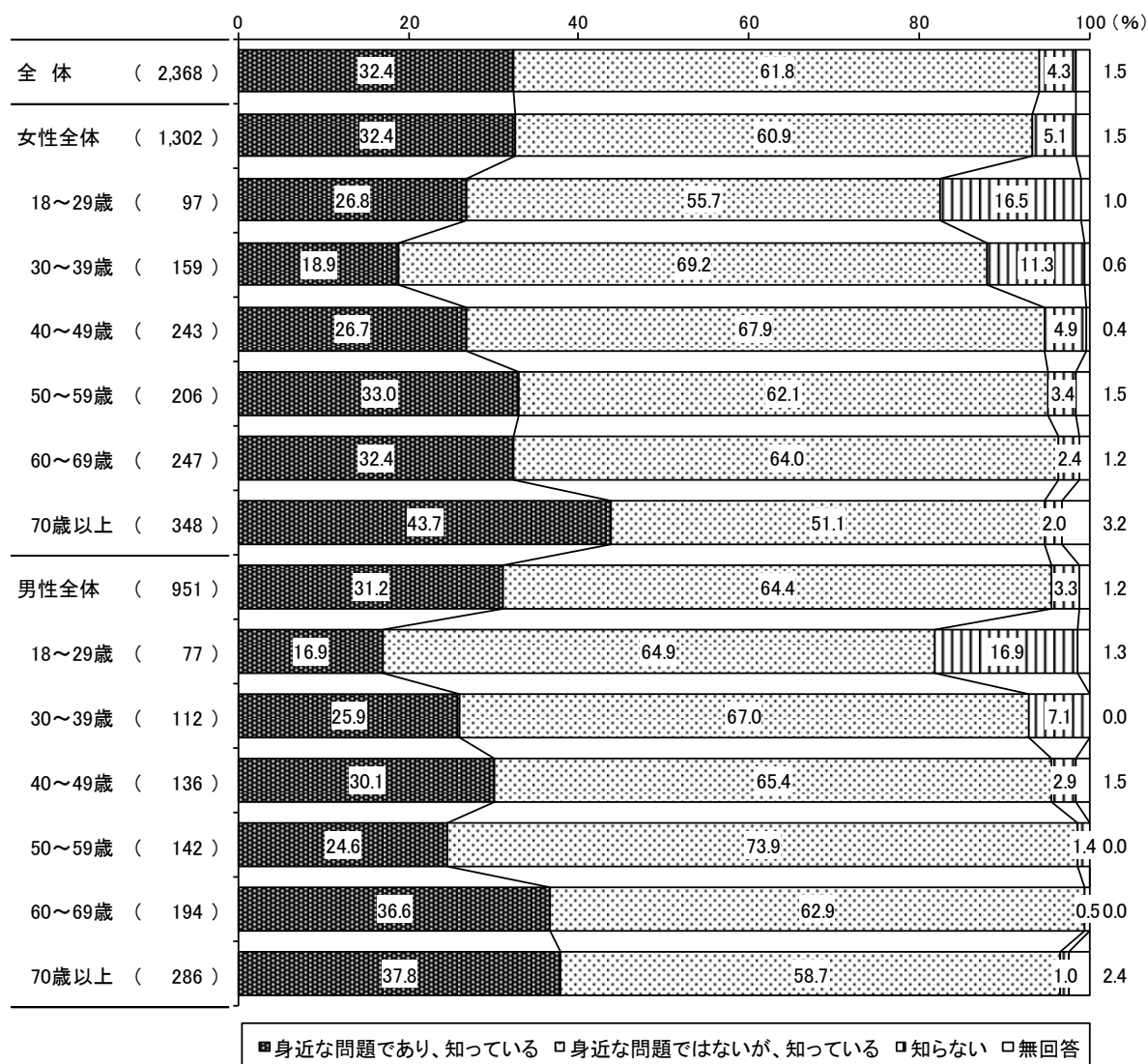
◇『知っている』が9割半ば



空き家問題の認知度については、「身近な問題であり、知っている」(32.4%)と「身近な問題ではないが、知っている」(61.8%)を合わせた『知っている』(94.2%)は9割半ばとなっている。

性別で見ると、『知っている』は男性（95.6%）が女性（93.3%）より2.3ポイント高くなっている。
 性・年齢別で見ると、「身近な問題であり、知っている」は女性70歳以上（43.7%）で4割強と多くなっている。「身近な問題ではないが、知っている」は男性50～59歳（73.9%）で7割強、女性30～39歳（69.2%）で約7割と多くなっている。一方、「知らない」は男性18～29歳（16.9%）、女性18～29歳（16.5%）で1割半ばと多くなっている。

図表8-1-2 性・年齢別 空き家問題の認知度

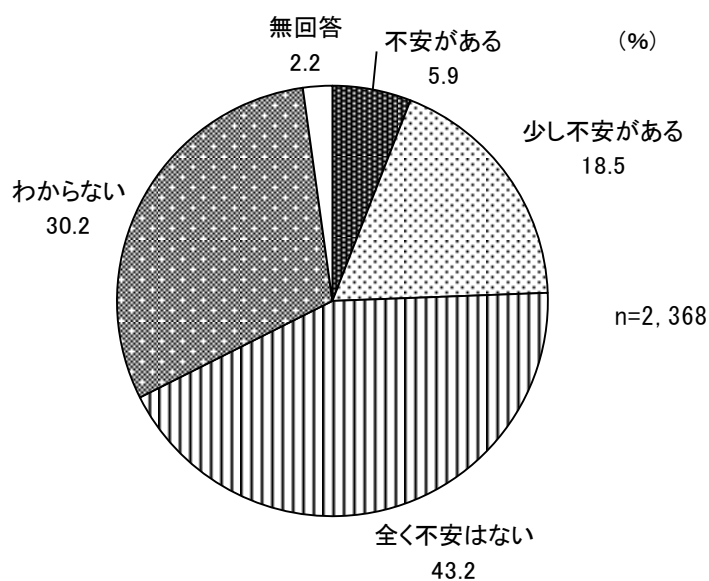


(2) 空き家になる不安

◇『不安がある』が2割半ば

問31. 現在、あなたの住んでいる建物（もしくは所有している建物）が、将来的に空き家になる可能性について、不安はありますか。（○は1つ）

図表8-2-1 空き家になる不安

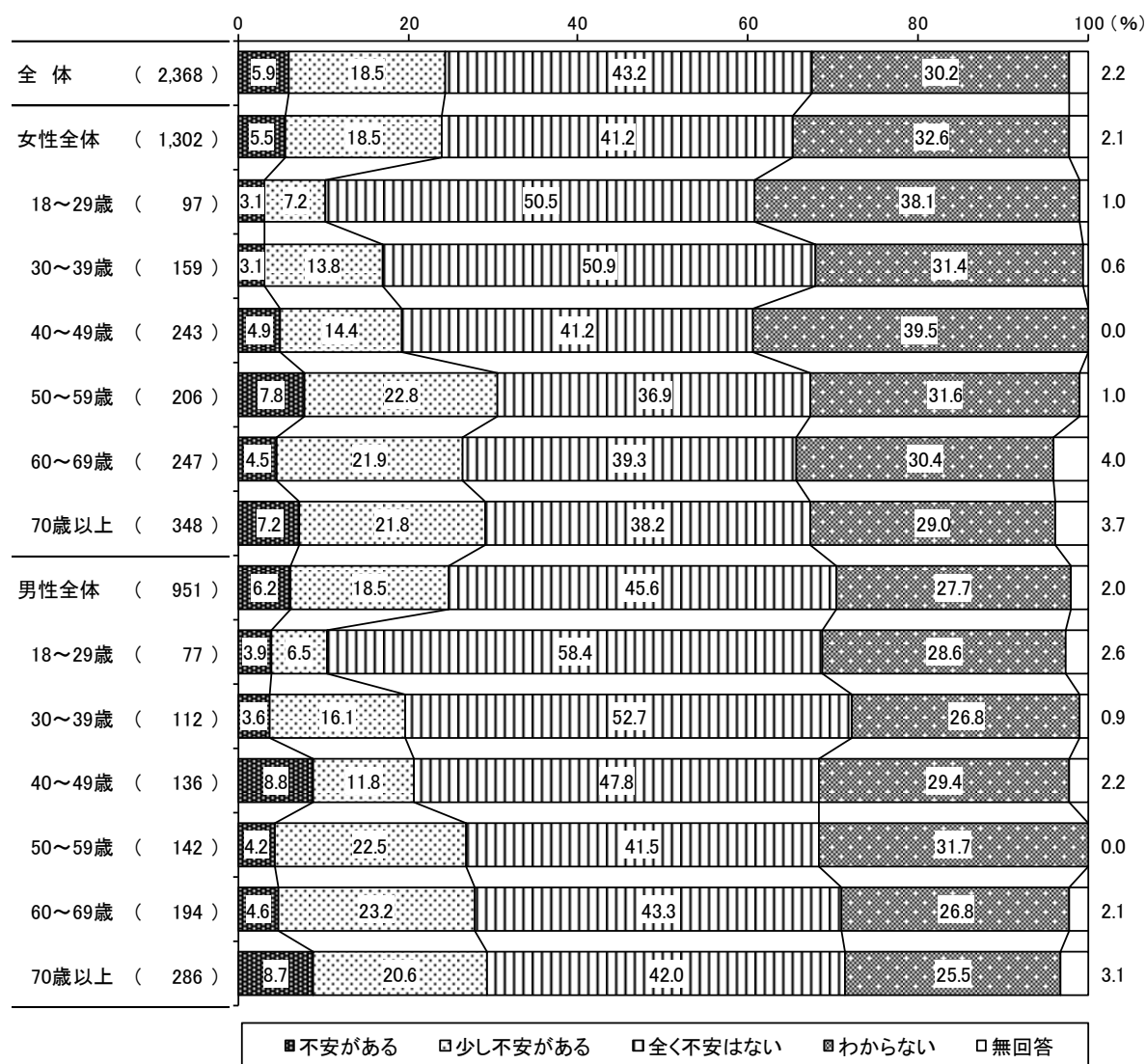


住んでいる建物（もしくは所有している建物）が空き家になる不安については、「全く不安はない」（43.2%）が4割強と最も多く、「不安がある」（5.9%）と「少し不安がある」（18.5%）を合わせた『不安がある』（24.4%）は2割半ばとなっている。

性別でみると、「全く不安はない」は男性（45.6%）が女性（41.2%）より4.4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、『不安がある』は女性50～59歳（30.6%）で約3割、男性70歳以上（29.4%）で約3割、女性70歳以上（29.0%）で約3割と多くなっている。一方、「全く不安はない」は男性18～29歳（58.4%）、男性30～39歳（52.7%）、女性30～39歳（50.9%）、女性18～29歳（50.5%）で5割以上と多くなっている。

図表8-2-2 性・年齢別 空き家になる不安

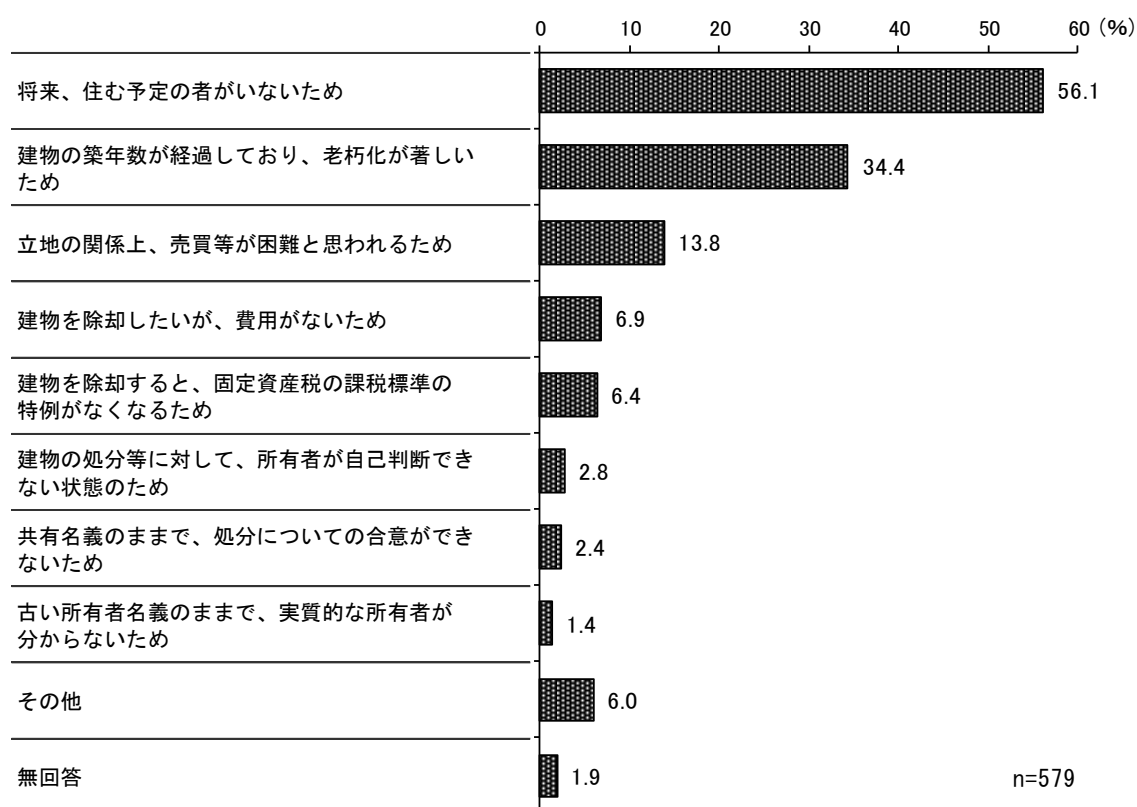


(3) 空き家になる不安の理由

◇「将来、住む予定の者がいないため」が最も多く、5割半ば

問31-2. 問31で「1」または「2」(不安がある)と答えた方に伺います。その理由は何ですか。
(複数回答可)

図表8-3-1 空き家になる不安の理由



住んでいる建物（もしくは所有している建物）が空き家になる不安があると回答した579人に、その理由を聞いたところ、「将来、住む予定の者がいないため」(56.1%)が最も多く、次いで、「建物の築年数が経過しており、老朽化が著しいため」(34.4%)、「立地の関係上、売買等が困難と思われるため」(13.8%)、「建物を除却したいが、費用がないため」(6.9%)、「建物を除却すると、固定資産税の課税標準の特例がなくなるため」(6.4%)の順となっている。また、「その他」として「相続人が複数いるため」「更地でないと売却できない」等が挙げられた。

性別で見ると、「建物の築年数が経過しており、老朽化が著しいため」は男性(38.7%)が女性(31.3%)より7.4ポイント高くなっている。一方、「将来、住む予定の者がいないため」は女性(57.5%)が男性(53.2%)より4.3ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「将来、住む予定の者がいないため」は女性60～69歳(69.2%)で約7割、女性50～59歳(68.3%)で7割弱と多くなっている。「建物の築年数が経過しており、老朽化が著しいため」は男性70歳以上(46.4%)、男性60～69歳(40.7%)、女性70歳以上(40.6%)で4割以上と多くなっている。「立地の関係上、売買等が困難と思われるため」は女性60～69歳(23.1%)で2割強と多くなっている。

※調査数が少ないもの(本調査では30人未満とする)については記述の対象としない。

図表8-3-2 性・年齢別 空き家になる不安の理由

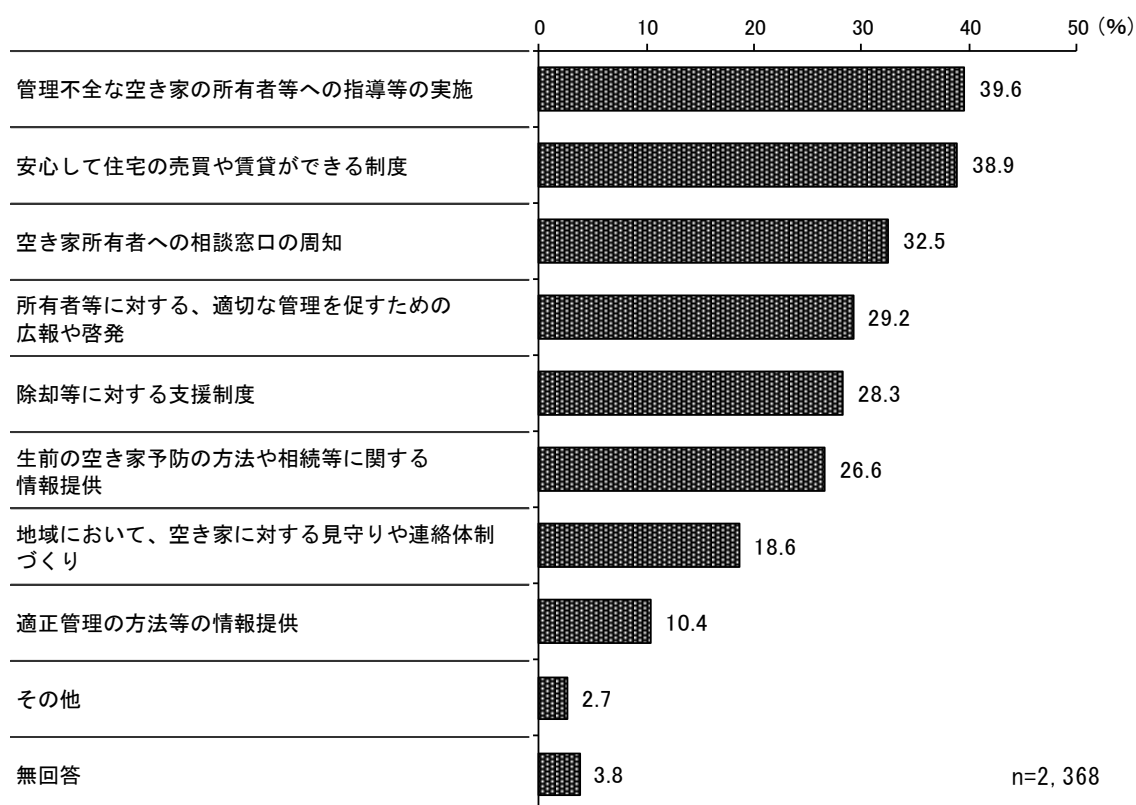
	調査数(人)	将来、住む予定の者がいないため	建物の築年数が経過しており、老朽化が著しいため	立地の関係上、売買等が困難と思われるため	自己判断できない状態のため	建物の処分等にたいが、費用がないため	建物を除却したいが、課税標準の特例がなくなるため	課税標準の特例がなくなるため	共有名義のまま、処分について	古い所有者が分らないため、実質的	その他	無回答
全体	579	56.1	34.4	13.8	2.8	6.9	6.4	2.4	1.4	6.0	1.9	
女性全体	313	57.5	31.3	15.3	3.2	7.3	4.8	2.9	0.3	5.4	2.2	
18～29歳	10	60.0	30.0	30.0	-	30.0	10.0	-	-	-	-	
30～39歳	27	29.6	29.6	25.9	3.7	3.7	-	3.7	-	7.4	3.7	
40～49歳	47	55.3	34.0	10.6	6.4	6.4	4.3	2.1	-	-	6.4	
50～59歳	63	68.3	25.4	9.5	-	3.2	1.6	4.8	-	6.3	-	
60～69歳	65	69.2	21.5	23.1	1.5	13.8	10.8	3.1	-	4.6	-	
70歳以上	101	51.5	40.6	11.9	5.0	5.0	4.0	2.0	1.0	7.9	3.0	
男性全体	235	53.2	38.7	12.3	2.1	6.4	8.5	2.1	2.6	6.8	1.7	
18～29歳	8	50.0	25.0	25.0	12.5	-	-	-	-	-	-	
30～39歳	22	45.5	40.9	18.2	4.5	4.5	4.5	9.1	9.1	13.6	-	
40～49歳	28	42.9	39.3	21.4	3.6	10.7	3.6	3.6	-	17.9	-	
50～59歳	38	63.2	21.1	13.2	-	2.6	15.8	2.6	2.6	5.3	-	
60～69歳	54	53.7	40.7	9.3	1.9	3.7	11.1	1.9	1.9	5.6	1.9	
70歳以上	84	53.6	46.4	8.3	1.2	9.5	7.1	-	1.2	3.6	3.6	

(4) 必要だと思う空き家対策

◇「管理不全な空き家の所有者等への指導等の実施」が最も多く、約4割

問32. 適正な管理がされていない空き家が増えないようにするためには、行政やその他団体において、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答可)

図表8-4-1 必要だと思う空き家対策



必要だと思う空き家対策については、「管理不全な空き家の所有者等への指導等の実施」(39.6%)が最も多く、次いで、「安心して住宅の売買や賃貸ができる制度」(38.9%)、「空き家所有者への相談窓口の周知」(32.5%)、「所有者等に対する、適切な管理を促すための広報や啓発」(29.2%)、「除却等に対する支援制度」(28.3%)の順となっている。また、「その他」として「法整備」「税制の改正」等が挙げられた。

性別で見ると、「空き家所有者への相談窓口の周知」は女性（36.8%）が男性（26.9%）より9.9ポイント高くなっている。一方、「所有者等に対する、適切な管理を促すための広報や啓発」は男性（34.5%）が女性（25.4%）より9.1ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「空き家所有者への相談窓口の周知」は女性50～59歳（43.7%）で4割強、女性40～49歳（39.9%）で約4割、女性60～69歳（38.1%）で4割弱と多くなっている。「所有者等に対する、適切な管理を促すための広報や啓発」は男性60～69歳（41.2%）、男性70歳以上（40.2%）で約4割と多くなっている。「除却等に対する支援制度」は女性30～39歳（39.0%）で約4割と多くなっている。「生前の空き家予防の方法や相続等に関する情報提供」は女性40～49歳（41.6%）で約4割と多くなっている。

図表8-4-2 性・年齢別 必要だと思う空き家対策

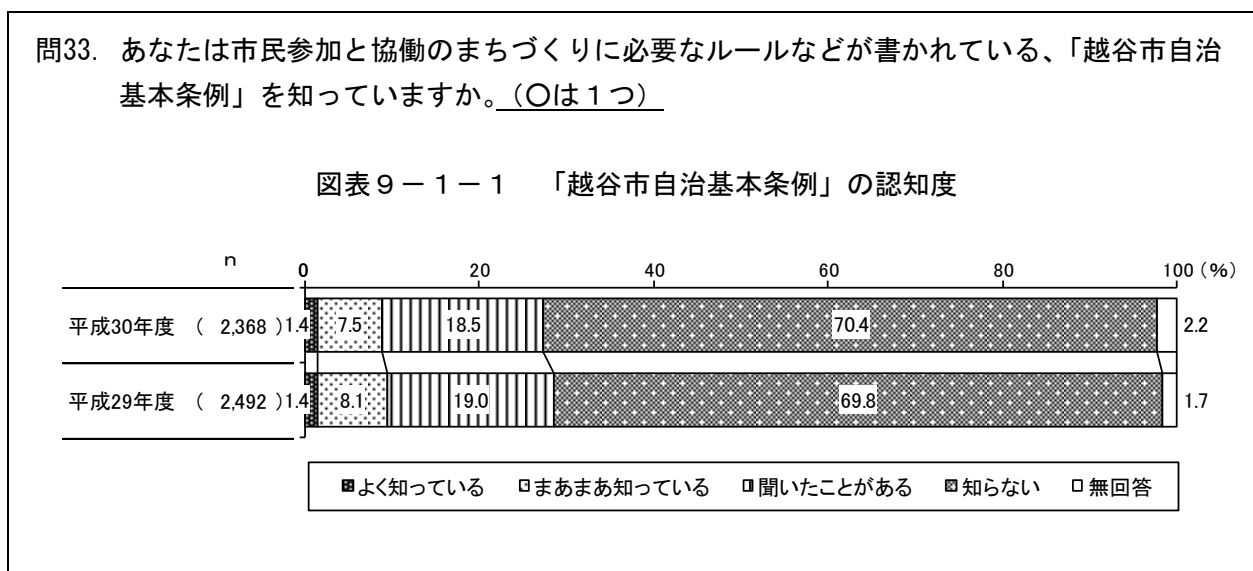
（%）

	調査数（人）	所有者等に対する適切な管理を促すための広報や啓発	管理不全な空き家の所有者等への指導等の実施	地域において、空き家に対する見守りや連絡体制づくり	適正管理の方法等の情報提供	除却等に対する支援制度	安心して住宅の売買や賃貸ができる制度	空き家所有者への相談窓口の周知	生前の空き家予防の方法や相続等に関する情報提供	その他	無回答
全体	2,368	29.2	39.6	18.6	10.4	28.3	38.9	32.5	26.6	2.7	3.8
女性全体	1,302	25.4	39.9	19.4	9.3	27.6	39.4	36.8	29.1	2.1	4.1
18～29歳	97	17.5	34.0	20.6	9.3	33.0	40.2	27.8	24.7	4.1	3.1
30～39歳	159	26.4	45.9	18.2	6.9	39.0	37.1	38.4	28.3	1.3	0.6
40～49歳	243	24.7	38.3	18.9	11.1	31.3	43.6	39.9	41.6	2.5	-
50～59歳	206	24.8	38.3	19.9	13.6	32.5	42.7	43.7	35.9	2.9	-
60～69歳	247	26.7	40.1	17.4	9.3	28.3	40.1	38.1	30.4	1.2	3.6
70歳以上	348	27.3	41.1	21.0	6.6	15.2	34.8	31.3	17.2	1.7	11.5
男性全体	951	34.5	39.9	17.8	11.7	29.8	39.1	26.9	24.3	3.4	2.5
18～29歳	77	29.9	36.4	19.5	11.7	31.2	42.9	23.4	29.9	1.3	1.3
30～39歳	112	25.0	33.0	18.8	13.4	36.6	45.5	27.7	26.8	4.5	-
40～49歳	136	26.5	33.8	14.0	11.0	33.8	43.4	27.2	30.1	5.9	2.2
50～59歳	142	32.4	40.8	9.9	12.7	33.8	43.0	27.5	26.8	1.4	0.7
60～69歳	194	41.2	44.8	17.0	10.3	32.0	36.6	32.5	21.1	3.6	2.1
70歳以上	286	40.2	42.7	23.4	11.9	21.0	33.6	23.8	20.3	3.1	4.9

9. 自治基本条例について

(1) 「越谷市自治基本条例」の認知度

◇『知っている』は1割弱

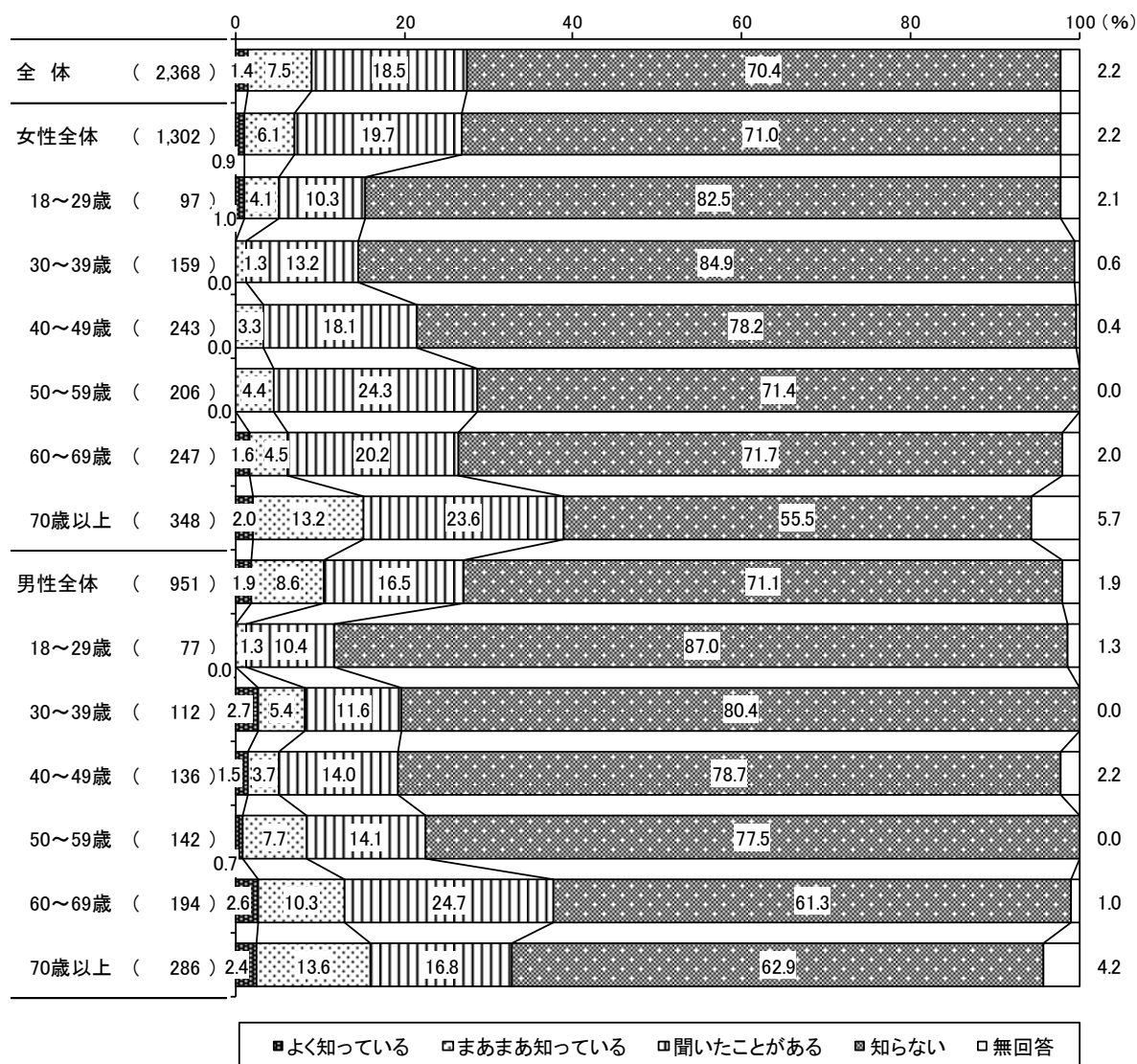


「越谷市自治基本条例」については、「よく知っている」(1.4%)と「まあまあ知っている」(7.5%)を合わせた『知っている』(8.9%)は1割弱となっている。一方、「知らない」(70.4%)は約7割となっている。

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられない。

性別で見ると、『知っている』は男性（10.5%）が女性（7.1%）より3.4ポイント高くなっている。
 性・年齢別で見ると、『知っている』は男性70歳以上（16.1%）、女性70歳以上（15.2%）、男性60～69歳（12.9%）で1割を超えている。

図表9-1-2 性・年齢別 「越谷市自治基本条例」の認知度

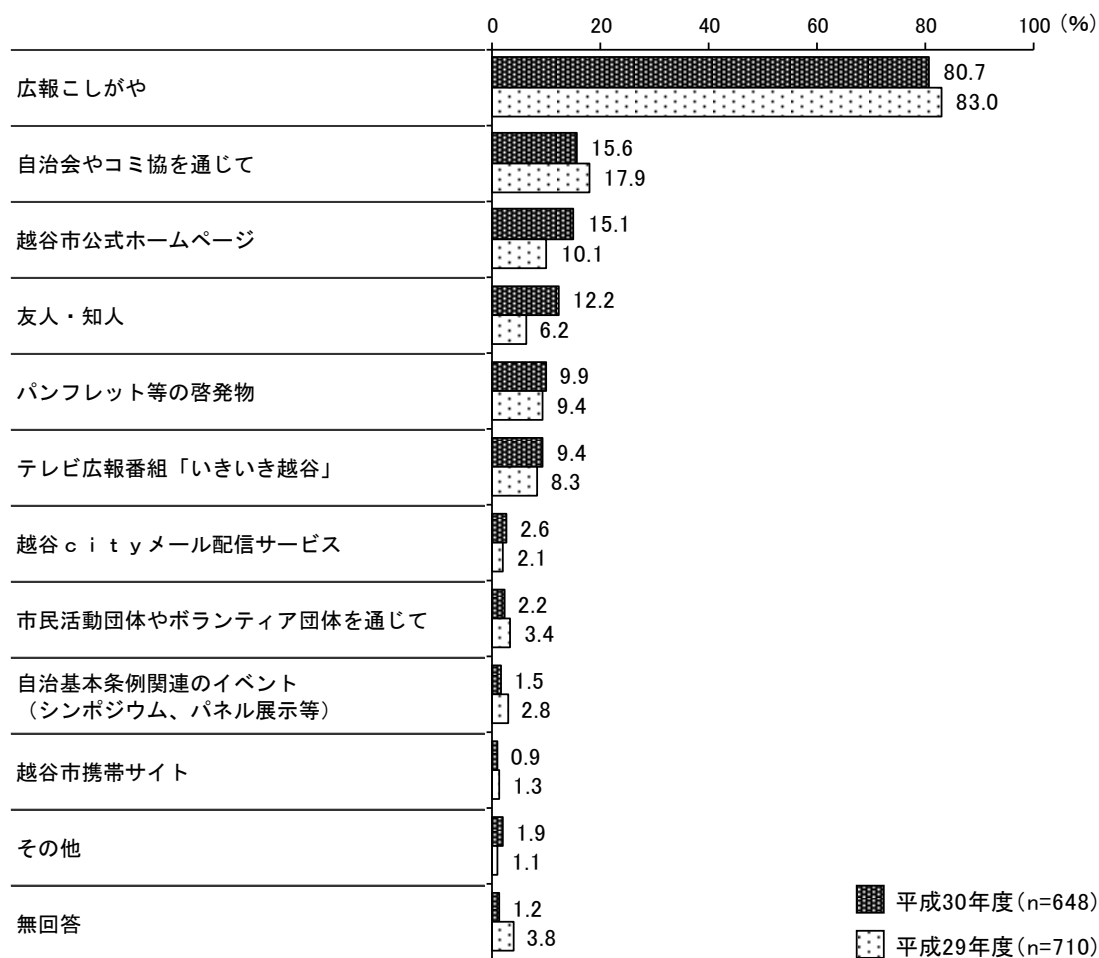


(2) 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ

◇「広報こしがや」が最も多く、約8割

問33-2. 問31で「1. よく知っている」「2. まあまあ知っている」または「3. 聞いたことがある」と答えた方に伺います。どのようにして「越谷市自治基本条例」のことを知り（聞き）ましたか。(複数回答可)

図表9-2-1 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ



「越谷市自治基本条例」を「知っている」または「聞いたことがある」と回答した648人に、知ったきっかけを聞いたところ、「広報こしがや」(80.7%)が最も多く、次いで、「自治会やコミ協を通じて」(15.6%)、「越谷市公式ホームページ」(15.1%)、「友人・知人」(12.2%)、「パンフレット等の啓発物」(9.9%)の順となっている。また、「その他」として「公務員だから」「大学の授業」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「越谷市公式ホームページ」(15.1%)は平成29年度調査(10.1%)と比べ5.0ポイント増加している。

性別で見ると、「越谷市公式ホームページ」は男性（21.0%）が女性（11.5%）より9.5ポイント高くなっている。一方、「広報こしがや」は女性（83.4%）が男性（77.8%）より5.6ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「広報こしがや」は男性70歳以上（88.3%）、女性50～59歳（88.1%）で9割弱と多くなっている。「自治会やコミ協を通じて」は男性60～69歳（23.3%）、男性70歳以上（22.3%）で2割強と多くなっている。「越谷市公式ホームページ」は男性60～69歳（26.0%）、男性50～59歳（25.0%）で2割半ばと多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

図表9-2-2 性・年齢別 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ

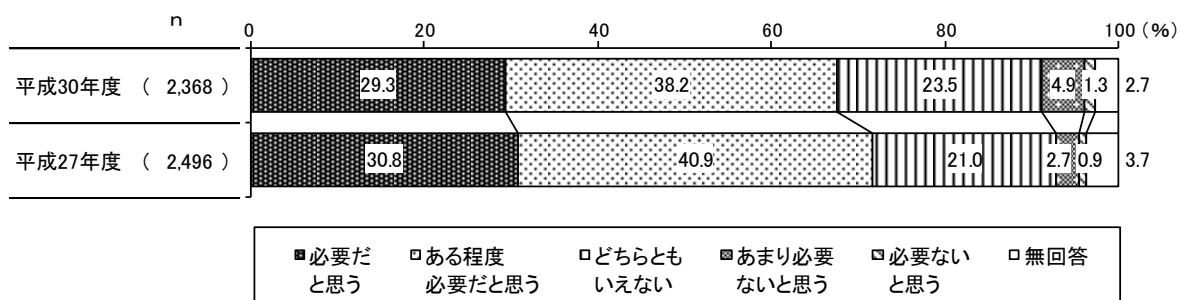
	調査数（人）	広報こしがや	テレビ広報番組「いきいき越谷」	越谷市公式ホームページ	越谷市携帯サイト	越谷cityメール配信サービス	パンフレット等の啓発物	友人・知人	自治会やコミ協を通じて	市民活動団体やボランティア団体を通じて	自治基本条例関連のイベント（シンポジウム、パネル展示等）	その他	無回答
全体	648	80.7	9.4	15.1	0.9	2.6	9.9	12.2	15.6	2.2	1.5	1.9	1.2
女性全体	349	83.4	10.6	11.5	0.9	3.2	8.6	11.5	14.3	1.7	2.0	1.4	1.7
18～29歳	15	73.3	13.3	26.7	6.7	13.3	13.3	13.3	6.7	-	-	13.3	-
30～39歳	23	69.6	-	8.7	-	4.3	13.0	4.3	4.3	-	-	-	4.3
40～49歳	52	82.7	7.7	23.1	1.9	3.8	7.7	7.7	9.6	1.9	-	3.8	-
50～59歳	59	88.1	6.8	10.2	1.7	3.4	6.8	5.1	15.3	-	3.4	-	-
60～69歳	65	84.6	6.2	9.2	-	1.5	7.7	16.9	15.4	1.5	-	-	1.5
70歳以上	135	84.4	17.0	7.4	-	2.2	8.9	14.1	17.8	3.0	3.7	0.7	3.0
男性全体	257	77.8	7.8	21.0	1.2	1.9	12.5	10.5	18.3	2.3	0.8	1.9	0.4
18～29歳	9	44.4	-	33.3	-	-	-	11.1	-	-	-	11.1	-
30～39歳	22	59.1	9.1	27.3	4.5	-	9.1	4.5	-	-	-	-	-
40～49歳	26	76.9	3.8	42.3	3.8	7.7	3.8	3.8	11.5	-	-	-	-
50～59歳	32	78.1	9.4	25.0	3.1	6.3	15.6	3.1	18.8	6.3	3.1	6.3	-
60～69歳	73	75.3	8.2	26.0	-	-	15.1	9.6	23.3	5.5	-	2.7	-
70歳以上	94	88.3	8.5	7.4	-	1.1	13.8	17.0	22.3	-	1.1	-	-

(3) 組織と市が協働すること

◇『必要だと思う』が7割弱

問34 越谷市をより良くするために、あなたは、自治会やNPO、企業等の様々な組織と市が協働することが必要だと思いますか。(〇は1つ)

図表9-3-1 組織と市が協働すること

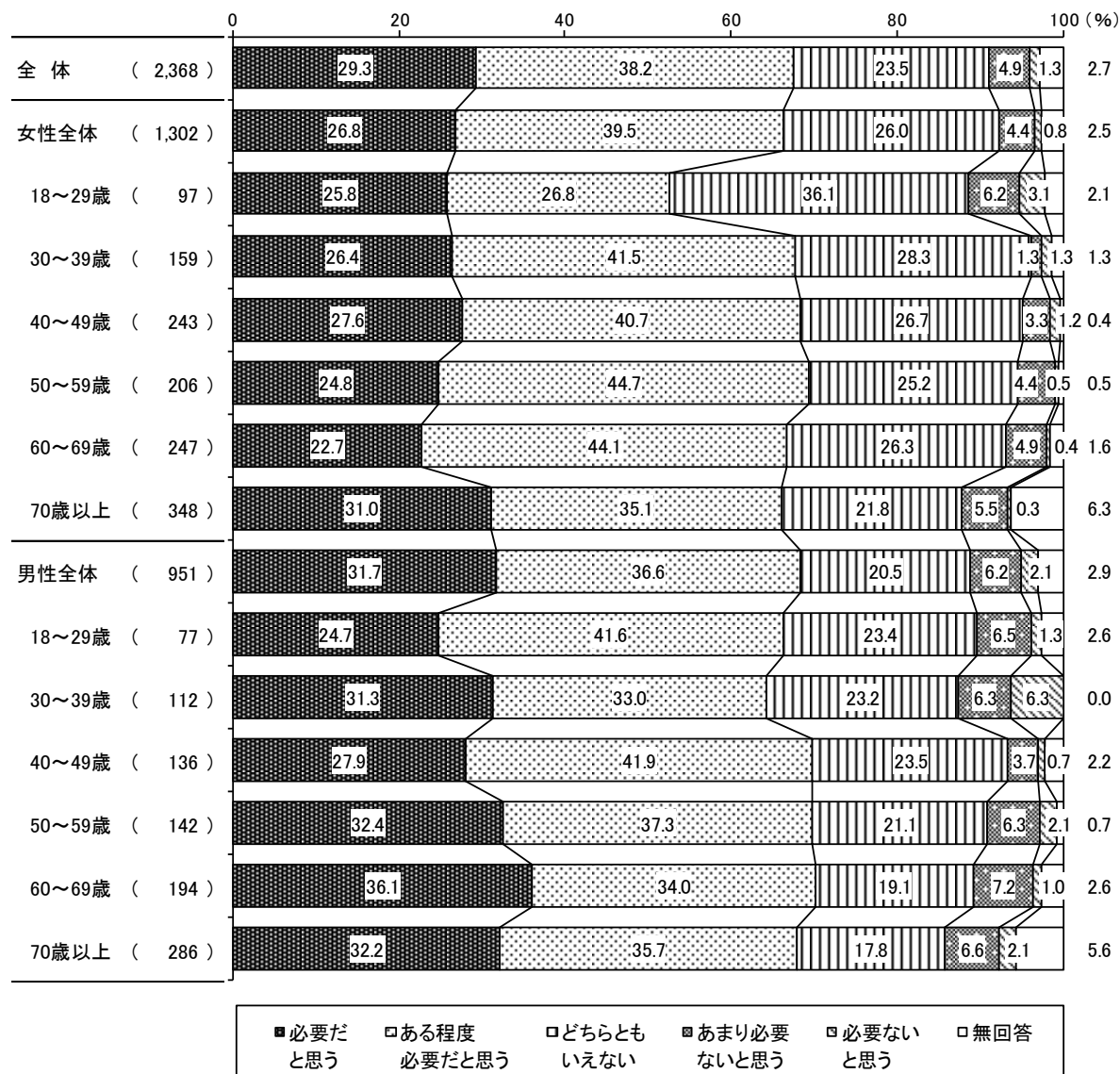


組織と市が協働することについては、「必要だと思う」(29.3%)と「ある程度必要だと思う」(38.2%)を合わせた『必要だと思う』(67.5%)は7割弱となっている。一方、「あまり必要ないと思う」(4.9%)と「必要ないと思う」(1.3%)を合わせた『必要ないと思う』(6.2%)は1割未満となっている。

前回の調査と比較すると『必要だと思う』(67.5%)は平成27年度調査(71.7%)と比べ4.2ポイント減少している。

性別でみると、『必要だと思う』は男性（68.2%）が女性（66.3%）より1.9ポイント高くなっている。
 性・年齢別でみると、『必要だと思う』は女性18～29歳（52.6%）で5割強と少なくなっている。

図表9-3-2 性・年齢別 組織と市が協働すること

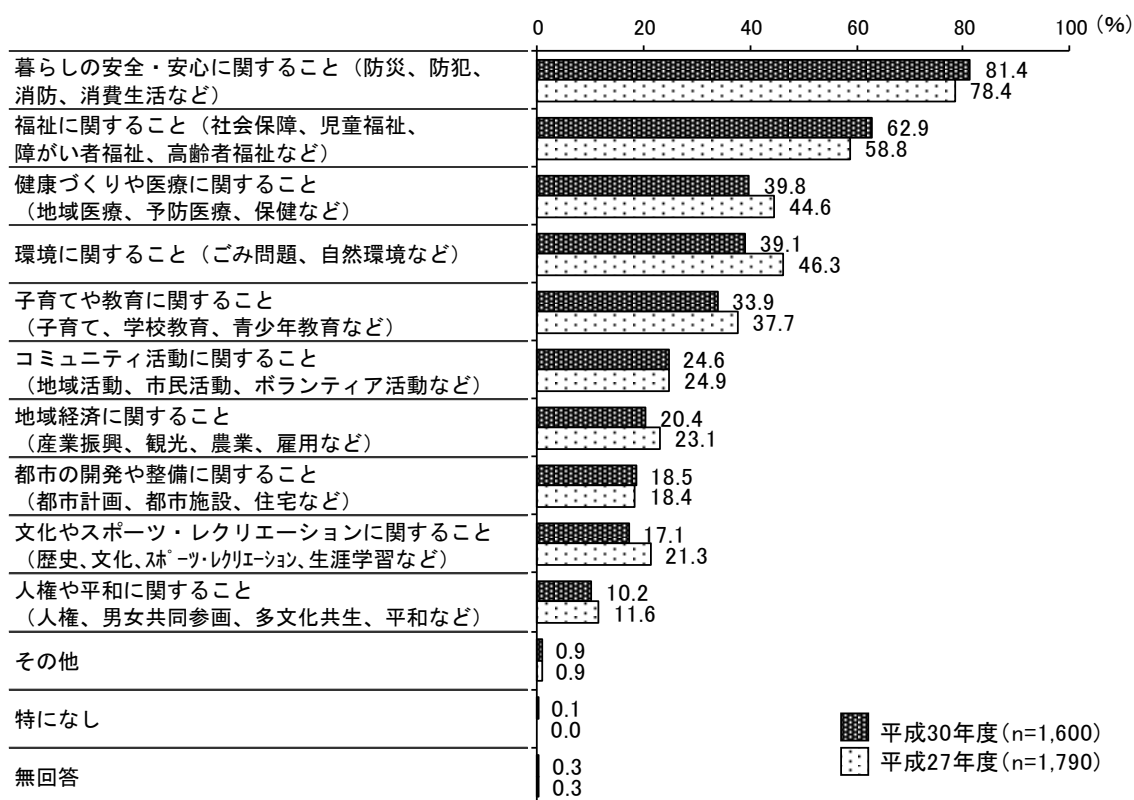


(4) 組織と市の協働が必要な分野

◇「暮らしの安全・安心に関すること」が最も多く、約8割

問34-2. 問34で「1」または「2」(必要だと思う)と答えた方に伺います。あなたは、様々な組織と市が協働して取り組むことが必要(効果的)なのは、どのような分野だと思いますか。次の中から選んでください。(複数回答可)

図表9-4-1 組織と市の協働が必要な分野



組織と市の協働が必要な分野については、「暮らしの安全・安心に関すること (防災、防犯、消防、消費生活など)」(81.4%)が最も多く、次いで、「福祉に関すること (社会保障、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など)」(62.9%)、「健康づくりや医療に関すること (地域医療、予防医療、保健など)」(39.8%)、「環境に関すること (ごみ問題、自然環境など)」(39.1%)、「子育てや教育に関すること (子育て、学校教育、青少年教育など)」(33.9%)の順となっている。また、「その他」として「職業支援」「企業誘致」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると「暮らしの安全・安心に関すること (防災、防犯、消防、消費生活など)」(81.4%)は平成27年度調査(78.4%)と比べ3.0ポイント、「福祉に関すること (社会保障、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など)」(62.9%)は平成27年度調査(58.8%)と比べ4.1ポイント、それぞれ増加している。

性別でみると、「福祉に関すること（社会保障、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など）」は女性（64.8%）が男性（60.6%）より4.2ポイント高くなっている。一方、「地域経済に関すること（産業振興、観光、農業、雇用など）」は男性（23.0%）が女性（19.1%）より3.9ポイント、「環境に関すること（ごみ問題、自然環境など）」は男性（41.8%）が女性（38.0%）より3.8ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「暮らしの安全・安心に関すること（防災、防犯、消防、消費生活など）」は男性60～69歳（89.7%）で約9割と多くなっている。「健康づくりや医療に関すること（地域医療、予防医療、保健など）」は女性40～49歳（46.4%）で4割半ばと多くなっている。「環境に関すること（ごみ問題、自然環境など）」は男性60～69歳（50.0%）で5割と多くなっている。「コミュニティ活動に関すること（地域活動、市民活動、ボランティア活動など）」は女性18～29歳（29.4%）で約3割、女性30～39歳（26.9%）で2割半ばと多くなっている。

図表9-4-2 性・年齢別 組織と市の協働が必要な分野

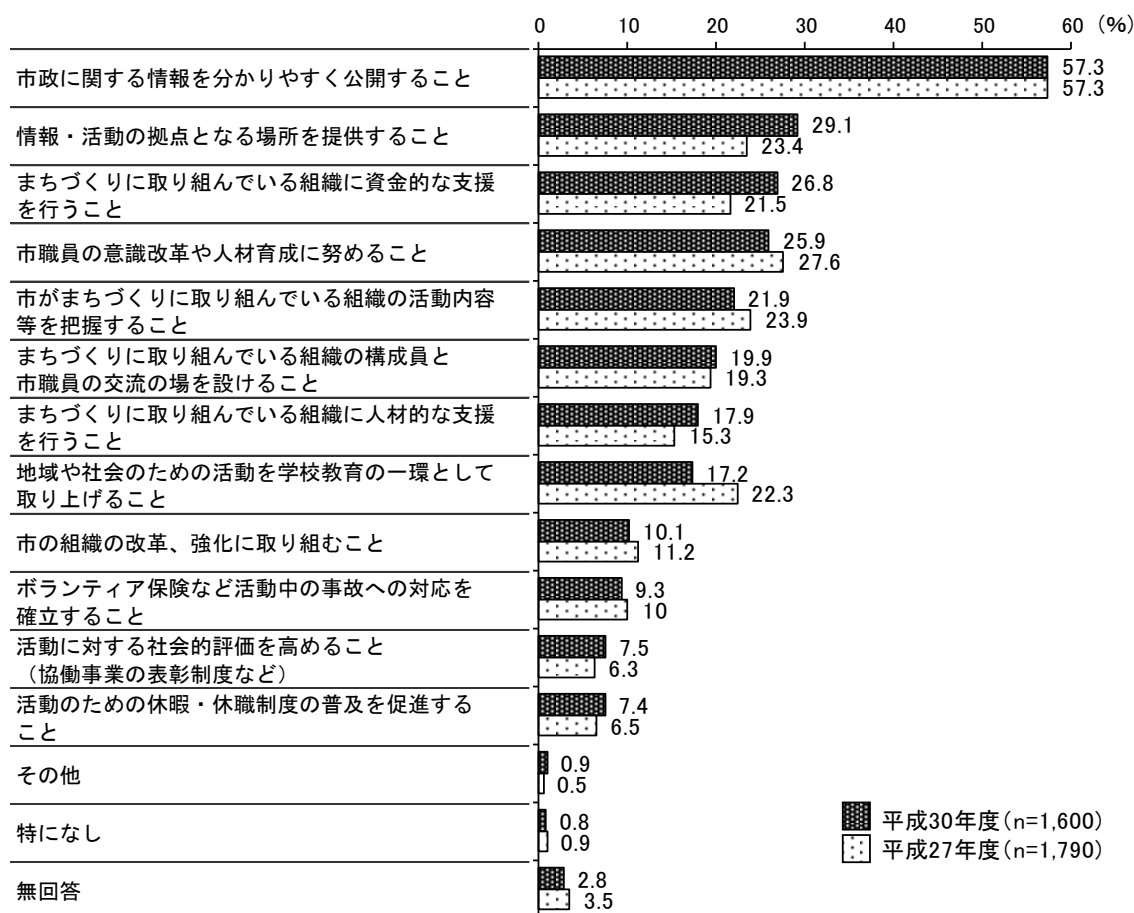
	調査数（人）	暮らしの安全・安心に関すること（防災、防犯、消防、消費生活など）	福祉に関すること（社会保障、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など）	健康づくりや医療に関すること（地域医療、予防医療、保健など）	環境に関すること（ごみ問題、自然環境など）	動、市民活動、ボランティア活動など（地域活動）	学校教育、青少年教育など（子育て、）	計画、都市開発や整備に関すること（都市）	レクリエーション、歴史、文化、スポーツ・関すること（歴史、文化、スポーツ・）	地域経済に関すること（産業振興、観光、農業、雇用など）	男女共同参画、多文化共生、平和など（人権や平和に関すること（人権、）	その他	特になし	無回答
全体	1,600	81.4	62.9	39.8	39.1	24.6	33.9	18.5	17.1	20.4	10.2	0.9	0.1	0.3
女性全体	863	82.5	64.8	40.9	38.0	24.3	35.1	17.5	16.0	19.1	10.8	0.5	-	0.1
18～29歳	51	70.6	58.8	41.2	35.3	29.4	66.7	19.6	15.7	31.4	25.5	2.0	-	-
30～39歳	108	81.5	63.9	39.8	30.6	26.9	62.0	13.0	21.3	18.5	12.0	-	-	-
40～49歳	166	81.3	65.7	46.4	40.4	24.1	42.8	22.9	14.5	24.1	8.4	0.6	-	-
50～59歳	143	83.2	62.2	32.2	44.8	26.6	30.8	19.6	12.6	19.6	9.1	0.7	-	-
60～69歳	165	83.0	68.5	39.4	39.4	22.4	27.3	20.6	18.8	16.4	10.9	0.6	-	-
70歳以上	230	85.7	64.8	43.9	35.2	22.2	18.3	11.7	14.8	14.8	9.6	-	-	0.4
男性全体	649	81.0	60.6	38.2	41.8	24.5	33.9	20.8	19.6	23.0	8.8	1.5	-	0.2
18～29歳	51	72.5	54.9	31.4	37.3	25.5	56.9	21.6	31.4	25.5	21.6	5.9	-	-
30～39歳	72	76.4	54.2	34.7	33.3	27.8	41.7	22.2	18.1	33.3	5.6	2.8	-	-
40～49歳	95	81.1	57.9	35.8	40.0	18.9	43.2	22.1	21.1	29.5	5.3	1.1	-	-
50～59歳	99	76.8	68.7	36.4	42.4	28.3	40.4	27.3	15.2	27.3	10.1	-	-	-
60～69歳	136	89.7	61.8	40.4	50.0	28.7	29.4	21.3	18.4	19.9	8.1	-	-	-
70歳以上	194	81.4	61.3	42.3	41.2	20.6	20.1	16.0	18.6	15.5	7.7	2.1	-	0.5

(5) 協働推進に必要な施策

◇「市政に関する情報を分かりやすく公開すること」が最も多く、6割弱

問34-3. 問34で「1」または「2」(必要だと思う)と答えた方に伺います。あなたは、協働を推進するために、市がどのような施策に取り組むことが必要(効果的)だと思いますか。(〇は3つ)

図表9-5-1 協働推進に必要な施策



協働推進に必要な施策については、「市政に関する情報を分かりやすく公開すること」(57.3%)が最も多く、次いで、「情報・活動の拠点となる場所を提供すること」(29.1%)、「まちづくりに取り組んでいる組織に資金的な支援を行うこと」(26.8%)、「市職員の意識改革や人材育成に努めること」(25.9%)の順となっている。また、「その他」として「意識啓蒙」「教育の充実」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると「情報・活動の拠点となる場所を提供すること」(29.1%)は平成27年度調査(23.4%)と比べ5.7ポイント、「まちづくりに取り組んでいる組織に資金的な支援を行うこと」(26.8%)は平成27年度調査(21.5%)と比べ5.3ポイント、それぞれ増加している。

性別でみると、「まちづくりに取り組んでいる組織に資金的な支援を行うこと」は男性（31.1%）が女性（24.1%）より7.0ポイント高くなっている。一方、「市がまちづくりに取り組んでいる組織の活動内容等を把握すること」は女性（23.6%）が男性（19.7%）より3.9ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「市政に関する情報を分かりやすく公開すること」は男性18～29歳（64.7%）、男性70歳以上（64.4%）で6割半ば、女性60～69歳（63.6%）で6割強と多くなっている。「情報・活動の拠点となる場所を提供すること」は男性30～39歳（41.7%）で約4割と多くなっている。「まちづくりに取り組んでいる組織に資金的な支援を行うこと」は女性18～29歳（41.2%）で約4割、男性40～49歳（40.0%）で4割と多くなっている。「市職員の意識改革や人材育成に努めること」は男性60～69歳（36.8%）で3割半ばと多くなっている。「まちづくりに取り組んでいる組織の構成員と市職員の交流の場を設けること」は男性70歳以上（28.4%）で3割弱と多くなっている。

図表9-5-2 性・年齢別 協働推進に必要な施策

	調査数（人）	（%）														
		市政に関する情報を分かりやすく公開すること	情報・活動の拠点となる場所を提供すること	資金的な支援を行うこと	まちづくりに取り組んでいる組織に資金的な支援を行うこと	人材的な支援を行うこと	まちづくりに取り組んでいる組織の構成員と市職員の交流の場を設けること	まちづくりに取り組んでいる組織の活動内容等を把握すること	市がまちづくりに取り組んでいる組織の対応を確立すること	ボランティア保険など活動中の事故への対応	市職員の意識改革や人材育成に努めること	市の組織の改革、強化に取り組むこと	地域や社会の活動の活性化を高めること	活動に対する社会的評価を高めること	活動のための休暇・退職制度の普及を促進すること	その他
全体	1,600	57.3	29.1	26.8	17.9	19.9	21.9	9.3	25.9	10.1	17.2	7.5	7.4	0.9	0.8	2.8
女性全体	863	57.6	29.1	24.1	18.2	18.3	23.6	9.4	24.4	8.2	18.3	7.0	7.0	0.6	1.0	3.6
18～29歳	51	62.7	29.4	41.2	11.8	27.5	9.8	9.8	13.7	3.9	27.5	5.9	15.7	-	2.0	2.0
30～39歳	108	47.2	23.1	28.7	17.6	15.7	26.9	7.4	22.2	5.6	28.7	8.3	10.2	-	1.9	1.9
40～49歳	166	57.2	27.1	31.3	19.3	12.7	27.1	6.0	28.9	12.0	20.5	8.4	5.4	0.6	1.2	0.6
50～59歳	143	53.1	29.4	24.5	18.9	19.6	28.7	10.5	22.4	11.9	13.3	9.8	12.6	1.4	-	1.4
60～69歳	165	63.6	33.9	15.8	18.8	20.0	26.1	6.7	27.3	6.7	13.3	5.5	4.8	-	1.8	3.0
70歳以上	230	60.0	29.6	18.7	18.3	19.6	17.8	13.9	23.9	6.5	16.5	4.8	2.6	0.9	0.4	8.7
男性全体	649	57.0	29.6	31.1	18.8	21.4	19.7	8.3	27.7	12.5	16.2	8.3	8.3	1.4	0.3	1.2
18～29歳	51	64.7	33.3	35.3	11.8	17.6	25.5	5.9	11.8	7.8	23.5	11.8	15.7	2.0	-	-
30～39歳	72	44.4	41.7	34.7	18.1	18.1	20.8	11.1	16.7	9.7	18.1	12.5	19.4	-	-	1.4
40～49歳	95	52.6	32.6	40.0	23.2	13.7	21.1	7.4	22.1	6.3	18.9	8.4	8.4	2.1	-	1.1
50～59歳	99	45.5	27.3	36.4	19.2	18.2	15.2	4.0	32.3	16.2	13.1	6.1	8.1	2.0	1.0	1.0
60～69歳	136	62.5	26.5	27.2	23.5	22.8	21.3	5.1	36.8	19.1	17.6	10.3	2.2	1.5	0.7	0.7
70歳以上	194	64.4	26.3	24.2	15.5	28.4	18.6	12.9	29.4	10.8	12.9	5.7	6.2	1.0	-	2.1

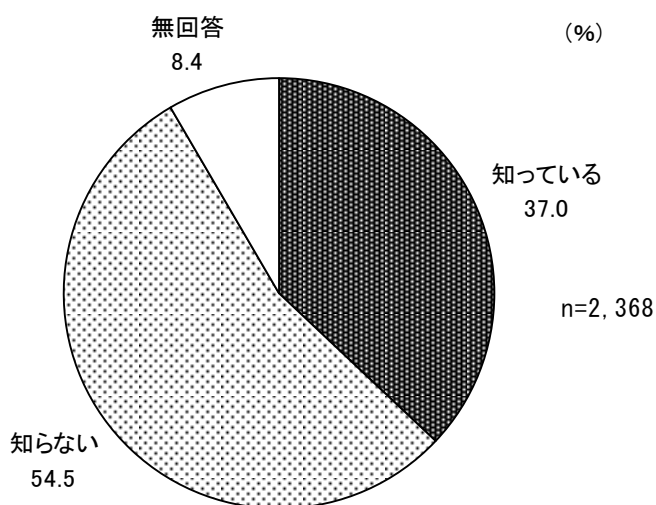
10. 平和事業について

(1) 越谷市の平和都市宣言の認知度

◇「知っている」が4割弱

問35. あなたは越谷市が平和都市宣言をしていることを知っていますか。(○は1つ)

図表 10-1-1 越谷市の平和都市宣言の認知度

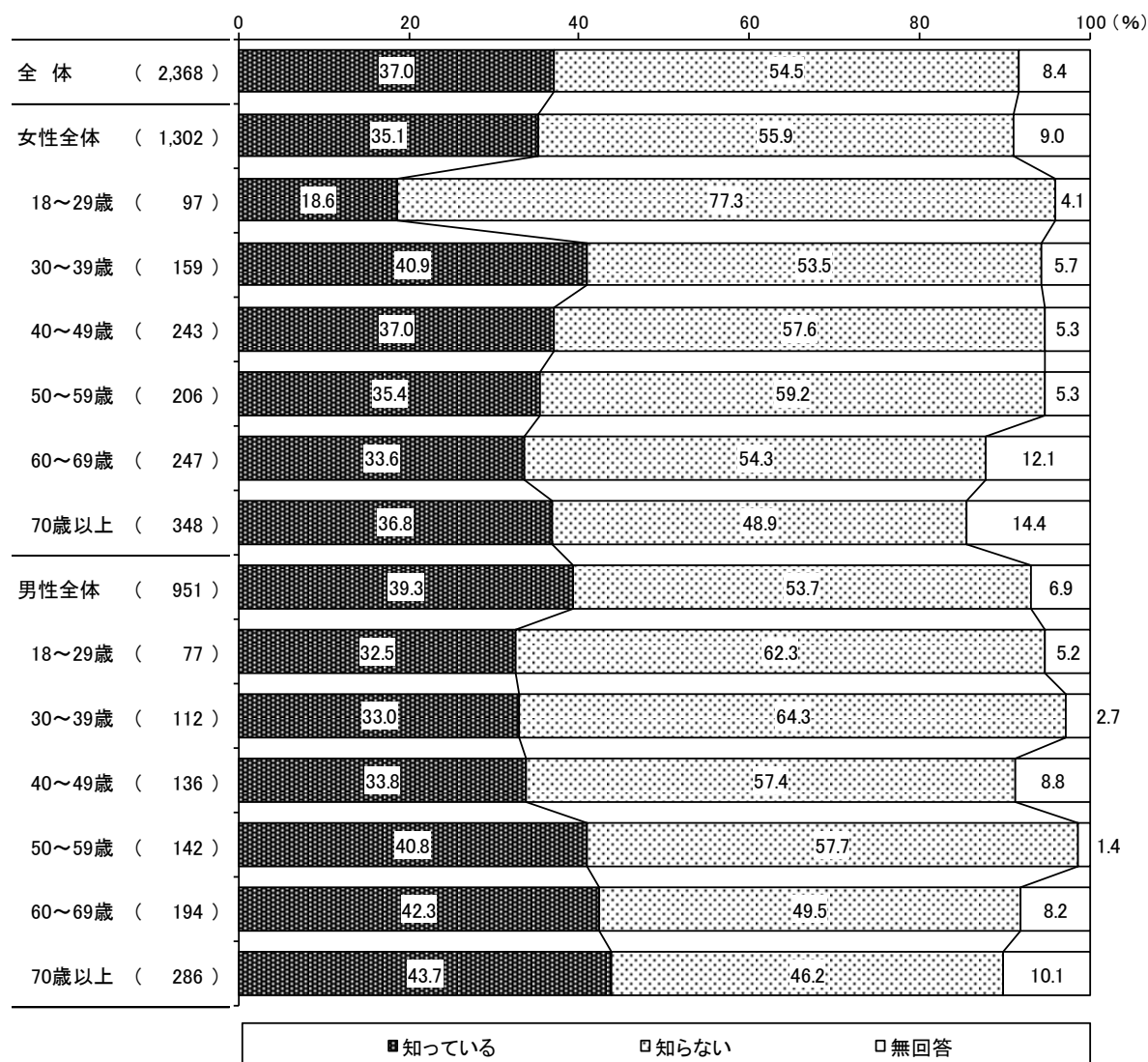


越谷市の平和都市宣言の認知度については、「知っている」(37.0%)が4割弱、「知らない」(54.5%)が5割半ばとなっている。

性別で見ると、「知っている」は男性（39.3%）が女性（35.1%）より4.2ポイント高くなっている。一方、「知らない」は女性（55.9%）が男性（53.7%）より2.2ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「知っている」は男性70歳以上（43.7%）で4割強と多くなっている。一方、「知らない」は女性18～29歳（77.3%）で8割弱、男性30～39歳（64.3%）で6割半ばと多くなっている。

図表 10-1-2 性・年齢別 越谷市の平和都市宣言の認知度

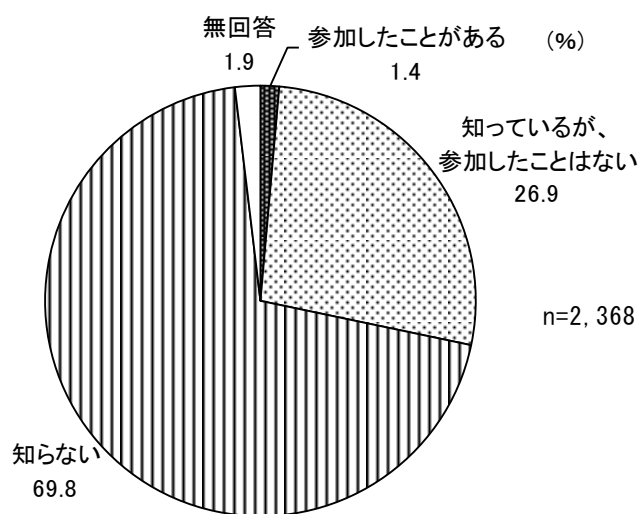


(2) 越谷市主催「平和フォーラム」の認知度

◇『知っている』が3割弱

問36. あなたは越谷市の主催による「平和フォーラム」を知っていますか。また、参加したことがありますか。(〇は1つ)

図表 10-2-1 越谷市主催「平和フォーラム」の認知度

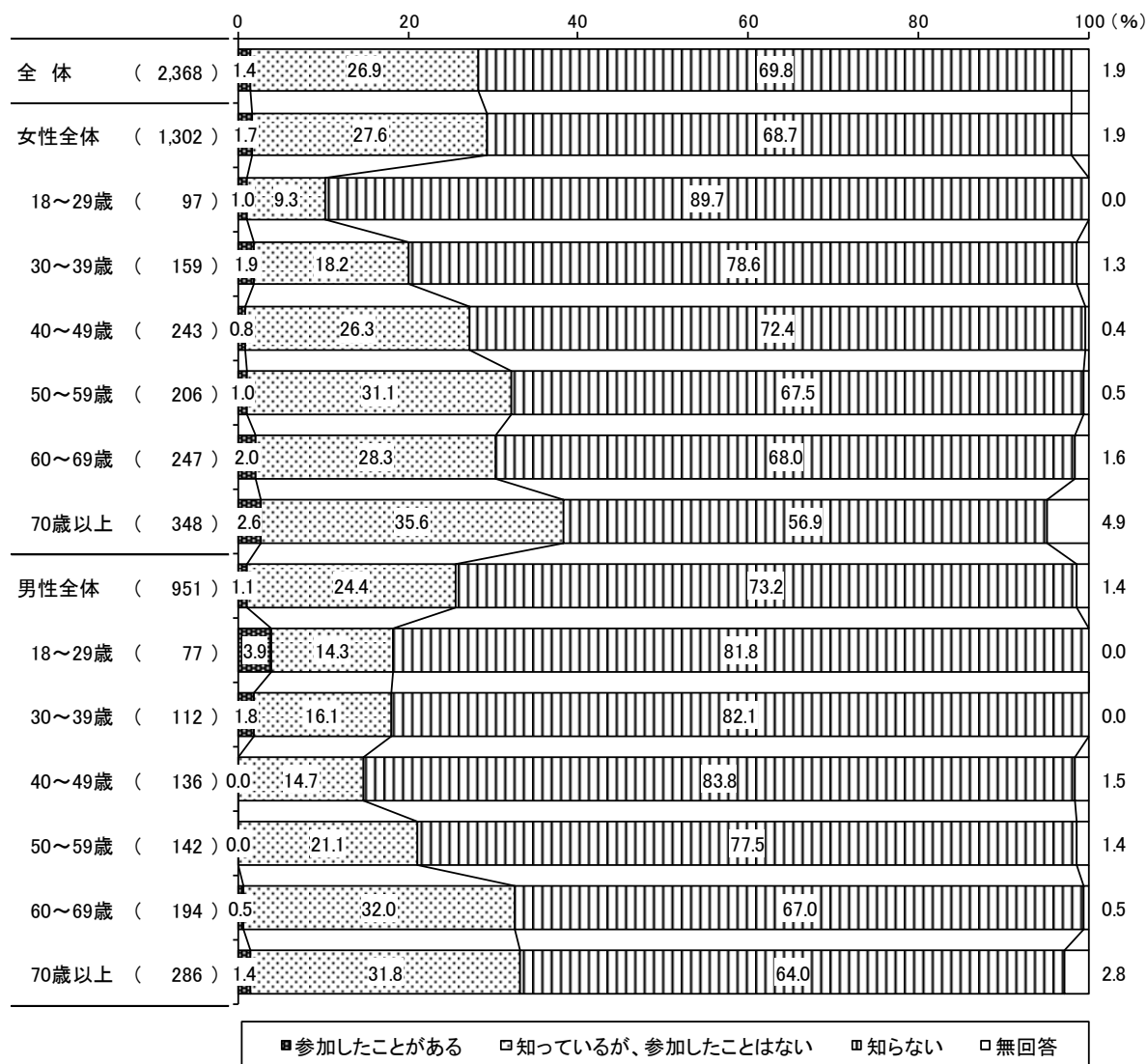


越谷市主催「平和フォーラム」の認知度については、「参加したことがある」(1.4%)と「知っているが、参加したことはない」(26.9%)を合わせた『知っている』(28.3%)は3割弱となっている。一方、「知らない」(69.8%)は約7割となっている。

性別で見ると、『知っている』は女性（29.3%）が男性（25.4%）より3.9ポイント高くなっている。一方、「知らない」は男性（73.2%）が女性（68.7%）より4.5ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、『知っている』は女性70歳以上（38.2%）で4割弱と多くなっている。一方、「知らない」は女性18～29歳（89.7%）で約9割、男性40～49歳（83.8%）、男性30～39歳（82.1%）、男性18～29歳（81.8%）で8割以上と多くなっている。

図表 10-2-2 性・年齢別 越谷市主催「平和フォーラム」の認知度

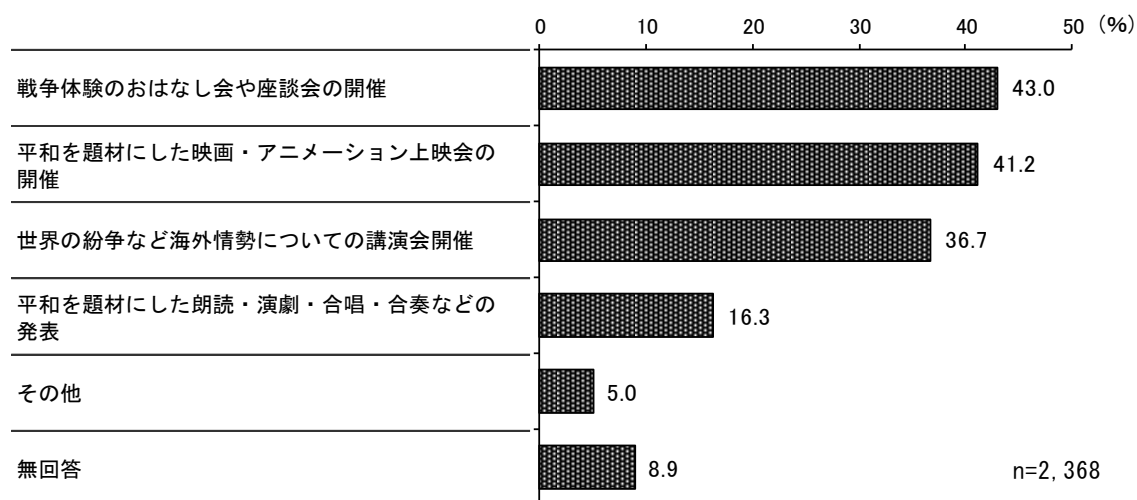


(3) 平和への意識を高めるために効果的な事業

◇「戦争体験のおはなし会や座談会の開催」が最も多く、4割強

問37. 越谷市では、「広島平和記念式典参加事業」や「平和フォーラム」を実施していますが、平和に対する意識を高めるためには、どのような事業が効果的だと思いますか。
(複数回答可)

図表 10-3-1 平和への意識を高めるために効果的な事業



平和への意識を高めるために効果的な事業については、「戦争体験のおはなし会や座談会の開催」(43.0%)が最も多く、次いで、「平和を題材にした映画・アニメーション上映会の開催」(41.2%)、「世界の紛争など海外情勢についての講演会開催」(36.7%)、「平和を題材にした朗読・演劇・合唱・合奏などの発表」(16.3%)の順となっている。また、「その他」として「学校での教育」「ドキュメンタリー映像や報道写真などのパネル展示」等が挙げられた。

性別でみると、「世界の紛争など海外情勢についての講演会開催」は男性（41.9%）が女性（32.3%）より9.6ポイント高くなっている。一方、「戦争体験のおはなし会や座談会の開催」は女性（45.7%）が男性（38.2%）より7.5ポイント、「平和を題材にした映画・アニメーション上映会の開催」は女性（44.7%）が男性（37.3%）より7.4ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「戦争体験のおはなし会や座談会の開催」は女性30～39歳（57.9%）で6割弱、女性40～49歳（48.6%）で5割弱と多くなっている。「平和を題材にした映画・アニメーション上映会の開催」は女性18～29歳（57.7%）、女性30～39歳（52.8%）、女性40～49歳（50.6%）、女性50～59歳（50.0%）で5割以上と多くなっている。「世界の紛争など海外情勢についての講演会開催」は男性50～59歳（54.2%）で5割半ば、男性70歳以上（42.3%）、男性60～69歳（41.8%）で4割以上と多くなっている。

図表 10-3-2 性・年齢別 平和への意識を高めるために効果的な事業

	調査数 (人)	戦争体験のおはなし会や座談会の開催	世界の紛争など海外情勢についての講演会開催	平和を題材にした映画・アニメーション上映会の開催	平和を題材にした朗読の発表	その他	無回答
全体	2,368	43.0	36.7	41.2	16.3	5.0	8.9
女性全体	1,302	45.7	32.3	44.7	18.6	4.0	8.6
18～29歳	97	45.4	27.8	57.7	13.4	8.2	3.1
30～39歳	159	57.9	27.0	52.8	20.1	3.8	1.3
40～49歳	243	48.6	26.7	50.6	21.0	4.5	2.9
50～59歳	206	46.1	39.3	50.0	18.4	3.9	4.9
60～69歳	247	40.1	36.4	41.3	19.4	3.2	10.9
70歳以上	348	42.0	32.5	32.8	17.2	3.2	18.1
男性全体	951	38.2	41.9	37.3	13.7	6.7	8.7
18～29歳	77	45.5	39.0	45.5	11.7	9.1	5.2
30～39歳	112	36.6	33.0	43.8	8.9	9.8	6.3
40～49歳	136	39.7	36.8	45.6	8.1	4.4	8.1
50～59歳	142	35.2	54.2	40.8	11.3	6.3	4.9
60～69歳	194	38.7	41.8	30.9	15.5	9.8	6.2
70歳以上	286	37.4	42.3	31.5	18.5	4.2	14.3

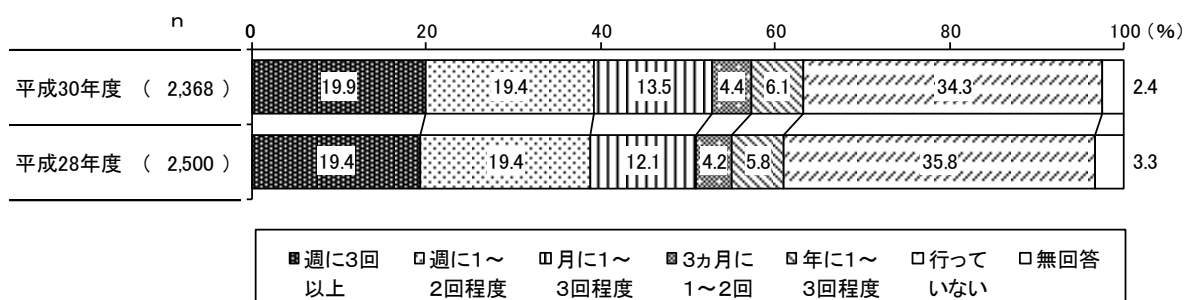
11. スポーツ・レクリエーションの実施状況について

(1) スポーツ・レクリエーション活動の実施状況

◇『週に1回以上』が約4割

問38. この1年間でどのくらいスポーツ・レクリエーション活動を行いましたか（ウォーキング・徒歩や軽い体操も含みます）。（○は1つ）

図表 11-1-1 スポーツ・レクリエーション活動の実施状況



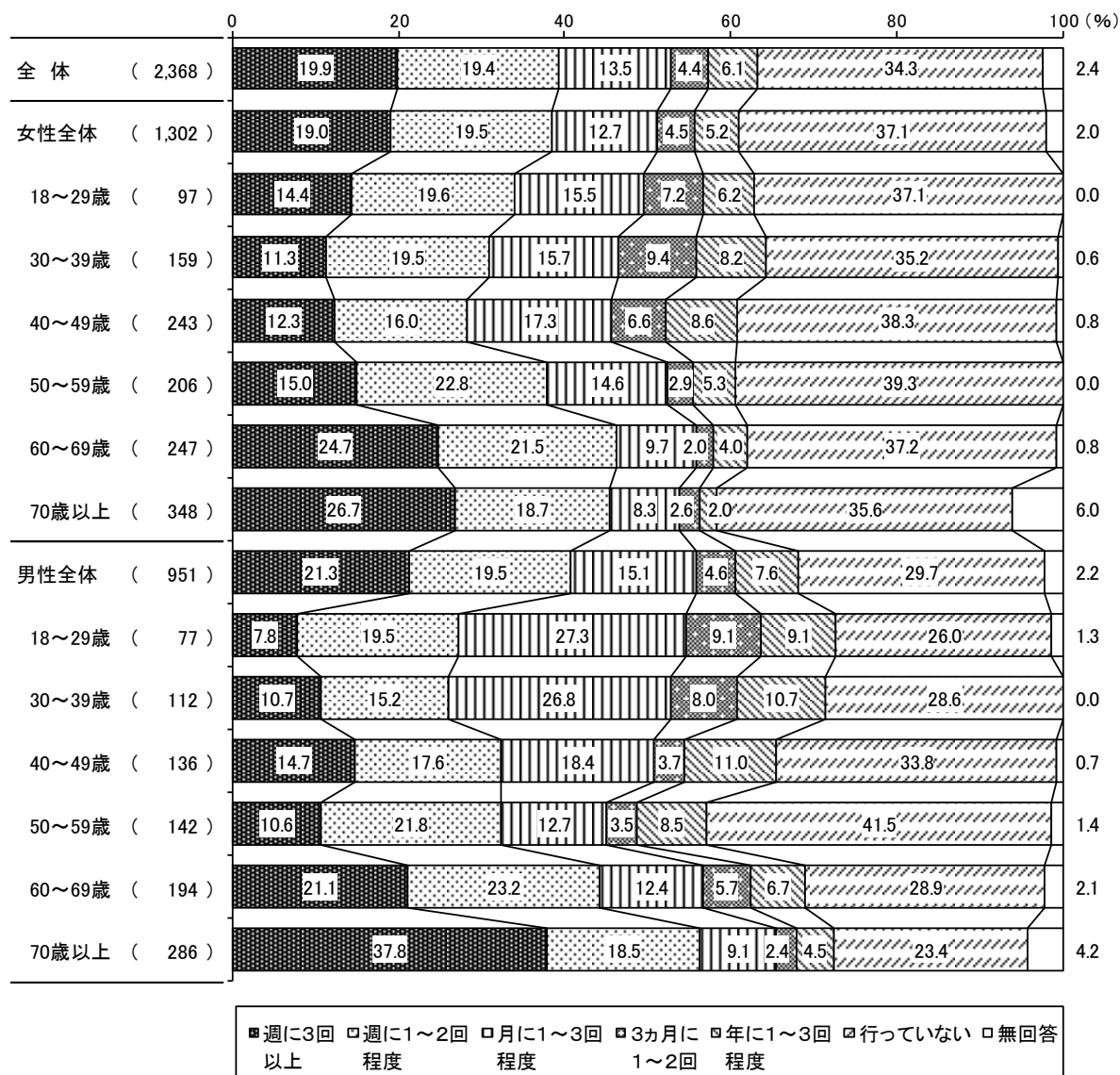
この1年間のスポーツ・レクリエーション活動の実施状況については、「週に3回以上」(19.9%)と「週に1~2回程度」(19.4%)を合わせた『週に1回以上』(39.3%)は約4割となっている。一方、「行っていない」(34.3%)は3割半ばとなっている。

前回の調査と比較すると、大きな差異はみられない。

性別で見ると、『週に1回以上』は男性(40.8%)が女性(38.6%)より2.2ポイント高くなっている。一方、「行っていない」は女性(37.1%)が男性(29.7%)より7.4ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「週に3回以上」は男性70歳以上(37.8%)で4割弱、女性70歳以上(26.7%)、女性60～69歳(24.7%)で2割半ばと多くなっている。一方、「行っていない」は男性50～59歳(41.5%)で約4割、女性50～59歳(39.3%)で約4割と多くなっている。

図表 11-1-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動の実施状況

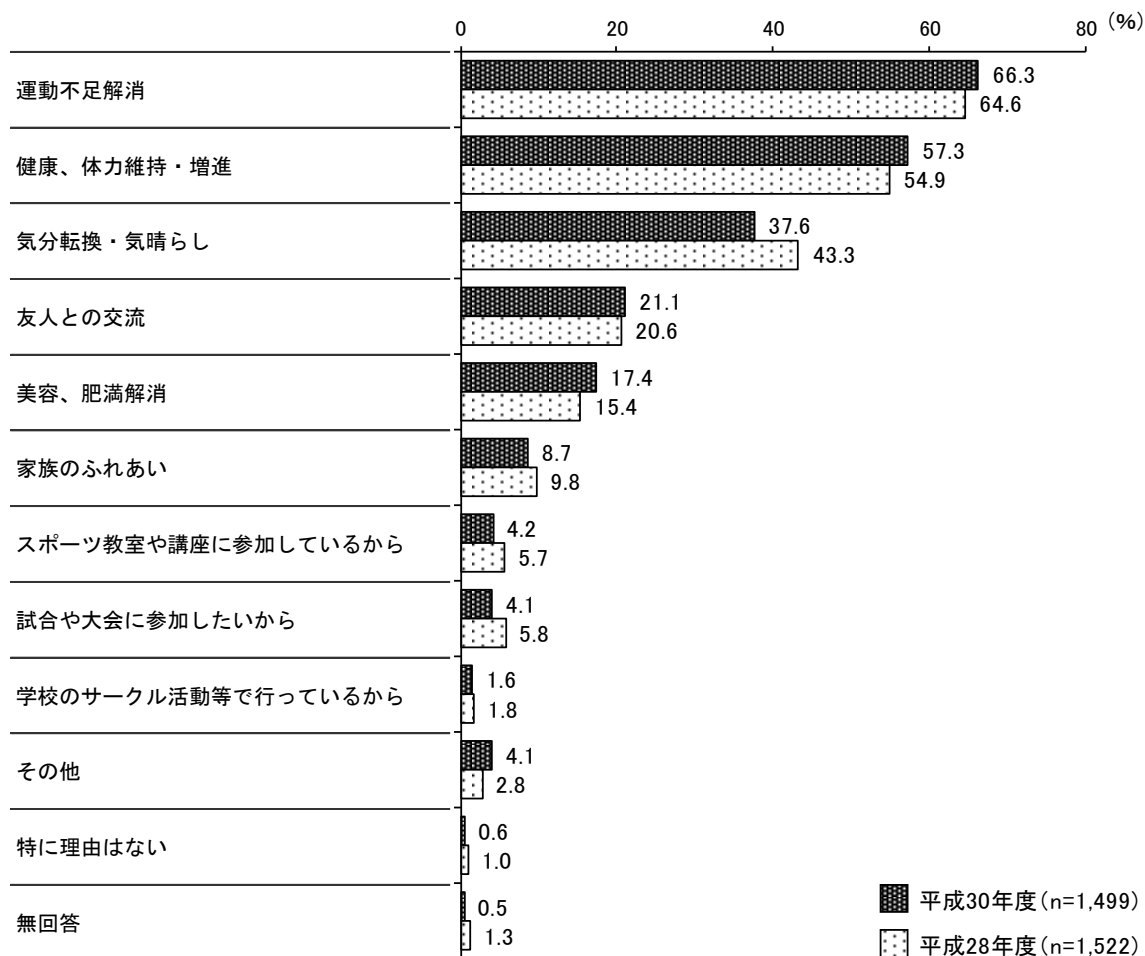


(2) スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由

◇「運動不足解消」が最も多く、6割半ば

問38-2. 問38で「1」から「5」のいずれかと答えた方に伺います。あなたがスポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

図表 11-2-1 スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由



この1年間でスポーツ・レクリエーション活動を行ったと回答した1,499人に、スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由を聞いたところ、「運動不足解消」(66.3%)が最も多く、次いで、「健康、体力維持・増進」(57.3%)、「気分転換・気晴らし」(37.6%)、「友人との交流」(21.1%)、「美容、肥満解消」(17.4%)の順となっている。また、「その他」として「リハビリ」「仕事上」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「気分転換・気晴らし」(37.6%)は平成28年度調査(43.3%)と比べ5.7ポイント減少している。

性別で見ると、「美容、肥満解消」は女性（23.5%）が男性（11.0%）より12.5ポイント高くなっている。一方、「気分転換・気晴らし」は男性（40.0%）が女性（35.9%）より4.1ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「運動不足解消」は女性60～69歳（75.8%）、男性70歳以上（73.9%）、男性60～69歳（71.6%）、女性50～59歳（71.2%）で7割以上と多くなっている。「健康、体力維持・増進」は男性70歳以上（72.0%）、女性70歳以上（71.9%）、女性60～69歳（70.6%）で7割以上と多くなっている。「気分転換・気晴らし」は女性18～29歳（62.3%）で6割強、男性18～29歳（55.4%）で5割半ばと多くなっている。「友人との交流」は女性70歳以上（36.9%）で3割半ばと多くなっている。

図表 11-2-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由

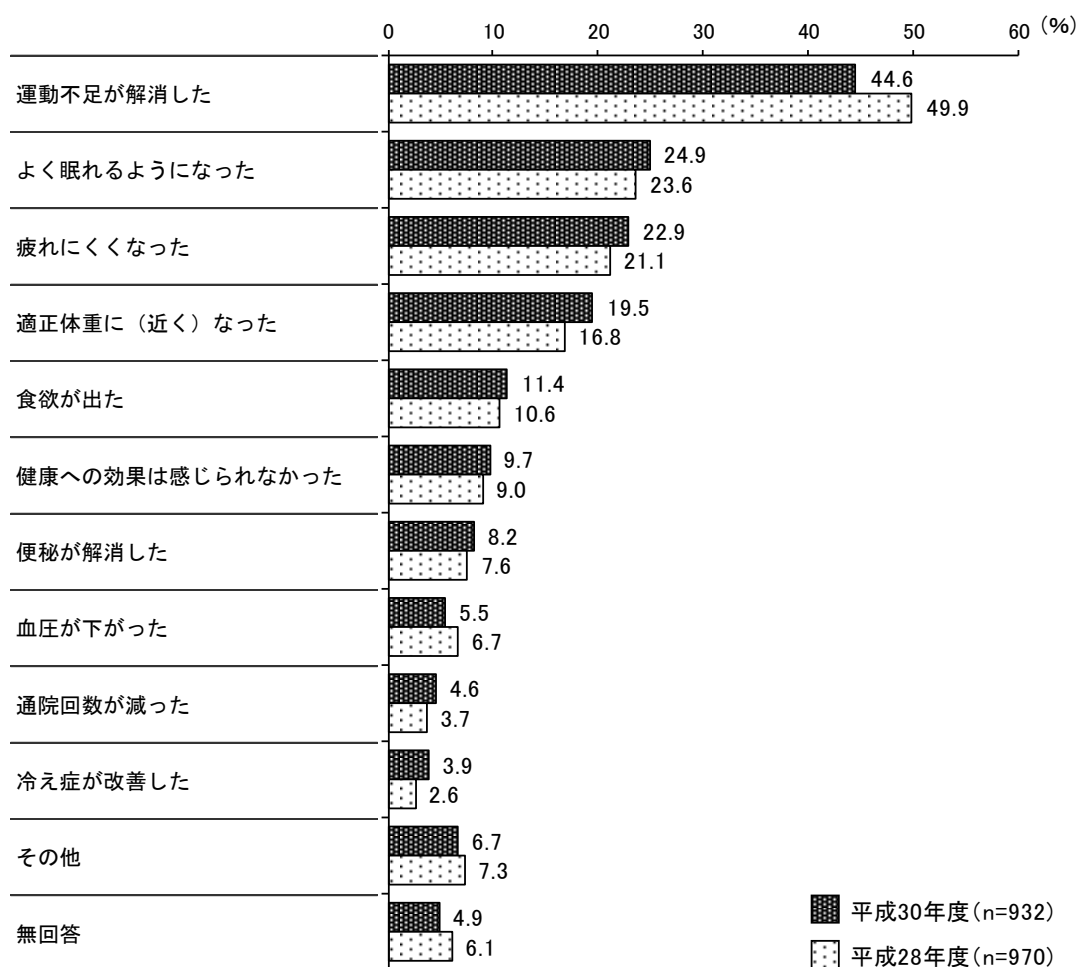
	調査数（人）	気分転換・気晴らし	運動不足解消	美容、肥満解消	家族のふれあい	友人との交流	健康、体力維持・増進	試合や大会に参加したいから	学校やサークル活動等で行っているから	スポーツ教室や講座に参加しているから	その他	特に理由はない	無回答
全体	1,499	37.6	66.3	17.4	8.7	21.1	57.3	4.1	1.6	4.2	4.1	0.6	0.5
女性全体	793	35.9	66.3	23.5	10.2	20.8	56.4	2.3	1.9	6.3	4.2	0.8	0.5
18～29歳	61	62.3	49.2	37.7	9.8	8.2	29.5	3.3	6.6	1.6	4.9	3.3	-
30～39歳	102	40.2	53.9	36.3	33.3	9.8	31.4	2.9	2.0	2.9	7.8	-	-
40～49歳	148	31.8	64.2	33.8	14.9	13.5	44.6	1.4	3.4	5.4	4.7	0.7	0.7
50～59歳	125	40.0	71.2	27.2	7.2	17.6	60.8	4.0	2.4	4.8	4.8	0.8	0.8
60～69歳	153	29.4	75.8	12.4	3.3	21.6	70.6	2.6	0.7	11.1	2.0	-	0.7
70歳以上	203	31.0	69.0	10.8	2.5	36.9	71.9	1.0	-	7.4	3.0	1.0	0.5
男性全体	648	40.0	66.0	11.0	7.6	20.8	58.5	6.5	1.1	2.0	3.9	0.5	0.6
18～29歳	56	55.4	58.9	8.9	5.4	25.0	42.9	7.1	8.9	-	3.6	-	-
30～39歳	80	41.3	66.3	16.3	20.0	18.8	41.3	6.3	1.3	1.3	2.5	-	-
40～49歳	89	40.4	47.2	13.5	24.7	18.0	46.1	9.0	-	3.4	4.5	2.2	-
50～59歳	81	43.2	61.7	21.0	2.5	24.7	48.1	8.6	-	2.5	7.4	-	-
60～69歳	134	41.8	71.6	10.4	2.2	20.1	68.7	6.0	-	0.7	3.7	0.7	0.7
70歳以上	207	32.4	73.9	4.8	1.4	20.8	72.0	4.8	0.5	2.9	2.9	-	1.4

(3) スポーツ・レクリエーション活動の効果

◇「運動不足が解消した」が最も多く、4割半ば

問38-3. 問38で「1」または「2」と答えた方に伺います。スポーツ・レクリエーション活動をしたことで、どのような効果がありましたか。(複数回答可)

図表 11-3-1 スポーツ・レクリエーション活動の効果



週に1回以上、スポーツ・レクリエーション活動を行ったと回答した932人に、スポーツ・レクリエーション活動の効果を聞いたところ、「運動不足が解消した」(44.6%)が最も多く、次いで、「よく眠れるようになった」(24.9%)、「疲れにくくなった」(22.9%)、「適正体重に(近く)なった」(19.5%)、「食欲が出た」(11.4%)の順となっている。また、「その他」として「ストレス解消」「仲間が増えた」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「運動不足が解消した」(44.6%)は平成28年度調査(49.9%)と比べ5.3ポイント減少している。

性別で見ると、「適正体重に（近く）なった」は男性（25.8%）が女性（15.1%）より10.7ポイント、「食欲が出た」は男性（15.7%）が女性（7.0%）より8.7ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「疲れにくくなった」は女性（24.7%）が男性（20.6%）より4.1ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「運動不足が解消した」は男性60～69歳（57.0%）で6割弱、男性40～49歳（56.8%）で5割半ばと多くなっている。「よく眠れるようになった」は男性40～49歳（31.8%）、女性70歳以上（31.0%）で約3割と多くなっている。「疲れにくくなった」は女性18～29歳（27.3%）、女性70歳以上（27.2%）で3割弱と多くなっている。「適正体重に（近く）なった」は男性60～69歳（32.6%）、男性40～49歳（31.8%）で3割以上と多くなっている。

図表 11-3-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動の効果

（%）

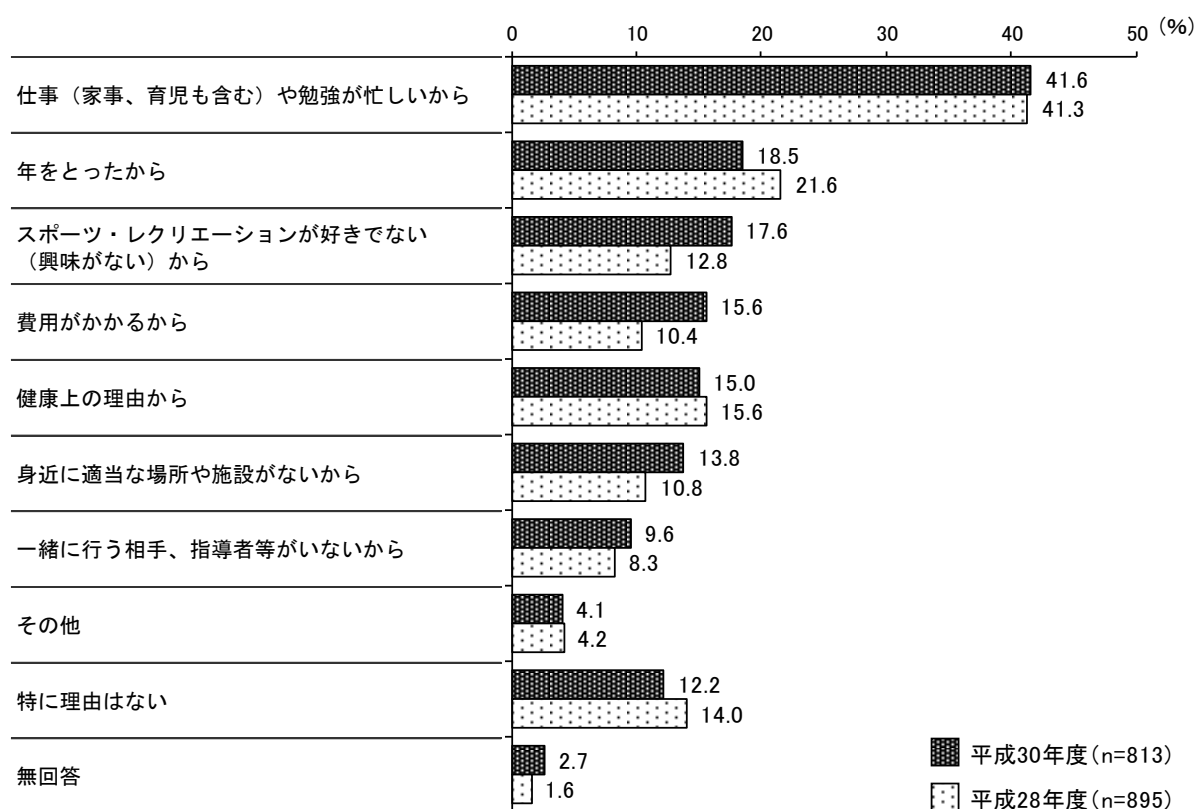
	調査数（人）	疲れにくくなった	冷え症が改善した	よく眠れるようになった	運動不足が解消した	通院回数が減った	適正体重に（近く）なった	血圧が下がった	食欲が出た	便秘が解消した	健康への効果は感じられなかった	その他	無回答
全 体	932	22.9	3.9	24.9	44.6	4.6	19.5	5.5	11.4	8.2	9.7	6.7	4.9
女性全体	502	24.7	5.4	24.9	41.8	4.4	15.1	3.2	7.0	9.4	11.6	7.0	5.0
18～29歳	33	27.3	-	24.2	33.3	-	18.2	-	3.0	12.1	15.2	3.0	-
30～39歳	49	20.4	6.1	16.3	42.9	-	16.3	-	4.1	8.2	16.3	8.2	8.2
40～49歳	69	24.6	1.4	20.3	42.0	1.4	17.4	1.4	1.4	10.1	18.8	5.8	1.4
50～59歳	78	21.8	9.0	20.5	37.2	7.7	19.2	2.6	6.4	6.4	10.3	9.0	-
60～69歳	114	23.7	7.9	25.4	43.9	3.5	11.4	4.4	4.4	9.6	9.6	8.8	8.8
70歳以上	158	27.2	4.4	31.0	44.3	7.0	13.9	5.1	13.3	10.1	8.2	5.7	6.3
男性全体	388	20.6	2.1	25.8	49.7	4.4	25.8	6.7	15.7	5.7	8.2	5.9	4.9
18～29歳	21	19.0	-	28.6	42.9	-	9.5	-	23.8	-	14.3	4.8	-
30～39歳	29	17.2	-	20.7	34.5	-	24.1	6.9	13.8	6.9	13.8	6.9	3.4
40～49歳	44	18.2	2.3	31.8	56.8	9.1	31.8	2.3	20.5	4.5	6.8	4.5	2.3
50～59歳	46	21.7	-	15.2	50.0	2.2	23.9	4.3	8.7	-	6.5	10.9	6.5
60～69歳	86	19.8	4.7	24.4	57.0	5.8	32.6	9.3	19.8	4.7	4.7	3.5	7.0
70歳以上	161	21.7	1.9	28.6	47.8	4.3	23.0	8.1	13.7	8.7	9.3	6.2	5.0

(4) スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由

◇「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」が最も多く、約4割

問38-4. 問38で「6」と答えた方に伺います。あなたが、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由は何ですか。（○は3つまで）

図表 11-4-1 スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由



この1年間にスポーツ・レクリエーション活動を「行っていない」と回答した813人に、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由を聞いたところ、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」（41.6%）が最も多く、次いで、「年をとったから」（18.5%）、「スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から」（17.6%）、「費用がかかるから」（15.6%）、「健康上の理由から」（15.0%）の順となっている。また、「その他」として「面倒だから」「機会がない」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「費用がかかるから」（15.6%）は平成28年度調査（10.4%）と比べ5.2ポイント増加している。

性別でみると、「費用がかかるから」は女性（18.2%）が男性（12.1%）より6.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」は女性30～39歳（80.4%）で約8割、男性40～49歳（63.0%）、男性30～39歳（62.5%）で6割強と多くなっている。「年をとったから」は女性70歳以上（47.6%）で5割弱、男性70歳以上（43.3%）で4割強と多くなっている。

「スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から」は男性60～69歳（39.3%）で約4割と多くなっている。「費用がかかるから」は女性18～29歳（33.3%）で3割強、女性40～49歳（28.0%）で3割弱と多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

図表 11-4-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由

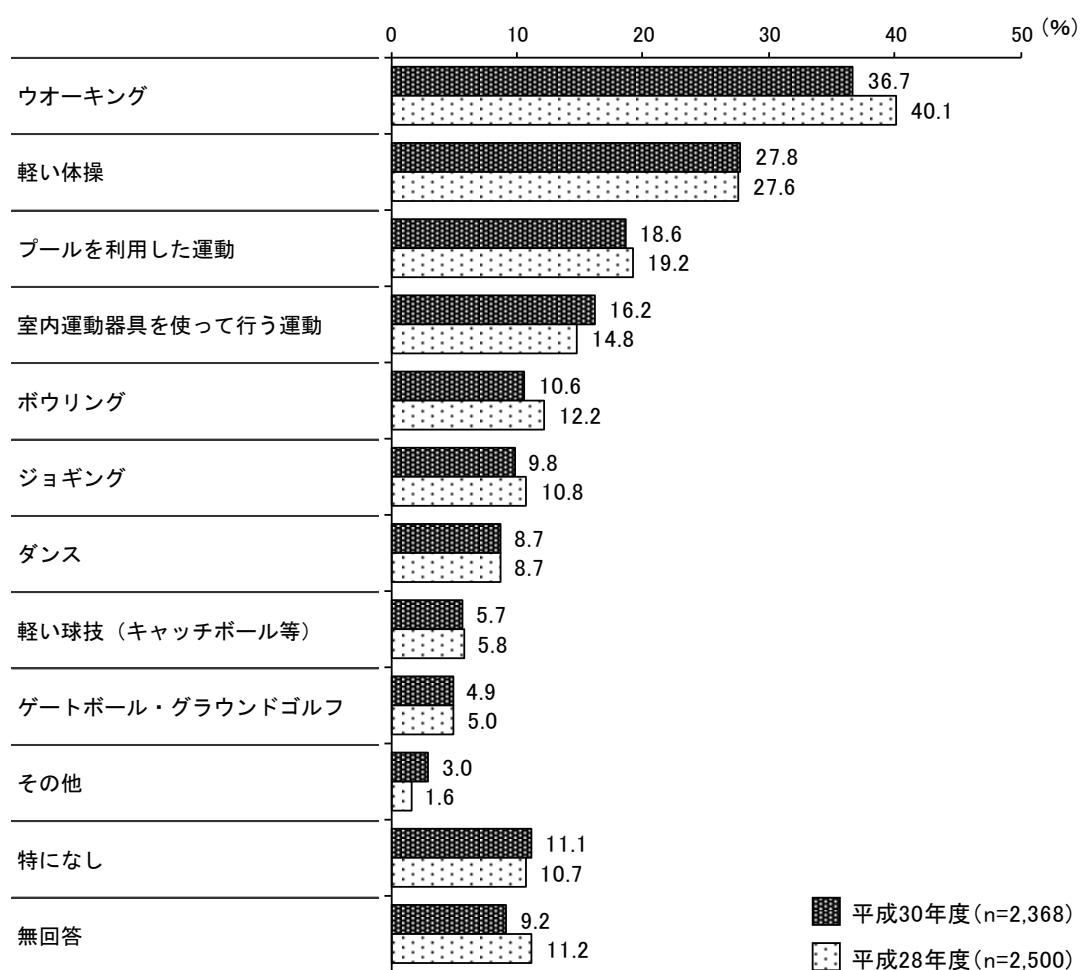
	調査数（人）	勉強が忙しいから（家事、育児も含む）や	仕事（家事、育児も含む）や	費用がかかるから	から身近に適切な場所や施設がない	健康上の理由から	一緒に相手、指導者等がい	年をとったから	好きでない（興味がない）から	スポーツ・レクリエーションが	その他	特に理由はない	無回答
全体	813	41.6	15.6	13.8	15.0	9.6	18.5	17.6	4.1	12.2	2.7		
女性全体	483	42.2	18.2	13.0	14.3	9.9	16.8	17.0	3.5	12.0	2.5		
18～29歳	36	50.0	33.3	19.4	-	16.7	-	25.0	5.6	16.7	5.6		
30～39歳	56	80.4	16.1	12.5	1.8	7.1	3.6	17.9	1.8	5.4	-		
40～49歳	93	59.1	28.0	9.7	3.2	14.0	2.2	22.6	2.2	11.8	-		
50～59歳	81	46.9	21.0	23.5	9.9	14.8	4.9	18.5	1.2	11.1	-		
60～69歳	92	29.3	15.2	13.0	25.0	7.6	15.2	12.0	3.3	19.6	-		
70歳以上	124	16.9	8.1	7.3	27.4	4.8	47.6	12.1	5.6	8.9	8.1		
男性全体	282	41.8	12.1	14.2	14.9	9.2	19.5	18.8	5.0	13.5	1.8		
18～29歳	20	50.0	15.0	20.0	-	5.0	-	20.0	5.0	20.0	-		
30～39歳	32	62.5	18.8	31.3	6.3	6.3	3.1	25.0	3.1	9.4	-		
40～49歳	46	63.0	19.6	13.0	4.3	10.9	2.2	13.0	-	8.7	2.2		
50～59歳	59	59.3	15.3	10.2	8.5	8.5	15.3	10.2	6.8	18.6	-		
60～69歳	56	32.1	5.4	10.7	14.3	7.1	26.8	39.3	3.6	10.7	5.4		
70歳以上	67	9.0	6.0	11.9	37.3	13.4	43.3	9.0	7.5	13.4	1.5		

(5) 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動（比較的軽いスポーツ）

◇「ウオーキング」が最も多く、3割半ば

問39. 皆さんに伺います。今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。（複数回答可）（比較的軽いスポーツ）

図表 11-5-1 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動
-比較的軽いスポーツ-



今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動（比較的軽いスポーツ）については、「ウオーキング」(36.7%) が最も多く、次いで、「軽い体操」(27.8%)、「プールを利用した運動」(18.6%)、「室内運動器具を使って行う運動」(16.2%)、「ボウリング」(10.6%) の順となっている。また、「その他」として「ヨガ」「太極拳」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「ウオーキング」(36.7%) は平成 28 年度調査 (40.1%) と比べ 3.4 ポイント減少している。

性別で見ると、「軽い体操」は女性（32.8%）が男性（19.2%）より13.6ポイント、「ダンス」は女性（12.2%）が男性（4.3%）より7.9ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「ジョギング」は男性（14.3%）が女性（7.0%）より7.3ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「ウォーキング」は男性60～69歳（46.9%）、男性70歳以上（44.8%）で4割半ばと多くなっている。「軽い体操」は女性70歳以上（43.1%）で4割強、女性60～69歳（40.1%）で約4割と多くなっている。「プールを利用した運動」は女性18～29歳（38.1%）で4割弱、女性30～39歳（34.6%）で3割半ばと多くなっている。「室内運動器具を使って行う運動」は女性30～39歳（23.9%）で2割強と多くなっている。「ボウリング」は男性18～29歳（29.9%）で約3割と多くなっている。

図表 11-5-2 性・年齢別 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動
—比較的軽いスポーツ—

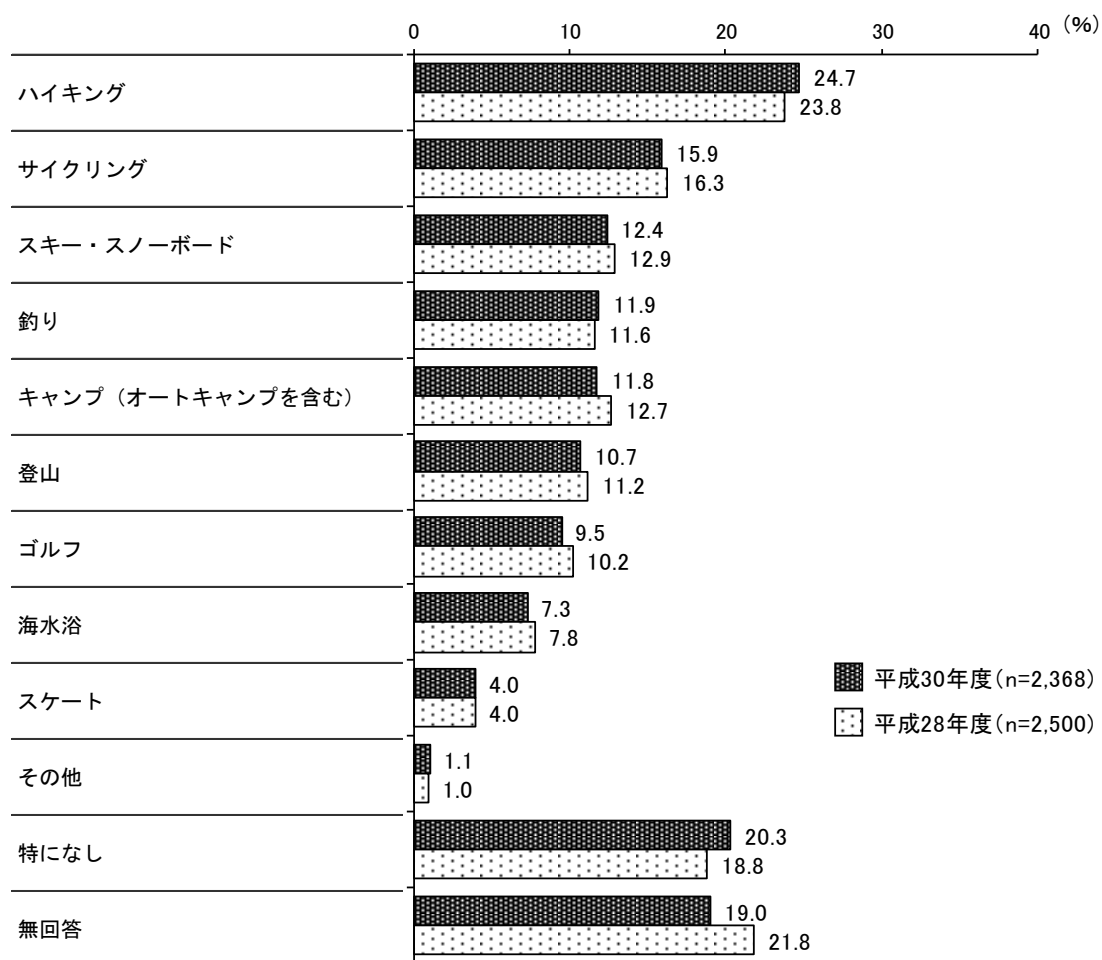
	調査数（人）	軽い体操	軽い球技（キャッチボール等）	ウォーキング	ジョギング	ゲートボール・グラウンドゴルフ	ボウリング	プールを利用した運動	ダンス	室内運動器具を使って行う運動	その他	特になし	無回答
全体	2,368	27.8	5.7	36.7	9.8	4.9	10.6	18.6	8.7	16.2	3.0	11.1	9.2
女性全体	1,302	32.8	3.5	36.6	7.0	2.5	9.4	21.0	12.2	18.4	3.8	10.4	9.2
18～29歳	97	17.5	7.2	26.8	14.4	5.2	13.4	38.1	22.7	20.6	3.1	11.3	5.2
30～39歳	159	25.2	11.3	38.4	12.6	-	7.5	34.6	16.4	23.9	3.8	4.4	9.4
40～49歳	243	25.9	5.3	34.6	11.1	1.2	13.6	25.9	17.7	17.7	5.3	9.1	7.8
50～59歳	206	28.2	1.9	42.7	6.8	0.5	11.2	24.8	8.7	20.4	5.3	7.3	4.4
60～69歳	247	40.1	0.4	41.3	2.8	2.0	10.9	14.6	10.9	19.0	2.4	13.0	6.1
70歳以上	348	43.1	0.9	33.0	2.6	5.5	4.3	8.9	6.6	14.4	2.9	13.2	16.4
男性全体	951	19.2	8.8	37.6	14.3	7.9	12.2	16.1	4.3	13.7	1.9	12.1	9.6
18～29歳	77	7.8	32.5	18.2	20.8	9.1	29.9	15.6	10.4	9.1	1.3	6.5	16.9
30～39歳	112	10.7	8.9	26.8	27.7	7.1	17.0	25.0	9.8	17.9	1.8	7.1	8.0
40～49歳	136	12.5	13.2	28.7	19.1	3.7	12.5	21.3	5.1	12.5	2.2	15.4	11.0
50～59歳	142	9.9	7.0	38.0	20.4	1.4	12.7	16.9	2.8	19.7	0.7	12.0	12.7
60～69歳	194	21.6	5.7	46.9	9.3	9.3	11.9	17.0	3.1	12.9	1.5	12.9	5.2
70歳以上	286	32.2	3.5	44.8	5.6	12.2	5.6	9.4	1.7	11.5	2.8	13.3	8.7

(6) 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動（野外活動）

◇「ハイキング」が最も多く、2割半ば

問39. 皆さんに伺います。今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。（複数回答可）（野外活動）

図表 11-6-1 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動
— 野外活動 —



今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動（野外活動）については、「ハイキング」(24.7%)が最も多く、次いで、「サイクリング」(15.9%)、「スキー・スノーボード」(12.4%)、「釣り」(11.9%)、「キャンプ（オートキャンプを含む）」(11.8%)の順となっている。また、「その他」として「スキューバダイビング」「スカイダイビング」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられない。

性別で見ると、「釣り」は男性(19.7%)が女性(6.2%)より13.5ポイント、「ゴルフ」は男性(15.5%)が女性(5.3%)より10.2ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別で見ると、「ハイキング」は女性60～69歳(36.4%)、女性50～59歳(32.5%)、男性60～69歳(32.0%)、男性50～59歳(31.0%)で3割以上と多くなっている。「サイクリング」は男性40～49歳(26.5%)、女性30～39歳(24.5%)で2割半ばと多くなっている。「スキー・スノーボード」は男性18～29歳(48.1%)で5割弱、女性30～39歳(30.8%)、男性30～39歳(29.5%)で約3割と多くなっている。

図表 11-6-2 性・年齢別 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動
— 野外活動 —

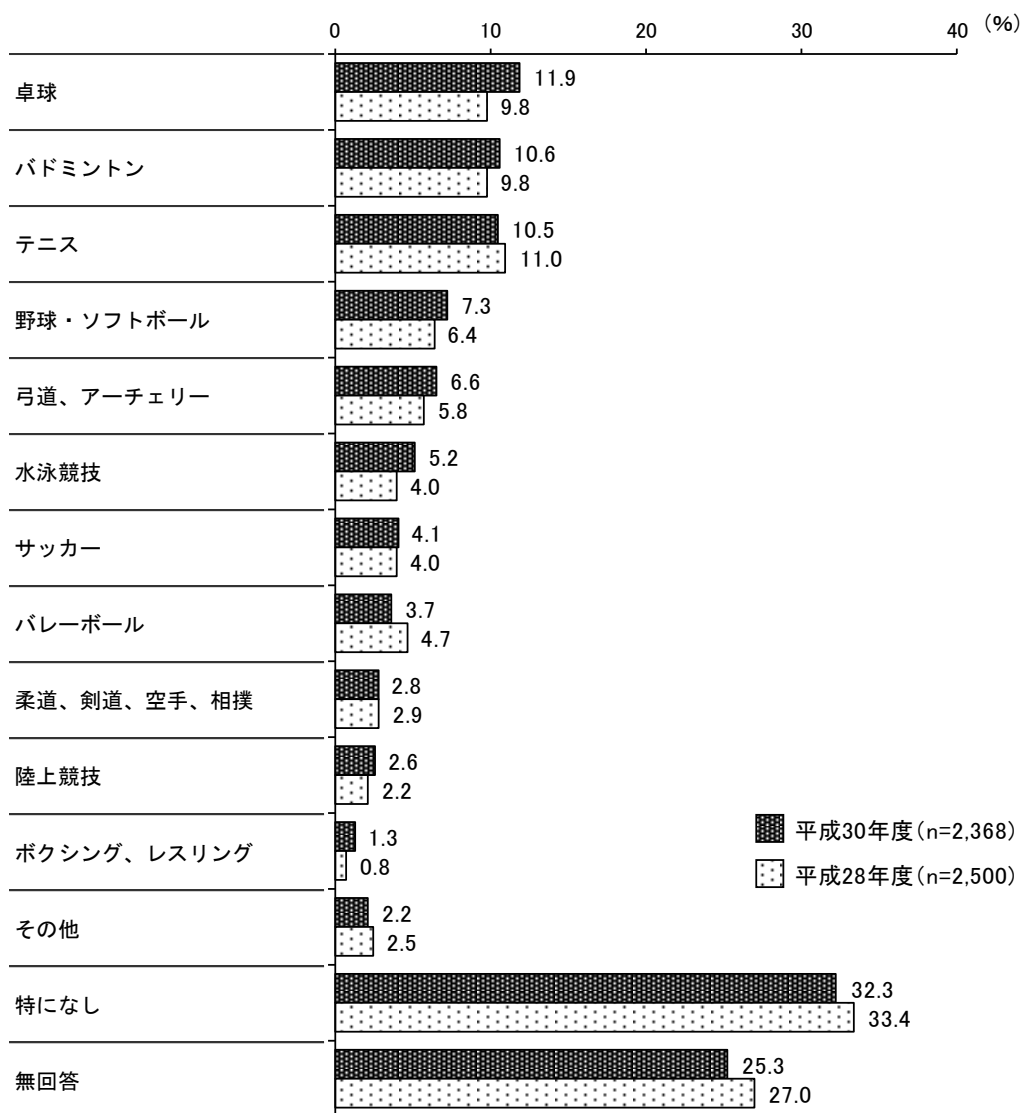
	調査数(人)	スキー・スノーボード	海水浴	スケート	登山	キャンプ(含む)	ハイキング	サイクリング	ゴルフ	釣り	その他	特になし	無回答
全体	2,368	12.4	7.3	4.0	10.7	11.8	24.7	15.9	9.5	11.9	1.1	20.3	19.0
女性全体	1,302	10.9	6.6	4.8	9.9	10.7	26.0	14.8	5.3	6.2	1.0	22.0	22.1
18～29歳	97	28.9	17.5	14.4	10.3	16.5	14.4	19.6	10.3	15.5	2.1	16.5	7.2
30～39歳	159	30.8	17.6	13.2	17.0	28.3	22.0	24.5	6.9	13.8	1.3	8.2	13.2
40～49歳	243	18.1	9.5	6.2	13.6	18.1	22.2	20.6	6.2	7.4	1.6	17.3	15.6
50～59歳	206	5.8	4.9	3.9	11.2	9.7	32.5	19.9	9.2	4.9	1.5	16.0	16.5
60～69歳	247	2.8	2.0	2.0	7.7	3.6	36.4	10.1	2.8	3.2	0.4	31.6	19.8
70歳以上	348	0.6	0.9	-	4.9	1.4	22.4	5.5	2.0	2.3	0.3	29.3	39.9
男性全体	951	15.1	8.5	2.9	12.6	14.0	23.9	17.6	15.5	19.7	1.1	17.6	14.2
18～29歳	77	48.1	22.1	7.8	22.1	26.0	10.4	22.1	16.9	22.1	-	7.8	10.4
30～39歳	112	29.5	19.6	7.1	20.5	26.8	18.8	21.4	14.3	19.6	1.8	9.8	11.6
40～49歳	136	21.3	14.0	2.2	18.4	22.1	16.2	26.5	15.4	19.9	0.7	16.2	8.1
50～59歳	142	16.9	9.2	4.2	16.9	18.3	31.0	20.4	12.0	23.9	2.1	14.8	9.9
60～69歳	194	8.2	4.1	2.1	9.3	11.3	32.0	18.6	23.2	22.7	-	17.5	10.3
70歳以上	286	1.7	0.7	0.3	4.5	1.7	24.5	8.7	12.2	15.0	1.4	25.2	23.1

(7) 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動（競技的スポーツ）

◇「卓球」「バドミントン」「テニス」が約1割

問39. 皆さんに伺います。今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。（複数回答可）（競技的スポーツ）

図表 11-7-1 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動
— 競技的スポーツ —



今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動（競技的スポーツ）については、「卓球」（11.9%）が最も多く、次いで、「バドミントン」（10.6%）、「テニス」（10.5%）、「野球・ソフトボール」（7.3%）、「弓道、アーチェリー」（6.6%）の順となっている。また、「その他」として「バスケットボール」「フットサル」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられない。

性別で見ると、「野球・ソフトボール」は男性（13.8%）が女性（2.4%）より11.4ポイント、「サッカー」は男性（8.5%）が女性（1.2%）より7.3ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「バドミントン」は女性（12.7%）が男性（8.4%）より4.3ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「卓球」は男性18～29歳（20.8%）で約2割、女性50～59歳（17.0%）で2割弱と多くなっている。「バドミントン」は男性18～29歳（32.5%）で3割強、女性18～29歳（25.8%）、女性30～39歳（25.2%）で2割半ばと多くなっている。「テニス」は男性18～29歳（29.9%）で約3割、女性30～39歳（21.4%）で約2割と多くなっている。

図表 11-7-2 性・年齢別 今後、行ってみたいスポーツ・レクリエーション活動
—競技的スポーツ—

	調査数（人）	陸上競技	水泳競技	野球・ソフトボール	サッカー	バレーボール	バドミントン	テニス	卓球	柔道、剣道、空手、相撲	ボクシング、レスリング	弓道、アーチェリー	その他	特になし	無回答
全体	2,368	2.6	5.2	7.3	4.1	3.7	10.6	10.5	11.9	2.8	1.3	6.6	2.2	32.3	25.3
女性全体	1,302	1.2	5.5	2.4	1.2	4.3	12.7	10.5	11.8	1.7	1.4	6.9	1.4	33.2	27.3
18～29歳	97	3.1	12.4	2.1	5.2	10.3	25.8	15.5	10.3	3.1	3.1	10.3	3.1	22.7	17.5
30～39歳	159	3.1	11.3	7.5	3.8	8.2	25.2	21.4	10.1	3.1	2.5	8.8	2.5	16.4	24.5
40～49歳	243	0.8	7.8	3.3	0.4	6.2	16.9	18.9	11.5	4.1	1.2	12.3	2.1	25.9	21.0
50～59歳	206	1.5	3.9	2.9	1.0	3.9	13.6	11.2	17.0	1.9	2.9	10.2	1.5	29.6	21.4
60～69歳	247	0.8	3.2	-	0.4	3.2	9.7	6.5	12.1	-	0.8	4.5	0.4	44.9	23.1
70歳以上	348	0.3	2.0	0.9	-	0.6	2.0	0.9	9.8	-	-	1.1	0.6	42.2	42.5
男性全体	951	4.7	4.9	13.8	8.5	3.4	8.4	11.0	12.3	4.3	1.3	6.0	3.2	31.4	21.2
18～29歳	77	10.4	9.1	23.4	23.4	15.6	32.5	29.9	20.8	6.5	1.3	16.9	3.9	7.8	6.5
30～39歳	112	8.0	10.7	15.2	22.3	6.3	12.5	16.1	11.6	7.1	2.7	8.9	7.1	17.0	13.4
40～49歳	136	6.6	8.1	19.1	12.5	4.4	8.8	16.9	14.0	3.7	2.2	4.4	3.7	27.9	14.7
50～59歳	142	4.2	3.5	16.9	7.7	2.8	6.3	13.4	9.9	5.6	0.7	7.0	5.6	31.7	16.2
60～69歳	194	5.7	3.1	13.9	5.2	1.5	6.7	6.7	11.3	4.1	1.0	4.6	1.0	37.1	19.6
70歳以上	286	0.7	2.1	6.6	-	-	2.4	3.1	11.5	2.4	0.7	3.1	1.4	41.3	34.3

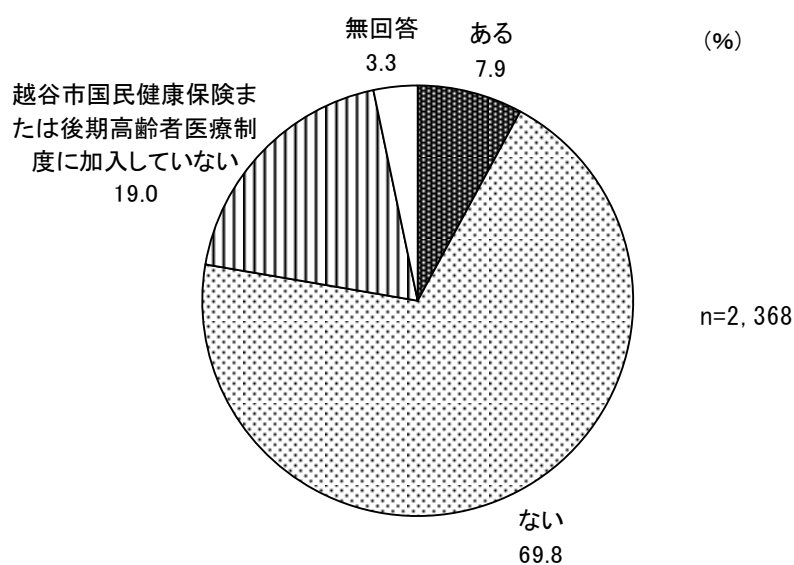
12. 保健事業について

(1) 越谷市契約保養所の宿泊助成を受けたことの有無

◇「ある」が1割弱

問40. 越谷市では、越谷市国民健康保険及び後期高齢者医療制度加入者を対象に、健康の保持増進を図ることを目的として、契約保養所の宿泊費用の一部（大人2,500円、小人1,500円）を助成しています。あなたはこの助成を受けましたことがありますか。（○は1つ）

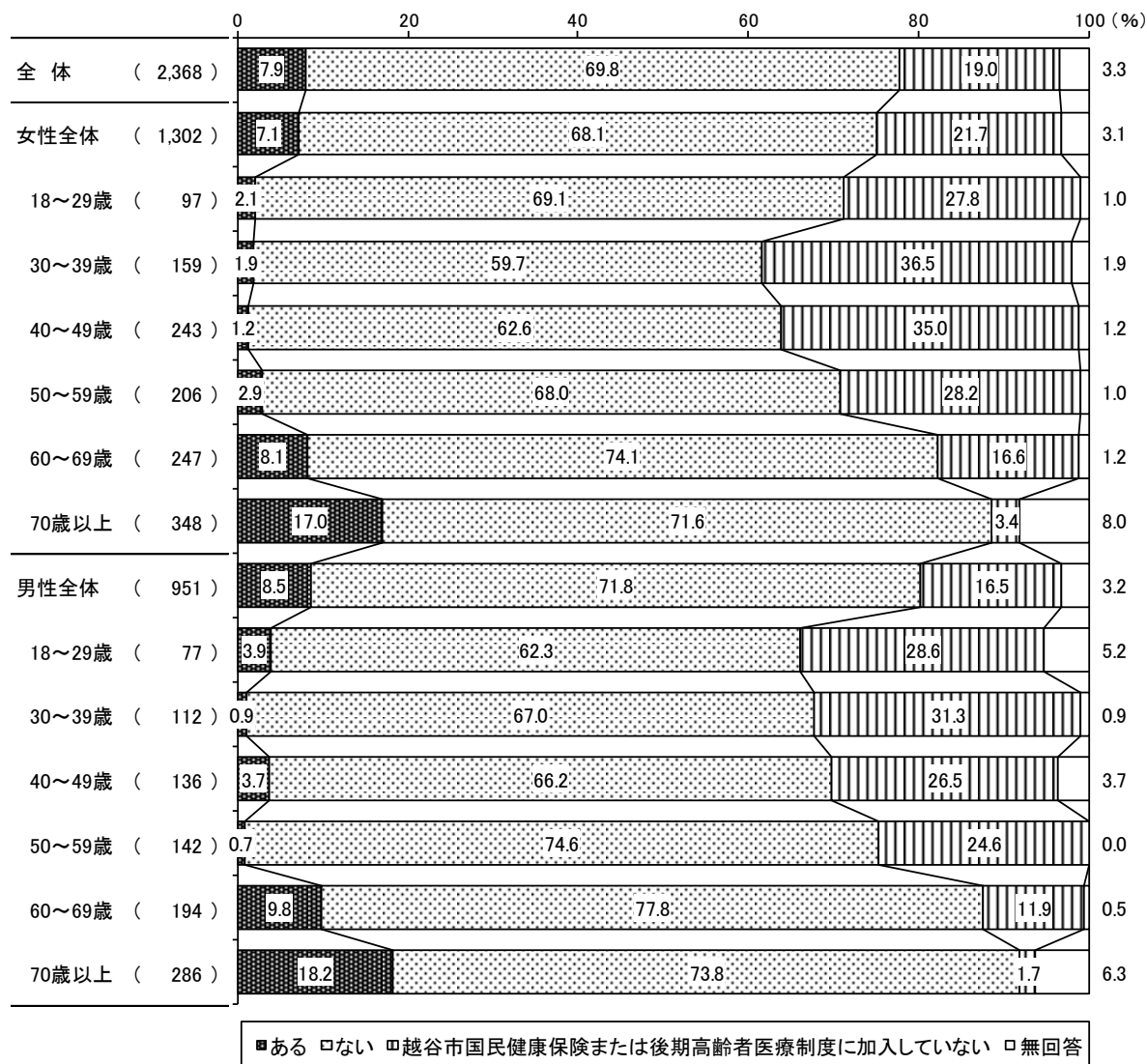
図表 12-1-1 越谷市契約保養所の宿泊助成を受けたことの有無



越谷市契約保養所の宿泊助成を受けたことの有無については、「ある」(7.9%)が1割弱、「ない」(69.8%)が約7割となっている。また、「越谷市国民健康保険または後期高齢者医療制度に加入していない」(19.0%)が約2割となっている。

性別で見ると、「ある」は男性（8.5%）が女性（7.1%）より1.4ポイント高くなっている。
 性・年齢別で見ると、「ある」は男性70歳以上（18.2%）、女性70歳以上（17.0%）で2割弱と多くなっている。

図表 12-1-2 性・年齢別 越谷市契約保養所の宿泊助成を受けたことの有無

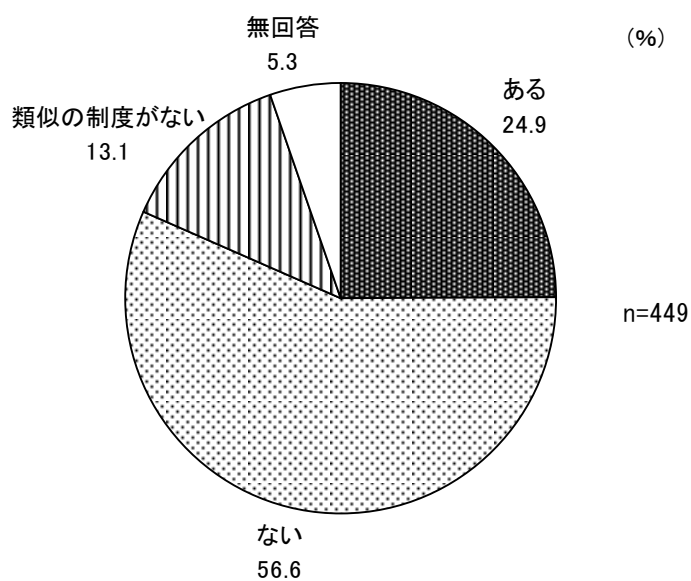


(2) 加入健康保険等で助成を受けたことの有無

◇「ある」が2割半ば

問41. 問40で「3（越谷市国民健康保険または後期高齢者医療制度に加入していない）」と答えた方に伺います。あなたが加入している健康保険等で、類似の助成を受けたことがありますか。（○は1つ）

図表 12-2-1 加入健康保険等で助成を受けたことの有無

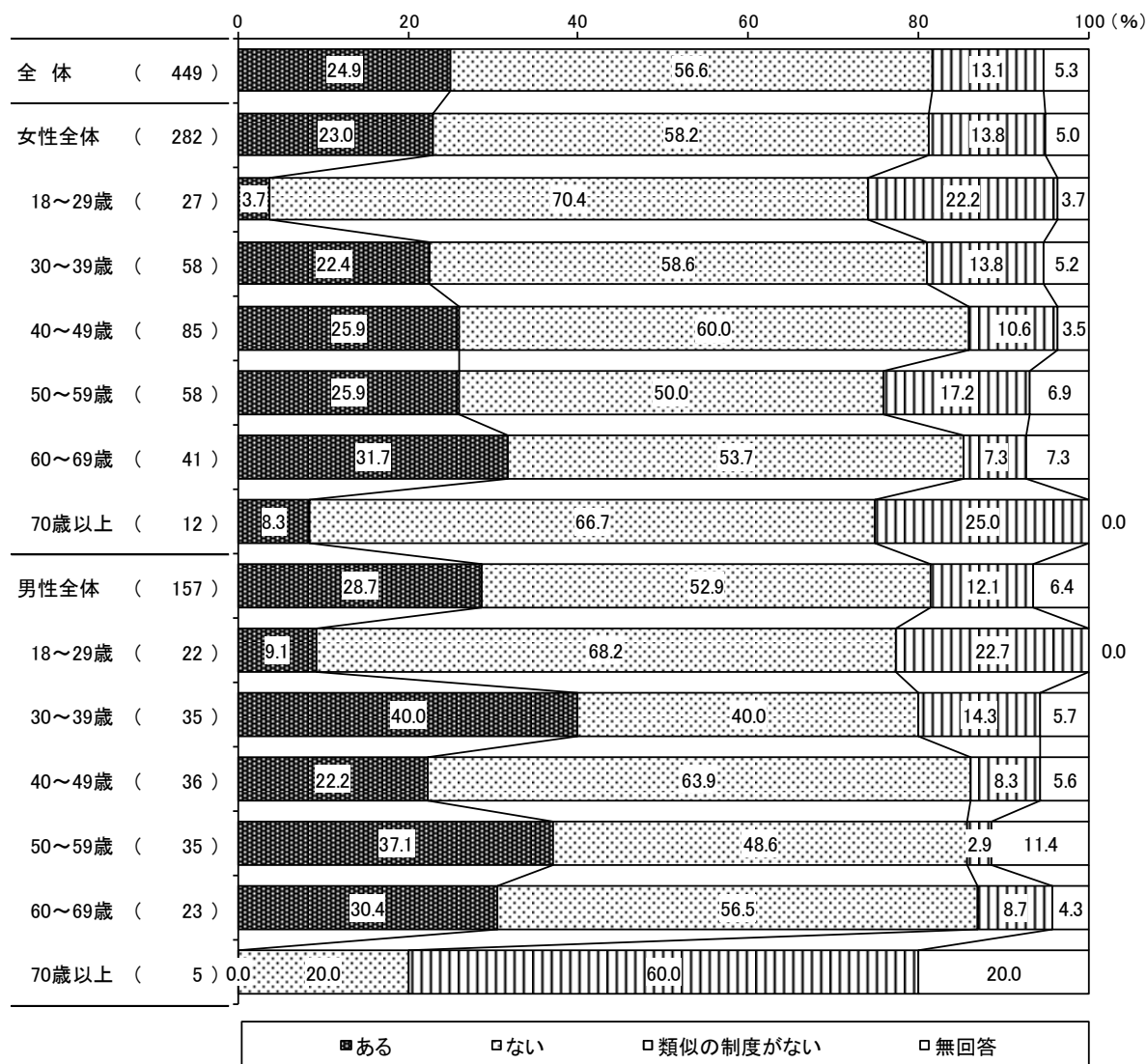


加入健康保険等で助成を受けたことの有無については、「ある」(24.9%)が2割半ば、「ない」(56.6%)が5割半ばとなっている。また、「類似の制度がない」(13.1%)は1割強となっている。

性別で見ると、「ある」は男性（28.7%）が女性（23.0%）より5.7ポイント高くなっている。
 性・年齢別で見ると、「ある」は男性30～39歳（40.0%）で4割、女性60～69歳（31.7%）で約3割と多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

図表 12-2-2 性・年齢別 加入健康保険等で助成を受けたことの有無

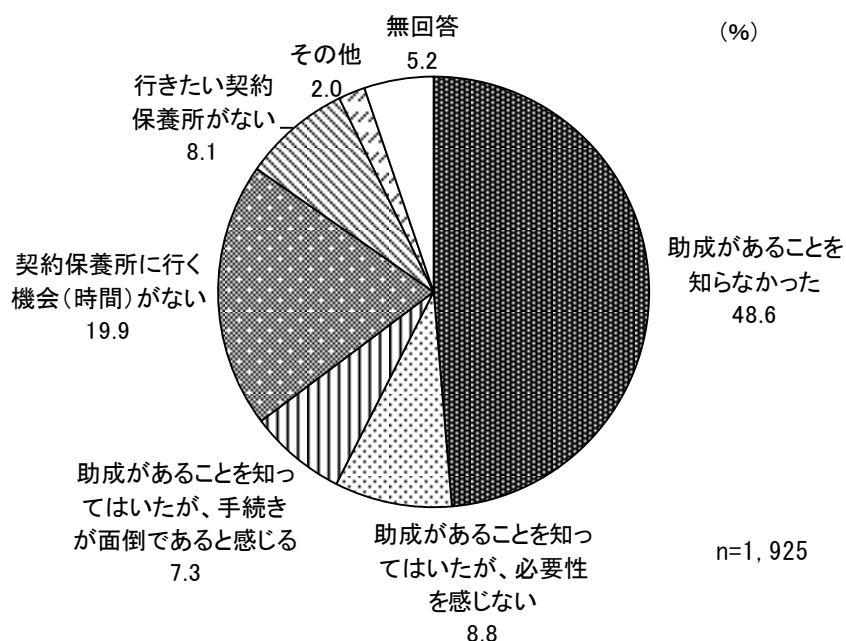


(3) 契約保養所の宿泊助成を利用しない理由

◇「助成があることを知らなかった」が最も多く、5割弱

問42. 問40、41で「2（ない）」と答えた方に伺います。あなたが、契約保養所の宿泊助成を利用しない理由は何ですか。（○は1つ）

図表 12-3-1 契約保養所の宿泊助成を利用しない理由

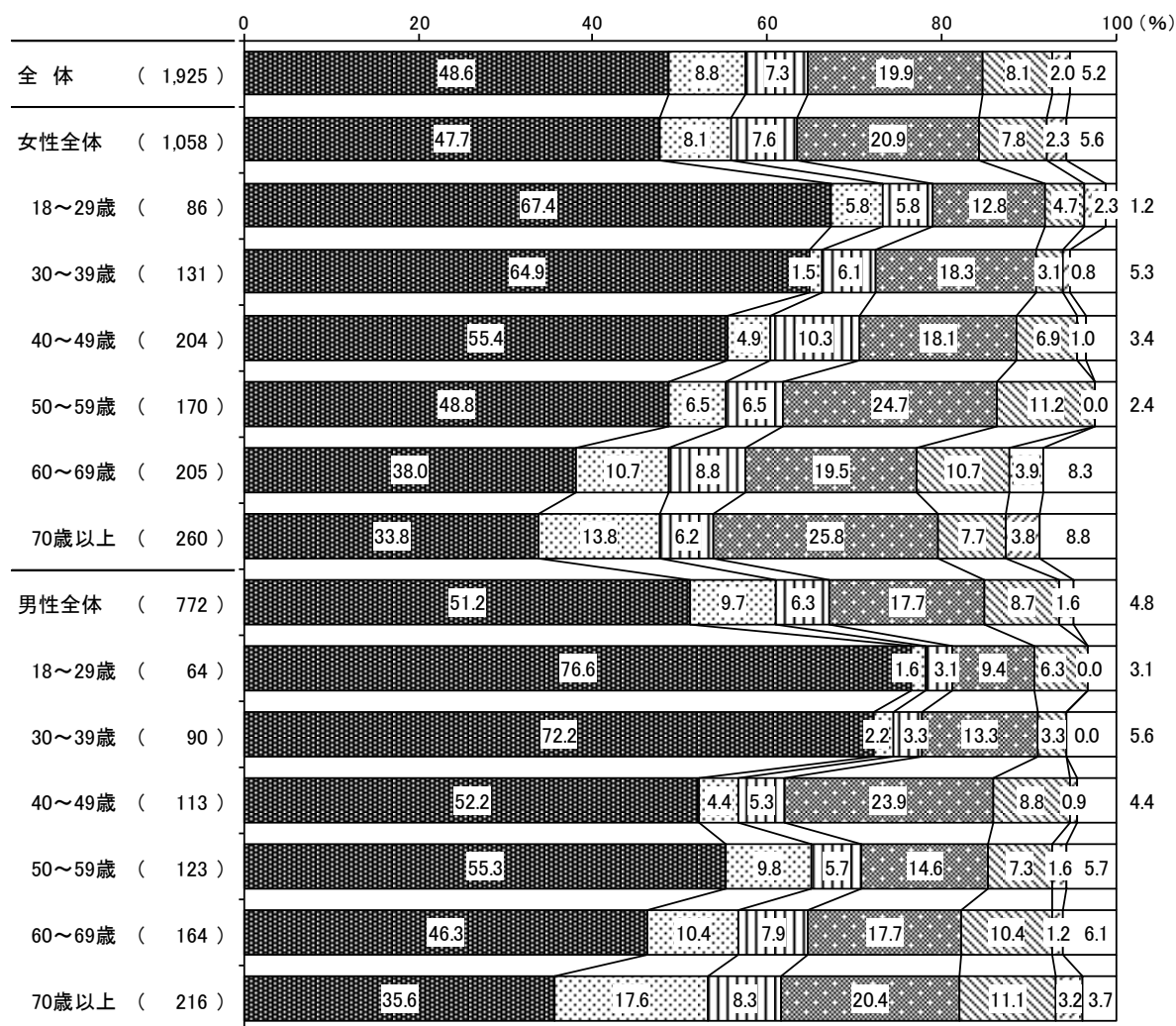


助成を受けたことがないと回答した1,925人に、契約保養所の宿泊助成を利用しない理由を聞いたところ、「助成があることを知らなかった」(48.6%)が最も多く、次いで、「契約保養所に行く機会(時間)がない」(19.9%)、「助成があることを知ってはいたが、必要性を感じない」(8.8%)、「行きたい契約保養所がない」(8.1%)、「助成があることを知ってはいたが、手続きが面倒であると感じる」(7.3%)の順となっている。また、「その他」として「忙しい」「行くのに不便だから」等が挙げられた。

性別でみると、「助成があることを知らなかった」は男性（51.2%）が女性（47.7%）より3.5ポイント高くなっている。一方、「契約保養所に行く機会（時間）がない」は女性（20.9%）が男性（17.7%）より3.2ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「助成があることを知らなかった」は男性18～29歳（76.6%）で7割半ば、男性30～39歳（72.2%）で7割強、女性18～29歳（67.4%）で7割弱、女性30～39歳（64.9%）で6割半ばと多くなっている。「助成があることを知ってはいたが、必要性を感じない」は男性70歳以上（17.6%）で2割弱、女性70歳以上（13.8%）で1割強と多くなっている。

図表 12-3-2 性・年齢別 契約保養所の宿泊助成を利用しない理由



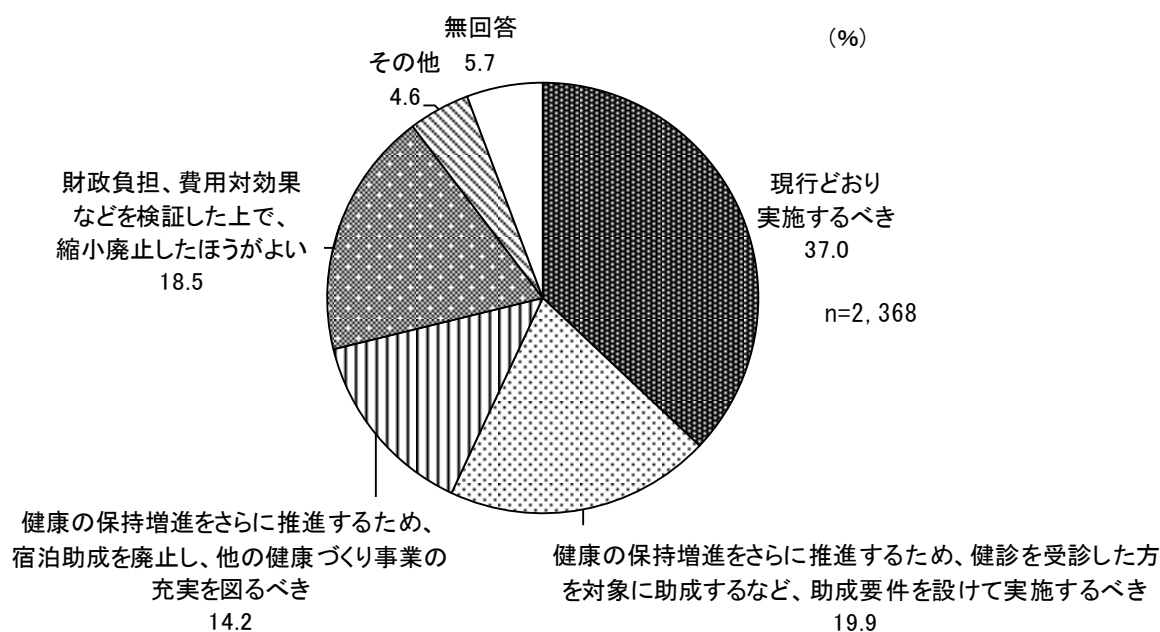
- 助成があることを知らなかった
- 助成があることを知ってはいたが、必要性を感じない
- 助成があることを知ってはいたが、手続きが面倒であると感じる
- ▨ 契約保養所に行く機会(時間)がない
- ▩ 行きたい契約保養所がない
- ▤ その他
- ▧ 無回答

(4) 今後の契約保養所の宿泊助成

◇「現行どおり実施すべき」が最も多く、4割弱

問43. 全ての方に伺います。あなたは、越谷市国民健康保険及び後期高齢者医療制度における契約保養所の宿泊助成について、今後どのようにあるべきだと思いますか。(〇は1つ)

図表 12-4-1 今後の契約保養所の宿泊助成

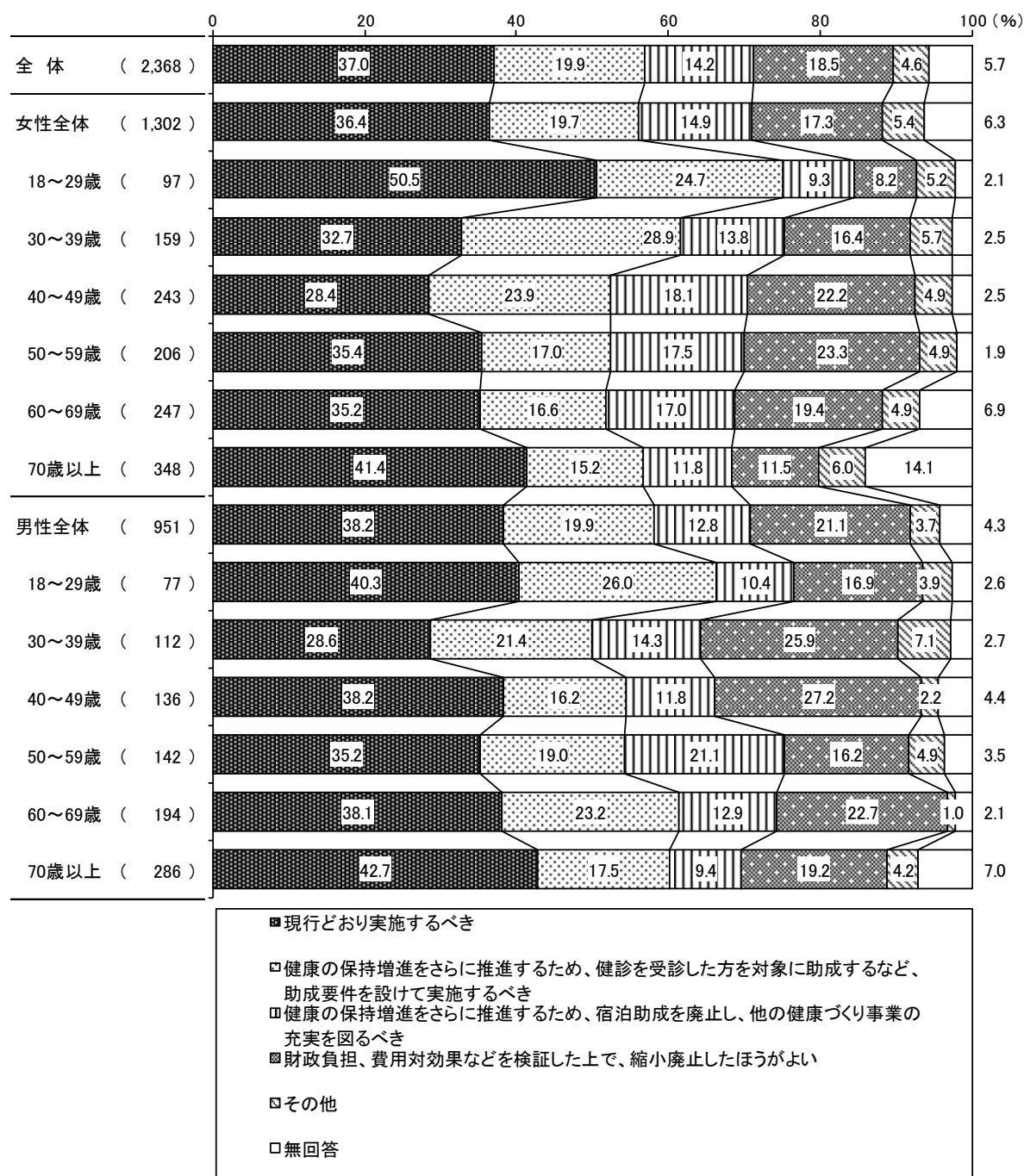


今後の契約保養所の宿泊助成については、「現行どおり実施すべき」(37.0%)が最も多く、次いで、「健康の保持増進をさらに推進するため、健診を受診した方を対象に助成するなど、助成要件を設けて実施すべき」(19.9%)、「財政負担、費用対効果などを検証した上で、縮小廃止したほうがよい」(18.5%)、「健康の保持増進をさらに推進するため、宿泊助成を廃止し、他の健康づくり事業の充実を図るべき」(14.2%)の順となっている。また、「その他」として「まずは認知度を上げる」「手続きを簡単にする」等が挙げられた。

性別でみると、「財政負担、費用対効果などを検証した上で、縮小廃止したほうがよい」は男性(21.1%)が女性(17.3%)より3.8ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「現行どおり実施するべき」は女性18～29歳(50.5%)で約5割、男性70歳以上(42.7%)、女性70歳以上(41.4%)、男性18～29歳(40.3%)で4割以上と多くなっている。

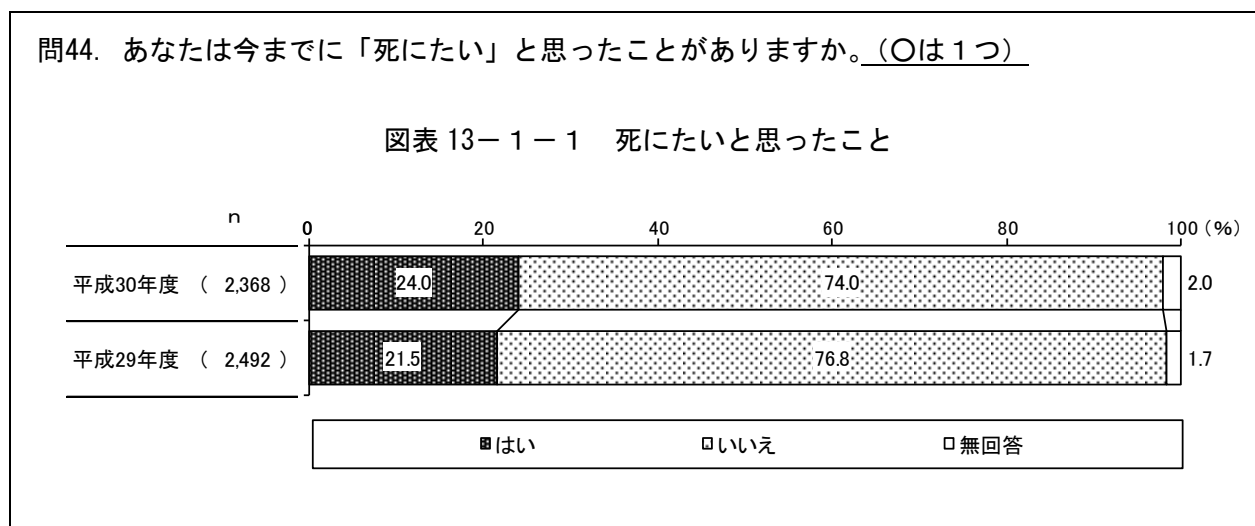
図表 12-4-2 性・年齢別 今後の契約保養所の宿泊助成



13. 自殺防止について

(1) 死にたいと思ったこと

◇「はい（ある）」が2割半ば



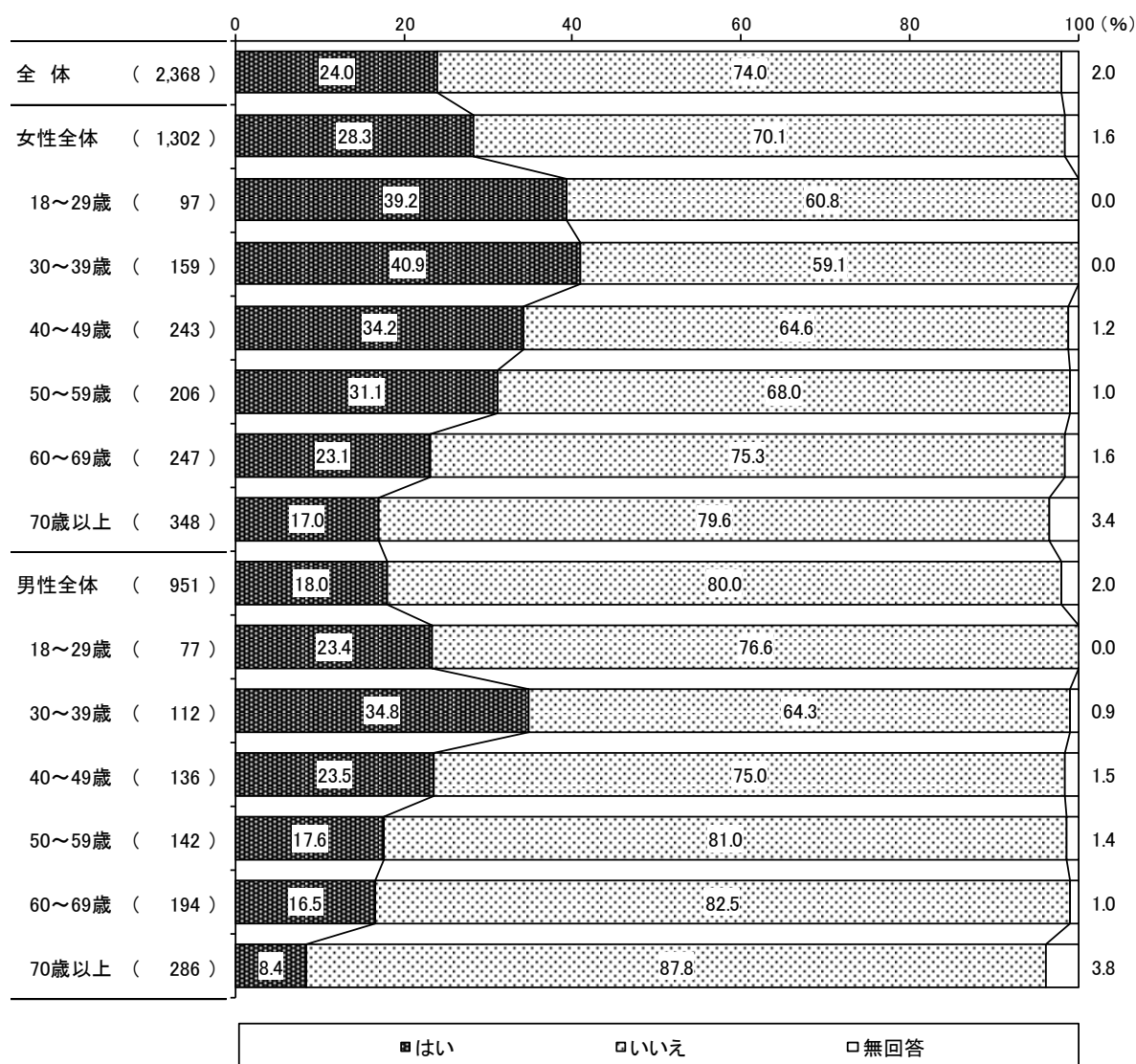
今までに「死にたい」と思ったことがあるかについては、「はい（ある）」(24.0%) が2割半ば、「いいえ（ない）」(74.0%) が7割半ばとなっている。

前回の調査と比較すると、「はい（ある）」(24.0%) は平成29年度調査(21.5%) と比べ2.5ポイント増加している。

性別でみると、「はい（ある）」は女性（28.3%）が男性（18.0%）より10.3ポイント高くなっている。一方、「いいえ（ない）」は男性（80.0%）が女性（70.1%）より9.9ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「はい（ある）」は女性30～39歳（40.9%）、女性18～29歳（39.2%）で約4割、男性30～39歳（34.8%）で3割半ば、女性40～49歳（34.2%）で3割半ばと多くなっている。一方、「いいえ（ない）」は男性70歳以上（87.8%）で9割弱、男性60～69歳（82.5%）で8割強、男性50～59歳（81.0%）で約8割と多くなっている。

図表 13-1-2 性・年齢別 死にたいと思ったこと

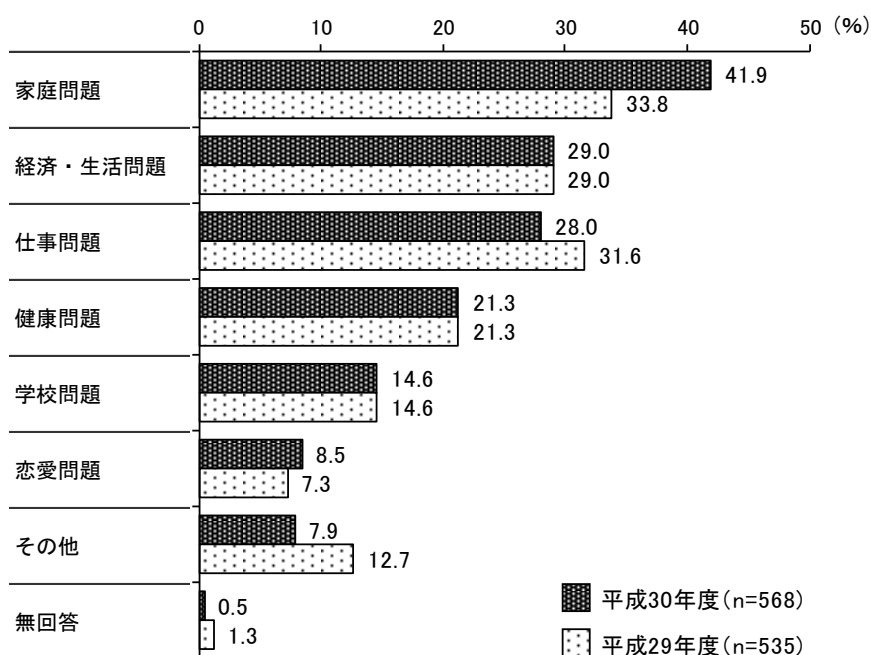


(2) 死にたいと思った理由

◇「家庭問題」が最も多く、約4割

問44-2. 問44で「1. はい」と答えた方に伺います。その理由は何ですか。(複数回答可)

図表 13-2-1 死にたいと思った理由



今までに「死にたい」と思ったことがあると回答した 568 人に、その理由を聞いたところ、「家庭問題」(41.9%) が最も多く、次いで、「経済・生活問題」(29.0%)、「仕事問題」(28.0%)、「健康問題」(21.3%)、「学校問題」(14.6%) の順となっている。また、「その他」として「人間関係」「親しい人の死」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「家庭問題」(41.9%) は平成 29 年度調査 (33.8%) と比べ 8.1 ポイント増加している。

性別で見ると、「家庭問題」は女性（48.9%）が男性（28.1%）より20.8ポイント高くなっている。一方、「仕事問題」は男性（39.2%）が女性（23.6%）より15.6ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「家庭問題」は女性60～69歳（57.9%）で6割弱、女性40～49歳（54.2%）で5割半ばと多くなっている。「仕事問題」は男性50～59歳（52.0%）、男性40～49歳（50.0%）で5割以上と多くなっている。「健康問題」は女性70歳以上（47.5%）で5割弱と多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については記述の対象としない。

図表 13-2-2 性・年齢別 死にたいと思った理由

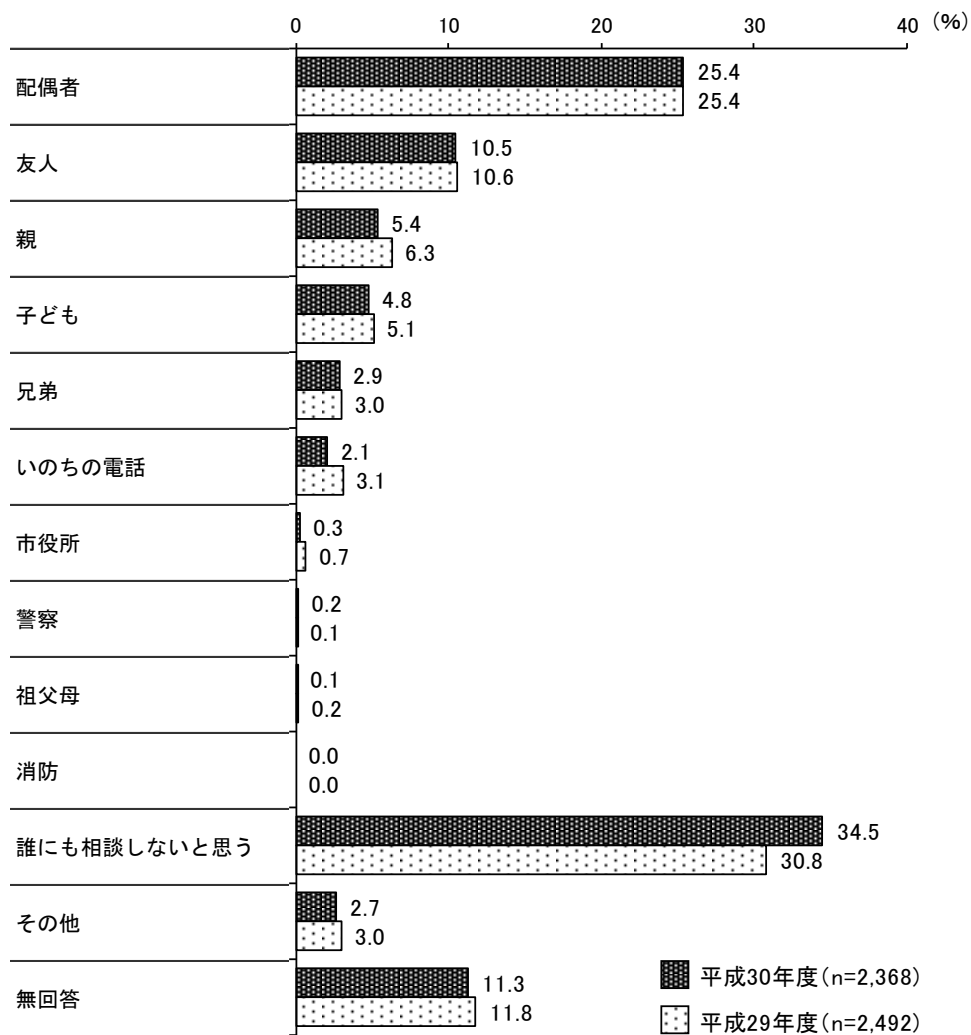
	調査数 (人)	健康 問題	仕事 問題	家庭 問題	経済・ 生活 問題	恋愛 問題	学校 問題	その他	無 回 答
全 体	568	21.3	28.0	41.9	29.0	8.5	14.6	7.9	0.5
女性全体	368	22.0	23.6	48.9	25.8	8.7	15.8	9.2	0.5
18～29歳	38	2.6	42.1	34.2	23.7	21.1	42.1	10.5	-
30～39歳	65	15.4	29.2	44.6	26.2	16.9	23.1	9.2	-
40～49歳	83	16.9	27.7	54.2	27.7	10.8	24.1	8.4	-
50～59歳	64	18.8	28.1	50.0	21.9	4.7	9.4	15.6	-
60～69歳	57	28.1	10.5	57.9	24.6	1.8	1.8	3.5	1.8
70歳以上	59	47.5	5.1	47.5	28.8	-	-	8.5	1.7
男性全体	171	18.7	39.2	28.1	33.3	9.4	12.9	5.3	0.6
18～29歳	18	5.6	38.9	27.8	44.4	33.3	33.3	-	-
30～39歳	39	7.7	38.5	35.9	33.3	7.7	20.5	2.6	-
40～49歳	32	15.6	50.0	25.0	40.6	18.8	12.5	3.1	-
50～59歳	25	20.0	52.0	24.0	28.0	-	4.0	-	-
60～69歳	32	28.1	40.6	28.1	37.5	3.1	6.3	6.3	-
70歳以上	24	37.5	12.5	25.0	16.7	-	-	20.8	4.2

(3) 相談する人

◇「誰にも相談しないと思う」が3割半ば

問45. もしあなたが「死にたい」と思うくらい悩んだとき、だれに相談しますか。(〇は1つ)

図表 13-3-1 相談する人



「死にたい」と思うくらい悩んだとき、だれに相談するか聞いたところ、「誰にも相談しないと思う」(34.5%)が3割半ばで、「配偶者」(25.4%)、「友人」(10.5%)、「親」(5.4%)、「子ども」(4.8%)の順となっている。また、「その他」として「カウンセラー」「恋人」等が挙げられた。

性別で見ると、「配偶者」は男性（32.0%）が女性（20.9%）より11.1ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「配偶者」は男性60～69歳（37.1%）、男性40～49歳（36.8%）、男性50～59歳（36.6%）、男性70歳以上（31.8%）で3割以上と多くなっている。「友人」は女性50～59歳（18.4%）、男性18～29歳（18.2%）で2割弱、女性18～29歳（16.5%）で1割半ばと多くなっている。「親」は男性18～29歳（26.0%）で2割半ば、女性18～29歳（22.7%）で2割強と多くなっている。一方、「誰にも相談しないと思う」は男性50～59歳（38.7%）、女性18～29歳（38.1%）で4割弱と多くなっている。

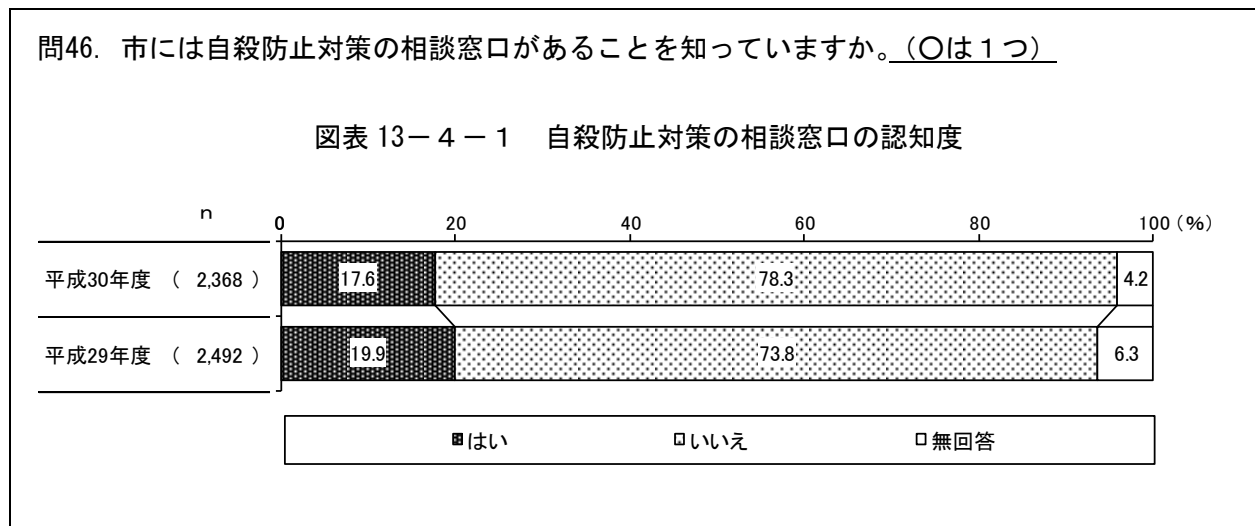
図表 13-3-2 性・年齢別 相談する人

(%)

	全 体	配 偶 者	親	兄 弟	祖 父 母	子 ど も	友 人	警 察	消 防	い の ち の 電 話	市 役 所	誰 に も 相 談 し な い と 思 う	そ の 他	無 回 答
全 体	2,368	25.4	5.4	2.9	0.1	4.8	10.5	0.2	-	2.1	0.3	34.5	2.7	11.3
女性全体	1,302	20.9	6.0	3.5	0.2	6.2	11.9	0.1	-	2.5	0.2	33.2	2.7	12.6
18～29歳	97	8.2	22.7	2.1	-	1.0	16.5	-	-	1.0	-	38.1	3.1	7.2
30～39歳	159	28.3	13.8	2.5	-	-	8.2	-	-	1.3	-	29.6	2.5	13.8
40～49歳	243	24.3	8.2	4.5	0.4	1.2	14.4	-	-	1.6	-	35.4	2.5	7.4
50～59歳	206	20.4	5.3	5.3	-	3.9	18.4	-	-	3.4	0.5	35.9	1.9	4.9
60～69歳	247	22.3	-	4.0	0.4	7.7	13.4	-	-	2.8	0.4	34.0	4.0	10.9
70歳以上	348	18.1	0.9	2.3	-	14.4	5.7	0.3	-	3.4	0.3	29.6	2.0	23.0
男性全体	951	32.0	4.9	2.0	-	2.2	8.9	0.2	-	1.6	0.2	36.1	2.6	9.3
18～29歳	77	11.7	26.0	-	-	-	18.2	-	-	-	-	36.4	-	7.8
30～39歳	112	26.8	13.4	0.9	-	-	13.4	0.9	-	-	-	34.8	2.7	7.1
40～49歳	136	36.8	3.7	1.5	-	-	9.6	-	-	2.9	-	34.6	2.2	8.8
50～59歳	142	36.6	3.5	1.4	-	1.4	9.9	0.7	-	1.4	-	38.7	1.4	4.9
60～69歳	194	37.1	0.5	2.6	-	3.1	8.8	-	-	2.6	0.5	36.1	1.5	7.2
70歳以上	286	31.8	-	3.1	-	4.5	4.2	-	-	1.4	0.3	35.7	4.9	14.0

(4) 自殺防止対策の相談窓口の認知度

◇「はい（知っている）」が2割弱



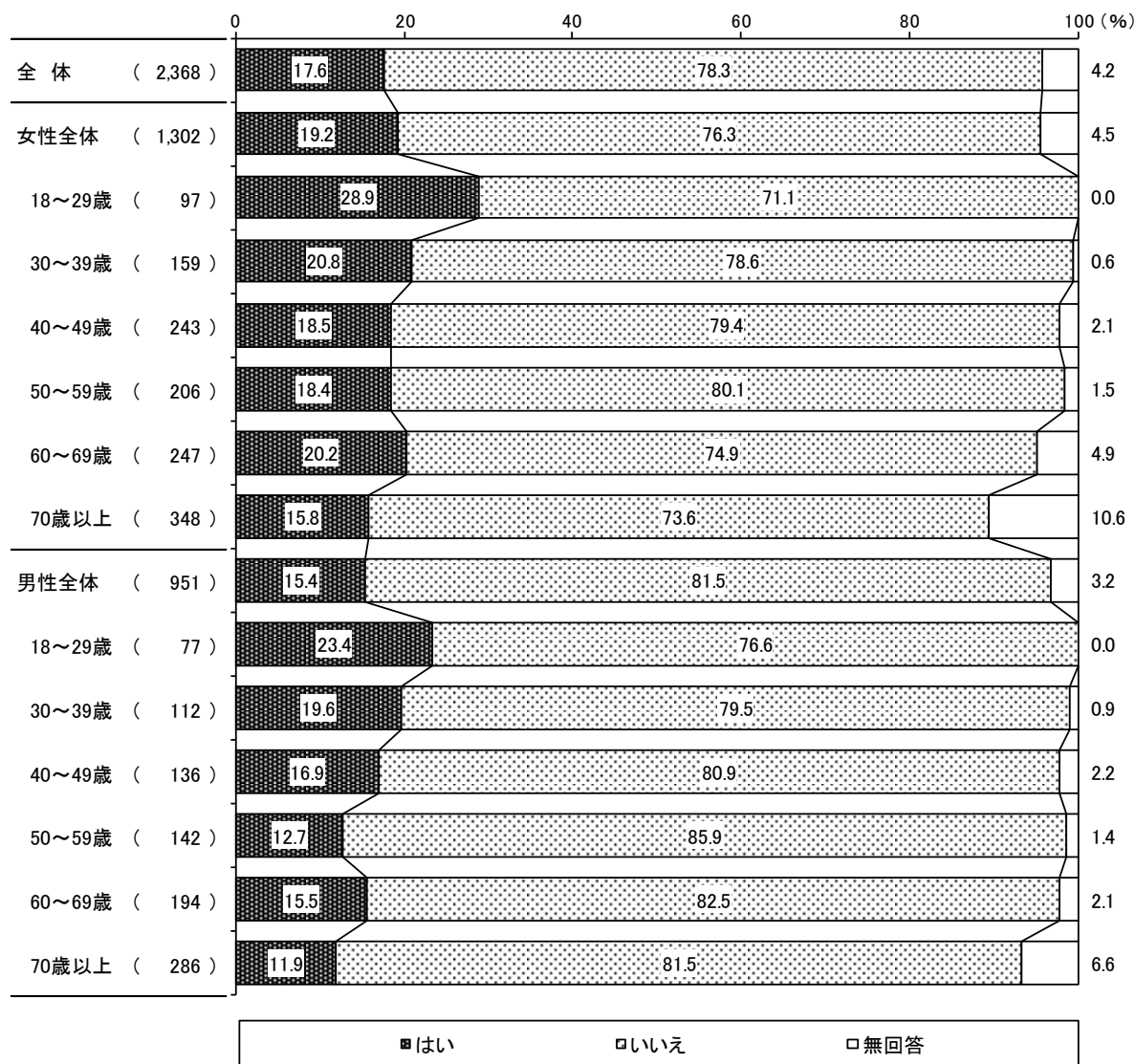
市には自殺防止対策の相談窓口があることを知っているか聞いたところ、「はい(知っている)」(17.6%)が2割弱、「いいえ(知らない)」(78.3%)が8割弱となっている。

前回の調査と比較すると、「はい(知っている)」(17.6%)は平成29年度調査(19.9%)と比べ2.3ポイント減少している。

性別で見ると、「はい（知っている）」は女性（19.2%）が男性（15.4%）より3.8ポイント高くなっている。一方、「いいえ（知らない）」は男性（81.5%）が女性（76.3%）より5.2ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「はい（知っている）」は女性18～29歳（28.9%）で3割弱と多くなっている。一方、「いいえ（知らない）」は男性50～59歳（85.9%）で8割半ばと多くなっている。

図表 13-4-2 性・年齢別 自殺防止対策の相談窓口の認知度

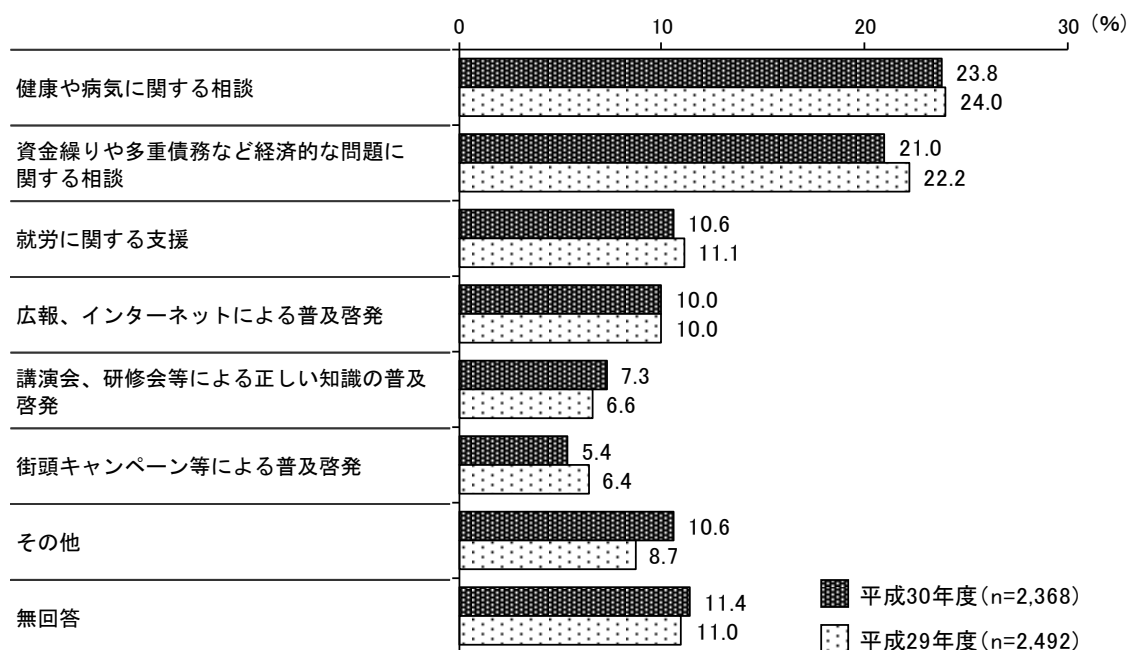


(5) 効果的な自殺防止対策

◇「健康や病気に関する相談」が最も多く、2割強

問47. 自殺防止に最も効果的な対策は次のどれだと思いますか。(〇は1つ)

図表 13-5-1 効果的な自殺防止対策



自殺防止に最も効果的な対策については、「健康や病気に関する相談」(23.8%)が最も多く、次いで、「資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談」(21.0%)、「就労に関する支援」(10.6%)、「広報、インターネットによる普及啓発」(10.0%)、「講演会、研修会等による正しい知識の普及啓発」(7.3%)の順となっている。また、「その他」として「相談窓口の周知」「命に対する教育」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられない。

性別で見ると、「健康や病気に関する相談」は男性（25.8%）が女性（21.9%）より3.9ポイント、「資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談」は男性（23.1%）が女性（19.8%）より3.3ポイント高くなっている。一方、「広報、インターネットによる普及啓発」は女性（11.4%）が男性（8.5%）より2.9ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「健康や病気に関する相談」は男性70歳以上（36.4%）、女性70歳以上（34.2%）で3割半ば、男性60～69歳（33.0%）で3割強と多くなっている。「資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談」は男性18～29歳（33.8%）で3割強と多くなっている。「就労に関する支援」は女性18～29歳（29.9%）で約3割、男性18～29歳（23.4%）で2割強と多くなっている。

図表 13-5-2 性・年齢別 効果的な自殺防止対策

	全 体	資 金 繰 り や 多 重 債 務 な ど 経 済 的 な 問 題 に 関 す る 相 談	就 労 に 関 す る 支 援	健 康 や 病 気 に 関 す る 相 談	講 演 会 、 研 修 会 等 に よ る 正 し い 知 識 の 普 及 啓 発	街 頭 キ ャ ン ペ ー ン 等 に よ る 普 及 啓 発	広 報 、 イ ン タ ー ネ ッ ト に よ る 普 及 啓 発	そ の 他	無 回 答
全 体	2,368	21.0	10.6	23.8	7.3	5.4	10.0	10.6	11.4
女性全体	1,302	19.8	11.3	21.9	6.6	5.7	11.4	10.4	12.8
18～29歳	97	24.7	29.9	9.3	4.1	5.2	11.3	12.4	3.1
30～39歳	159	26.4	15.1	15.1	3.8	5.0	11.3	14.5	8.8
40～49歳	243	23.0	15.6	13.6	5.8	4.5	14.0	13.2	10.3
50～59歳	206	23.3	6.8	16.5	5.3	7.8	18.0	15.5	6.8
60～69歳	247	13.4	10.5	26.7	7.7	7.7	12.1	6.1	15.8
70歳以上	348	15.8	4.3	34.2	9.2	4.0	5.5	6.3	20.7
男性全体	951	23.1	9.9	25.8	8.2	5.4	8.5	10.9	8.2
18～29歳	77	33.8	23.4	9.1	6.5	2.6	2.6	14.3	7.8
30～39歳	112	26.8	16.1	14.3	9.8	3.6	11.6	13.4	4.5
40～49歳	136	25.7	11.8	17.6	5.9	5.9	11.0	13.2	8.8
50～59歳	142	26.1	9.9	21.1	8.5	7.7	9.9	11.3	5.6
60～69歳	194	21.6	8.8	33.0	6.7	7.7	7.7	8.8	5.7
70歳以上	286	17.5	3.5	36.4	9.8	3.8	7.3	9.4	12.2

1 4. 越谷市の伝統的手工芸品について

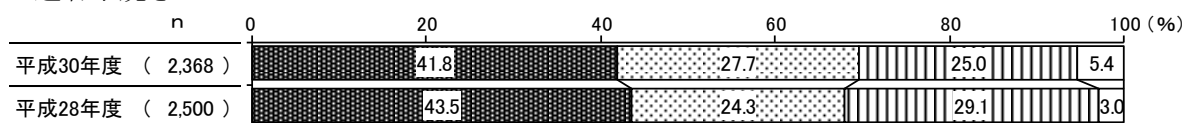
(1) 越谷市の伝統的手工芸品の認知度

◇認知度は「越谷だるま」が7割半ば、購入経験は「越谷手焼きせんべい」が約4割

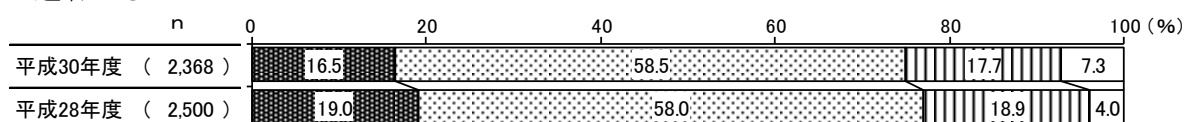
問48. 越谷市には以下のような伝統的手工芸品があることを知っていますか。また、以下の伝統的手工芸品のうち、買ったことがあるものはありますか。(ア～オ それぞれ横に○は1つずつ)

図表 14-1-1 越谷市の伝統的手工芸品の認知度

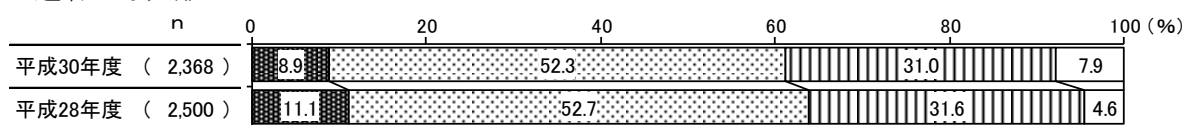
ア 越谷手焼きせんべい



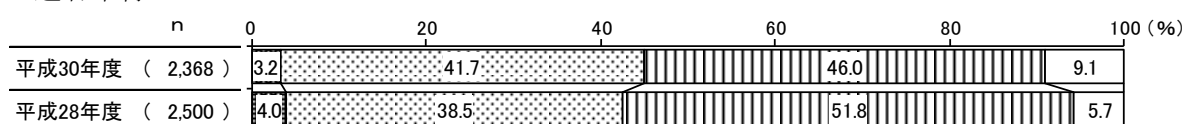
イ 越谷だるま



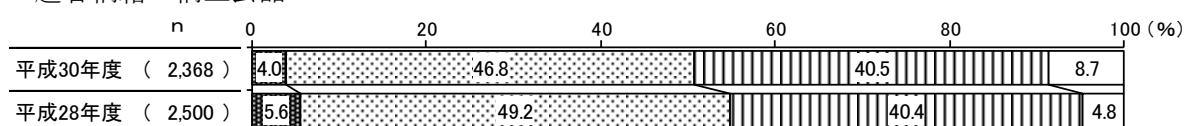
ウ 越谷ひな人形



エ 越谷甲冑



オ 越谷桐箱・桐工芸品



■買ったことがある □知っているが買ったことはない □知らない □無回答

越谷市の伝統的手工芸品について、「買ったことがある」と「知っているが買ったことはない」を合わせた『知っている』では、「イ 越谷だるま」(75.0%)が7割半ばと最も多く、次いで、「ア 越谷手焼きせんべい」(69.5%)、「ウ 越谷ひな人形」(61.2%)の順となっている。また、「買ったことがある」では、「ア 越谷手焼きせんべい」(41.8%)が約4割と最も多く、次いで、「イ 越谷だるま」(16.5%)、「ウ 越谷ひな人形」(8.9%)の順となっている。

性・年齢別でみると、「ア 越谷手焼きせんべい」では「買ったことがある」は女性70歳以上(57.8%)で6割弱、女性60～69歳(53.0%)で5割強と多くなっている。

「イ 越谷だるま」では「買ったことがある」は女性70歳以上(21.8%)、女性60～69歳(19.4%)で約2割と多くなっている。

「ウ 越谷ひな人形」では「買ったことがある」は女性70歳以上(14.9%)で1割半ば、女性60～69歳(13.4%)、男性70歳以上(13.3%)で1割強と多くなっている。

「エ 越谷甲冑」では「買ったことがある」は女性60～69歳で5.3%、女性70歳以上で4.9%となっている。

「オ 越谷桐箱・桐工芸品」では「買ったことがある」は女性70歳以上(10.1%)で約1割と多くなっている。

図表 14-1-2 性・年齢別 越谷市の伝統的手工芸品の認知度

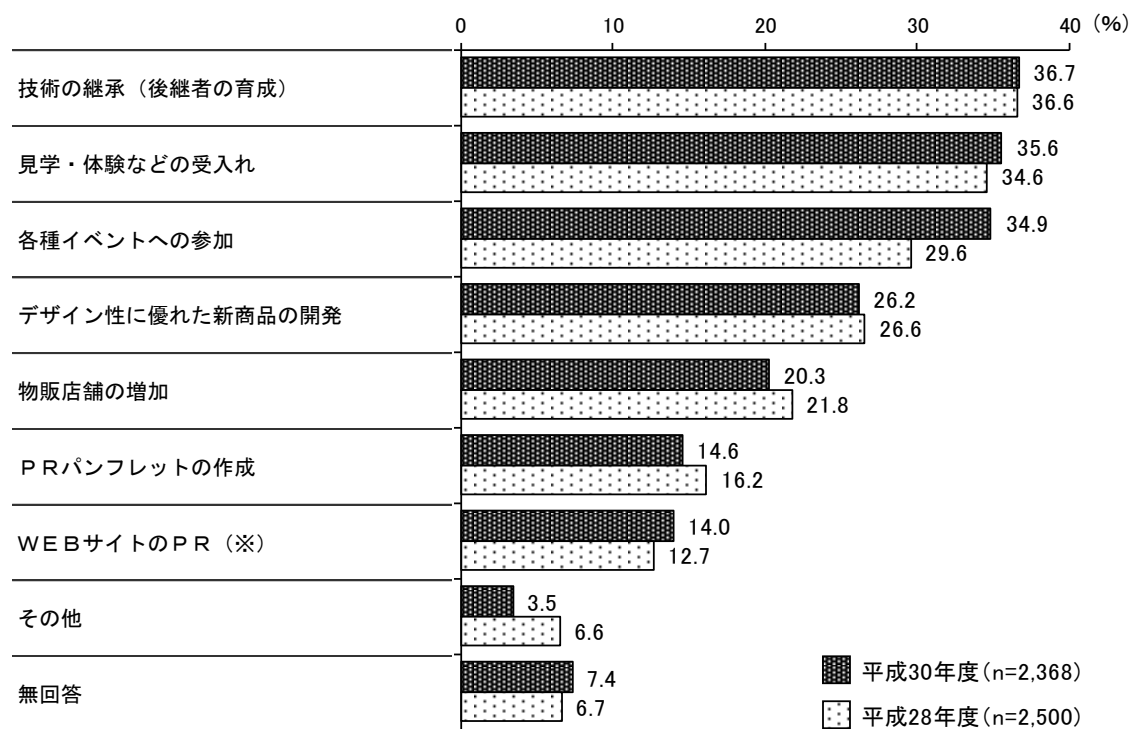
		ア 越谷手焼きせんべい				イ 越谷だるま				ウ 越谷ひな人形				エ 越谷甲冑				オ 越谷桐箱・桐工芸品			
		買ったことがある	買ったことがあるが知らない	知らない	無回答	買ったことがある	買ったことがあるが知らない	知らない	無回答	買ったことがある	買ったことがあるが知らない	知らない	無回答	買ったことがある	買ったことがあるが知らない	知らない	無回答	買ったことがある	買ったことがあるが知らない	知らない	無回答
全体	2,368	41.8	27.7	25.0	5.4	16.5	58.5	17.7	7.3	8.9	52.3	31.0	7.9	3.2	41.7	46.0	9.1	4.0	46.8	40.5	8.7
女性全体	1,302	45.3	27.9	21.9	4.9	18.8	59.5	14.8	6.8	9.2	54.1	29.0	7.6	3.5	42.3	45.6	8.5	4.5	48.2	39.1	8.3
18～29歳	97	28.9	33.0	38.1	-	14.4	63.9	21.6	-	3.1	59.8	37.1	-	-	28.9	71.1	-	-	32.0	67.0	1.0
30～39歳	159	30.8	33.3	35.2	0.6	16.4	57.9	25.8	-	4.4	54.7	40.3	0.6	1.9	35.2	62.3	0.6	-	38.4	61.0	0.6
40～49歳	243	36.2	30.9	31.7	1.2	18.5	63.0	16.9	1.6	7.0	47.7	43.6	1.6	3.3	37.0	58.0	1.6	2.5	41.2	54.3	2.1
50～59歳	206	45.1	33.5	20.9	0.5	17.0	64.6	18.0	0.5	3.9	62.1	33.5	0.5	2.4	44.2	52.4	1.0	3.4	55.3	40.8	0.5
60～69歳	247	53.0	25.5	15.8	5.7	19.4	65.2	10.9	4.5	13.4	57.5	23.5	5.7	5.3	52.6	36.0	6.1	4.0	62.8	26.7	6.5
70歳以上	348	57.8	20.1	9.2	12.9	21.8	50.0	7.2	21.0	14.9	50.0	12.4	22.7	4.9	44.8	24.7	25.6	10.1	47.7	18.1	24.1
男性全体	951	35.8	28.2	30.5	5.6	13.0	58.3	22.5	6.2	7.5	50.2	35.4	6.9	2.2	40.5	49.1	8.2	3.0	44.6	44.6	7.8
18～29歳	77	26.0	36.4	36.4	1.3	16.9	58.4	23.4	1.3	1.3	62.3	35.1	1.3	-	35.1	62.3	2.6	2.6	35.1	61.0	1.3
30～39歳	112	24.1	23.2	50.9	1.8	8.0	45.5	45.5	0.9	2.7	39.3	56.3	1.8	2.7	28.6	67.0	1.8	-	23.2	75.0	1.8
40～49歳	136	27.2	26.5	44.1	2.2	11.8	57.4	28.7	2.2	4.4	36.8	55.9	2.9	1.5	30.9	64.7	2.9	0.7	36.8	58.8	3.7
50～59歳	142	27.5	38.7	31.7	2.1	7.0	65.5	25.4	2.1	3.5	51.4	43.0	2.1	0.7	39.4	57.7	2.1	1.4	40.1	56.3	2.1
60～69歳	194	40.2	29.4	24.7	5.7	17.5	61.9	16.0	4.6	9.3	59.8	24.7	6.2	2.6	50.5	39.7	7.2	5.2	59.3	28.4	7.2
70歳以上	286	47.9	22.7	18.2	11.2	14.0	58.0	13.6	14.3	13.3	50.3	21.3	15.0	3.5	44.8	33.6	18.2	4.9	51.4	26.9	16.8

(2) 越谷市の伝統的手工芸品に期待する取組み

◇「技術の継承（後継者の育成）」「見学・体験などの受入れ」「各種イベントへの参加」が3割半ば

問49. 今後、越谷市の伝統的手工芸品についてどのような取組みを期待しますか。（複数回答可）

図表 14-2-1 越谷市の伝統的手工芸品に期待する取組み



※平成28年度調査の選択肢は「WEBサイトの開設」

越谷市の伝統的手工芸品に期待する取組みについては、「技術の継承（後継者の育成）」（36.7%）が最も多く、次いで、「見学・体験などの受入れ」（35.6%）、「各種イベントへの参加」（34.9%）、「デザイン性に優れた新商品の開発」（26.2%）、「物販店舗の増加」（20.3%）の順となっている。また、「その他」として「海外への発信」「他業種とのコラボレーション」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「各種イベントへの参加」（34.9%）は平成28年度調査（29.6%）と比べ5.3ポイント増加している。

性別で見ると、「見学・体験などの受入れ」は女性（39.0%）が男性（30.7%）より8.3ポイント高くなっている。一方、「PRパンフレットの作成」は男性（18.1%）が女性（12.3%）より5.8ポイント、「WEBサイトのPR」は男性（17.2%）が女性（12.5%）より4.7ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別で見ると、「見学・体験などの受入れ」は女性40～49歳（49.4%）で約5割と多くなっている。「各種イベントへの参加」は女性60～69歳（44.1%）で4割半ばと多くなっている。

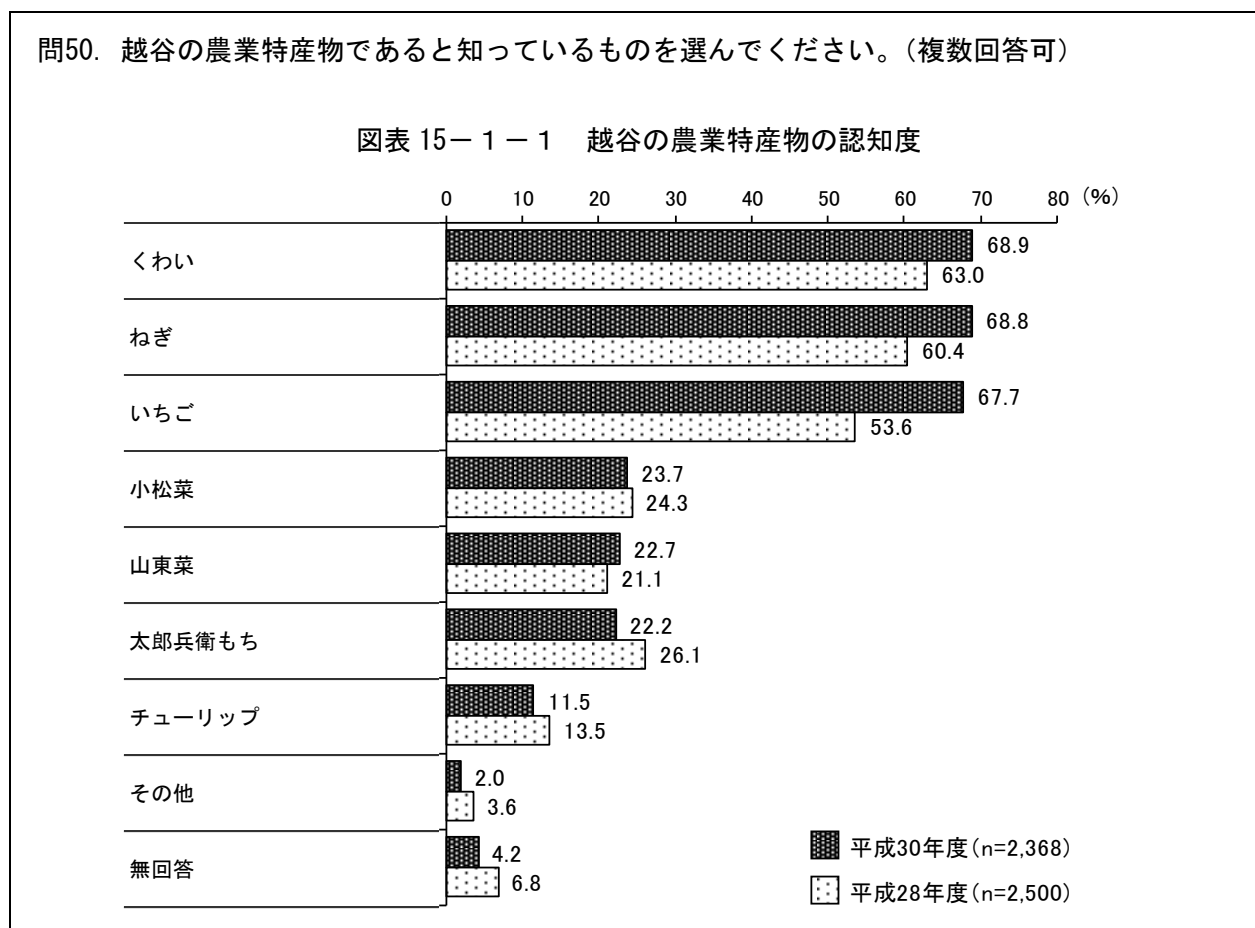
図表 14-2-2 性・年齢別 越谷市の伝統的手工芸品に期待する取組み

	調査数（人）	各種イベントへの参加	見学・体験などの受入れ	PRパンフレットの作成	WEBサイトのPR	技術の継承（後継者の育成）	デザイン性に優れた新商品の開発	物販店舗の増加	その他	無回答
全体	2,368	34.9	35.6	14.6	14.0	36.7	26.2	20.3	3.5	7.4
女性全体	1,302	36.4	39.0	12.3	12.5	35.9	27.8	19.9	2.7	6.9
18～29歳	97	32.0	39.2	10.3	23.7	33.0	34.0	18.6	6.2	1.0
30～39歳	159	39.0	46.5	11.3	17.0	33.3	37.7	19.5	0.6	0.6
40～49歳	243	33.7	49.4	5.3	22.2	39.9	35.8	16.5	1.6	2.1
50～59歳	206	38.3	40.8	14.1	15.5	42.2	31.1	24.3	3.9	1.5
60～69歳	247	44.1	36.4	14.2	6.9	36.8	23.1	23.1	2.0	7.3
70歳以上	348	31.9	29.0	15.8	2.9	30.7	17.2	17.8	3.2	17.8
男性全体	951	34.1	30.7	18.1	17.2	37.6	24.9	21.2	4.3	6.9
18～29歳	77	36.4	39.0	20.8	19.5	39.0	29.9	23.4	5.2	1.3
30～39歳	112	41.1	33.0	13.4	20.5	31.3	35.7	22.3	4.5	5.4
40～49歳	136	40.4	33.1	11.0	28.7	38.2	29.4	19.9	4.4	4.4
50～59歳	142	35.9	31.7	14.1	21.1	41.5	23.9	24.6	4.2	2.8
60～69歳	194	33.5	26.3	19.6	16.5	40.2	24.7	21.1	2.6	6.2
70歳以上	286	27.6	29.4	23.8	8.4	35.7	17.5	19.2	5.2	12.6

15. 地場農産物や地産地消について

(1) 越谷の農業特産物の認知度

◇「くわい」「ねぎ」「いちご」が7割弱



越谷の農業特産物の認知度については、「くわい」(68.9%)が最も多く、次いで、「ねぎ」(68.8%)、「いちご」(67.7%)、「小松菜」(23.7%)、「山東菜」(22.7%)の順となっている。また、「その他」として「トマト」「枝豆」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、「いちご」(67.7%)は平成28年度調査(53.6%)と比べ14.1ポイント、「ねぎ」(68.8%)は平成28年度調査(60.4%)と比べ8.4ポイント、「くわい」(68.9%)は平成28年度調査(63.0%)と比べ5.9ポイント、それぞれ増加している。

性別でみると、いずれの農業特産物も女性が男性より高くなっている。

性・年齢別でみると、「くわい」は女性70歳以上(77.3%)で8割弱、女性40～49歳(75.7%)、女性50～59歳(75.7%)で7割半ばと多くなっている。「ねぎ」は女性40～49歳(75.3%)、女性70歳以上(74.7%)、女性60～69歳(74.1%)で7割半ばと多くなっている。「いちご」は女性50～59歳(75.2%)、女性70歳以上(74.4%)、女性30～39歳(74.2%)で7割半ばと多くなっている。

図表 15-1-2 性・年齢別 越谷の農業特産物の認知度

(%)

	調査数 (人)	太郎兵衛もち	くわい	ねぎ	山東菜	いちご	チューリップ	小松菜	その他	無回答
全 体	2,368	22.2	68.9	68.8	22.7	67.7	11.5	23.7	2.0	4.2
女性全体	1,302	24.1	73.0	73.3	25.3	71.5	13.7	27.1	1.8	3.3
18～29歳	97	8.2	67.0	70.1	5.2	55.7	13.4	13.4	2.1	4.1
30～39歳	159	16.4	60.4	73.6	17.6	74.2	7.5	18.9	1.9	1.9
40～49歳	243	18.9	75.7	75.3	20.6	67.1	9.1	22.2	2.1	4.5
50～59歳	206	19.4	75.7	69.4	25.2	75.2	12.1	27.7	1.5	2.9
60～69歳	247	26.7	72.9	74.1	31.6	73.7	13.0	28.7	0.4	4.0
70歳以上	348	36.8	77.3	74.7	33.3	74.4	21.3	36.8	2.3	2.6
男性全体	951	18.8	63.2	63.5	18.9	63.2	8.0	18.3	2.6	4.8
18～29歳	77	11.7	64.9	71.4	6.5	61.0	7.8	15.6	3.9	-
30～39歳	112	12.5	49.1	63.4	3.6	65.2	2.7	13.4	1.8	5.4
40～49歳	136	14.7	58.1	66.2	17.6	65.4	3.7	15.4	1.5	5.9
50～59歳	142	14.1	57.7	56.3	13.4	66.9	8.5	14.8	2.1	3.5
60～69歳	194	18.0	66.5	61.3	20.6	63.9	9.8	19.1	5.2	3.6
70歳以上	286	28.0	71.7	65.7	30.8	60.5	10.8	23.8	1.7	6.3

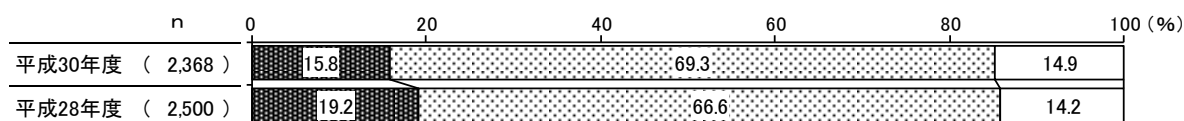
(2) 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所

◇購入経験は「ねぎ」が6割半ば、「いちご」が約5割

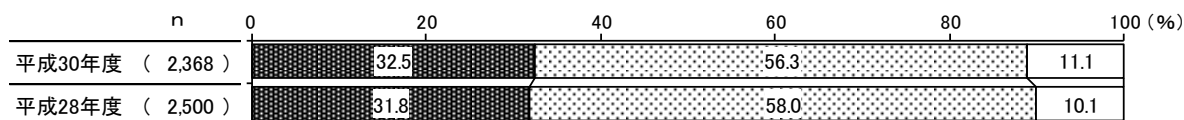
問51. 越谷の農業特産物を購入したことがありますか。ある場合は、どこで購入しましたか。(ア～ク それぞれ横に複数回答可)

図表 15-2-1 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所

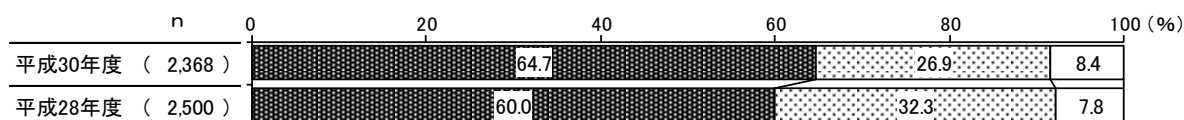
ア 太郎兵衛もち



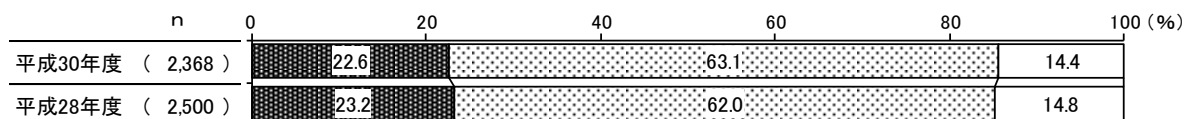
イ くわい



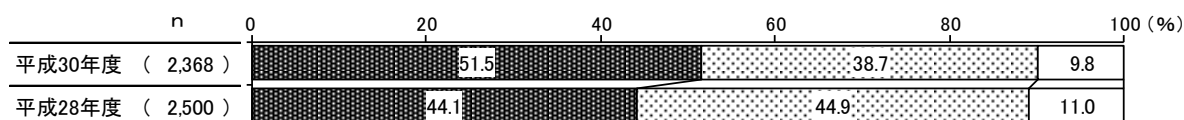
ウ ねぎ



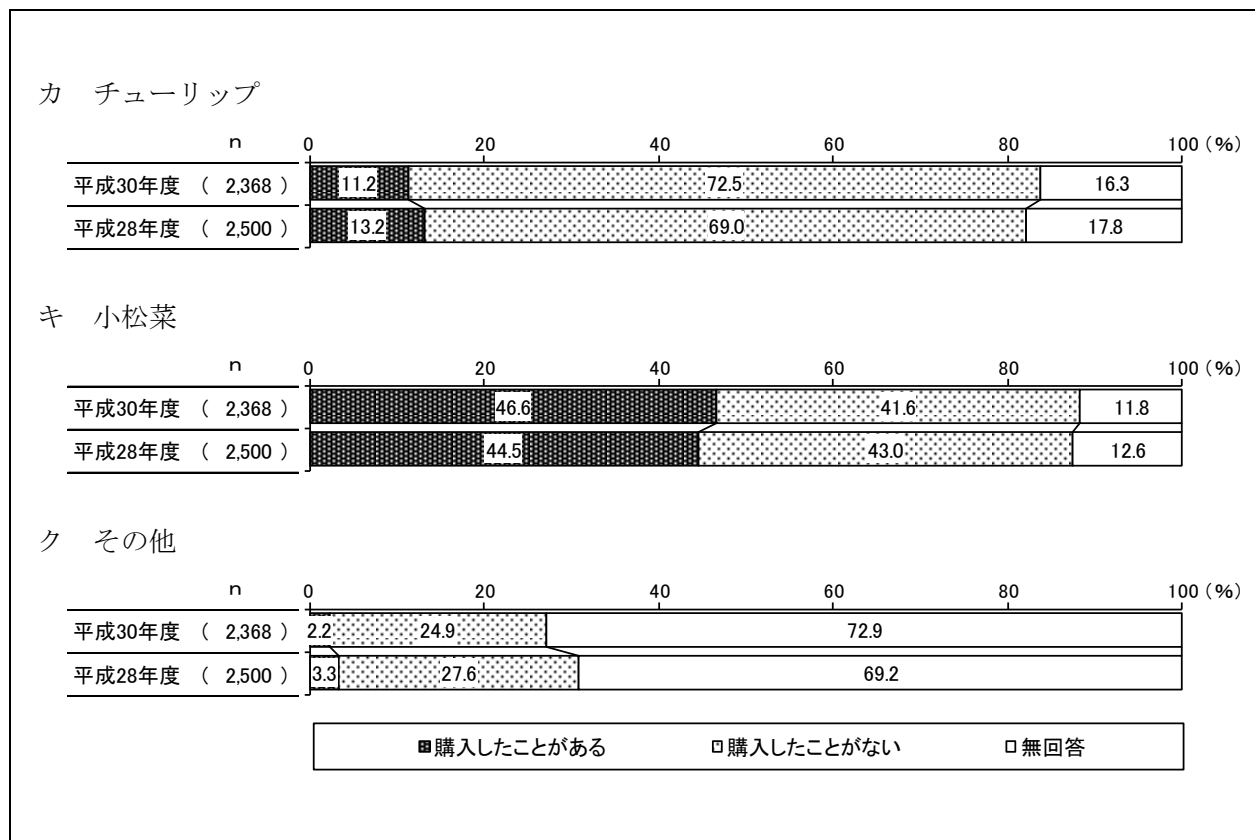
エ 山東菜



オ いちご



■ 購入したことがある □ 購入したことがない □ 無回答



越谷の農業特産物の購入経験については、「ウ ねぎ」(64.7%) が最も多く、次いで、「オ いちご」(51.5%)、「キ 小松菜」(46.6%)、「イ くわい」(32.5%)、「エ 山東菜」(22.6%) の順となっている。また、「ク その他」として「大根」等が挙げられた。

購入した場所については、「ア 太郎兵衛もち」「カ チューリップ」は「市民まつりなどイベント」が最も多くなっている。「イ くわい」「エ 山東菜」「オ いちご」は「農産物直売所」が最も多くなっている。「ウ ねぎ」「キ 小松菜」は「市内スーパーマーケット」が最も多くなっている。

「ア 太郎兵衛もち」について性・年齢別で見ると、「市民まつりなどイベント」は女性 70 歳以上 (18.1%) で2割弱と多くなっている。

「イ くわい」について性・年齢別で見ると、「市民まつりなどイベント」は女性 70 歳以上 (14.7%) で1割半ば、男性 70 歳以上 (9.1%) で約1割と多く、「市内スーパーマーケット」は女性 70 歳以上 (14.1%) で1割半ば、男性 60~69 歳 (13.4%) で約1割と多くなっている。

「ウ ねぎ」について性・年齢別で見ると、「市内スーパーマーケット」は女性 40~49 歳 (48.1%) で5割弱、女性 50~59 歳 (46.1%) で4割半ばと多く、「農産物直売所」は女性 60~69 歳 (29.1%) で約3割、女性 70 歳以上 (25.0%) で2割半ばと多くなっている。

「エ 山東菜」について性・年齢別で見ると、「農産物直売所」は女性 70 歳以上 (19.0%) で約2割、男性 70 歳以上 (13.6%) で1割強と多くなっている。

「オ いちご」について性・年齢別で見ると、「農産物直売所」は女性 60~69 歳 (32.8%) で3割強、女性 70 歳以上 (26.7%)、男性 70 歳以上 (25.2%) で2割半ばと多く、「市内スーパーマーケット」は女性 50~59 歳 (27.7%) で3割弱と多くなっている。

「カ チューリップ」について性・年齢別で見ると、「農産物直売所」は女性 70 歳以上で 6.9%、「市民まつりなどイベント」は女性 70 歳以上で 6.3%となっている。

「キ 小松菜」について性・年齢別で見ると、「市内スーパーマーケット」は女性 40~49 歳 (42.0%)、女性 50~59 歳 (41.3%)、女性 60~69 歳 (40.1%) で4割以上と多く、「農産物直売所」は女性 60~69 歳 (23.1%) で2割強と多くなっている。

図表 15-2-2 性・年齢別 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所

		ア 太郎兵衛もち							イ くわい							ウ ねぎ							エ 山東菜						
調査数(人)	購入したことがある	購入したことがある				購入したことがない		無回答	購入したことがある	購入したことがある				購入したことがない		無回答	購入したことがある	購入したことがある				購入したことがない		無回答					
		市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	市民まつりなどイベント	農産物直売所			市内スーパーマーケット	その他	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他			市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他								
全体	2,368	15.8	9.3	4.1	1.1	2.1	69.3	14.9	32.5	8.9	10.0	6.1	56.3	11.1	64.7	10.7	20.9	38.9	3.2	26.9	8.4	22.6	2.1	10.0	8.6	3.5	63.1	14.4	
女性全体	1,302	16.4	10.1	4.1	1.2	2.0	70.3	13.4	33.3	10.1	10.2	9.7	5.8	56.6	10.1	69.2	12.3	22.4	40.8	3.7	23.4	7.4	23.5	2.6	11.1	8.6	3.5	63.4	13.1
18~29歳	97	7.2	2.1	1.0	3.1	1.0	90.7	2.1	21.6	3.1	1.0	9.3	8.2	77.3	1.0	57.7	2.1	8.2	42.3	6.2	42.3	-	7.2	-	2.1	4.1	1.0	90.7	2.1
30~39歳	159	6.9	2.5	1.9	-	2.5	91.2	1.9	20.8	3.8	4.4	3.1	9.4	76.1	3.1	61.0	11.9	17.6	37.7	3.8	37.7	1.3	14.5	1.9	7.5	2.5	4.4	83.0	2.5
40~49歳	243	9.9	5.8	2.9	1.2	0.4	86.0	4.1	26.7	8.6	6.6	8.6	4.5	70.8	2.5	69.1	14.0	18.9	48.1	3.3	28.8	2.1	18.1	3.7	6.6	8.2	3.3	77.8	4.1
50~59歳	206	12.6	8.7	1.9	1.5	1.5	82.5	4.9	32.0	10.7	13.6	8.3	4.9	64.6	3.4	72.8	8.7	24.3	46.1	4.4	24.3	2.9	21.4	2.4	8.7	10.7	2.9	74.3	4.4
60~69歳	247	19.0	12.6	4.9	0.8	1.6	64.0	17.0	36.8	11.3	12.1	10.1	5.3	51.0	12.1	75.7	14.2	29.1	39.3	1.6	17.4	6.9	26.7	2.4	12.1	9.3	4.0	57.1	16.2
70歳以上	348	28.2	18.1	7.5	1.1	3.7	41.1	30.7	45.1	14.7	14.7	14.1	5.2	31.0	23.9	69.5	14.9	25.0	34.5	4.3	11.5	19.0	35.1	3.2	19.0	11.2	4.0	34.5	30.5
男性全体	951	14.8	7.8	4.2	1.2	2.4	70.9	14.3	30.4	6.8	9.6	10.1	6.3	58.3	11.4	59.6	8.1	19.9	36.9	2.7	32.2	8.2	20.6	1.1	8.7	7.9	3.6	65.4	14.0
18~29歳	77	9.1	3.9	2.6	1.3	1.3	89.6	1.3	20.8	2.6	7.8	2.6	10.4	77.9	1.3	54.5	-	14.3	42.9	1.3	45.5	-	9.1	-	3.9	1.3	3.9	90.9	-
30~39歳	112	7.1	1.8	2.7	0.9	1.8	91.1	1.8	19.6	4.5	6.3	7.1	4.5	78.6	1.8	52.7	8.9	13.4	37.5	0.9	44.6	2.7	10.7	0.9	3.6	4.5	1.8	86.6	2.7
40~49歳	136	14.7	6.6	4.4	-	3.7	78.7	6.6	26.5	8.1	9.6	5.9	5.9	67.6	5.9	56.6	10.3	19.1	33.1	2.9	39.7	3.7	15.4	2.2	5.1	5.1	3.7	78.7	5.9
50~59歳	142	12.0	5.6	2.8	2.1	1.4	83.8	4.2	27.5	4.2	6.3	12.7	4.9	67.6	4.9	58.5	6.3	19.0	37.3	3.5	38.7	2.8	19.0	1.4	6.3	9.2	2.1	76.1	4.9
60~69歳	194	16.0	9.8	2.1	2.1	3.1	68.6	15.5	37.1	7.7	9.8	13.4	7.7	49.5	13.4	67.5	6.7	24.2	42.8	4.1	24.7	7.7	28.9	-	10.8	11.9	6.7	56.7	14.4
70歳以上	286	19.9	11.2	7.3	0.7	2.4	49.7	30.4	36.0	9.1	12.9	11.9	5.6	42.0	22.0	60.5	10.5	22.0	32.9	2.4	22.0	17.5	25.5	1.4	13.6	9.1	2.8	44.4	30.1

		オ いちご							カ チューリップ							キ 小松菜							ク その他							
調査数(人)	購入したことがある	購入したことがある				購入したことがない		無回答	購入したことがある	購入したことがある				購入したことがない		無回答	購入したことがある	購入したことがある				購入したことがない		無回答						
		市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	市民まつりなどイベント	農産物直売所			市内スーパーマーケット	その他	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他			市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他									
全体	2,368	51.5	4.2	23.4	22.1	7.0	38.7	9.8	11.2	4.1	2.7	2.5	2.4	72.5	16.3	46.6	2.1	13.1	33.4	2.6	41.6	11.8	2.2	0.1	1.1	0.6	0.5	24.9	72.9	
女性全体	1,302	53.5	4.1	24.9	22.9	7.4	37.6	8.8	12.9	5.0	3.3	2.7	2.6	72.4	14.7	51.9	2.6	14.7	37.5	2.8	37.8	10.3	2.2	0.2	1.1	0.8	0.5	21.2	76.6	
18~29歳	97	40.2	3.1	11.3	23.7	4.1	59.8	-	10.3	6.2	1.0	1.0	2.1	88.7	1.0	27.8	-	2.1	24.7	1.0	71.1	1.0	1.0	-	-	-	1.0	-	43.3	55.7
30~39歳	159	50.9	1.9	22.6	20.1	13.8	47.2	1.9	8.8	4.4	1.3	0.6	3.1	88.7	2.5	37.7	1.9	6.9	28.9	2.5	60.4	1.9	1.9	0.6	0.6	-	1.3	37.7	60.4	
40~49歳	243	49.0	3.3	23.0	22.6	9.5	48.1	2.9	9.9	2.9	1.2	3.3	3.7	86.4	3.7	51.9	2.5	13.6	42.0	3.7	45.3	2.9	2.5	-	1.2	0.8	0.4	27.2	70.4	
50~59歳	206	51.5	4.4	22.8	27.7	4.4	46.6	1.9	10.7	4.4	2.9	2.9	1.0	85.4	3.9	56.3	2.4	16.0	41.3	3.4	39.8	3.9	1.5	-	1.0	0.5	0.5	23.3	75.2	
60~69歳	247	65.2	4.9	32.8	23.9	7.7	26.7	8.1	13.0	5.7	2.8	2.4	2.8	70.0	17.0	60.3	2.0	23.1	40.1	1.2	29.1	10.5	3.2	-	1.6	1.2	0.8	9.7	87.0	
70歳以上	348	54.9	5.5	26.7	20.7	5.5	21.8	23.3	19.0	6.3	6.9	3.7	2.6	44.3	36.8	56.9	4.3	15.8	37.9	3.7	17.5	25.6	2.3	0.3	1.1	0.9	-	10.3	87.4	
男性全体	951	49.4	4.1	21.6	21.7	6.6	41.1	9.5	9.3	2.7	2.2	2.4	2.1	75.1	15.7	39.6	1.2	11.1	28.1	2.1	48.5	11.9	2.2	0.1	1.3	0.4	0.5	30.2	67.6	
18~29歳	77	44.2	3.9	11.7	22.1	10.4	55.8	-	2.6	-	1.3	-	1.3	96.1	1.3	35.1	1.3	3.9	28.6	2.6	64.9	-	1.3	-	1.3	-	-	53.2	45.5	
30~39歳	112	49.1	3.6	17.0	24.1	8.9	50.0	0.9	8.0	1.8	0.9	1.8	3.6	88.4	3.6	29.5	0.9	5.4	25.9	-	68.8	1.8	-	-	-	-	-	45.5	54.5	
40~49歳	136	50.0	5.1	23.5	22.8	6.6	46.3	3.7	5.1	2.9	-	1.5	0.7	89.0	5.9	36.8	1.5	10.3	25.7	0.7	57.4	5.9	1.5	-	-	0.7	0.7	38.2	60.3	
50~59歳	142	44.4	2.8	19.0	23.2	2.8	52.8	2.8	5.6	1.4	0.7	1.4	2.1	90.8	3.5	35.2	1.4	9.9	23.9	2.1	62.0	2.8	2.8	-	2.1	0.7	0.7	37.3	59.9	
60~69歳	194	56.7	3.1	23.7	24.2	10.3	34.5	8.8	12.4	2.1	3.1	3.6	3.6	71.1	16.5	50.0	1.0	14.9	35.6	3.1	36.6	13.4	2.6	0.5	1.5	0.5	-	23.7	73.7	
70歳以上	286	49.0	5.2	25.2	17.8	4.2	29.4	21.7	13.3	4.9	4.2	3.5	1.4	52.4	34.3	42.0	1.0	14.0	27.3	2.8	32.9	25.2	3.1	-	1.7	0.3	1.0	15.0	81.8	

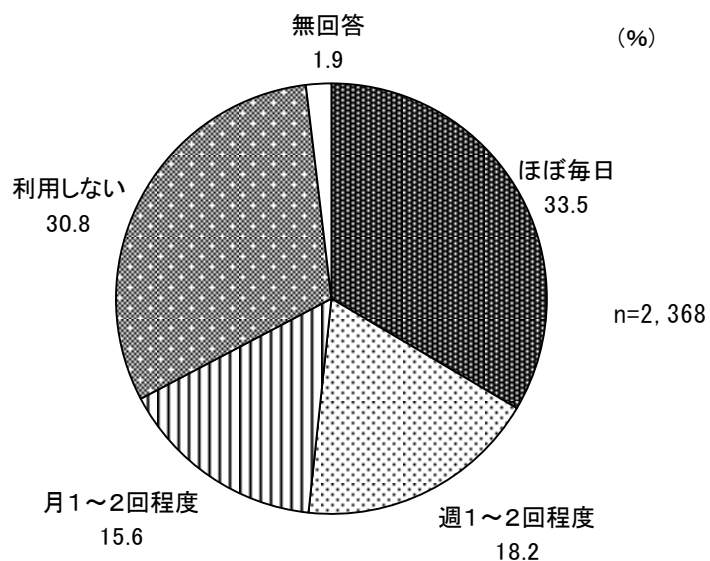
16. 自転車を活用したまちのにぎわい作りについて

(1) 自転車の利用状況

◇「ほぼ毎日」が3割強

問52. あなたは、暮らし（通勤通学・買い物・街乗り・スポーツやレジャー）の中でどの程度自転車を利用していますか。（○は1つ）

図表 16-1-1 自転車の利用状況

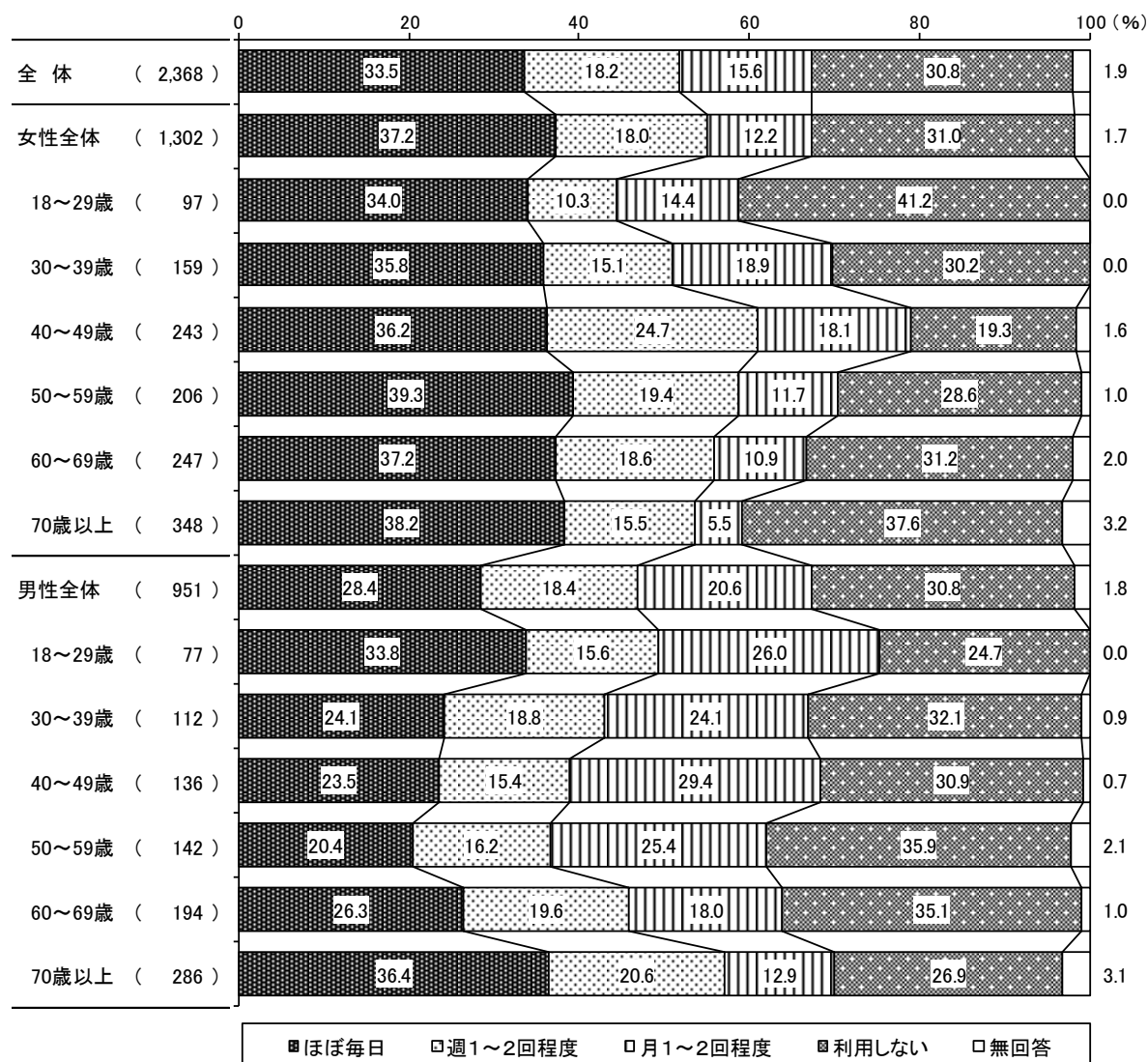


自転車の利用状況については、「ほぼ毎日」(33.5%)が3割強、「週1~2回程度」(18.2%)が2割弱、「月1~2回程度」(15.6%)が1割半ばとなっている。一方、「利用しない」(30.8%)は約3割となっている。

性別でみると、「ほぼ毎日」は女性（37.2%）が男性（28.4%）より8.8ポイント高くなっている。「月1～2回程度」は男性（20.6%）が女性（12.2%）より8.4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「ほぼ毎日」は女性50～59歳（39.3%）で約4割、女性70歳以上（38.2%）、女性60～69歳（37.2%）で4割弱と多くなっている。一方、「利用しない」は女性18～29歳（41.2%）で約4割、女性70歳以上（37.6%）で4割弱と多くなっている。

図表 16-1-2 性・年齢別 自転車の利用状況

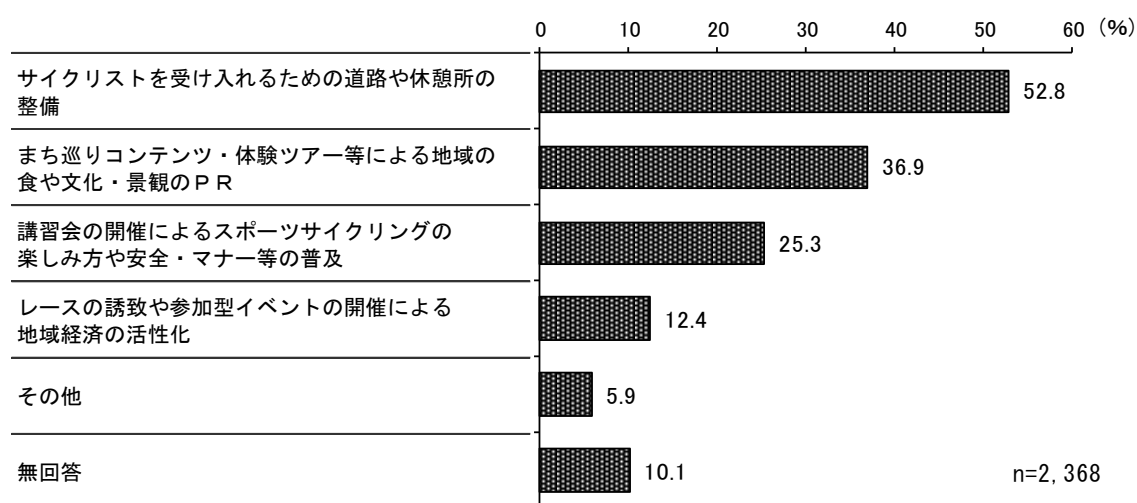


(2) まちのにぎわいに繋がると思うサイクリング事業

◇「サイクリストを受け入れるための道路や休憩所の整備」が最も多く、5割強

問53. あなたは、サイクリング事業（スポーツ・レジャー）について、どのような取組みが実施されると、まちのにぎわいに繋がるとお考えですか。（複数回答可）

図表 16-2-1 まちのにぎわいに繋がると思うサイクリング事業



まちのにぎわいに繋がると思うサイクリング事業については、「サイクリストを受け入れるための道路や休憩所の整備」(52.8%)が最も多く、次いで、「まち巡りコンテンツ・体験ツアー等による地域の食や文化・景観のPR」(36.9%)、「講習会の開催によるスポーツサイクリングの楽しみ方や安全・マナー等の普及」(25.3%)、「レースの誘致や参加型イベントの開催による地域経済の活性化」(12.4%)の順となっている。また、「その他」として「レンタサイクルの充実」「サイクリングコースの充実」等が挙げられた。

性別でみると、「サイクリストを受け入れるための道路や休憩所の整備」は男性（56.5%）が女性（50.9%）より5.6ポイント高くなっている。一方、「まち巡りコンテンツ・体験ツアー等による地域の食や文化・景観のPR」は女性（39.1%）が男性（33.5%）より5.6ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「サイクリストを受け入れるための道路や休憩所の整備」は男性50～59歳（63.4%）で6割強と多くなっている。「まち巡りコンテンツ・体験ツアー等による地域の食や文化・景観のPR」は女性30～39歳（48.4%）で5割弱、女性18～29歳（46.4%）、女性50～59歳（45.1%）、男性18～29歳（44.2%）、女性40～49歳（44.0%）で4割半ばと多くなっている。

図表 16-2-2 性・年齢別 まちのにぎわいに繋がると思うサイクリング事業

	調査数（人）	文化・景観のPR	まち巡りコンテンツ・体験	安全・マナー等の普及	講習会の開催による楽しみや	サイクリング道路や休憩所の整備	レクリエーションの誘致や参加型のイベント	その他	無回答
全体	2,368	36.9	25.3	52.8	12.4	5.9	10.1		
女性全体	1,302	39.1	25.7	50.9	11.0	4.9	10.9		
18～29歳	97	46.4	23.7	39.2	14.4	4.1	1.0		
30～39歳	159	48.4	22.6	48.4	15.7	5.7	3.1		
40～49歳	243	44.0	24.7	52.3	16.0	6.6	2.9		
50～59歳	206	45.1	30.1	57.8	11.2	3.9	3.4		
60～69歳	247	38.1	23.1	57.9	8.9	2.8	12.6		
70歳以上	348	26.7	27.9	45.4	5.7	5.7	25.9		
男性全体	951	33.5	25.2	56.5	14.7	7.4	7.5		
18～29歳	77	44.2	26.0	53.2	27.3	6.5	-		
30～39歳	112	29.5	17.9	52.7	26.8	10.7	6.3		
40～49歳	136	29.4	22.8	58.1	19.9	7.4	3.7		
50～59歳	142	34.5	22.5	63.4	14.1	9.9	1.4		
60～69歳	194	38.1	31.4	52.6	12.4	5.7	5.2		
70歳以上	286	31.1	26.2	57.3	6.3	6.3	16.1		

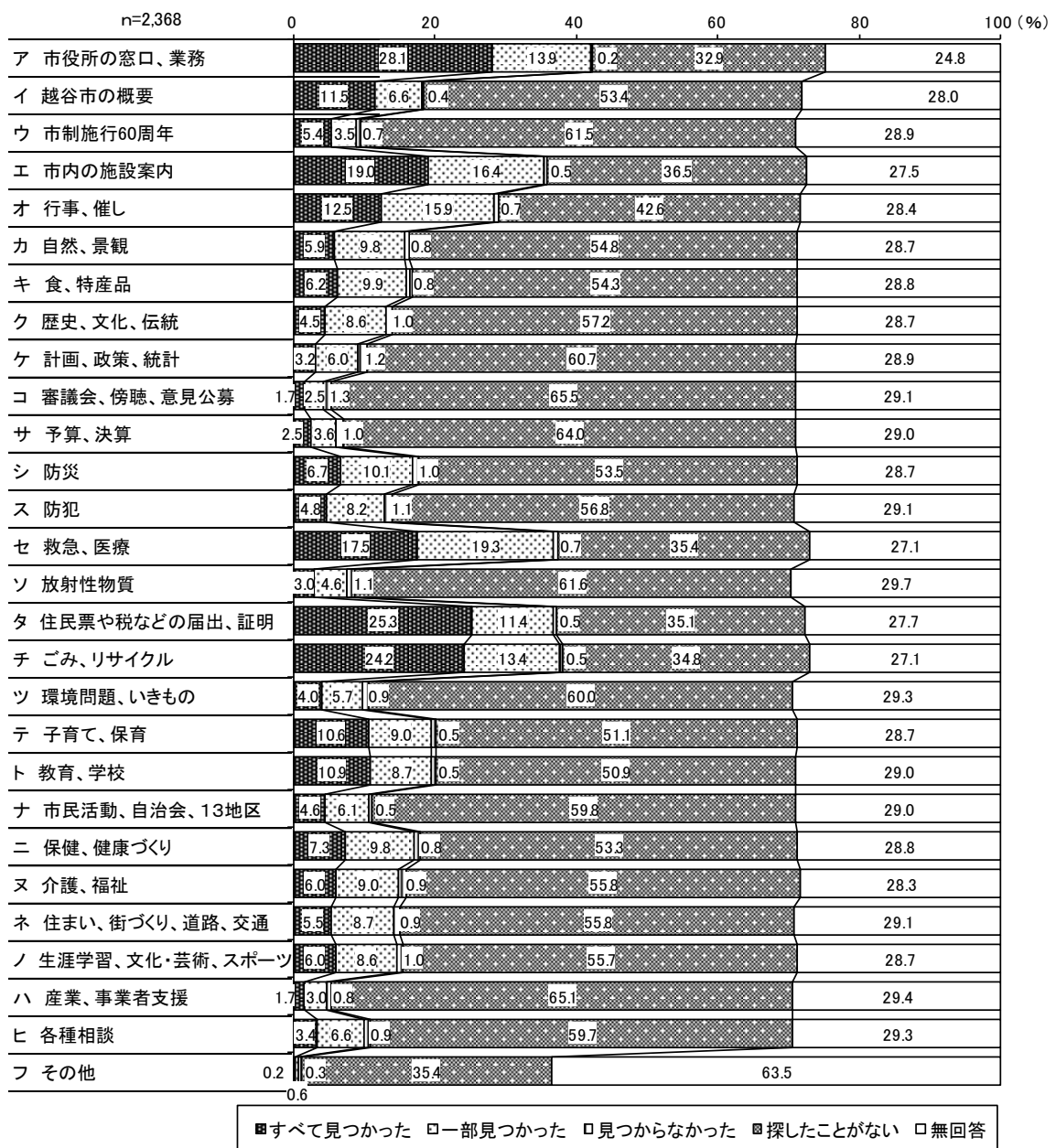
17. 越谷市公式ホームページについて

(1) 越谷市公式ホームページで探した情報

◇探した情報は「市役所の窓口、業務」が4割強、すべて見つかった情報は「市役所の窓口、業務」が3割弱

問54. ① 次の項目について、越谷市公式ホームページで探したことはありますか。また、その情報は見つかりましたか。(ア～フについて①の選択肢から1つ選んでください)

図表 17-1-1 越谷市公式ホームページで探した情報



越谷市公式ホームページで探した情報については、「市役所の窓口、業務」(42.2%)が最も多く、次いで、「ごみ、リサイクル」(38.1%)、「救急、医療」(37.5%)、「住民票や税などの届出、証明」(37.2%)、「市内の施設案内」(35.9%)の順となっている。

すべて見つかった情報については、「市役所の窓口、業務」(28.1%)が最も多く、次いで、「住民票や税などの届出、証明」(25.3%)、「ごみ、リサイクル」(24.2%)、「市内の施設案内」(19.0%)、「救急、医療」(17.5%)の順となっている。

探した情報について上位5項目を性・年齢別で見ると、「市役所の窓口、業務」は女性30～39歳(73.6%)で7割強、男性30～39歳(64.3%)で6割半ば、女性40～49歳(61.3%)で約6割と多くなっている。

「ごみ、リサイクル」は女性30～39歳(62.3%)で6割強、男性40～49歳(58.8%)、男性30～39歳(55.4%)、男性50～59歳(52.1%)で5割台と多くなっている。

「救急、医療」は女性30～39歳(67.3%)で7割弱、女性40～49歳(60.1%)で約6割と多くなっている。

「住民票や税などの届出、証明」は女性30～39歳(64.2%)で6割半ば、男性30～39歳(55.4%)、男性40～49歳(54.4%)、女性40～49歳(53.9%)で5割台と多くなっている。

「市内の施設案内」は女性30～39歳(57.3%)、女性40～49歳(54.7%)、男性50～59歳(50.7%)で5割以上と多くなっている。

すべて見つかった情報について上位5項目を性・年齢別で見ると、「市役所の窓口、業務」は女性30～39歳(45.9%)、男性50～59歳(40.8%)、男性40～49歳(40.4%)で4割台と多くなっている。

「住民票や税などの届出、証明」は男性40～49歳(41.9%)、女性30～39歳(40.3%)で4割以上と多くなっている。

「ごみ、リサイクル」は男性40～49歳(41.2%)で約4割、女性40～49歳(38.7%)、女性30～39歳(36.5%)、女性50～59歳(35.9%)で3割半ば以上と多くなっている。

「市内の施設案内」は男性50～59歳(31.7%)、男性40～49歳(31.6%)で約3割と多くなっている。

「救急、医療」は女性30～39歳(32.1%)、女性40～49歳(30.9%)で3割以上と多くなっている。

図表 17-1-2 性・年齢別 越谷市公式ホームページで探した情報

(%)

	(調査数)	ア 市役所の窓口、業務					イ 越谷市の概要					ウ 市制施行60周年					エ 市内の施設案内					オ 行事、催し				
		見すべて	見一部	見なかった	見ない	探したこと	無回答	見すべて	見一部	見なかった	見ない	探したこと	無回答	見すべて	見一部	見なかった	見ない	探したこと	無回答	見すべて	見一部	見なかった	見ない	探したこと	無回答	
全体	2,368	28.1	13.9	0.2	32.9	24.8	11.5	6.6	0.4	53.4	28.0	5.4	3.5	0.7	61.5	28.9	19.0	16.4	0.5	36.5	27.5	12.5	15.9	0.7	42.6	28.4
女性全体	1,302	27.6	14.1	0.3	32.6	25.4	9.3	5.7	0.3	56.4	28.3	4.4	3.1	0.6	63.1	28.7	19.0	16.3	0.6	36.5	27.6	12.4	17.4	0.8	41.1	28.4
18~29歳	97	39.2	10.3	-	47.4	3.1	14.4	3.1	-	76.3	6.2	6.2	-	1.0	86.6	6.2	14.4	15.5	2.1	62.9	5.2	14.4	14.4	2.1	62.9	6.2
30~39歳	159	45.9	27.7	-	23.3	3.1	10.7	9.4	-	74.8	5.0	3.1	5.7	-	86.2	5.0	26.4	29.6	1.3	38.4	4.4	18.2	35.2	0.6	41.5	4.4
40~49歳	243	39.9	21.0	0.4	31.3	7.4	10.7	6.2	-	73.7	9.5	5.8	2.5	0.8	81.5	9.5	26.7	27.6	0.4	35.8	9.5	17.7	23.5	1.2	47.3	10.3
50~59歳	206	36.9	16.0	-	31.1	16.0	10.2	5.8	1.0	64.1	18.9	4.4	1.9	1.0	73.8	18.9	28.6	14.1	0.5	36.9	19.9	18.4	17.5	0.5	44.2	19.4
60~69歳	247	18.6	9.3	0.4	39.7	32.0	9.7	6.5	0.8	50.2	32.8	4.0	4.0	0.4	57.9	33.6	17.0	12.1	0.4	38.9	31.6	9.7	16.2	0.4	40.1	33.6
70歳以上	348	8.3	6.6	0.6	29.3	55.2	5.5	3.7	-	30.2	60.6	3.7	3.4	0.6	30.7	61.5	7.2	6.9	0.3	26.7	58.9	3.7	6.6	0.6	29.3	59.8
男性全体	951	30.2	14.5	-	34.1	21.2	14.5	7.7	0.4	52.4	25.0	6.6	4.0	0.6	62.4	26.4	19.8	17.7	0.4	37.6	24.5	13.2	14.3	0.6	46.3	25.6
18~29歳	77	27.3	20.8	-	48.1	3.9	13.0	11.7	-	70.1	5.2	1.3	5.2	1.3	87.0	5.2	15.6	27.3	2.6	49.4	5.2	10.4	24.7	-	61.0	3.9
30~39歳	112	36.6	27.7	-	31.3	4.5	12.5	11.6	-	68.8	7.1	4.5	6.3	-	79.5	9.8	21.4	26.8	0.9	42.9	8.0	15.5	15.2	-	63.4	8.9
40~49歳	136	40.4	15.4	-	35.3	8.8	19.1	6.6	-	63.2	11.0	11.0	5.1	-	72.1	11.8	31.6	15.4	-	42.6	10.3	22.8	16.2	-	50.0	11.0
50~59歳	142	40.8	14.8	-	33.1	11.3	16.9	4.2	0.7	62.0	16.2	9.9	2.1	0.7	69.7	17.6	31.7	19.0	-	34.5	14.8	19.0	14.8	2.1	50.0	14.1
60~69歳	194	28.9	16.0	-	36.6	18.6	17.5	10.3	0.5	46.9	24.7	6.2	5.7	1.0	61.3	25.8	20.1	19.1	-	38.1	22.7	13.9	16.0	1.0	44.8	24.2
70歳以上	286	18.9	6.3	-	30.1	44.8	10.5	5.6	0.7	35.3	47.9	5.6	2.1	0.7	42.0	49.7	8.4	11.2	0.3	31.8	48.3	6.6	9.1	0.3	33.2	50.7

(%)

	(調査数)	カ 自然、景観					キ 食、特産品					ク 歴史、文化、伝統					ケ 計画、政策、統計					コ 審議会、傍聴、意見公募				
		見すべて	見一部	見なかった	見ない	探したこと	無回答	見すべて	見一部	見なかった	見ない	探したこと	無回答	見すべて	見一部	見なかった	見ない	探したこと	無回答	見すべて	見一部	見なかった	見ない	探したこと	無回答	
全体	2,368	5.9	9.8	0.8	54.8	28.7	6.2	9.9	0.8	54.3	28.8	4.5	8.6	1.0	57.2	28.7	3.2	6.0	1.2	60.7	28.9	1.7	2.5	1.3	65.5	29.1
女性全体	1,302	5.8	10.2	0.5	55.1	28.4	6.8	10.0	0.8	54.1	28.3	4.1	8.5	1.1	57.9	28.3	2.5	4.3	0.9	63.6	28.7	1.2	1.9	1.1	67.1	28.8
18~29歳	97	7.2	8.2	2.1	76.3	6.2	6.2	9.3	2.1	75.3	7.2	7.2	10.3	3.1	75.3	4.1	4.1	4.1	2.1	82.5	7.2	2.1	1.0	2.1	88.7	6.2
30~39歳	159	3.8	17.0	0.6	73.6	5.0	7.5	18.2	0.6	69.8	3.8	3.8	12.6	0.6	78.6	4.4	2.5	8.2	0.6	84.9	3.8	0.6	2.5	1.3	90.6	5.0
40~49歳	243	6.2	10.3	0.4	73.7	9.5	9.9	11.9	1.2	67.1	9.9	4.5	9.1	0.8	75.3	10.3	2.5	5.8	1.2	79.8	10.7	0.8	1.6	1.2	85.6	10.7
50~59歳	206	11.2	9.7	1.0	59.2	18.9	10.2	9.7	0.5	61.2	18.4	5.8	9.2	1.0	64.1	19.9	3.9	4.4	0.5	71.4	19.9	2.4	1.5	1.0	75.7	19.4
60~69歳	247	6.9	10.5	0.4	48.6	33.6	6.9	7.7	0.4	50.6	34.4	4.0	7.3	1.2	54.3	33.2	2.8	2.8	1.6	59.5	33.2	1.2	2.0	0.8	62.3	33.6
70歳以上	348	2.0	7.8	-	29.9	60.3	2.6	6.9	0.6	30.2	59.8	2.3	6.3	0.9	30.5	60.1	0.9	2.6	0.3	35.6	60.6	0.6	2.0	0.9	35.9	60.6
男性全体	951	6.4	9.1	1.1	57.1	26.3	5.8	10.0	0.7	57.0	26.5	5.2	9.0	0.9	58.5	26.4	4.1	8.6	1.6	59.2	26.5	2.4	3.4	1.6	65.9	26.7
18~29歳	77	2.6	15.6	1.3	75.3	5.2	7.8	18.2	-	68.8	5.2	5.2	11.7	2.6	75.3	5.2	2.6	13.0	2.6	76.6	5.2	1.3	3.9	2.6	87.0	5.2
30~39歳	112	7.1	10.7	1.8	72.3	8.0	3.6	12.5	1.8	74.1	8.0	2.7	9.8	0.9	78.6	8.0	2.7	11.6	2.7	75.0	8.0	1.8	1.8	3.6	84.8	8.0
40~49歳	136	9.6	11.8	0.7	66.9	11.0	8.1	11.0	1.5	68.4	11.0	7.4	8.8	0.7	72.1	11.0	5.1	8.1	2.2	72.8	11.8	2.9	2.9	1.5	80.9	11.8
50~59歳	142	7.7	7.0	0.7	67.6	16.9	7.7	10.6	-	64.8	16.9	6.3	7.0	1.4	68.3	16.9	7.7	7.0	2.1	66.9	16.2	2.1	4.2	1.4	75.4	16.9
60~69歳	194	9.3	8.8	1.5	56.2	24.2	7.7	9.3	1.0	56.2	25.8	8.2	10.3	1.5	55.2	24.7	5.2	12.4	0.5	56.2	25.8	3.6	5.2	2.1	63.4	25.8
70歳以上	286	3.1	7.0	0.7	37.4	51.7	2.8	6.6	0.3	38.8	51.4	2.4	8.4	-	37.4	51.7	2.1	4.9	1.0	40.6	51.4	2.1	2.4	0.3	43.4	51.7

(%)

	(調査数)	サ 予算、決算					シ 防災					ス 防犯					セ 救急、医療					ソ 放射性物質				
		見すべて	見一部	見なかった	見ない	探したこと	無回答	見すべて	見一部	見なかった	見ない	探したこと	無回答	見すべて	見一部	見なかった	見ない	探したこと	無回答	見すべて	見一部	見なかった	見ない	探したこと	無回答	
全体	2,368	2.5	3.6	1.0	64.0	29.0	6.7	10.1	1.0	53.5	28.7	4.8	8.2	1.1	56.8	29.1	17.5	19.3	0.7	35.4	27.1	3.0	4.6	1.1	61.6	29.7
女性全体	1,302	1.6	2.5	1.0	66.2	28.7	5.9	8.7	1.1	55.8	28.5	4.0	7.4	1.2	58.5	29.0	18.7	19.4	0.6	34.0	27.2	3.2	5.0	1.1	60.9	29.8
18~29歳	97	-	2.1	2.1	89.7	6.2	7.2	8.2	-	77.3	7.2	3.1	8.2	1.0	81.4	6.2	16.5	15.5	1.0	60.8	6.2	2.1	2.1	1.0	86.6	8.2
30~39歳	159	1.9	3.1	0.6	89.9	4.4	6.3	18.9	1.3	69.8	3.8	6.3	13.2	0.6	74.2	5.7	32.1	35.2	-	28.9	3.8	2.5	3.8	1.9	85.5	6.3
40~49歳	243	1.2	2.5	1.2	84.4	10.7	7.4	11.1	1.2	70.4	9.9	2.5	11.5	1.6	74.1	10.3	30.9	28.4	0.8	31.7	8.2	5.8	10.7	1.6	70.4	11.5
50~59歳	206	3.4	2.9	1.5	72.8	19.4	11.7	7.8	1.5	59.7	19.4	7.3	5.8	1.5	66.5	18.9	28.2	18.9	1.0	34.0	18.0	5.8	5.8	1.9	67.0	19.4
60~69歳	247	1.2	2.4	0.8	61.9	33.6	2.4	6.9	0.8	55.9	34.0	2.8	5.3	1.2	56.7	34.0	10.9	16.6	0.8	39.7	32.0	2.4	3.6	0.4	59.1	34.4
70歳以上	348	1.4	2.0	0.6	35.3	60.6	3.4	4.3	1.1	31.0	60.1	3.2	4.0	0.9	30.7	61.2	4.9	9.2	0.3	26.7	58.9	1.1	2.9	0.3	33.6	62.1
男性全体	951	3.6	5.2	0.8	64.1	26.3	7.9	12.4	0.9	52.6	26.2	6.1	9.7	1.1	56.8	26.4	16.4	20.1	0.9	38.4	24.2	2.8	4.2	0.9	65.2	26.8
18~29歳	77	1.3	6.5	1.3	85.7	5.2	9.1	13.0	1.3	71.4	5.2	3.9	15.6	1.3	74.0	5.2	9.1	31.2	-	54.5	5.2	1.3	5.2	2.6	85.7	5.2
30~39歳	112	1.8	4.5	1.8	83.9	8.0	8.0	22.3	0.9	60.7	8.0	5.4	16.1	0.9	69.6	8.0	14.3	36.6	1.8	39.3	8.0	1.8	6.3	0.9	82.1	8.9
40~49歳	136	4.4	5.1	0.7	77.9	11.8	8.8	14.0	1.5	64.0	11.8	7.4	12.5	1.5	67.6	11.0	25.7	23.5	1.5	39.7	9.6	6.6	6.6	0.7	73.5	12.5
50~59歳	142	4.2	6.3	0.7	72.5	16.2	10.6	11.3	-	61.3	16.9	8.5														

第4章 調査結果の詳細

(%)

	(調査数)	タ 住民票や税などの届出、証明					チ ごみ、リサイクル					ツ 環境問題、いきもの					テ 子育て、保育					ト 教育、学校				
		見すべて	見一部	なかつた	見なかった	探したこと	無回答	見すべて	見一部	なかつた	見なかった	探したこと	無回答	見すべて	見一部	なかつた	見なかった	探したこと	無回答	見すべて	見一部	なかつた	見なかった	探したこと	無回答	
全体	2,368	25.3	11.4	0.5	35.1	27.7	24.2	13.4	0.5	34.8	27.1	4.0	5.7	0.9	60.0	29.3	10.6	9.0	0.5	51.1	28.7	10.9	8.7	0.5	50.9	29.0
女性全体	1,302	26.0	11.8	0.3	34.4	27.6	24.7	13.1	0.5	34.6	27.1	3.1	5.1	0.9	61.8	29.0	11.4	10.4	0.5	49.2	28.4	11.8	9.3	0.5	49.6	28.8
18~29歳	97	28.9	11.3	-	54.6	5.2	22.7	11.3	-	60.8	5.2	3.1	6.2	-	84.5	6.2	16.5	12.4	-	67.0	4.1	14.4	10.3	1.0	67.0	7.2
30~39歳	159	40.3	22.6	1.3	32.1	3.8	36.5	24.5	1.3	32.7	5.0	1.9	5.0	0.6	86.2	6.3	31.4	27.7	1.3	35.8	3.8	25.8	20.8	0.6	47.2	5.7
40~49歳	243	35.4	18.5	-	35.0	11.1	38.7	18.9	0.4	33.7	8.2	3.3	8.6	2.1	75.3	10.7	21.0	18.5	0.8	50.2	9.5	21.4	17.7	0.4	50.6	9.9
50~59歳	206	37.9	10.2	0.5	34.0	17.5	35.9	13.1	1.0	34.5	15.5	4.4	5.8	1.0	69.9	18.9	10.2	7.8	0.5	61.7	19.9	14.6	8.3	0.5	58.3	18.4
60~69歳	247	21.1	8.5	-	38.9	31.6	17.4	10.1	0.8	38.9	32.8	4.0	3.6	1.2	57.9	33.2	2.4	4.9	0.8	59.1	32.8	2.8	4.5	0.8	58.7	33.2
70歳以上	348	8.6	5.2	0.3	26.7	59.2	8.6	6.0	-	26.1	59.2	2.3	2.9	-	33.3	61.5	1.4	2.0	-	35.1	61.5	2.6	2.0	0.3	33.6	61.5
男性全体	951	26.0	11.5	0.9	36.8	24.8	25.0	14.4	0.6	35.9	24.1	5.0	6.6	0.9	60.5	26.9	10.1	7.7	0.5	55.5	26.2	9.9	8.1	0.5	55.0	26.5
18~29歳	77	22.1	14.3	2.6	57.1	3.9	19.5	14.3	-	61.0	5.2	2.6	13.0	-	79.2	5.2	5.2	13.0	-	76.6	5.2	6.5	13.0	-	75.3	5.2
30~39歳	112	36.6	17.9	0.9	36.6	8.0	30.4	23.2	1.8	37.5	7.1	5.4	6.3	2.7	77.7	8.0	23.2	14.3	0.9	55.4	6.3	14.3	17.0	-	59.8	8.9
40~49歳	136	41.9	11.0	1.5	35.3	10.3	41.2	17.6	-	32.4	8.8	8.1	5.1	-	75.0	11.8	23.5	10.3	-	55.9	10.3	20.6	11.0	0.7	57.4	10.3
50~59歳	142	31.7	14.8	0.7	38.7	14.1	33.1	18.3	0.7	34.5	13.4	5.6	8.5	0.7	67.6	17.6	12.7	7.0	0.7	63.4	16.2	13.4	8.5	0.7	61.3	16.2
60~69歳	194	25.8	11.9	1.0	38.1	23.2	22.2	17.0	0.5	39.2	21.1	6.7	7.7	1.5	58.8	25.3	4.1	6.2	0.5	62.9	26.3	7.2	7.2	-	59.8	25.8
70歳以上	286	12.6	6.6	0.3	30.4	50.0	14.3	5.9	0.7	29.0	50.0	2.8	4.2	0.7	39.9	52.4	2.8	3.8	0.7	41.3	51.4	3.8	2.4	1.0	40.6	52.1

(%)

	(調査数)	ナ 市民活動、自治会、13地区					ニ 保健、健康づくり					ヌ 介護、福祉					ネ 住まい、街づくり、道路、交通					ノ 生涯学習、文化・芸術、スポーツ				
		見すべて	見一部	なかつた	見なかった	探したこと	無回答	見すべて	見一部	なかつた	見なかった	探したこと	無回答	見すべて	見一部	なかつた	見なかった	探したこと	無回答	見すべて	見一部	なかつた	見なかった	探したこと	無回答	
全体	2,368	4.6	6.1	0.5	59.8	29.0	7.3	9.8	0.8	53.3	28.8	6.0	9.0	0.9	55.8	28.3	5.5	8.7	0.9	55.8	29.1	6.0	8.6	1.0	55.7	28.7
女性全体	1,302	3.9	5.8	0.6	60.8	29.0	7.8	10.4	0.8	52.5	28.5	6.1	8.9	1.1	56.1	27.8	4.6	7.5	1.1	57.9	28.9	6.2	7.9	1.2	56.2	28.5
18~29歳	97	4.1	3.1	1.0	84.5	7.2	5.2	9.3	2.1	77.3	6.2	9.3	6.2	-	78.4	6.2	4.1	4.1	1.0	84.5	6.2	3.1	4.1	1.0	85.6	6.2
30~39歳	159	5.0	9.4	1.3	78.6	5.7	11.9	17.0	0.6	65.4	5.0	4.4	8.8	1.3	81.1	4.4	5.7	11.3	0.6	77.4	5.0	10.1	11.3	0.6	73.0	5.0
40~49歳	243	3.3	7.0	0.4	78.6	10.7	11.5	14.0	1.6	62.1	10.7	5.3	10.7	1.2	72.4	10.3	5.8	9.1	2.9	71.6	10.7	9.5	7.8	2.9	69.5	10.3
50~59歳	206	4.9	3.9	1.0	69.9	20.4	12.1	9.2	1.0	59.2	18.4	8.7	10.7	1.5	60.2	18.9	5.8	9.2	1.0	63.6	20.4	7.8	11.2	1.5	61.2	18.4
60~69歳	247	4.5	6.9	0.4	54.7	33.6	4.0	9.7	-	52.6	33.6	4.9	8.9	1.2	51.4	33.6	4.5	8.5	-	54.3	32.8	6.1	8.5	0.8	51.4	33.2
70歳以上	348	2.9	4.3	0.3	32.5	60.1	4.3	6.3	0.6	28.7	60.1	5.7	7.5	0.9	28.2	57.8	2.9	3.7	0.9	31.6	60.9	2.3	5.2	0.3	31.6	60.6
男性全体	951	5.4	6.6	0.4	61.1	26.5	7.0	9.3	0.6	56.6	26.5	5.8	9.3	0.7	57.9	26.3	6.7	10.7	0.7	55.1	26.7	6.0	9.7	0.8	57.4	26.1
18~29歳	77	3.9	6.5	-	84.4	5.2	5.2	7.8	-	81.8	5.2	2.6	6.5	1.3	84.4	5.2	3.9	14.3	1.3	75.3	5.2	7.8	10.4	2.6	74.0	5.2
30~39歳	112	2.7	6.3	-	83.0	8.0	7.1	13.4	0.9	73.2	5.4	4.5	7.1	0.9	79.5	8.0	5.4	14.3	-	71.4	8.9	4.5	9.8	1.8	76.8	7.1
40~49歳	136	7.4	3.7	1.5	76.5	11.0	11.0	8.8	1.5	67.6	11.0	5.9	6.6	0.7	75.7	11.0	10.3	9.6	2.9	66.2	11.0	8.1	11.8	-	67.6	12.5
50~59歳	142	4.2	5.6	0.7	71.8	17.6	8.5	10.6	-	64.1	16.9	7.7	9.2	0.7	65.5	16.9	8.5	12.7	0.7	62.0	16.2	7.7	6.3	1.4	67.6	16.9
60~69歳	194	5.7	9.3	0.5	59.3	25.3	7.7	11.3	0.5	54.6	25.8	8.2	13.9	1.0	52.1	24.7	9.3	12.4	0.5	52.1	25.8	6.7	13.9	0.5	55.2	23.7
70歳以上	286	6.3	7.0	-	35.3	51.4	4.5	6.3	0.7	36.0	52.4	4.5	9.1	0.3	34.6	51.4	3.8	7.0	-	37.1	52.1	3.8	7.3	0.3	37.4	51.0

(%)

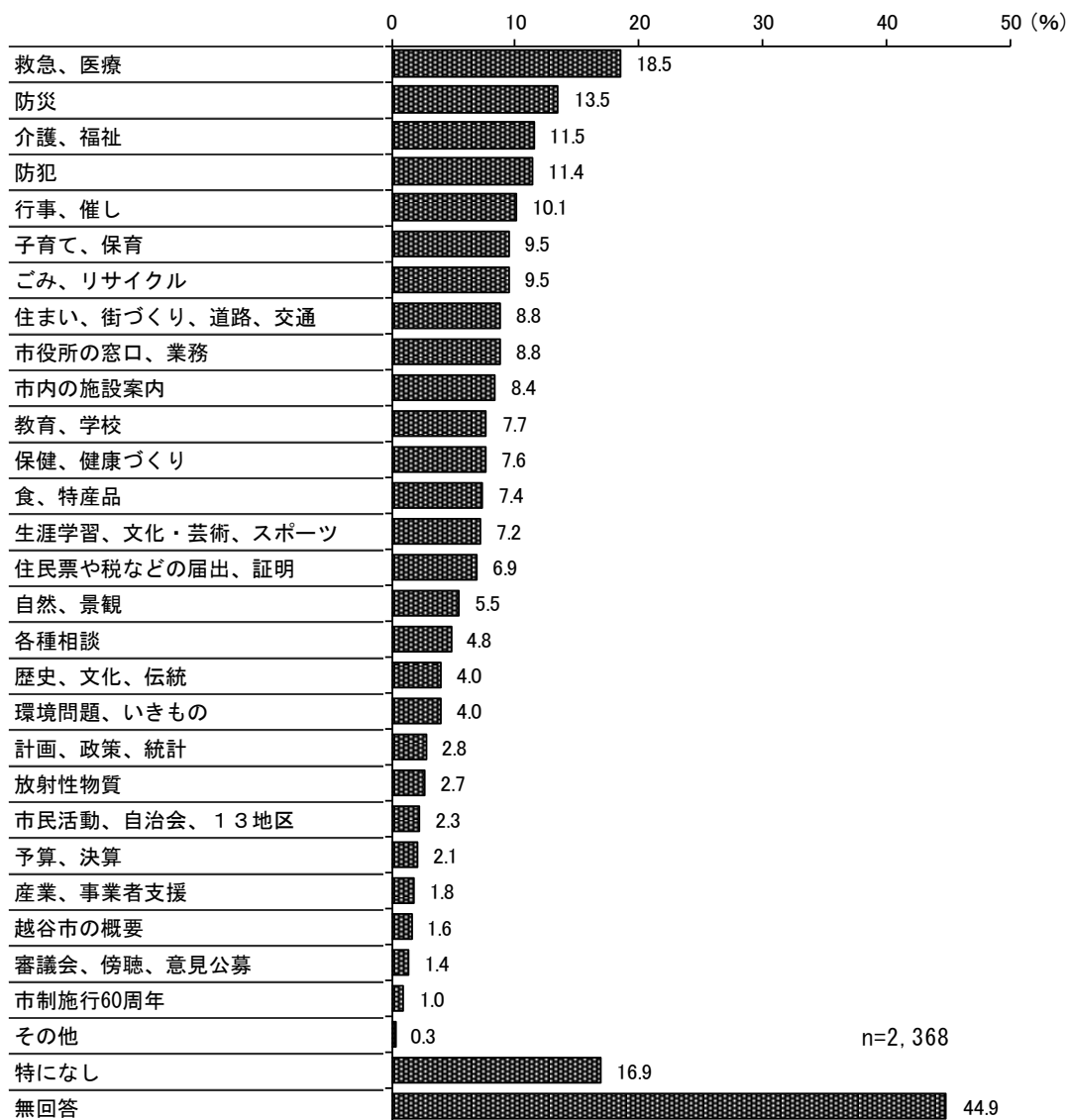
	(調査数)	ハ 産業、事業者支援					ヒ 各種相談					フ その他														
		見すべて	見一部	なかつた	見なかった	探したこと	無回答	見すべて	見一部	なかつた	見なかった	探したこと	無回答	見すべて	見一部	なかつた	見なかった	探したこと	無回答							
全体	2,368	1.7	3.0	0.8	65.1	29.4	3.4	6.6	0.9	59.7	29.3	0.2	0.6	0.3	35.4	63.5	1.3	2.1	0.4	65.1	29.4	0.2	0.6	0.3	35.4	63.5
女性全体	1,302	1.0	2.0	1.0	67.0	29.0	2.9	6.7	1.2	59.8	29.5	0.2	0.5	0.3	34.5	64.5	1.3	2.1	0.4	65.1	29.4	0.2	0.6	0.3	35.4	63.5
18~29歳	97	2.1	3.1	1.0	87.6	6.2	5.2	4.1	2.1	82.5	6.2	-	-	-	41.2	58.8	1.3	2.1	0.4	65.1	29.4	0.2	0.6	0.3	35.4	63.5
30~39歳	159	-	3.8	0.6	89.9	5.7	1.3	10.1	1.3	81.8	5.7	-	1.9	0.6	42.1	55.3	1.3	2.1	0.4	65.1	29.4	0.2	0.6	0.3	35.4	63.5
40~49歳	243	0.8	2.1	2.9	83.5	10.7	4.5	7.4	2.1	74.5	11.5	0.4	0.4	0.4	42.0	56.8	1.3	2.1	0.4	65.1	29.4	0.2	0.6	0.3	35.4	63.5
50~59歳	206	2.4	1.9	0.5	75.7	19.4	4.4	10.2	1.5	64.6	19.4	0.5	0.5	0.5	37.4	61.2	1.3	2.1	0.4	65.1	29.4	0.2	0.6	0.3	35.4	63.5
60~69歳	247	0.4	1.6	-	64.4	33.6	2.4	5.3	0.4	57.5	34.4	-	-	-	33.2	66.8	1.3	2.1	0.4	65.1	29.4	0.2	0.6	0.3	35.4	63.5
70歳以上	348	0.9	1.1	0.9	35.9	61.2	1.4	4.0	0.6	32.2	61.8	-	0.6	0.3	23.3	75.9	1.3	2.1	0.4	65.1	29.4	0.2	0.6	0.3	35.4	63.5
男性全体	951	2.6	4.4	0.6	65.6	26.7	4.1	6.2	0.7	62.5	26.5	0.3	0.5	0.2	38.2	60.8	1.3	2.1	0.4	65.1	29.4	0.2	0.6	0.3	35.4	63.5
18~29歳	77	1.3	5.2	1.3	87.0	5.2	2.6	7.8	-	84.4	5.2	-	-	-	49.4	50.6	1.3	2.1	0.4	65.1	29.4	0.2	0.6	0.3	35.4	63.5
30~39歳	112	3.6	5.4	-	82.1	8.9	2.7	8.9	0.9	78.6	8.9	-	-	-	45.5	54.5	1.3	2.1	0.4	65.1	29.4	0.2	0.6	0.3	35.4	63.5
40~49歳	136	2.9	5.9	0.7	79.4	11.0	8.8	6.6	2.2	71.3	11.0	0.7	1.5	0.7	45.6	51.5	1.3	2.1	0.4	65.1	29.4	0.2	0.6	0.3	35.4	63.5
50~59歳	142	2.1	6.3	0.7	73.9	16.9	4.9	4.2	0.7	72.5	17.6	-	0.7	-	43.0	56.3	1.3	2.1	0.4	65.1	29.4	0.2	0.6	0.3	35.4	63.5
60~69歳	194	4.6	5.7	1.0</																						

(2) 今後充実してほしい情報

◇「救急、医療」が最も多く、2割弱

問54. ② 今後充実してほしい情報を教えてください。(複数回答可)

図表 17-2-1 今後充実してほしい情報



越谷市公式ホームページで今後充実してほしい情報については、「救急、医療」(18.5%)が最も多く、次いで、「防災」(13.5%)、「介護、福祉」(11.5%)、「防犯」(11.4%)、「行事、催し」(10.1%)の順となっている。また、「その他」として「ペット保護情報」「女性の起業」等が挙げられた。

性・年齢別でみると、「救急、医療」は女性40～49歳（27.2%）で3割弱、女性30～39歳（26.4%）、女性50～59歳（24.3%）で2割半ばと多くなっている。「防災」は男性18～29歳（19.5%）、女性50～59歳（18.9%）、男性60～69歳（18.6%）で2割弱と多くなっている。「介護、福祉」は女性50～59歳（20.9%）で約2割と多くなっている。

図表 17-2-2 性・年齢別 今後充実してほしい情報

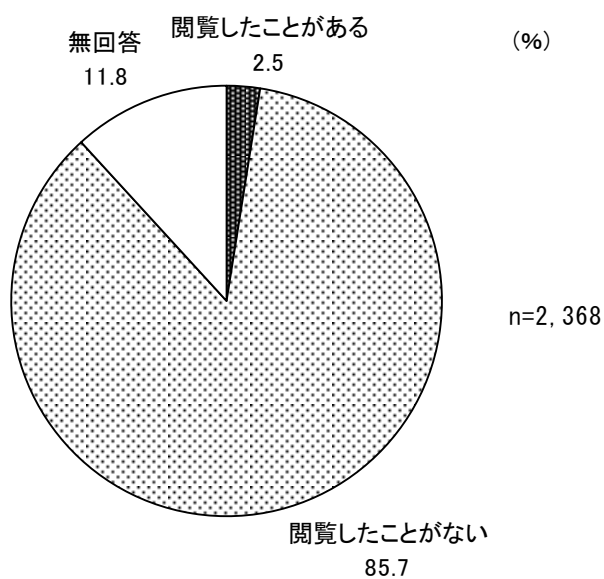
調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位	(%)
全 体 (2,368)	救急、医療 18.5	防災 13.5	介護、福祉 11.5	防犯 11.4	行事、催し 10.1	
女性全体 (1,302)	救急、医療 19.2	防災 13.0	防犯 12.2	介護、福祉 12.1	子育て、保育 10.8	
18～29歳 (97)	子育て、保育 16.5	行事、催し 13.4	防災 防犯 救急、医療			12.4
30～39歳 (159)	子育て、保育 34.6	救急、医療 26.4	教育、学校 23.3	市内の施設案内 15.7	防災 防犯	15.1
40～49歳 (243)	救急、医療 27.2	教育、学校 17.3	防災 15.6	子育て、保育 14.8	行事、催し 13.2	
50～59歳 (206)	救急、医療 24.3	介護、福祉 20.9	防災 18.9	防犯 18.4	ごみ、リサイクル 11.7	
60～69歳 (247)	救急、医療 19.4	介護、福祉 13.8	防災 12.1	行事、催し 防犯		11.7
70歳以上 (348)	救急、医療 介護、福祉		防災 防犯		ごみ、リサイクル	5.5
男性全体 (951)	救急、医療 18.5	防災 15.0	防犯 11.4	介護、福祉 11.3	行事、催し 10.6	
18～29歳 (77)	防災 防犯		救急、医療 18.2	行事、催し 食、特産品		14.3
30～39歳 (112)	救急、医療 22.3	市役所の窓口、業務 子育て、保育		防災 16.1	住民票や税などの届出、証明	13.4
40～49歳 (136)	救急、医療 16.2	子育て、保育 14.7	行事、催し 防災		防犯 教育、学校	11.8
50～59歳 (142)	救急、医療 21.8	市役所の窓口、業務 15.5	防災 介護、福祉		住民票や税などの届出、証明 ごみ、リサイクル 子育て、保育	13.4
60～69歳 (194)	救急、医療 22.7	防災 18.6	防犯 介護、福祉		ごみ、リサイクル 保健、健康づくり	13.4
70歳以上 (286)	救急、医療 14.0	防災 12.2	介護、福祉 11.5	市内の施設案内 9.4	住まい、街づくり、道路、交通	8.4

(3) 「越谷ってこんなところ！」の閲覧の有無

◇「閲覧したことがある」が2.5%

問55. 平成29年11月のホームページリニューアルで新設したシティプロモーションサイト「越谷ってこんなところ！」を閲覧したことがありますか。

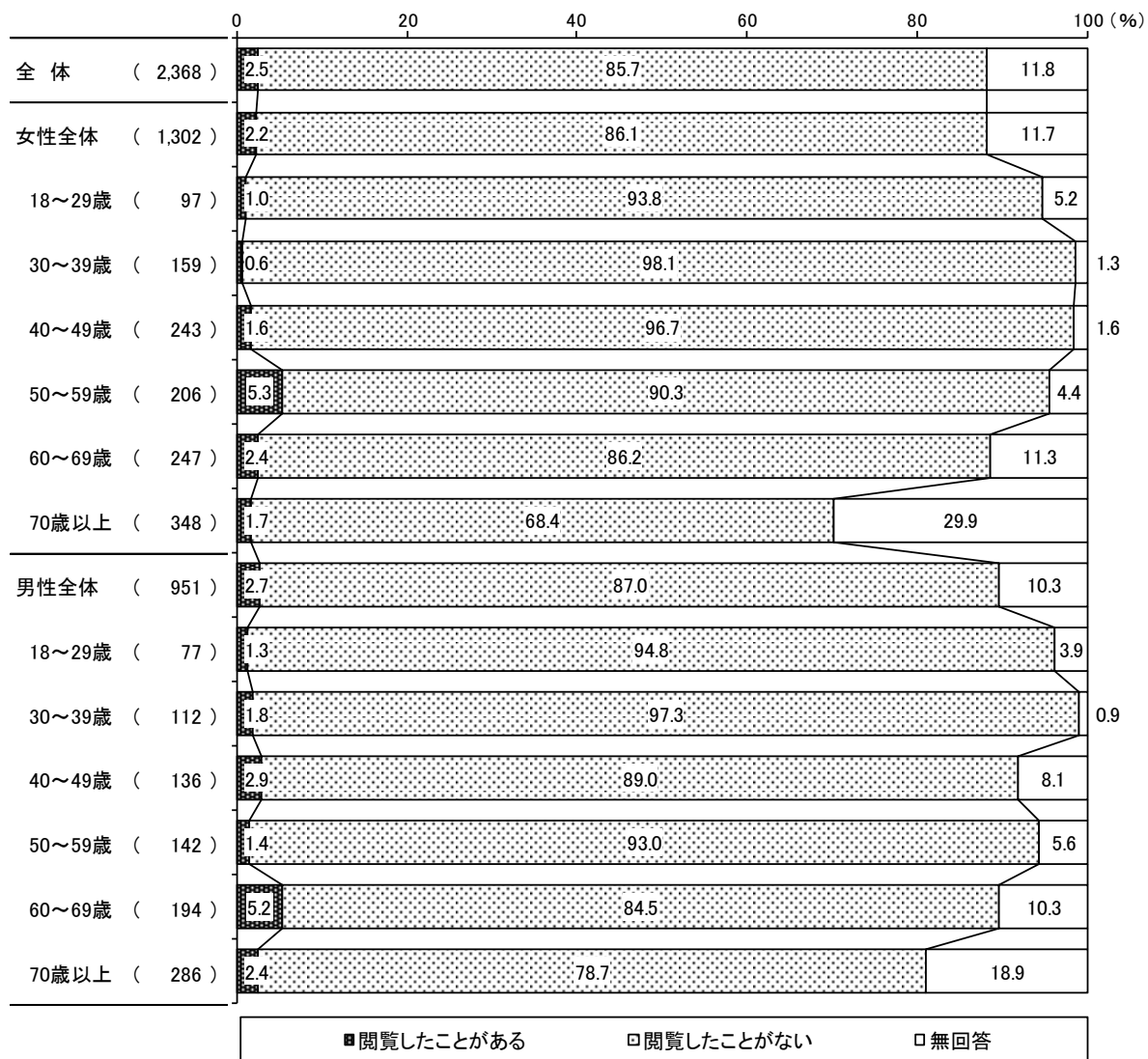
図表 17-3-1 「越谷ってこんなところ！」閲覧の有無



「越谷ってこんなところ！」の閲覧の有無については、「閲覧したことがある」が2.5%、「閲覧したことがない」(85.7%)が8割半ばとなっている。

性別でみると、女性・男性で大きな差異はみられない。
 性・年齢別でみると、「閲覧したことがある」は女性 50～59 歳で 5.3%、男性 60～69 歳で 5.2%となっている。

図表 17-3-2 性・年齢別 「越谷ってこんなところ！」閲覧の有無



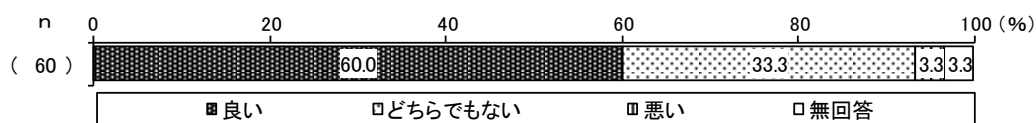
(4) 閲覧の印象

◇デザイン「良い」が6割、掲載内容「十分な内容がある」が約4割、市外へ向けてのPR効果「効果がある」が4割弱

問55-2. 問55で「1. 閲覧したことがある」と答えた方に伺います。閲覧した印象をそれぞれお答えください。

図表 17-4-1 閲覧の印象

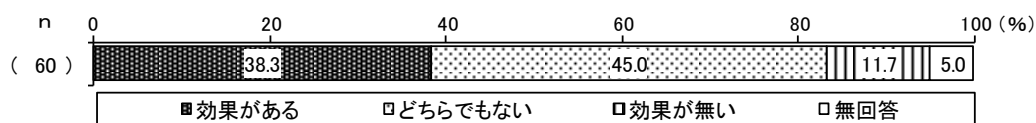
ア デザイン



イ 掲載内容



ウ 市外へ向けてのPR効果



「越谷ってこんなところ！」を閲覧したことがあると回答した60人に閲覧の印象を聞いたところ、デザインについては「良い」(60.0%)が6割、掲載内容については、「十分な内容がある」(41.7%)が約4割、市外へ向けてのPR効果については、「効果がある」(38.3%)が4割弱となっている。また、自由意見として「動画や画像を増やしてほしい」「ありきたりな感じ」等が挙げられた。

性別、性・年齢別とも調査数が少ないため（本調査では30人未満とする）記述の対象としない。

図表 17-4-2 性・年齢別 閲覧の印象

		ア デザイン				イ 掲載内容				ウ 市外へ向けてのPR効果			
		良い	どちらでもない	悪い	無回答	十分な内容がある	どちらでもない	不十分である	無回答	効果がある	どちらでもない	効果が無い	無回答
全体	60	60.0	33.3	3.3	3.3	41.7	41.7	10.0	6.7	38.3	45.0	11.7	5.0
女性全体	29	55.2	41.4	3.4	-	34.5	48.3	13.8	3.4	20.7	58.6	17.2	3.4
18～29歳	1	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-
30～39歳	1	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-	100.0	-	-
40～49歳	4	25.0	75.0	-	-	50.0	25.0	25.0	-	25.0	75.0	-	-
50～59歳	11	36.4	54.5	9.1	-	18.2	63.6	18.2	-	18.2	45.5	36.4	-
60～69歳	6	66.7	33.3	-	-	66.7	33.3	-	-	33.3	66.7	-	-
70歳以上	6	83.3	16.7	-	-	33.3	50.0	-	16.7	16.7	66.7	-	16.7
男性全体	26	65.4	23.1	3.8	7.7	46.2	34.6	7.7	11.5	53.8	30.8	7.7	7.7
18～29歳	1	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-
30～39歳	2	50.0	50.0	-	-	-	100.0	-	-	-	50.0	50.0	-
40～49歳	4	100.0	-	-	-	50.0	50.0	-	-	100.0	-	-	-
50～59歳	2	100.0	-	-	-	50.0	50.0	-	-	100.0	-	-	-
60～69歳	10	40.0	30.0	10.0	20.0	40.0	20.0	20.0	20.0	50.0	30.0	10.0	10.0
70歳以上	7	71.4	28.6	-	-	57.1	28.6	-	14.3	42.9	42.9	-	14.3

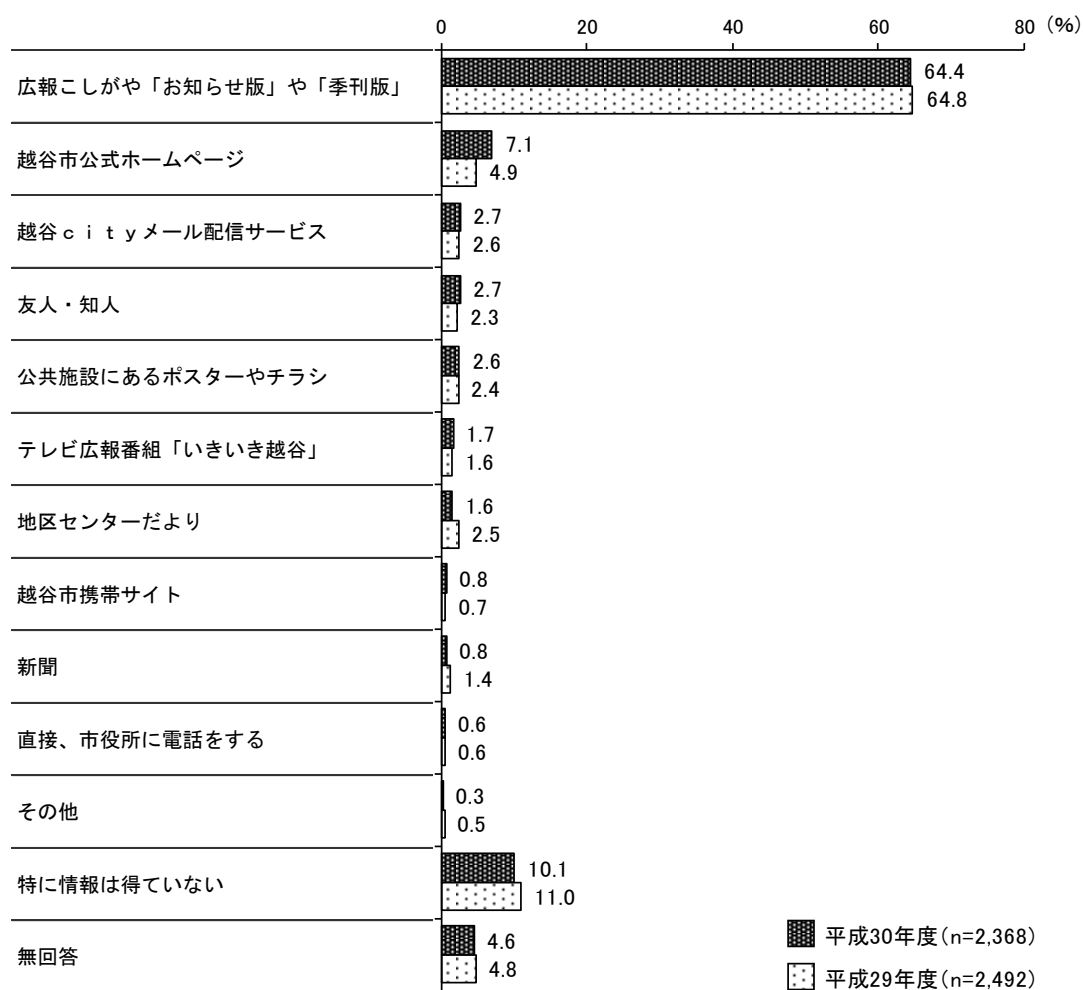
18. 広報について

(1) 市政情報を得ているもの

◇「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が最も多く、6割半ば

問56. あなたは、市政情報を主に何から得ていますか。(〇は1つ)

図表 18-1-1 市政情報を得ているもの



市政情報を主に得ているものについては、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」(64.4%)が最も多く、次いで、「越谷市公式ホームページ」(7.1%)、「越谷cityメール配信サービス」(2.7%)、「友人・知人」(2.7%)、「公共施設にあるポスターやチラシ」(2.6%)の順となっている。また、「その他」として「家族から」「SNS」等が挙げられた。

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられない。

性別で見ると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は女性（67.1%）が男性（60.3%）より6.8ポイント高くなっている。一方、「越谷市公式ホームページ」は男性（10.1%）が女性（5.3%）より4.8ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は女性60～69歳（77.7%）、女性70歳以上（77.3%）で8割弱と多くなっている。「越谷市公式ホームページ」は男性30～39歳（25.0%）で2割半ば、男性18～29歳（18.2%）で2割弱と多くなっている。「越谷cityメール配信サービス」は女性30～39歳（11.9%）で約1割と多くなっている。

図表 18-1-2 性・年齢別 市政情報を得ているもの

(%)

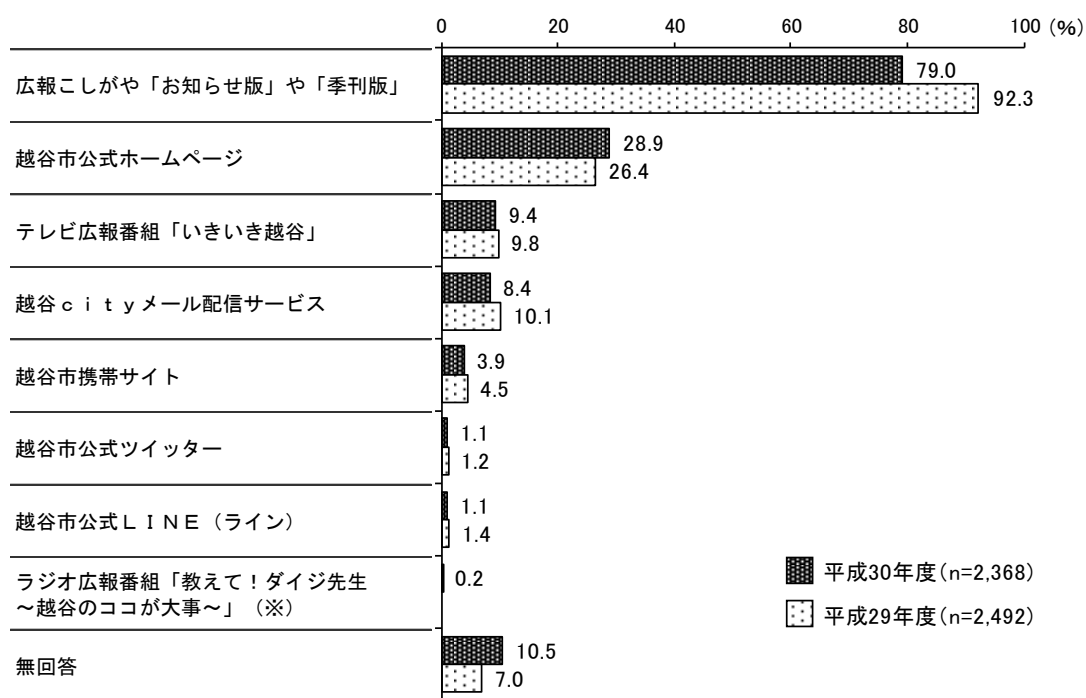
	調査数（人）	「広報こしがや『季刊版』」	テレビ広報番組「いきいき越谷」	越谷市公式ホームページ	越谷市携帯サイト	越谷cityメール配信サービス	地区センターだより	公共施設にあるポスターやチラシ	直接、市役所に電話をする	友人・知人	新聞	その他	特に情報は得ていない	無回答
全 体	2,368	64.4	1.7	7.1	0.8	2.7	1.6	2.6	0.6	2.7	0.8	0.3	10.1	4.6
女性全体	1,302	67.1	1.2	5.3	1.2	3.6	1.8	2.2	0.5	3.0	0.4	0.2	9.8	3.8
18～29歳	97	30.9	2.1	8.2	5.2	1.0	1.0	5.2	-	6.2	1.0	1.0	37.1	1.0
30～39歳	159	48.4	0.6	8.8	3.1	11.9	1.9	5.7	-	3.1	-	-	15.7	0.6
40～49歳	243	65.0	1.6	8.2	1.2	7.0	1.2	0.8	-	4.1	0.4	-	10.3	-
50～59歳	206	71.8	1.5	8.7	1.0	3.4	0.5	0.5	0.5	1.5	-	-	6.8	3.9
60～69歳	247	77.7	0.4	2.4	-	0.8	2.0	3.2	0.8	2.0	1.2	0.4	6.1	2.8
70歳以上	348	77.3	1.4	0.9	-	0.3	3.2	1.1	0.9	2.9	-	-	2.9	9.2
男性全体	951	60.3	2.3	10.1	0.4	1.6	1.3	3.2	0.6	2.3	1.4	0.4	11.1	5.0
18～29歳	77	32.5	1.3	18.2	1.3	-	-	7.8	-	7.8	3.9	2.6	23.4	1.3
30～39歳	112	37.5	2.7	25.0	0.9	1.8	1.8	3.6	-	2.7	0.9	-	22.3	0.9
40～49歳	136	48.5	3.7	12.5	-	7.4	0.7	2.9	-	2.9	0.7	-	17.6	2.9
50～59歳	142	64.1	2.8	8.5	0.7	0.7	0.7	1.4	-	2.8	0.7	-	13.4	4.2
60～69歳	194	70.6	3.1	9.8	0.5	1.0	1.5	2.6	1.5	1.5	1.5	0.5	3.1	2.6
70歳以上	286	73.1	1.0	2.1	-	-	1.7	3.1	1.0	0.7	1.4	0.3	4.5	10.8

(2) 市政情報を得るために活用したことがあるもの

◇「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が最も多く、約8割

問57. 市政情報を得るために活用したことがあるものを、次の中から選んでください。
(複数回答可)

図表 18-2-1 市政情報を得るために活用したことがあるもの



市政情報を得るために活用したことがあるものについては、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」(79.0%)が最も多く、次いで、「越谷市公式ホームページ」(28.9%)、「テレビ広報番組『いきいき越谷』」(9.4%)、「越谷cityメール配信サービス」(8.4%)、「越谷市携帯サイト」(3.9%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」(79.0%)は平成29年度調査(92.3%)と比べ13.3ポイント減少している。

性別でみると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は女性（81.6%）が男性（75.5%）より6.1ポイント、「越谷cityメール配信サービス」は女性（11.0%）が男性（5.6%）より5.4ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別でみると、「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」は女性60～69歳（90.3%）で約9割と多くなっている。「越谷市公式ホームページ」は女性30～39歳（48.4%）、女性40～49歳（47.3%）で5割弱と多くなっている。

図表 18-2-2 性・年齢別 市政情報を得るために活用したことがあるもの

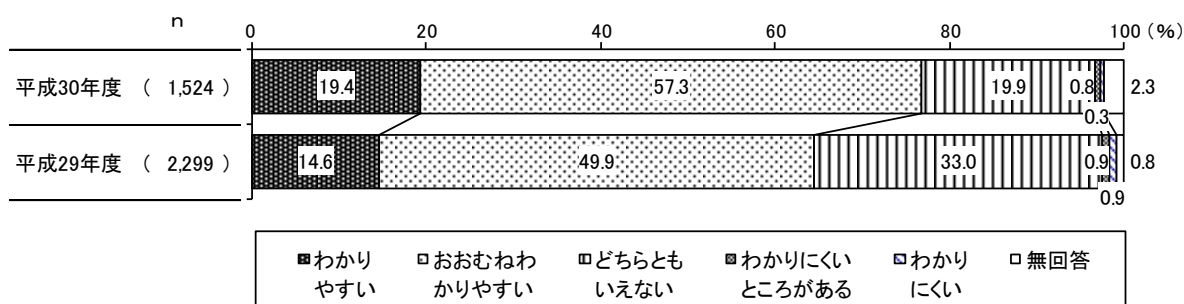
	調査数（人）	「広報こしがや『季刊版』」	テレビ広報番組「いきいき越谷」	越谷市公式ホームページ	越谷市携帯サイト	越谷cityメール配信サービス	越谷市公式ツイッター	越谷市公式LINE（ライン）	ラジオ「先生！越谷のココが大事」	無回答
全体	2,368	79.0	9.4	28.9	3.9	8.4	1.1	1.1	0.2	10.5
女性全体	1,302	81.6	9.5	29.0	5.5	11.0	1.0	1.4	0.2	8.3
18～29歳	97	48.5	10.3	39.2	11.3	2.1	2.1	4.1	-	17.5
30～39歳	159	73.0	5.0	48.4	15.1	25.2	1.3	1.9	-	5.0
40～49歳	243	82.7	7.8	47.3	5.8	27.6	1.6	2.5	-	3.3
50～59歳	206	84.0	7.8	37.9	6.3	11.7	1.9	1.5	-	7.3
60～69歳	247	90.3	9.3	19.8	2.8	1.6	0.4	0.8	-	6.5
70歳以上	348	86.8	13.8	5.5	0.6	1.7	-	-	0.6	12.4
男性全体	951	75.5	8.8	30.8	2.3	5.6	1.4	0.7	0.1	12.8
18～29歳	77	50.6	1.3	36.4	5.2	3.9	11.7	1.3	-	16.9
30～39歳	112	56.3	3.6	45.5	6.3	9.8	0.9	-	-	18.8
40～49歳	136	70.6	10.3	41.9	1.5	14.0	2.2	1.5	-	14.0
50～59歳	142	77.5	9.2	43.0	3.5	4.2	-	0.7	-	9.9
60～69歳	194	86.1	8.8	27.8	1.5	5.2	-	1.0	-	6.7
70歳以上	286	83.9	12.2	14.0	0.3	1.4	-	0.3	0.3	14.7

(3) 広報こしがや「お知らせ版」の感想

◇『わかりやすい』が7割半ば

問58. 広報こしがや「お知らせ版」について伺います。「お知らせ版」の感想を選んでください。(○は1つ)

図表 18-3-1 広報こしがや「お知らせ版」の感想

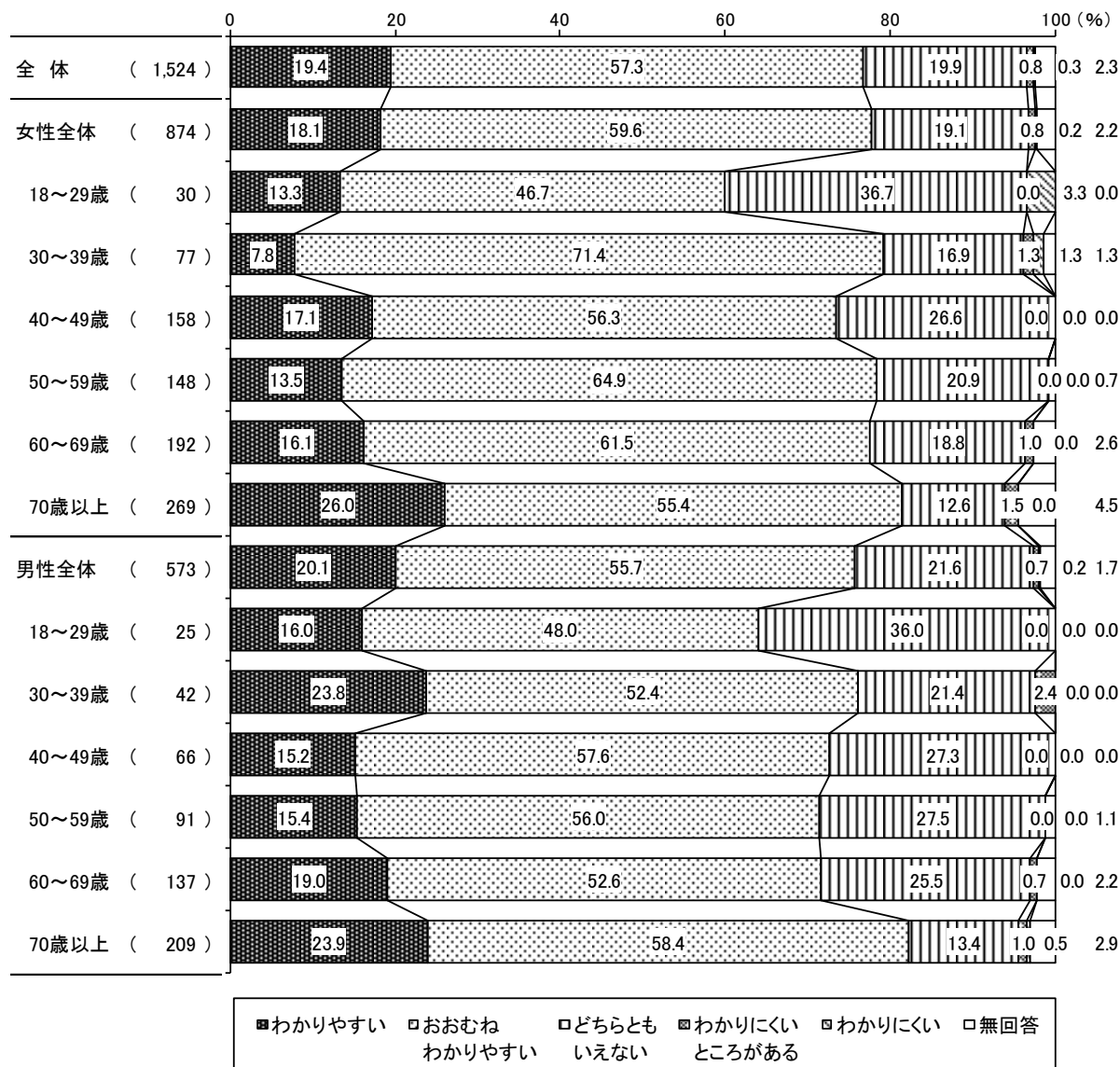


広報こしがや「お知らせ版」の感想については、「わかりやすい」(19.4%)と「おおむねわかりやすい」(57.3%)を合わせた『わかりやすい』(76.7%)が7割半ばとなっている。

前回の調査と比較すると、『わかりやすい』(76.7%)は平成29年度調査(64.5%)と比べ12.2ポイント増加している。

性別で見ると、『わかりやすい』は女性(77.7%)が男性(75.7%)より2.0ポイント高くなっている。
 性・年齢別で見ると、『わかりやすい』は男性70歳以上(82.3%)で8割強、女性70歳以上(81.4%)、
 女性30～39歳(79.2%)で約8割と多くなっている。

図表 18-3-2 性・年齢別 広報こしがや「お知らせ版」の感想



(4) 広報こしがや「お知らせ版」のわかりにくい点

◇表記に関する意見や情報量に関する意見など

問58-2. 問58で「4. わかりにくいところがある」「5. わかりにくい」と答えた方に伺います。どのような点についてそう感じましたか。

図表 18-4-1 広報こしがや「お知らせ版」のわかりにくい点

内 容	件数
見づらい、読みづらい	3
文字が小さい	2
知りたい情報が少ない、見つけにくい	2
文章が理解しにくい、役所言葉が多い	2
内容が複雑すぎる	1
紙面だけでは詳しいことまでわからない	1
目次を付けてはどうか	1
デメリットも伝えてほしい	1
若い人が読みたくなるようなものを	1
計	14

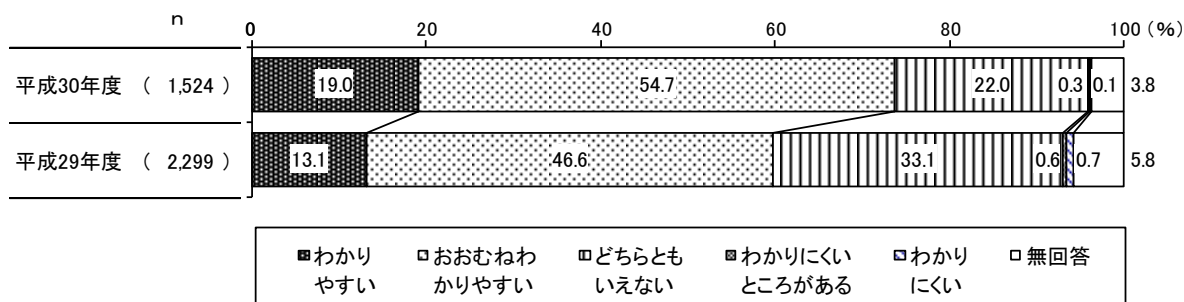
広報こしがや「お知らせ版」が『わかりにくい』と回答した16人に、そう感じた理由を聞いたところ、回答のあった意見は、「見づらい、読みづらい」「役所言葉が多い」などの表記に関する意見のほか、「知りたい情報が少ない、見つけにくい」と情報量に関する意見もあった。

(5) 広報こしがや「季刊版」の感想

◇『わかりやすい』が7割強

問59. 広報こしがや「季刊版」について伺います。「季刊版」の感想を選んでください。
(○は1つ)

図表 18-5-1 広報こしがや「季刊版」の感想

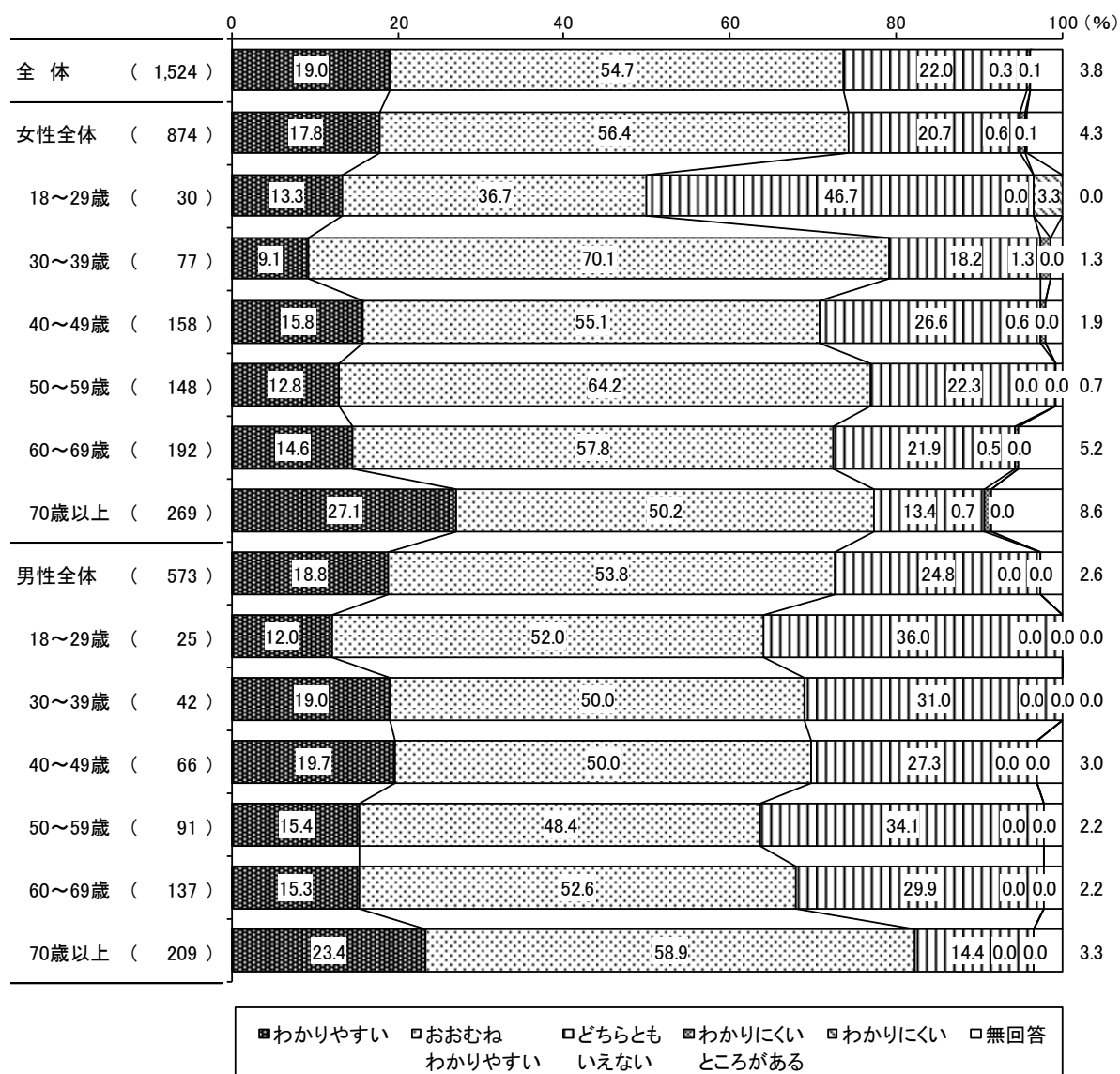


広報こしがや「季刊版」の感想については、「わかりやすい」(19.0%)と「おおむねわかりやすい」(54.7%)を合わせた『わかりやすい』(73.7%)が7割強となっている。

前回の調査と比較すると、『わかりやすい』(73.7%)は平成29年度調査(59.7%)と比べ14.0ポイント増加している。

性別でみると、『わかりやすい』は女性(74.3%)が男性(72.6%)より1.7ポイント高くなっている。
 性・年齢別でみると、『わかりやすい』は男性70歳以上(82.3%)で8割強、女性30～39歳(79.2%)
 で約8割と多くなっている。

図表 18-5-2 性・年齢別 広報こしがや「季刊版」の感想



(6) 広報こしがや「季刊版」のわかりにくい点

◇「知りたい情報が見つけづらい」「文章が丁寧すぎる」「お知らせ版に比べ見づらい」など

問59-2. 問53で「4. わかりにくいところがある」「5. わかりにくい」と答えた方に伺います。どのような点についてそう感じましたか。

図表 18-6-1 広報こしがや「季刊版」のわかりにくい点

内 容	件数
知りたい情報が見つけづらい	1
文章が丁寧すぎる	1
お知らせ版に比べ見づらい	1
お知らせ版との違いがわからない	1
読む気がしない	1
計	5

広報こしがや「季刊版」が『わかりにくい』と回答した7人に、そう感じた理由を聞いたところ、回答のあった意見は「知りたい情報が見つけづらい」「文章が丁寧すぎる」「お知らせ版に比べ見づらい」「お知らせ版との違いがわからない」「読む気がしない」の5件となっている。

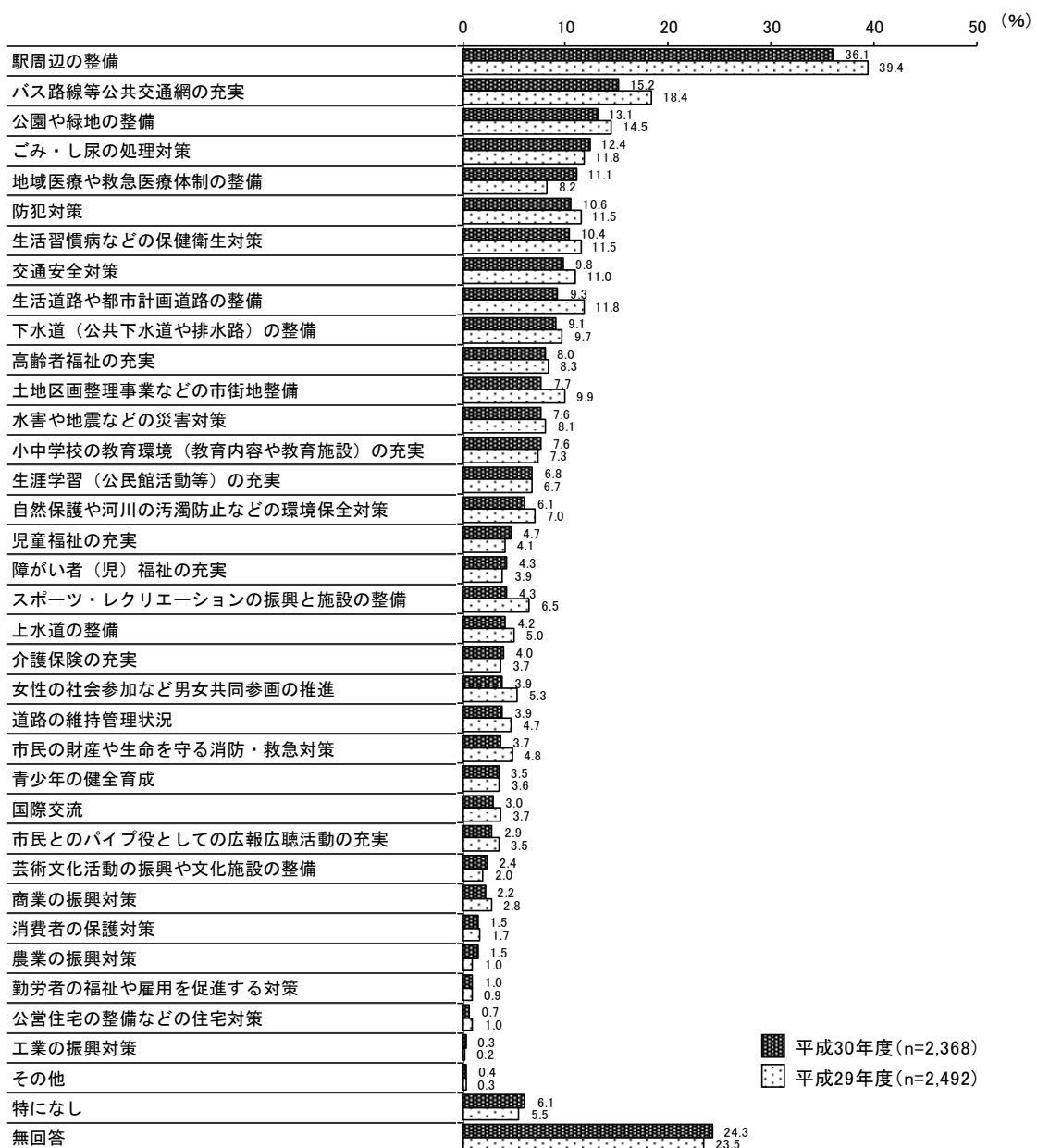
19. 越谷市の施策について

(1) よくなってきたと感じるもの

◇「駅周辺の整備」が最も多く、3割半ば

問60. 市では様々な施策を進めていますが、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の口内に番号をご記入ください。

図表 19-1-1 よくなってきたと感じるもの



市の施策に対して、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」については、「駅周辺の整備」(36.1%)が最も多く、次いで、「バス路線等公共交通網の充実」(15.2%)、「公園や緑地の整備」(13.1%)、「ごみ・し尿の処理対策」(12.4%)、「地域医療や救急医療体制の整備」(11.1%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、「地域医療や救急医療体制の整備」(11.1%)は平成29年度調査(8.2%)と比べ2.9ポイント増加している。

性別でみると、3位は女性が「ごみ・し尿の処理対策」(13.3%)、男性が「公園や緑地の整備」(14.1%)、4位は女性が「公園や緑地の整備」(12.8%)、男性が「防犯対策」(12.1%) 5位は女性が「地域医療や救急医療体制の整備」(12.2%)、男性が「ごみ・し尿の処理対策」、「交通安全対策」(ともに11.0%)となっている。

性・年齢別でみると、「駅周辺の整備」はすべての性・年齢で1位となっており、女性50～59歳(45.6%)、男性60～69歳(44.3%)で4割半ばと多くなっている。

図表 19-1-2 性・年齢別 よくなってきたと感じるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (2,368)	駅周辺の整備 36.1	バス路線等公共交通網の充実 15.2	公園や緑地の整備 13.1	ごみ・し尿の処理対策 12.4	地域医療や救急医療体制の整備 11.1
女性全体 (1,302)	駅周辺の整備 35.0	バス路線等公共交通網の充実 14.9	ごみ・し尿の処理対策 13.3	公園や緑地の整備 12.8	地域医療や救急医療体制の整備 12.2
18～29歳 (97)	駅周辺の整備 33.0	公園や緑地の整備 小中学校の教育環境 (教育内容や教育施設) 10.3	防犯対策 生活道路や都市計画道路の整備 土地区画整理事業などの市街地 9.3		
30～39歳 (159)	駅周辺の整備 30.8	公園や緑地の整備 20.1	生活道路や都市計画道路の整備 13.2	土地区画整理事業などの市街地整備 小中学校の教育環境 (教育内容や教育施設) 11.9	
40～49歳 (243)	駅周辺の整備 40.7	小中学校の教育環境 (教育内容や教育施設) 16.0	地域医療や救急医療体制の整備 12.8	公園や緑地の整備 11.1	生活道路や都市計画道路の整備 10.7
50～59歳 (206)	駅周辺の整備 45.6	バス路線等公共交通網の充実 19.9	地域医療や救急医療体制の整備 16.5	公園や緑地の整備 14.6	ごみ・し尿の処理対策 高齢者福祉の充実 9.7
60～69歳 (247)	駅周辺の整備 32.8	バス路線等公共交通網の充実 18.2	ごみ・し尿の処理対策 17.0	公園や緑地の整備 14.2	下水道 (公共下水道や排水路)の整備 12.6
70歳以上 (348)	駅周辺の整備 29.0	ごみ・し尿の処理対策 20.7	バス路線等公共交通網の充実 19.0	生活習慣病などの保健衛生対策 18.1	地域医療や救急医療体制の整備 下水道 (公共下水道や排水路)の整備 14.4
男性全体 (951)	駅周辺の整備 39.0	バス路線等公共交通網の充実 15.7	公園や緑地の整備 14.1	防犯対策 12.1	ごみ・し尿の処理対策 交通安全対策 11.0
18～29歳 (77)	駅周辺の整備 41.6	公園や緑地の整備 18.2	バス路線等公共交通網の充実 小中学校の教育環境 (教育内容や教育施設) 14.3	防犯対策 青少年の健全育成 13.0	
30～39歳 (112)	駅周辺の整備 35.7	公園や緑地の整備 土地区画整理事業などの市街地整備 14.3	小中学校の教育環境 (教育内容や教育施設) 13.4	生活道路や都市計画道路の整備 10.7	
40～49歳 (136)	駅周辺の整備 30.9	公園や緑地の整備 14.0	バス路線等公共交通網の充実 13.2	土地区画整理事業などの市街地整備 12.5	ごみ・し尿の処理対策 10.3
50～59歳 (142)	駅周辺の整備 43.0	バス路線等公共交通網の充実 17.6	生活道路や都市計画道路の整備 14.1	公園や緑地の整備 ごみ・し尿の処理対策 12.0	
60～69歳 (194)	駅周辺の整備 44.3	バス路線等公共交通網の充実 18.0	公園や緑地の整備 防犯対策 14.9	下水道 (公共下水道や排水路)の整備 14.4	
70歳以上 (286)	駅周辺の整備 37.8	バス路線等公共交通網の充実 17.5	生活習慣病などの保健衛生対策 16.8	ごみ・し尿の処理対策 15.7	公園や緑地の整備 防犯対策 交通安全対策 下水道 (公共下水道や排水路)の整備 13.6

居住地別でみると、「駅周辺の整備」は川柳地区を除いたすべての地区で1位となっており、出羽地区（40.2%）で約4割と多くなっている。また、川柳地区では「交通安全対策」（27.5%）が1位となっている。

図表 19-1-3 居住地区別 よくなってきたと感じるもの

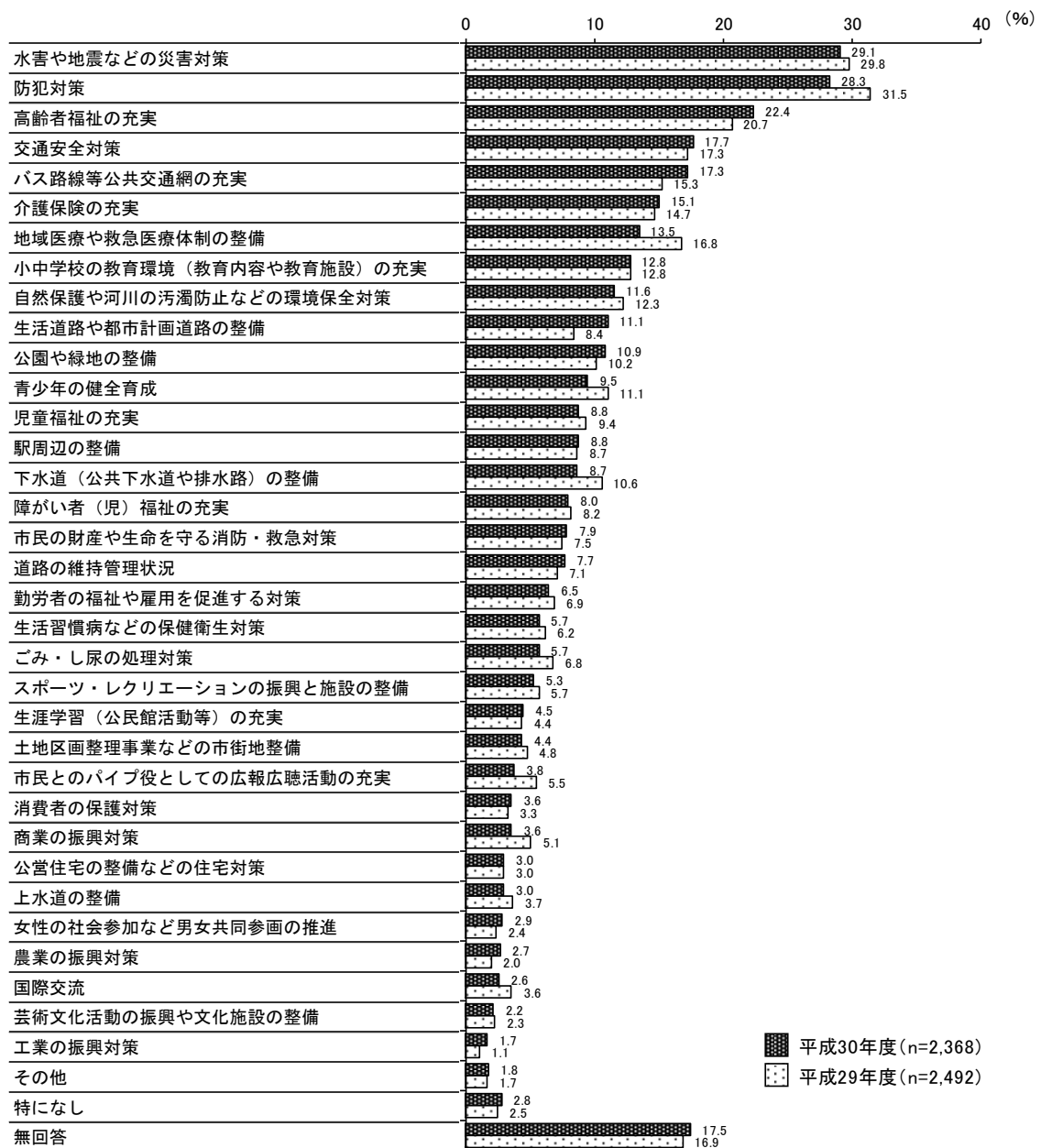
調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位	(%)
全 体 (2,368)	駅周辺の整備 36.1	バス路線等公共交通網の充実 15.2	公園や緑地の整備 13.1	ごみ・し尿の処理対策 12.4	地域医療や救急医療体制の整備 11.1	
桜井地区 (254)	駅周辺の整備 34.6	生活習慣病などの保健衛生対策 14.6	ごみ・し尿の処理対策 14.2	バス路線等公共交通網の充実 13.8	地域医療や救急医療体制の整備 13.4	
新方地区 (116)	駅周辺の整備 37.9	地域医療や救急医療体制の整備 21.6	水害や地震などの災害対策 13.8	ごみ・し尿の処理対策 12.9	生活習慣病などの保健衛生対策 児童福祉の充実 10.3	
増林地区 (167)	駅周辺の整備 38.9	公園や緑地の整備 19.8	バス路線等公共交通網の充実 17.4	地域医療や救急医療体制の整備 14.4	交通安全対策 12.6	
大袋地区 (361)	駅周辺の整備 35.5	バス路線等公共交通網の充実 公園や緑地の整備	12.7	ごみ・し尿の処理対策 12.5	下水道（公共下水道や排水路） の整備 11.1	
荻島地区 (83)	駅周辺の整備 33.7	公園や緑地の整備 ごみ・し尿の処理対策 地域医療や救急医療体制の整備 生活習慣病などの保健衛生対策			18.1	
出羽地区 (189)	駅周辺の整備 40.2	バス路線等公共交通網の充実 17.5	ごみ・し尿の処理対策 16.4	公園や緑地の整備 小中学校の教育環境（教育内容や教育施設）	12.7	
蒲生地区 (288)	駅周辺の整備 36.8	バス路線等公共交通網の充実 19.8	ごみ・し尿の処理対策 14.9	下水道（公共下水道や排水路） の整備 11.5	地域医療や救急医療体制の整備 交通安全対策 11.1	
川柳地区 (51)	交通安全対策 27.5	駅周辺の整備 25.5	バス路線等公共交通網の充実 23.5	ごみ・し尿の処理対策 生活道路や都市計画道路の整備 下水道（公共下水道や排水路）	11.8	
大相模地区 (191)	駅周辺の整備 35.1	公園や緑地の整備 16.2	土地区画整理事業などの市街地 整備 15.2	生活道路や都市計画道路の整備 14.7	バス路線等公共交通網の充実 生活習慣病などの保健衛生対策 12.6	
大沢地区 (150)	駅周辺の整備 35.3	公園や緑地の整備 16.0	バス路線等公共交通網の充実 下水道（公共下水道や排水路） の整備	14.7	ごみ・し尿の処理対策 14.0	
北越谷地区 (74)	駅周辺の整備 31.1	バス路線等公共交通網の充実 17.6	下水道（公共下水道や排水路） の整備 12.2	ごみ・し尿の処理対策 生活習慣病などの保健衛生対策	10.8	
越ヶ谷地区 (230)	駅周辺の整備 38.7	公園や緑地の整備 17.0	防犯対策 15.7	バス路線等公共交通網の充実 交通安全対策	13.5	
南越谷地区 (188)	駅周辺の整備 35.6	バス路線等公共交通網の充実 17.0	地域医療や救急医療体制の整備 防犯対策	10.6	公園や緑地の整備 ごみ・し尿の処理対策 小中学校の教育環境（教育内容 や教育施設） 10.1	

(2) 特に力を入れるべきだと思われるもの

◇「水害や地震などの災害対策」が最も多く、約3割

問60. 市では様々な施策を進めています。ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の口内に番号をご記入ください。

図表 19-2-1 特に力を入れるべきだと思われるもの



市の施策に対して、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」については、「水害や地震などの災害対策」(29.1%)が最も多く、次いで、「防犯対策」(28.3%)、「高齢者福祉の充実」(22.4%)、「交通安全対策」(17.7%)、「バス路線等公共交通網の充実」(17.3%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、「防犯対策」(28.3%)は平成29年度調査(31.5%)と比べ3.2ポイント減少している。

性別でみると、女性は1位が「水害や地震などの災害対策」(30.5%)、2位が「防犯対策」(29.0%)、男性は1位が「防犯対策」(28.3%)、2位が「水害や地震などの災害対策」(27.2%)となっている。

性・年齢別でみると、「水害や地震などの災害対策」は女性40歳以上で1位、「防犯対策」は女性18～39歳、男性30～69歳で1位となっている。

図表 19-2-2 性・年齢別 特に力を入れるべきだと思われるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位	(%)
全 体 (2,368)	水害や地震などの災害対策 29.1	防犯対策 28.3	高齢者福祉の充実 22.4	交通安全対策 17.7	バス路線等公共交通網の充実 17.3	
女性全体 (1,302)	水害や地震などの災害対策 30.5	防犯対策 29.0	高齢者福祉の充実 23.0	バス路線等公共交通網の充実 19.7	介護保険の充実 17.1	
18～29歳 (97)	防犯対策 30.9	水害や地震などの災害対策 24.7	交通安全対策 バス路線等公共交通網の充実	16.5	自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策 15.5	
30～39歳 (159)	防犯対策 35.2	小中学校の教育環境 (教育内容や教育施設) 31.4	交通安全対策 25.2	水害や地震などの災害対策 23.9	バス路線等公共交通網の充実 16.4	
40～49歳 (243)	水害や地震などの災害対策 防犯対策	31.7	バス路線等公共交通網の充実 24.7	交通安全対策 23.5	高齢者福祉の充実 20.6	
50～59歳 (206)	水害や地震などの災害対策 31.6	防犯対策 29.6	介護保険の充実 24.8	高齢者福祉の充実 23.8	バス路線等公共交通網の充実 20.9	
60～69歳 (247)	水害や地震などの災害対策 34.8	防犯対策 30.8	高齢者福祉の充実 28.3	バス路線等公共交通網の充実 介護保険の充実	19.0	
70歳以上 (348)	水害や地震などの災害対策 30.7	高齢者福祉の充実 27.6	防犯対策 22.1	介護保険の充実 19.0	バス路線等公共交通網の充実 18.4	
男性全体 (951)	防犯対策 28.3	水害や地震などの災害対策 27.2	高齢者福祉の充実 22.4	交通安全対策 20.3	バス路線等公共交通網の充実 14.6	
18～29歳 (77)	交通安全対策 26.0	防犯対策 20.8	水害や地震などの災害対策 16.9	公園や緑地の整備 駅周辺の整備	15.6	
30～39歳 (112)	防犯対策 30.4	水害や地震などの災害対策 29.5	交通安全対策 26.8	小中学校の教育環境 (教育内容や教育施設) 公園や緑地の整備 駅周辺の整備	17.9	
40～49歳 (136)	防犯対策 39.0	水害や地震などの災害対策 28.7	交通安全対策 22.8	小中学校の教育環境 (教育内容や教育施設) 20.6	バス路線等公共交通網の充実 16.9	
50～59歳 (142)	防犯対策 29.6	高齢者福祉の充実 21.8	水害や地震などの災害対策 19.7	交通安全対策 16.9	バス路線等公共交通網の充実 地域医療や救急医療体制の整備 15.5	
60～69歳 (194)	防犯対策 30.4	水害や地震などの災害対策 28.9	高齢者福祉の充実 28.4	交通安全対策 20.6	介護保険の充実 自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策 14.9	
70歳以上 (286)	高齢者福祉の充実 32.2	水害や地震などの災害対策 31.5	防犯対策 22.7	介護保険の充実 17.8	交通安全対策 16.4	

居住地区別でみると、「水害や地震などの災害対策」は新方地区（37.1%）で4割弱、北越谷地区（36.5%）で3割半ばと多くなっている。「防犯対策」は増林地区（36.5%）で3割半ば、蒲生地区（33.3%）で3割強と多くなっている。

図表 19-2-3 居住地区別 特に力を入れるべきと思われるもの

調査数 (人)	(%)				
	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,368)	水害や地震などの災害対策 29.1	防犯対策 28.3	高齢者福祉の充実 22.4	交通安全対策 17.7	バス路線等公共交通網の充実 17.3
桜井地区 (254)	防犯対策 30.7	水害や地震などの災害対策 29.5	高齢者福祉の充実 24.8	交通安全対策 18.1	バス路線等公共交通網の充実 15.7
新方地区 (116)	バス路線等公共交通網の充実 39.7	水害や地震などの災害対策 37.1	防犯対策 25.0	高齢者福祉の充実 23.3	下水道（公共下水道や排水路） の整備 19.0
増林地区 (167)	防犯対策 36.5	水害や地震などの災害対策 32.9	高齢者福祉の充実 25.7	交通安全対策 バス路線等公共交通網の充実	19.2
大袋地区 (361)	水害や地震などの災害対策 29.6	防犯対策 23.5	高齢者福祉の充実 22.2	介護保険の充実 17.5	バス路線等公共交通網の充実 16.1
荻島地区 (83)	水害や地震などの災害対策 33.7	高齢者福祉の充実 28.9	バス路線等公共交通網の充実 24.1	防犯対策 20.5	介護保険の充実 19.3
出羽地区 (189)	水害や地震などの災害対策 29.6	防犯対策 25.4	高齢者福祉の充実 21.2	バス路線等公共交通網の充実 20.1	交通安全対策 18.5
蒲生地区 (288)	防犯対策 33.3	水害や地震などの災害対策 24.7	高齢者福祉の充実 20.1	交通安全対策 18.8	介護保険の充実 15.6
川柳地区 (51)	水害や地震などの災害対策 防犯対策	25.5	バス路線等公共交通網の充実 自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策	19.6	高齢者福祉の充実 17.6
大相模地区 (191)	水害や地震などの災害対策 防犯対策	25.7	交通安全対策 25.1	バス路線等公共交通網の充実 24.1	高齢者福祉の充実 23.6
大沢地区 (150)	防犯対策 30.0	水害や地震などの災害対策 27.3	高齢者福祉の充実 21.3	交通安全対策 19.3	地域医療や救急医療体制の整備 18.7
北越谷地区 (74)	水害や地震などの災害対策 36.5	防犯対策 31.1	高齢者福祉の充実 20.3	交通安全対策 介護保険の充実	16.2
越ヶ谷地区 (230)	水害や地震などの災害対策 25.7	防犯対策 25.2	高齢者福祉の充実 22.6	交通安全対策 19.6	介護保険の充実 16.5
南越谷地区 (188)	防犯対策 31.9	水害や地震などの災害対策 29.8	高齢者福祉の充実 20.7	交通安全対策 20.2	小中学校の教育環境（教育内容 や教育施設） 16.0

(3) 自由回答

問61. 問60で選ばれた「特に力を入れるべきだと思われるもの」について、どのような対応（対策）を望まれますか。また、市政に関するご意見やご要望など、自由にご記入ください。

市政に関する意見や要望の回答件数は1,048件（意見等合計1,737件）であった。

これを下記のとおり「第4次越谷市総合振興計画後期基本計画」の項目ごとに整理した。

図表 19-3-1 自由回答

		件数
大綱1. 市民とつくる住みよい自治のまちづくり	市民参加と協働による市政を進める	61
	互いに認め合い人権を尊重する社会づくりを進める	12
	健全で開かれた都市経営を進める	94
大綱2. だれもが健康で生きがいをもって安心して暮らせるまちづくり	ともに支え合いながら暮らせる地域をつくる	7
	予防と助け合いのもとで、充実した地域医療体制をつくる	59
	伸びやかに子どもが育ち、次の世代につなげる、子育てしやすいまちをつくる	81
	障がい者（児）が生活しやすい環境をつくる	22
	高齢者が敬愛され生きがいをもてるまちをつくる	105
	市民生活を支える支援制度や体制の充実を図る	19
大綱3. 自然と調和し質の高い都市機能を備えたまちづくり	自然と調和した安全で活気ある都市をつくる	69
	越谷らしい景観をつくる	11
	地域を支える道路・交通環境をつくる	291
	水と緑を活かしたやすらぎのある空間をつくる	86
	安全で良好な水環境をつくる	96
	安心して住むことができる住宅環境をつくる	12
大綱4. 人や環境にやさしく安全・安心な生活を育むまちづくり	環境にやさしい持続可能な社会をつくる	75
	安全・安心に暮らせるまちにする	328
	生命・身体・財産を守る消防体制を整える	3
大綱5. 安心して働ける環境を育む持続的で躍動するまちづくり	地域社会を支える持続性のある産業を育成し、活性化を図る	1
	にぎわいと活力を創出する商業・観光の振興を図る	46
	地域社会と融合した持続的経営力を持つ工業を育成し、活性化を図る	1
	持続的に農業が行われる環境をつくる	15
	地域に根ざした雇用対策を拡充し、働きやすい環境をつくる	23
大綱6. いきいきとだれもが学べる心豊かなまちづくり	生きる力を育む学校教育を進める	93
	生涯にわたる学びを充実し、地域の文化を創造する	24
	生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる	31
その他		72

総計 1,737

大綱	区分	内 容	件数
1	市民参加と協働による市政を進める	市政への市民参加を進める	10
		市民との協働のまちづくりを進める	12
		情報を提供し、市民との共有を図る	39
		計	61
	互いに認め合い人権を尊重する社会づくりを進める	相手を思いやる人権意識を高める	0
		人権教育を進める	0
		男女共同参画社会を進める	5
		多文化共生社会の形成と国際交流を進める	7
		平和への意識を高める	0
	計	12	
	健全で開かれた都市経営を進める	効率的かつ効果的な行政運営を進める	63
		行財政運営の健全化を進める	28
		都市間の連携強化を進める	3
		計	94

大綱	区分	内 容	件数
2	ともに支え合いながら暮らせる地域をつくる	地域福祉体制の充実を図る	7
		計	7
	予防と助け合いのもとで、充実した地域医療体制をつくる	地域医療体制の充実を図る	47
		市民の健康づくりを推進する	12
		保健衛生体制の充実を図る	0
		計	59
	伸びやかに子どもが育ち、次の世代につなげる、子育てしやすいまちをつくる	地域の中で子育てを支える	19
		地域の中で子どもが自ら育つ環境をつくる	22
		次世代を担う子どもたちのために育てやすい環境をつくる	40
		計	81
	障がい者（児）が生活しやすい環境をつくる	障がいの早期発見と療育環境を整える	4
		在宅サービスを受ける人、支える人のすべてを支援し、自立できる社会をつくる	8
		地域生活を支え社会参加を促進する	3
		円滑な移動を可能とする人にやさしい環境をつくる	7
		計	22
	高齢者が敬愛され生きがいをもてるまちをつくる	生きがいづくりを支援する	9
		健康づくりと介護予防を進める	10
		介護保険制度の充実を図る	43
		高齢者を支える地域をつくる	43
		計	105
市民生活を支える支援制度や体制の充実を図る	生活に困窮している方へのサポート体制の充実に努める	10	
	医療保険制度の充実を図る	1	
	安定した生活を送るため年金制度を支援する	8	
	計	19	

大綱	区分	内容	件数
3	自然と調和した安全で活気ある都市をつくる	総合的な土地利用を進める	15
		活気ある市街地をつくる	50
		災害に強い都市をつくる	4
		計	69
	越谷らしい景観をつくる	景観に配慮したまちづくりを推進する	11
		協働による景観創造の仕組みをつくる	0
		計	11
	地域を支える道路・交通環境をつくる	道路の整備を図る	112
		道路施設等の適正管理を行う	35
		公共交通網の充実を図る	144
		計	291
	水と緑を活かしたやすらぎのある空間をつくる	身近な緑を守り育てる	21
		だれもが利用しやすく安全な公園をつくる	50
		水辺を活かした快適な空間をつくる	15
		計	86
	安全で良好な水環境をつくる	雨水災害の対策を進める	76
		水質を保全し快適な生活環境をつくる	18
		安全な水を安定して確保する	2
		計	96
	安心して住むことができる住宅環境をつくる	安心して暮らせる住まいづくりを支援する	4
住宅ストックの有効活用と快適な住宅環境の実現を図る		8	
計		12	

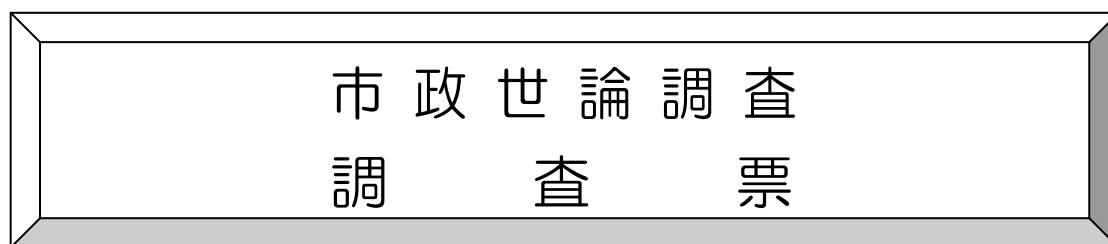
大綱	区分	内容	件数
4	環境にやさしい持続可能な社会をつくる	環境に配慮した仕組みをつくる	6
		廃棄物の減量と適正な処理を進める	31
		やすらぎとうるおいのある環境を守り育てる	38
		計	75
	安全・安心に暮らせるまちにする	危機管理対策の充実を図る	0
		災害対策を進める	85
		地域の防犯力を高める	155
		交通事故防止対策を進める	86
		消費者の自立を支援し、消費者意識の高揚を図る	2
		計	328
	生命・身体・財産を守る消防体制を整える	火災を予防する活動を展開する	0
		消防力の充実・強化を図る	1
		災害への対応力を強化する	1
		救急体制を充実させる	1
		消防団の充実・強化を図る	0
計	3		

大綱	区分	内 容	件数
5	地域社会を支える持続性のある産業を育成し、活性化を図る	既存産業の活性化を図る	0
		新たな産業を育成する	1
		計	1
	にぎわいと活力を創出する商業・観光の振興を図る	魅力ある商店街の振興を図る	30
		にぎわいを生み出す観光を進める	16
		計	46
	地域社会と融合した持続的経営力を持つ工業を育成し、活性化を図る	魅力あるものづくりを育て継承する	1
		計	1
	持続的に農業が行われる環境をつくる	首都近郊という地理的優位性を活かした都市農業の展開を支援する	6
		豊かな実りを生む農業の基盤を整える	3
		持続的に農業経営を担う人材を育成する	2
		市民が農業を支える仕組みをつくる	4
		計	15
	地域に根ざした雇用対策を拡充し、働きやすい環境をつくる	雇用対策の充実を図る	22
		勤労者福利厚生を支援する	1
計		23	

大綱	区分	内 容	件数
6	生きる力を育む学校教育を進める	自立して生きていくための基礎となる確かな学力を育む	20
		自立して生きていくための基礎となる健康な心と体を育む	12
		信頼される、質の高い教育環境をつくる	61
		計	93
	生涯にわたる学びを充実し、地域の文化を創造する	生涯を通じた学習活動を推進する	13
		芸術文化活動を推進し、伝統文化を継承する	11
		計	24
	生涯にわたるスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる	健康ライフスタイルづくりを支援する	13
		スポーツ・レクリエーション活動を支援する体制の充実を図る	5
		スポーツ・レクリエーション施設の充実を図る	13
		計	31

大綱	区分	内 容	件数
その他		アンケートについての意見・要望・感謝	15
		市政への激励	4
		市政へ関心を持つとうという自覚の再認識	2
		住みよい街でうれしい・感謝	12
		その他	39
		計	72

第5章 調査票



平成30年6月

●ご記入にあたってのお願い

1. あて名のご本人がお答えください。(住所、氏名を記入する必要はありません。)
ご本人によるご記入が困難な場合には、身近な方による代筆をお願いします。
2. ご記入は鉛筆、ボールペン、万年筆などで、黒または青色でお書きください。
3. 最初から1問ずつ、該当する全ての質問にお答えください。
4. お答えは、あなたのお考えに最も近いと思われる回答を設問文中に示された数の範囲で選び、その番号に○をつけるか番号を□の中にご記入ください。
5. 「その他〔 〕」に○をつけたときは、〔 〕内に具体的な内容をご記入ください。

ご記入いただきましたこの調査票は、同封の返信用封筒に入れて7月6日(金)までに、郵便ポストにご投函ください。(切手は不要です。)

この調査に関してのお問い合わせは、下記までお願いします。

越谷市 市長公室 広報広聴課

電話 048-963-9117(直通)

FAX 048-965-0943

あなたの暮らしや居住意向についておたずねします。

問8. あなたは現在の暮らし向きについて、どのように思っていますか。(〇は1つ)

- | | |
|-----------------------|------------|
| 1. 十分満足している | 4. まだまだ不満だ |
| 2. 十分とはいえないが、一応満足している | 5. 極めて不満だ |
| 3. ふつう | 6. わからない |

問9. あなたは今後も、現在のところに住み続けたいと思いますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1. ずっと住み続けたい | 4. 引っ越したい |
| 2. どちらかといえば住み続けたい | 5. わからない |
| 3. どちらかといえば引っ越したい | |

問9-2. 問9で「3」または「4」と答えた方(引っ越したいと答えた方)に伺います。

引っ越したいと思われる主な理由は何ですか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------------------|------------------|
| 1. 商業や事業に不利なので | 8. 買い物が不便なので |
| 2. 交通の便が悪いので | 9. 医療機関が近くにない |
| 3. 現在、住んでいる住宅が狭いので | 10. このまちに愛着がないから |
| 4. 付近の生活環境が悪いので | 11. 地域になじめないから |
| 5. 仕事の関係で | 12. 家族の介護の関係で |
| 6. 賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため | 13. その他 [] |
| 7. こどもの教育のため | 14. 特に理由はない |

人権全般に関する意識についておたずねします。

問10. あなたは、今の日本社会において、どのくらい基本的人権が尊重されていると思いますか。

(〇は1つ)

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 十分尊重されている | 3. あまり尊重されていない |
| 2. やや尊重されている | 4. 尊重されていない |

問11. 一人ひとりの人権意識は、10年前に比べて高くなっていると思いますか。(〇は1つ)

- | | | |
|---------------|--------------|------------|
| 1. 非常に高くなっている | 3. 変わっていない | 5. 低くなっている |
| 2. やや高くなっている | 4. やや低くなっている | |

問12. 今の日本の社会に様々な人権問題がありますが、あなたが関心のあるものはどれですか。

(複数回答可)

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1. 女性の人権問題 | 9. 刑を終えて出所した人々の人権問題 |
| 2. 子どもの人権問題 | 10. 犯罪被害者やその家族の人権問題 |
| 3. 高齢者の人権問題 | 11. インターネット上における人権問題 |
| 4. 障がい者の人権問題 | 12. 北朝鮮当局による拉致問題 |
| 5. 同和問題 | 13. ホームレスの人々の人権問題 |
| 6. アイヌ民族の人権問題 | 14. L G B Tなど性的少数者の人権問題 |
| 7. 外国人の人権問題 | 15. 大規模災害時の避難生活などにおける人権問題 |
| 8. エイズやハンセン病等感染症患者の人権問題 | 16. その他 [] |

越谷市への愛着度と魅力発信についておたずねします。

問 18. あなたは、越谷市に対して、どのくらい愛着がありますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. とても愛着がある | 4. 愛着がない |
| 2. 愛着がある | 5. どちらともいえない |
| 3. やや愛着がある | |

問 18-2. 問 18 で「1」から「3」(愛着がある)と答えた方に伺います。その理由は何ですか。
(複数回答可)

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1. 交通の利便性がよく、都内等に近い | 6. おいしい食事がある |
| 2. 自然(水辺空間、農地等)が多く残されている | 7. 地域の特産品(土産品)がある |
| 3. ショッピング施設や商店街が豊富 | 8. 誇れる産業(企業)がある |
| 4. イベント、祭り、伝統芸能が豊富 | 9. 誇れる著名人がいる |
| 5. 歴史的建造物や誇れる街並みがある | 10. その他 [] |

問 19. 越谷市の誇れるもの、知人に自慢したいものは何ですか。(複数回答可)

- | | |
|----------------------|------------------------------------|
| 1. イオンレイクタウン | 8. 日本庭園「花田苑」・日本文化伝承の館
「こしがや能楽堂」 |
| 2. 田んぼアート | 9. 日光道中宿場まちとしての蔵のある街並み |
| 3. 越谷花火大会 | 10. だるまやせんべい等の伝統的手工芸品 |
| 4. 南越谷阿波踊り | 11. こしがや鴨ねぎ鍋 |
| 5. 5本の1級河川等による水辺空間 | 12. 宮内庁埼玉鴨場 |
| 6. イチゴ狩り | 13. その他 [] |
| 7. 越谷ねぎ、くわい、山東菜等の農産物 | |

問 20. あなたは、観光やレジャーにおいて、どのような情報を知りたいですか。(複数回答可)

- | |
|--------------------------------|
| 1. イベントや催しなどの催事情報 |
| 2. 観光施設や花の名所などの「観て」楽しむ観光情報 |
| 3. 果物狩りや〇〇作り体験などの「体験して」楽しむ観光情報 |
| 4. 地域の特産品が食べられるお店などのグルメ情報 |
| 5. 地域の特産品が購入できるお店などの買い物情報 |
| 6. バスやレンタサイクルなどの交通情報 |
| 7. 周辺地域を周遊できる広域的な観光情報 |
| 8. 特になし |
| 9. その他 [] |

問 21. あなたは、普段からどのような方法で観光情報を得ていますか。(複数回答可)

- | | |
|-----------------|--|
| 1. ホームページ※ | 5. ブログやフェイスブック、インスタグラム等のSNS |
| 2. 雑誌 | 6. 各地域の観光協会や自治体
(ガイドブックや自治体ホームページ等) |
| 3. フリーペーパー | 7. その他 [] |
| 4. 友人・知人等からの口コミ | |

※ ホームページ：それぞれの観光施設、名所、イベント主催者が運営するホームページなど

男女共同参画についておたずねします。

問22. あなたは、子どもに対する「教育・しつけ」で大切だと思うことは何ですか。

(男の子と女の子それぞれ〇は3つまで)

男の子	女の子
1. 独立心をもたせる	1. 独立心をもたせる
2. 責任をもたせる	2. 責任をもたせる
3. たくましさをもたせる	3. たくましさをもたせる
4. やさしさや思いやりをもたせる	4. やさしさや思いやりをもたせる
5. 礼儀作法を身につける	5. 礼儀作法を身につける
6. 忍耐力を養う	6. 忍耐力を養う
7. 男の子らしく育てる	7. 女の子らしく育てる
8. 身の回りのことができるようにする	8. 身の回りのことができるようにする

問23. 育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児休業・介護休暇・子の看護休暇を取得できる制度があります。あなたは、男性がこの制度を活用することについてどう思いますか。(〇は1つ)

1. 男性も育児休業・介護休暇・子の看護休暇を積極的に取るべきである
2. 男性も育児休業・介護休暇・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う
3. 育児休業・介護休暇・子の看護休暇は女性が取るべきであり、男性が休業・休暇を取る必要はない
4. その他 []

問24. 育児・介護のための長期休暇は、実際には男性の取得はきわめて少ない状況です。その理由は、何だと思えますか。(〇は2つまで)

1. 職場や周囲に休みにくい雰囲気があるから
2. 仕事の責任上、周囲の人に迷惑がかかるから
3. 男性が取ることについて社会全体の認識が十分でないから
4. 人事評価や昇給等に不利だから
5. 育児休業・介護休暇中は所得が大幅に減るから
6. その他 []

問25. 一般的に、男女がともに仕事と家庭を両立していくためには、どのような条件が必要だと思えますか。(〇は3つまで)

1. 育児休業・介護休暇制度を利用できる職場環境を整備すること
2. 女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること
3. 保育施設や保育時間の延長など、保育内容を充実させること
4. 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること
5. 育児や介護のため退職した方を、元の職場で再雇用する制度を導入すること
6. 昇給などの男女格差をなくすこと
7. 年間労働時間を短縮すること
8. 育児休業・介護休暇中の賃金など経済面を充実させること
9. 職務上必要な知識や技術などを習得するための訓練を充実させること
10. その他 []

問26. 日常生活のなかでの、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について伺います。
あなたの希望と現実（現状）に最も近いものを選んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

希望	現実
1. 「仕事」を優先	1. 「仕事」を優先
2. 「家庭生活」を優先	2. 「家庭生活」を優先
3. 「地域・個人の生活」を優先	3. 「地域・個人の生活」を優先
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先	4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
7. 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」全てを優先	7. 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」全てを優先

地域医療体制についておたずねします。

問27. あなたは、「越谷市夜間急患診療所・休日当番医制度^{※1}・埼玉県救急電話相談^{※2}（#7119）」を知っていますか。

（ア～ウ それぞれ横に○は1つずつ）

	利用したことがある	利用したことはないが知っている	知らない
ア 越谷市夜間急患診療所	1	2	3
イ 休日当番医制度	1	2	3
ウ 埼玉県救急電話相談（#7119）	1	2	3

※1 休日当番医制度：祝日や年末年始に、病院・診療所・歯科診療所が交代で診療を行っている制度

※2 埼玉県救急電話相談：埼玉県が行っている、急病時の家庭での対処方法や受診の必要性についての電話相談ができる制度

問28. あなたは、夜間や休日に利用できる医療機関の情報が必要な場合、どこから情報を入手しますか。
次の中から選んでください。（複数回答可）

1. 広報こしがや「お知らせ版」や「季刊版」	6. インターネットで調べる （越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）
2. 市民ガイドブック	7. 埼玉県救急電話相談（#7119）
3. 越谷市公式ホームページ	8. 消防署に問い合わせ
4. 越谷市発行のチラシ （「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等）	9. 医療機関に問い合わせ
5. 埼玉県公式ホームページ （医療機能情報提供システムを含む）	10. 知人・友人等に聞く
	11. その他 []

問29. あなたは、夜間や休日に発熱や腹痛等、比較的軽度と思われる症状になったとき、どのように対応しますか。（複数回答可）

1. 「かかりつけ医」を利用する	7. 救急車を呼ぶ
2. 休日当番医を利用する	8. その他 []
3. 越谷市夜間急患診療所を利用する	
4. 埼玉県救急電話相談（#7119）で受診の必要性を確認する	
5. 受診できる医療機関を調べ、その医療機関を利用する	
6. 可能な限り翌日まで我慢する	

空き家についておたずねします。

問30. あなたは空き家が全国的に問題となっていることを知っていますか。(〇は1つ)

- | | | |
|-------------------|---------------------|---------|
| 1. 身近な問題であり、知っている | 2. 身近な問題ではないが、知っている | 3. 知らない |
|-------------------|---------------------|---------|

問31. 現在、あなたの住んでいる建物（もしくは所有している建物）が、将来的に空き家になる可能性について、不安はありますか。(〇は1つ)

- | | | | |
|----------|------------|------------|----------|
| 1. 不安がある | 2. 少し不安がある | 3. 全く不安はない | 4. わからない |
|----------|------------|------------|----------|

問31-2. 問31で「1」または「2」（不安がある）と答えた方に伺います。その理由は何ですか。
(複数回答可)

- | |
|--|
| 1. 将来、住む予定の者がいないため
2. 建物の築年数が経過しており、老朽化が著しいため
3. 立地の関係上、売買等が困難と思われるため
4. 建物の処分等に対して、所有者が自己判断できない状態のため
5. 建物を除却したいが、費用がないため
6. 建物を除却すると、固定資産税の課税標準の特例がなくなるため
7. 共有名義のままで、処分についての合意ができないため
8. 古い所有者名義のままで、実質的な所有者が分からないため
9. その他 [] |
|--|

問32. 適正な管理がされていない空き家が増えないようにするためには、行政やその他団体において、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答可)

- | | |
|------------------------------|----------------------------|
| 1. 所有者等に対する、適切な管理を促すための広報や啓発 | 6. 安心して住宅の売買や賃貸ができる制度 |
| 2. 管理不全な空き家の所有者等への指導等の実施 | 7. 空き家所有者への相談窓口の周知 |
| 3. 地域において、空き家に対する見守りや連絡体制づくり | 8. 生前の空き家予防の方法や相続等に関する情報提供 |
| 4. 適正管理の方法等の情報提供 | 9. その他 [] |
| 5. 除却等に対する支援制度 | |

自治基本条例についておたずねします。

問33. あなたは市民参加と協働のまちづくりに必要なルールなどが書かれている、「越谷市自治基本条例」を知っていますか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. よく知っている | 3. 聞いたことがある |
| 2. まあまあ知っている | 4. 知らない |

問33-2. 問33で「1」から「3」（知っている、聞いたことがある）と答えた方に伺います。

どのようにして「越谷市自治基本条例」のことを知り（聞き）ましたか。(複数回答可)

- | | |
|--------------------|----------------------------------|
| 1. 広報こしがや | 7. 友人・知人 |
| 2. テレビ広報番組「いきいき越谷」 | 8. 自治会やコミュニティ推進協議会を通じて |
| 3. 越谷市公式ホームページ | 9. 市民活動団体やボランティア団体を通じて |
| 4. 越谷市携帯サイト | 10. 自治基本条例関連のイベント（シンポジウム、パネル展示等） |
| 5. 越谷cityメール配信サービス | 11. その他 [] |
| 6. パンフレット等の啓発物 | |

問34 越谷市をより良くするために、あなたは、自治会やNPO、企業等の様々な組織と市が協働することが必要だと思いますか。(〇は1つ)

1. 必要だと思う	4. あまり必要ないと思う
2. ある程度必要だと思う	5. 必要ないと思う
3. どちらともいえない	

問34-2. **問34で「1」または「2」(必要だと思う)と答えた方**に伺います。あなたは、様々な組織と

市が協働して取り組むことが必要(効果的)なのは、どのような分野だと思いますか。次の中から選んでください。(複数回答可)

1. 暮らしの安全・安心に関すること(防災、防犯、消防、消費生活など)
2. 福祉に関すること(社会保障、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など)
3. 健康づくりや医療に関すること(地域医療、予防医療、保健など)
4. 環境に関すること(ごみ問題、自然環境など)
5. コミュニティ活動に関すること(地域活動、市民活動、ボランティア活動など)
6. 子育てや教育に関すること(子育て、学校教育、青少年教育など)
7. 都市の開発や整備に関すること(都市計画、都市施設、住宅など)
8. 文化やスポーツ・レクリエーションに関すること (歴史、文化、スポーツ・レクリエーション、生涯学習など)
9. 地域経済に関すること(産業振興、観光、農業、雇用など)
10. 人権や平和に関すること(人権、男女共同参画、多文化共生、平和など)
11. その他 []
12. 特になし

問34-3. **問34で「1」または「2」(必要だと思う)と答えた方**に伺います。あなたは、協働を推進するために、市がどのような施策に取り組むことが必要(効果的)だと思いますか。(〇は3つ)

1. 市政に関する情報を分かりやすく公開すること
2. 情報・活動の拠点となる場所を提供すること
3. まちづくりに取り組んでいる組織に資金的な支援を行うこと
4. まちづくりに取り組んでいる組織に人材的な支援を行うこと
5. まちづくりに取り組んでいる組織の構成員と市職員の交流の場を設けること
6. 市がまちづくりに取り組んでいる組織の活動内容等を把握すること
7. ボランティア保険など活動中の事故への対応を確立すること
8. 市職員の意識改革や人材育成に努めること
9. 市の組織の改革、強化に取り組むこと
10. 地域や社会のための活動を学校教育の一環として取り上げること
11. 活動に対する社会的評価を高めること(協働事業の表彰制度など)
12. 活動のための休暇・休職制度の普及を促進すること
13. その他 []
14. 特になし

平和事業についておたずねします。

問35. あなたは越谷市が平和都市宣言をしていることを知っていますか。(〇は1つ)

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問36. あなたは越谷市の主催による「平和フォーラム^{*1}」を知っていますか。また、参加したことがありますか。(〇は1つ)

- | | | |
|--------------|---------------------|---------|
| 1. 参加したことがある | 2. 知っているが、参加したことはない | 3. 知らない |
|--------------|---------------------|---------|

※1 平和フォーラム：毎年、平和に関するテーマに基づき、展示会・講演会を開催する事業

問37. 越谷市では、「広島平和記念式典参加事業^{*2}」や「平和フォーラム」を実施していますが、平和に対する意識を高めるためには、どのような事業が効果的だと思いますか。(複数回答可)

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1. 戦争体験のおはなし会や座談会の開催 | 4. 平和を題材にした朗読・演劇・合唱・合奏などの発表 |
| 2. 世界の紛争など海外情勢についての講演会開催 | 5. その他 [] |
| 3. 平和を題材にした映画・アニメーション上映会の開催 | |

※2 広島平和記念式典参加事業：市内在住の中学生が広島で開催する平和記念式典等に参加することで、平和への意識を高めることを目的とする事業

スポーツ・レクリエーションの実施状況についておたずねします。

問38. この1年間でどのくらいスポーツ・レクリエーション活動を行いましたか（ウォーキング・徒歩や軽い体操も含まれます）。(〇は1つ)

- | | |
|-------------|-------------------------|
| 1. 週に3回以上 | 4. 3か月に1～2回程度 |
| 2. 週に1～2回程度 | 5. 年に1～3回程度 |
| 3. 月に1～3回程度 | 6. 行っていない -----▶ 問38-4へ |

問38-2. 問38で「1」から「5」のいずれかと答えた方に伺います。あなたがスポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1. 気分転換・気晴らし | 7. 試合や大会に参加したいから |
| 2. 運動不足解消 | 8. 学校のサークル活動等で行っているから |
| 3. 美容、肥満解消 | 9. スポーツ教室や講座に参加しているから |
| 4. 家族のふれあい | 10. その他 [] |
| 5. 友人との交流 | 11. 特に理由はない |
| 6. 健康、体力維持・増進 | |

問38-3. 問38で「1」または「2」と答えた方に伺います。スポーツ・レクリエーション活動をしたことで、どのような効果がありましたか。(複数回答可)

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. 疲れにくくなった | 7. 血圧が下がった |
| 2. 冷え症が改善した | 8. 食欲が出た |
| 3. よく眠れるようになった | 9. 便秘が解消した |
| 4. 運動不足が解消した | 10. 健康への効果は感じられなかった |
| 5. 通院回数が減った | 11. その他 [] |
| 6. 適正体重に（近く）なった | |

問38-4. 問38で「6」と答えた方に伺います。あなたが、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由は何ですか。(〇は3つまで)

- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| 1. 仕事(家事、育児も含む)や勉強が忙しいから | 6. 年をとったから |
| 2. 費用がかかるから | 7. スポーツ・レクリエーションが好きでない(興味がない)から |
| 3. 身近に適切な場所や施設がないから | 8. その他 [] |
| 4. 健康上の理由から | 9. 特に理由はない |
| 5. 一緒に行く相手、指導者等がないから | |

問 39. **皆さんに伺います。**今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。**(複数回答可)**

比較的軽いスポーツ	野外活動	競技的スポーツ
1. 軽い体操	1. スキー・スノーボード	1. 陸上競技
2. 軽い球技 (キャッチボール等)	2. 海水浴	2. 水泳競技
3. ウオーキング	3. スケート	3. 野球・ソフトボール
4. ジョギング	4. 登山	4. サッカー
5. ゲートボール・グラウンドゴルフ	5. キャンプ (オートキャンプを含む)	5. バレーボール
6. ボウリング	6. ハイキング	6. バドミントン
7. プールを利用した運動	7. サイクリング	7. テニス
8. ダンス	8. ゴルフ	8. 卓球
9. 室内運動器具を使って行う運動	9. 釣り	9. 柔道、剣道、空手、相撲
10. その他 []	10. その他 []	10. ボクシング、レスリング
11. 特になし	11. 特になし	11. 弓道、アーチェリー
		12. その他 []
		13. 特になし

保健事業についておたずねします。

問 40. 越谷市では、越谷市国民健康保険及び後期高齢者医療制度加入者を対象に、健康の保持増進を図ることを目的として、契約保養所の宿泊費用の一部 (大人2, 500円、小人1, 500円) を助成しています。あなたはこの助成を受けたことがありますか。**(〇は1つ)**

1. ある 2. ない 3. 越谷市国民健康保険または後期高齢者医療制度に加入していない

問 41. **問40で「3」と答えた方**に伺います。あなたが加入している健康保険等で、類似の助成を受けたことがありますか。**(〇は1つ)**

1. ある 2. ない 3. 類似の制度がない

問 42. **問40、41で「2」と答えた方**に伺います。あなたが、契約保養所の宿泊助成を利用しない理由は何ですか。**(〇は1つ)**

1. 助成があることを知らなかった 4. 契約保養所に行く機会 (時間) がない
 2. 助成があることを知ってはいたが、必要性を感じない 5. 行きたい契約保養所がない
 3. 助成があることを知ってはいたが、手続きが面倒でないと感じる 6. その他 []

問 43. **全ての方に伺います。**あなたは、越谷市国民健康保険及び後期高齢者医療制度における契約保養所の宿泊助成について、今後どのようにあるべきだと思いますか。**(〇は1つ)**

1. 現行どおり実施するべき
 2. 健康の保持増進をさらに推進するため、健診を受診した方を対象に助成するなど、助成要件を設けて実施するべき
 3. 健康の保持増進をさらに推進するため、宿泊助成を廃止し、他の健康づくり事業の充実を図るべき
 4. 財政負担、費用対効果などを検証した上で、縮小廃止したほうがよい
 5. その他 []

越谷市公式ホームページについておたずねします。

問54. ①と②について、それぞれ下の表でお答えください。

- ① 次の項目について、越谷市公式ホームページで探したことはありますか。また、その情報は見つかりましたか。**(ア～フについて①の選択肢から1つ選んでください)**
 ② 今後充実してほしい情報を教えてください。**(複数回答可)**

項目	①探したア～フについて情報が見つかったか				②今後充実してほしい情報 (1～28で複数回答可)
	1 すべて 見つかった	2 一部 見つかった	3 見つから なかった	4 探した ことが ない	
ア 市役所の窓口、業務	1	2	3	4	1
イ 越谷市の概要	1	2	3	4	2
ウ 市制施行60周年	1	2	3	4	3
エ 市内の施設案内	1	2	3	4	4
オ 行事、催し	1	2	3	4	5
カ 自然、景観	1	2	3	4	6
キ 食、特産品	1	2	3	4	7
ク 歴史、文化、伝統	1	2	3	4	8
ケ 計画、政策、統計	1	2	3	4	9
コ 審議会、傍聴、意見公募	1	2	3	4	10
サ 予算、決算	1	2	3	4	11
シ 防災	1	2	3	4	12
ス 防犯	1	2	3	4	13
セ 救急、医療	1	2	3	4	14
ソ 放射性物質	1	2	3	4	15
タ 住民票や税などの届出、証明	1	2	3	4	16
チ ごみ、リサイクル	1	2	3	4	17
ツ 環境問題、いきもの	1	2	3	4	18
テ 子育て、保育	1	2	3	4	19
ト 教育、学校	1	2	3	4	20
ナ 市民活動、自治会、13地区	1	2	3	4	21
ニ 保健、健康づくり	1	2	3	4	22
ヌ 介護、福祉	1	2	3	4	23
ネ 住まい、街づくり、道路、交通	1	2	3	4	24
ノ 生涯学習、文化・芸術、スポーツ	1	2	3	4	25
ハ 産業、事業者支援	1	2	3	4	26
ヒ 各種相談	1	2	3	4	27
フ その他 []	1	2	3	4	28
					特になし(29)

問55. 平成29年11月のホームページリニューアルで新設したシティプロモーションサイト「越谷ってこんなところ！」を閲覧したことがありますか。

1. 閲覧したことがある	2. 閲覧したことがない
--------------	--------------

↓
次ページ問55-2をお答えください

問55-2. **問55で「1. 閲覧したことがある」と答えた方**に伺います。閲覧した印象をそれぞれお答えください。

ア デザイン	1. 良い	2. どちらでもない	3. 悪い
イ 掲載内容	1. 十分な内容がある	2. どちらでもない	3. 不十分である
ウ 市外へ向けてのPR効果	1. 効果がある	2. どちらでもない	3. 効果が無い
エ 自由意見	[]		

広報についておたずねします。

問56. あなたは、市政情報を主に何から得ていますか。**(〇は1つ)**

1. 広報こしがや「お知らせ版」や「季刊版」	7. 公共施設にあるポスターやチラシ
2. テレビ広報番組「いきいき越谷」	8. 直接、市役所に電話をする
3. 越谷市公式ホームページ	9. 友人・知人
4. 越谷市携帯サイト	10. 新聞
5. 越谷 city メール配信サービス	11. その他 []
6. 地区センターだより	12. 特に情報は得ていない

問57. 市政情報を得るために活用したことがあるものを、次の中から選んでください。**(複数回答可)**

1. 広報こしがや「お知らせ版」や「季刊版」	5. 越谷 city メール配信サービス
2. テレビ広報番組「いきいき越谷」	6. 越谷市公式ツイッター
3. 越谷市公式ホームページ	7. 越谷市公式LINE (ライン)
4. 越谷市携帯サイト	8. ラジオ広報番組 「教えて！ダイジ先生～越谷のココが大事～」

問58. **広報こしがや「お知らせ版」**について伺います。「お知らせ版」の感想を選んでください。**(〇は1つ)**

1. わかりやすい	4. わかりにくいところがある
2. おおむねわかりやすい	5. わかりにくい
3. どちらともいえない	

問58-2. **問58で「4. わかりにくいところがある」「5. わかりにくい」と答えた方**に伺います。
どのような点についてそう感じましたか。

問59. **広報こしがや「季刊版」**について伺います。「季刊版」の感想を選んでください。**(〇は1つ)**

1. わかりやすい	4. わかりにくいところがある
2. おおむねわかりやすい	5. わかりにくい
3. どちらともいえない	

問59-2. **問59で「4. わかりにくいところがある」「5. わかりにくい」と答えた方**に伺います。
どのような点についてそう感じましたか。

越谷市の施策についておたずねします。

問 60. 市では様々な施策を進めています。ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中から**それぞれ5つまで**選び、下の□内に番号をご記入ください。

よくなってきたと感じるもの					
特に力を入れるべきだと思われるもの					



1. 青少年の健全育成	21. ごみ・し尿の処理対策
2. 防犯対策	22. 公営住宅の整備などの住宅対策
3. 交通安全対策	23. 水害や地震などの災害対策
4. 消費者の保護対策	24. 市民の財産や生命を守る消防・救急対策
5. 女性の社会参加など男女共同参画の推進	25. 工業の振興対策
6. 国際交流	26. 商業の振興対策
7. 生活習慣病などの保健衛生対策	27. 農業の振興対策
8. 地域医療や救急医療体制の整備	28. 勤労者の福祉や雇用を促進する対策
9. 児童福祉の充実	29. 小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実
10. 障がい者(児)福祉の充実	30. 生涯学習(公民館活動等)の充実
11. 高齢者福祉の充実	31. 芸術文化活動の振興や文化施設の整備
12. 介護保険の充実	32. スポーツ・レクリエーションの振興と施設の整備
13. 駅周辺の整備	33. 市民とのパイプ役としての広報広聴活動の充実
14. 土地区画整理事業などの市街地整備	34. 上水道の整備
15. 生活道路や都市計画道路の整備	35. その他 []
16. 道路の維持管理状況	36. 特になし
17. バス路線等公共交通網の充実	
18. 公園や緑地の整備	
19. 下水道(公共下水道や排水路)の整備	
20. 自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策	

問 61. **問 60 で選ばれた「特に力を入れるべきだと思われるもの」**について、どのような対応(対策)を望まれますか。また、市政に関するご意見やご要望など、自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒に入れて **7月6日(金)**までにご投函ください。

平成30年度 市政世論調査結果報告書

発行年月：平成30年11月

発行：越谷市 市長公室 広報広聴課

〒343-8501

埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号

電話 048-963-9117（直通）